

平成 2 4 年度

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

活動報告書

(資 料 編)

平成 2 5 年 3 月

目 次

5 平成24年度活動報告

(1) FD事業

① 新任教員及び大学院生，ポスドク向け標準的（プレ）FDプログラムの開発，実施…	2
② FDe rの養成に係る開発	6 2
③ 教育業績記録（ティーチング・ポートフォリオ）の開発	7 4
④ 各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発，実施	9 6

(2) SD事業

① SDプログラムの開発，実施	1 0 4
② 職員業績記録（スタッフ・ポートフォリオ）の開発	1 9 4

(3) SPODフォーラム

	2 0 0
--	-------

(4) SPOD共通事業

	2 5 4
--	-------

(5) SPOD運営

① ネットワークコア運営協議会	3 3 0
② 各県内加盟校会議	3 4 8

5．平成24年度活動報告

（1）FD事業

- ①「新任教員及び大学院生，ポスドク向け
標準的（プレ）FDプログラムの開発，実施」
資料**

①新任教員及び大学院生、ポスドク向け標準的（プレ）FDプログラムの開発、実施

新任教員研修プログラムの基準枠組対応表

国立教育政策研究所が作成した新任教員研修プログラムの基準枠組		徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学
学習領域	学習目標	実施区分	研修名：教育力開発基礎プログラム	研修名：よりよい授業のためのFDワークショップ	研修名：学生の学びを支える授業の準備（新任教員FDワークショップ）
			日程：1泊2日	日程：1泊2日	日程：1泊2日
1. 大学コミュニティについての理解	1-1 大学に関する基礎知識を得る。	各大学	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション	新任教員オリエンテーション
	1-2 同僚とのコミュニケーションをとる。	共通	「教育力開発基礎プログラム」研修全体を通して	「授業デザインワークショップ」研修全体を通して	「新任教員FDワークショップ」研修全体を通して
2. 授業のデザイン（目標設定、実施計画、成績評価	2-1 授業デザインのための基礎知識を得る。	共通	WS「質の高い授業を目指すには？」 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」	グループワークⅠ「学生の考える良い授業と悪い授業」 講義Ⅰ「シラバスの書き方」	グループワークⅠ「良い授業とは？」 ミニレクチャーⅠ「目標設定と授業計画、シラバスの書き方」
	2-2 授業デザインのためのスキルを修得する。	共通	講義・ワーク「よりよい授業実施のために」	グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」	グループワークⅠ「良い授業とは？」 グループワークⅡ「共通教育科目の開発①」
	3-1 教育実践に関する基礎知識を習得する。	共通	講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 模擬授業実施	講義Ⅱ「様々な授業方法」	ミニレクチャーⅡ「様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット」
	3-2 学習者中心の授業および学習支援を重視し、学生の学習を促進する。	共通	WS「質の高い授業を目指すには？」 講義・ワーク「よりよい授業実施のために」	グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「全学共通科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」
3. 教育の実践	3-3 学生と適切なコミュニケーションをとる。	共通	WS「質の高い授業を目指すには？」 模擬授業準備、実施 模擬授業のまとめ	講義Ⅲ「よりよい成績評価の仕方」	講義Ⅲ「様々な成績評価、その目的と方法」
	4-1 教育の評価やフィードバックについての基礎知識を得る。	共通	講義・ワーク「よりよい授業実施のために」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」
4. 成績の評価、フィードバック	4-2 適切な成績評価およびフィードバックを行う。	共通	グループワーク「模擬授業・授業検討会」 模擬授業準備、実施 模擬授業のまとめ	グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」
	5-1 授業改善・キャリア開発や教育開発に関する基礎知識を習得する。	共通	WS「質の高い授業を目指すには？」 グループワーク「模擬授業・授業検討会」 模擬授業準備、実施 模擬授業のまとめ	グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」
5. 教育活動の自己改善・キャリア開発、教育開発	5-2 自己改善・キャリア開発や教育開発のためのスキルを修得する。	共通	WS「質の高い授業を目指すには？」 グループワーク「模擬授業・授業検討会」 模擬授業準備、実施 模擬授業のまとめ	グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅱ」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅲ」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅳ」 グループ発表Ⅰ「中間発表」 グループ発表Ⅱ「ミニ授業」	グループワークⅢ「共通教育科目の開発②」 グループワークⅣ「共通教育科目の開発③」 グループワークⅤ「共通教育科目の開発④」 グループ発表Ⅰ「グループワーク中間報告」 グループ発表Ⅱ「新科目の紹介とミニ授業」

平成24年度「教育力開発基礎プログラム（T-SPOD）」

実施要項

1 目 的

平成24年度徳島大学全学FD推進プログラム実施計画に基づいて実施する教育力開発基礎プログラムを、SPOD徳島県下の加盟校（T-SPOD）に開放し、本事業の取り組みである、教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修「教育力開発基礎プログラム」を実施します。

2 目 標

1. FD活動の理念，活動計画を理解する
2. 授業を計画し，実施し，評価する方法を体得する
3. 授業研究の仕方を理解し，実践できるようにする
4. FD参加者同士の仲間づくりをする

3 概 要

このプログラムでは大きく分けて，授業設計と教育技術について学んでいきます。主な活動内容は，シラバスと授業計画の作成，模擬授業です。体験を通して，授業の目的，到達目標の設定，授業実施の留意点，評価方法等について理解し，具体的な授業計画を立て，模擬授業を実施します。これらの活動を通してご自身の授業について考え，振り返ることで，実践的な教育力の向上を目指します。（シラバスは研修前に一度作成頂くことになります。）

4 実 施 日 平成24年8月31日（金）・9月1日（土）

5 実施場所 共通教育棟6号館201（徳島大学大学開放実践センター2階）

*参加人数によっては教室を変更する場合があります

6 プログラム （詳細検討中）

7 対 象 者 徳島大学

- ・学外より，講師または准教授採用後1年以内の教員
- ・学内で，助教から講師または准教授昇任後1年以内の教員
- ・学部から推薦を受けた者（助教及び教授等）
- ・平成23年度「教育力開発基礎プログラム」欠席者
（ただし，所属が学部以外のセンター等，病院の場合，及びプロジェクト採用などの場合は除く。）

【参加免除について】以下に該当する場合，参加が免除されます。

- ①学外で同様の研修を受けた場合（他大学等での研修修了者については，研修内容等がわかる資料を提出の上，個別に対応する。）
- ②担当する授業がない場合
- ③診療業務を主に担当している場合

SPOD*徳島県の大学・短大・高専及びその他SPOD加盟校

*SPOD＝四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

8 参 加 費 無料

9 主 催 徳島大学 大学教育委員会・FD専門委員会 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

教育力開発基礎プログラム

第1日（2012年8月31日・金曜日）

集合場所：共通教育棟6号館201（徳島大学大学開放実践センター2階）

時 刻	内 容	講師・担当者	備 考
9:00-9:30	・受付（共通教育棟6号館201） ＊9:20までにお集りください		7:00AM 徳島市に「大雨警報かつ暴風警報」または「洪水警報かつ暴風警報」が出ていたら中止
9:30-10:00	（1）オリエンテーション ・大学教育、FD、SDへの期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	川野卓二（進行） 副学長（教育担当） 高石喜久 FD専門委員会委員長 日置善郎	教室：6-201
10:00-10:30	（2）アイスブレイク「忘れられない授業」 参加者自己紹介・交流	吉田博	教室：6-201
10:30-11:40	（3）WS「質の高い授業を目指すためには？」 理想の授業と現状から授業の課題を探る	香川順子	教室：6-201
11:40-12:40	休憩 各自で昼食		生協食堂・売店営業
12:40-14:45	（4）講義・ワーク「よりよい授業実施のために」 ・授業設計と評価 ・シラバス、授業計画書の検討・修正 ・模擬授業説明	川野卓二 宮田政徳 香川順子	教室：6-201
14:45-15:00	休憩		
15:00-17:40	（5）グループワーク「模擬授業・授業検討会」 （4人グループで実施） ・模擬授業の実施（撮影） 一人15分以内 ・映像を基に検討会 一人20分 →チェックリストを基によかった点、改善点等を検討する ・2日目の模擬授業代表者の選出と役割分担を決定	各班司会：FD委員 ワーク支援： スタッフ全員	教室：各班グループ 部屋へ移動 第1講義室（1階） 第2講義室（1階） 会議室（1階） コンピュータ教室（1階） ゼミ室（2階） インテリジェントラボ（3階）
18:00-20:00	交流会（任意参加）	吉田博	生協食堂2階

第2日（2012年9月1日・土曜日）

時 刻	内 容	講師・担当者	備考
9:30-10:00	・集合、模擬授業準備 (教材印刷が必要な場合は9:00 集合)	スタッフ	教室：6-201
10:00-12:00	(6) 模擬授業実施 (前半) (グループ代表による模擬授業) A 班 (10:00-10:30) B 班 (10:30-11:00) C 班 (11:00-11:30) D 班 (11:30-12:00)	司会：吉田博 コメンテーター： FD 委員 支援：スタッフ全員	教室：6-201 〈模擬授業実施手順〉 ・模擬授業・授業検討会報告（代表より2分） ・選出理由(班メンバーより3分) ・模擬授業（15分） ・質疑応答(5分) ・交代(5分)
12:00-13:00	休憩 昼食（各自で）＊生協休業		
13:00-14:00	模擬授業実施（後半） (グループ代表による模擬授業) E 班 (13:00-13:30) F 班 (13:30-14:00)		
14:00-14:10	休憩		
14:10-15:10	(7) プログラムのまとめ ・模擬授業のまとめ ・講評 ・授業コンサルティング、 ティーチング・ポートフォリオについて ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	香川順子 副学長（教育担当） 高石喜久 川野卓二 FD 専門委員会委員長 日置善郎	教室：6-201

平成24年度「教育力開発基礎プログラム」アンケート(回答数: 11名) 8月31日～9月1日開催

問番号	回答項目	大学	短期大学	高等専門学校	その他	未解答	合計
1-(1)	所属先	8	0	3	0	0	11

問番号	回答項目	国(国立大学法人)	地方自治体(公立大学法人を含む)	学校法人	その他	未解答	合計
1-(2)	所属先の設置者	10	0	0	1	0	11

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。	※下記に記述
-----------	----------------------------------	--------

2.研修参加への経緯について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
2-1	研修目的や内容についてある程度知った上で参加した	5	5	1	0	0	11
2-2	自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した	2	3	4	1	1	11
2-3	研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した	2	1	4	3	1	11

3.研修プログラムの設計について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
3-1	研修の目的は明確に設定されていた	8	3	0	0	0	11
3-2	研修は自分の業務に生かせる内容だった	7	4	0	0	0	11
3-3	研修はわかりやすい順序ですすめられた	7	4	0	0	0	11
3-4	研修の時間は目的を達成するために丁度よい長さだった	6	5	0	0	0	11
3-5	研修の実施時期は適当だった	6	2	2	1	0	11
3-6	参加者の人数は適当だった	3	6	1	1	0	11

4.講師について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
4-1	講師の言動は学習意欲を高めた	7	4	0	0	0	11
4-2	講師は研修に必要な知識を十分に持っていた	8	3	0	0	0	11
4-3	講師の用意した教材はわかりやすかった	6	5	0	0	0	11

5.研修の会場・スタッフについて		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わな い	未解答	合計回答 数
5-1	研修会場は快適な環境だった	9	2	0	0	0	11
5-2	研修会場には十分な設備が整っていた	10	0	1	0	0	11
5-3	スタッフは手際よく研修を運営していた	10	1	0	0	0	11

6.研修成果について		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わな い	未解答	合計回答 数
6-1	自分に必要な知識やスキルを身につける ことができた	5	6	0	0	0	11
6-2	受講したことによって教育への取り組み方 が改善されると思う	7	4	0	0	0	11
6-3	新たに人的なつながりをつくることができた	3	8	0	0	0	11

7.研修全体について		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わな い	未解答	合計回答 数
7-1	研修は全体的に満足できるものだった	6	5	0	0	0	11
7-2	研修は期待を上回る内容だった	6	3	2	0	0	11
7-3	今後も、この研修を継続していくべきだと思 う	4	7	0	0	0	11
自由記述	教育力開発基礎プログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。	※下記に記述					
	その他、お気づきの点があればご記入ください。	※下記に記述					

1-(3)自由記 述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。
2	授業計画、資料作成、学生との交流の仕方
3	学生とのコミュニケーションを大切にしながら授業を行う事
4	話術、授業中でのコミュニケーション法
5	・学生とのコミュニケーションの中で授業を展開する技術 ・学生が”学生”となるよう(学ぶ意欲を持つよう)触発すること
6	・説明のメリハリ ・内容の調整 ・時間の配分
7	学生との接し方・距離感、メリハリのつけ方
9	わかりやすい授業
10	授業中の学生のコントロール方法(集中させたいとき、リラックスさせたいときなど)
11	英語教育に関する知識

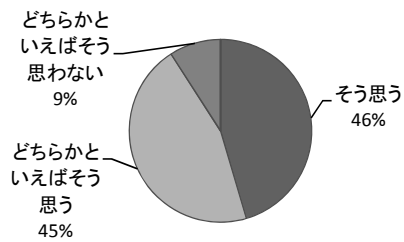
自由記述	「教育力開発基礎プログラム」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
1	・シラバス作成から授業計画の立て方まで細かくまとめられていた冊子は良かった。今まで自己流でやっていた所の改善点が浮きぼりになった。 ・自分の授業を他の先生方に見て頂き、コメントをもらえたところは良かった。 ・他人の授業を見て、自分の授業にとり入れられる所など、学ぶべき所が多かった。
2	同じ大学の教員でも領域がちがうと交流がないので、色々な科目、色々な先生がおられることがわかり、視野が広がったと思います。自分の領域を知ってもらうよい機会にもなりました。
3	FDの意義、目的を知れてよかった。
4	授業する自分を客観的に見る機会ができ、建設的な意見をもらう事ができた。
5	他の先生方の授業を見ることができた。
6	・自分の不足を知ることができたこと。 ・他人の講義に触れることができたこと。 ・アドバイスをいただいたこと。
7	改めて自分の授業を見直すいいきっかけになった。 自分に足りない部分を確認できた。
8	・そもそも教育の重要性について認識できた。 ・教育内容の質的向上を促す要因をより実践的なレベルで指導して頂けたのが良かった。
9	自身の授業をふりかえり、良い授業は参考にすることが出来た。
10	・他の先生の授業のやり方が大変参考になった ・学生の立場でも模擬授業に参加したことで、つまづいたり、困ったりするポイントが分かったような気がした
11	シラバスの作り方など、これまであまり教わる機会のなかったことを、事前準備の段階で詳しい資料によって学ぶことができてよかった。他の参加者の模擬授業も参考になった。

7自由記述	教育力開発基礎プログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
1	・模擬授業では、実際の授業にできるだけ近い設備を用意した方が良いと思う。黒板と小さいホワイトボード、教卓の有無など、授業の進行に大きく影響すると思う。
2	他のグループの方との交流ができなかったのも、アイスブレイクは全体でやってもよかったのかもしれない。 授業コメントシートは記名式の方がよいと思います。
3	個人的には、浅く広くにした方がよいと思う。参加した人に次のステップ(例えばコンサルテーション)で要求するよりは幅広い人に来てもらった方がよい。
5	授業内容を、自分が最も工夫していると思う点の報告にすると、見ている方(参加者)がより学べると思う
6	・新人教員間の交流時間をもうけてほしい。 ・新人教員の悩みを聞いてほしい。 ・模擬講義を見させてほしい。
7	今回くらいの人数が丁度いいのではないだろうか。 特に、模擬授業のことを考えると、これより増えると、効果が薄まるように思います。
9	全員強制参加を徹底する。
10	講義より模擬授業の時間を多くとる(多くの参加者に模擬授業をやってもらう)方がよい(そういう機会はめったにない)

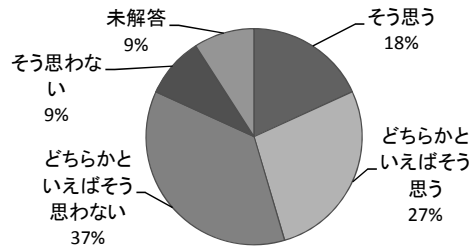
7自由記述	その他、お気づきの点があればご記入下さい。
2	湯茶等ご準備いただき、ありがたく思いました。 お世話になりました。
3	上記に関連するが、FDに無関心どころか、「参加するのか」と思われがちのところもあります。正直、半ば強制的のように感じられたわりには、うまくのがれた方もいらっしゃるようです。私は参加してよかったですが、私はこの位にさせていただいて、底上げをはかった方がよいと思います。
8	pptで講義を行う人向けに、スライドの作成に関する指導も(少しだけでも)あると良いと思う。
9	授業期間中の方が良かった。 (夏は長期出張や研究に没頭できる貴重な時期のため) 参加者が少ない。
10	特にありません
11	スタッフの方がとても丁寧に対応してくださり、前向きな気持ちで研修に臨むことができました。

※自由記述の番号は回答者が連動しています。

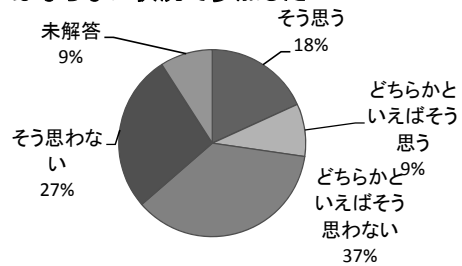
**2-1 研修目的や内容について
ある程度知った上で参加した**



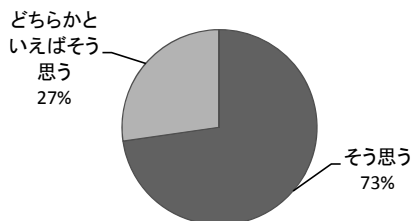
2-2 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した



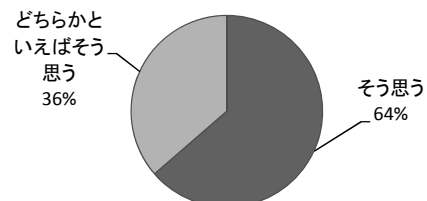
2-3 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した



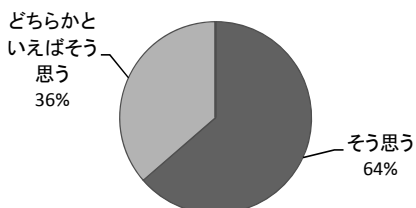
**3-1 研修の目的は明確に
設定されていた**



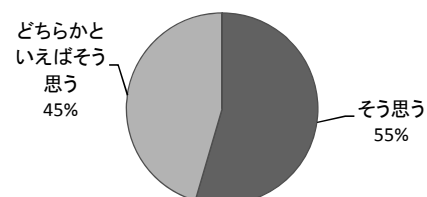
**3-2 研修は自分の業務に
生かせる内容だった**



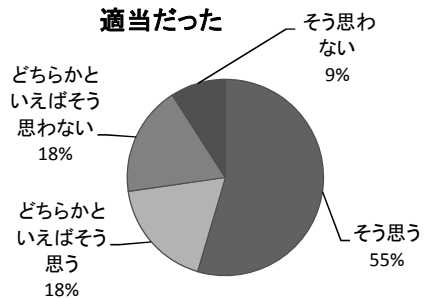
3-3 研修はわかりやすい順序ですすめられた



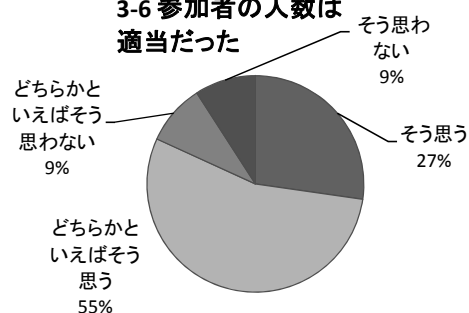
3-4 研修の時間は目的を達成するために丁度よい長さだった



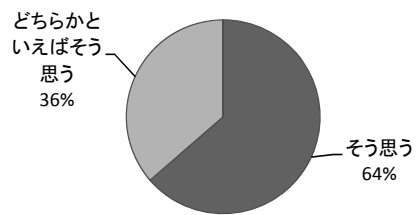
**3-5 研修の実施時期は
適当だった**



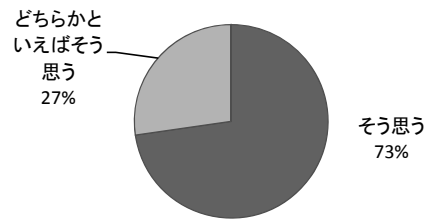
**3-6 参加者の人数は
適当だった**



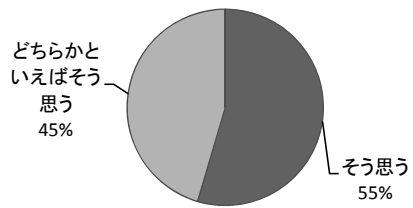
4-1 講師の言動は学習意欲を高めた



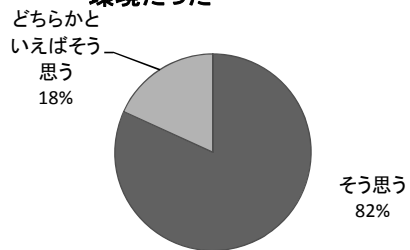
4-2 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた



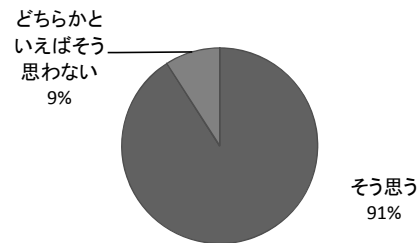
4-3 講師の用意した教材はわかりやすかった



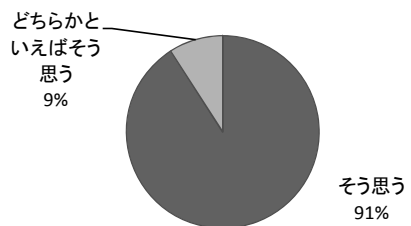
5-1 研修会場は快適な環境だった



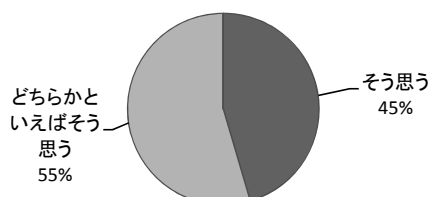
5-2 研修会場には十分な設備が整っていた



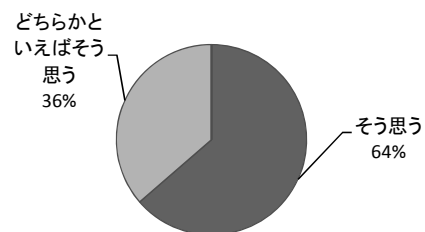
5-3 スタッフは手際よく研修を運営していた



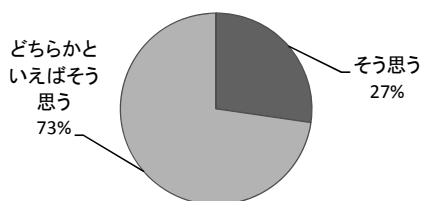
6-1 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた



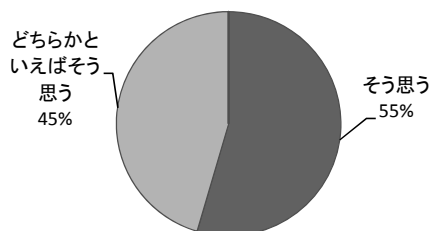
6-2 受講したことによって教育への取り組み方が改善されると思う



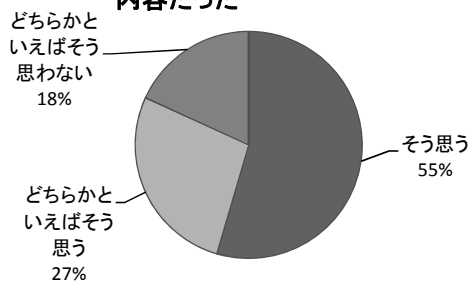
6-3 新たに人的なつながりをつくることができた



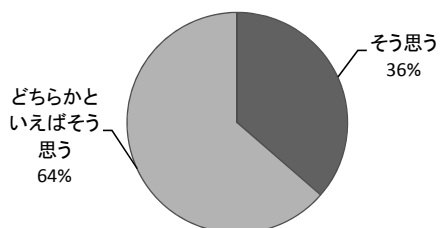
7-1 研修は全体的に満足できるものだった



7-2 研修は期待を上回る内容だった



7-3 今後も、この研修を継続していくべきだと思う



平成 24 年度香川大学新任教員研修会
『第 3 回よりよい授業のための F D ワークショップ』実施要項

1. 目的

授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループワーク形式で体験し、授業実践のために必要な能力を身につけることを目的とします。

2. 対象者

・香川大学

- 1) 一昨年度から今年度にかけて新規採用された、授業担当または担当予定の教員
(授業担当経験 5 年以上の教員、本ワークショップ受講修了者を除く)
- 2) その他参加を希望する教員

・香川県下の S P O D 加盟校
参加を希望する教員

3. 日程

平成 24 年 9 月 20 日(木)～21 日(金) (1 泊 2 日)
(詳細は別紙日程表のとおり。)

4. 場所

四国電力株式会社総合研修所
(〒761-0113 高松市屋島西町 1850-1 TEL : 087-841-1561 FAX : 087-841-7809)

5. 費用

研修の費用は無料です。

ただし、宿泊・食費等の実費を徴収します。(6,000 円程度)

＊香川県下の SPOD 加盟校の旅費については、各大学・短大・高専でご負担願います。

6. 修了証書

研修修了者には、修了証書を授与します。

7. 主催

香川大学大学教育開発センター

8. その他

この研修会は、SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）の研修プログラムとして、香川県下の SPOD 加盟校に開放し実施します。

研修会の事務については修学支援グループ及び給与福利グループが担当します。

日程表

■第1日 平成24年9月20日(木)

9:00 までに四国電力株式会社総合研修所に集合

時刻	内容
8:45－9:00	受 付
9:00－9:15	(1) オリエンテーション ・開会あいさつ ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い
9:15－9:45	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク
9:45－10:15	(3) グループワークⅠ 「学生の考える良い授業と悪い授業」
10:15－10:25	休 憩
10:25－11:10	(4) 講義Ⅰ「シラバスの書き方」 ・目標設定の立て方 ・授業計画の立て方
11:10－12:00	(5) グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成
12:00－13:00	昼 食
13:00－13:50	(6) 講義Ⅱ「様々な授業方法」 ・講義形式のメリット・デメリット ・双方向型授業の方法
13:50－14:00	休 憩
14:00－14:40	(7) 講義Ⅲ「よりよい成績評価のために」 ・成績評価の目的 ・評価の方法と評価対象
14:40－16:10	(8) グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 ・授業計画と評価計画
16:10－16:30	休 憩
16:30－18:00	(9) グループ発表Ⅰ「中間発表」 ・授業計画のプレゼン 5分×4 ・質疑応答 10分×4
18:00－19:00	夕 食
19:00－21:00	(10) グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 ・授業計画案作成
21:00～	懇親会・入浴・自由時間

2日目 9月21日(金)

時刻	内容
7:30－8:00	朝 食
8:00－10:00	(11)グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・役割決定 ・授業の練習
10:00－12:00	(12)グループ発表Ⅱ「ミニ授業(導入の10分)」 ・授業紹介 5分 ・ミニ授業 15分 ・討議・検討 10分
12:00－12:30	(13)閉会式 ・グループ作業の振り返り(学んだことは何か?どう実践に活かすか?) ・修了証書授与 ・閉会の言葉
12:30－13:00	昼食(研修の振り返り)

13:00 集合写真撮影・解散

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：第3回「よりよい授業のためのFDワークショップ」

実施日：平成24年9月20日（木）～21日（金）

実施会場：四国電力株式会社総合研修所

参加者数：12名

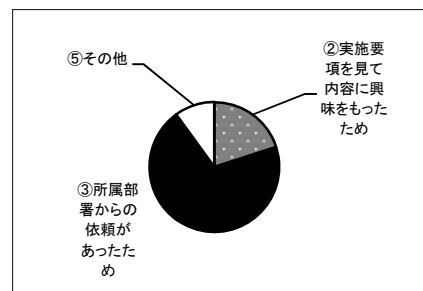
アンケート回答者数：10名

1. 本ワークショップへの参加の経緯についてお答え下さい。

1-1 ワークショップへの参加動機は何ですか

※複数選択可

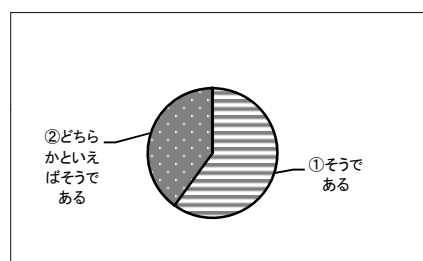
	度数	割合
①新任研修に参加して興味をもったため	0	0.0
②実施要項を見て内容に興味をもったため	2	20.0
③所属部署からの依頼があったため	7	70.0
④他部署の人と交流したいため	0	0.0
⑤その他	1	10.0
計	10	



1-2 1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい。

1-3 ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した。

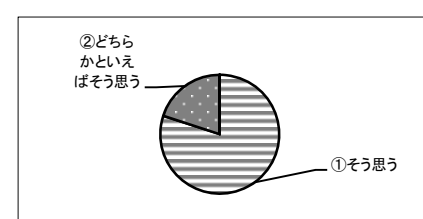
	度数	割合
①そうである	6	60.0
②どちらかといえばそうである	4	40.0
③どちらかといえばそうではない	0	0.0
④そうではない	0	0.0
計	10	100.0



2. 本ワークショップの内容についてお答え下さい。

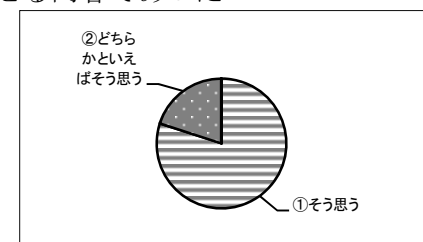
2-1 ワークショップの目的は、明確に設定されていた

	度数	割合
①そう思う	8	80.0
②どちらかといえばそう思う	2	20.0
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



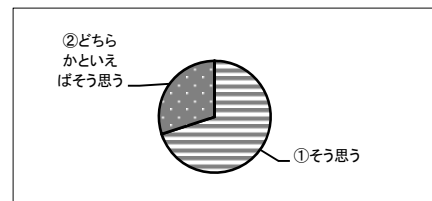
2-2 ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

	度数	割合
①そう思う	8	80.0
②どちらかといえばそう思う	2	20.0
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



2-3 ワークショップは、わかりやすい順序ですすすめられていた

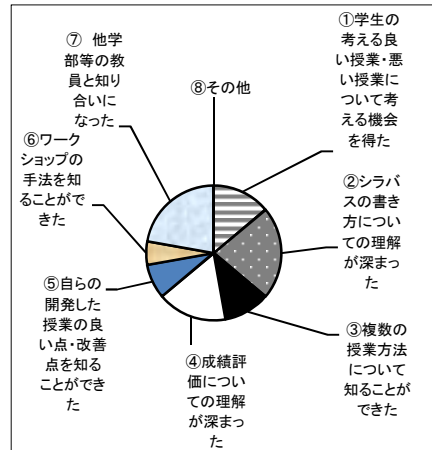
	度数	割合
①そう思う	7	70.0
②どちらかといえばそう思う	3	30.0
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	10	100.0



2-4 ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか

※複数選択可

	度数	割合
①学生の考える良い授業・悪い授業について考える機会を得た	5	13.9
②シラバスの書き方について理解が深まった	8	22.2
③複数の授業方法について知ることができた	4	11.1
④成績評価について理解が深まった	6	16.7
⑤自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	3	8.3
⑥ワークショップの手法を知ることができた	2	5.6
⑦他学部等の教員と知り合いになれた	8	22.2
⑧その他	0	0.0
計	36	



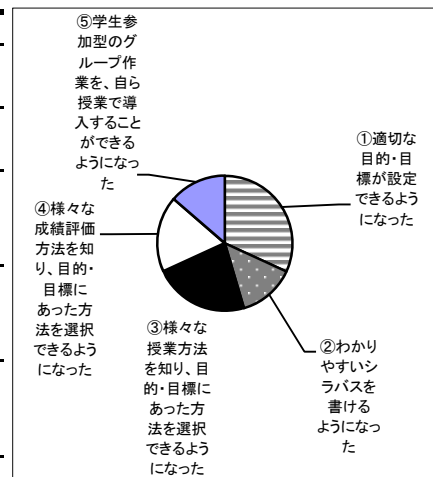
2-5 2-4で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい。

3. 本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい。

3-1 ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか

※複数選択可

	度数	割合
①適切な目的・目標が設定できるようになった	7	31.8
②わかりやすいシラバスを書けるようになった	3	13.6
③様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	5	22.7
④様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	4	18.2
⑤学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	3	13.6
計	22	

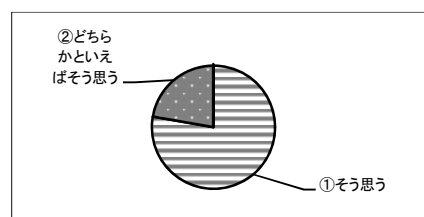


3-2 ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書きください。（別紙記載）

4. 本ワークショップの研修環境についてお答え下さい。

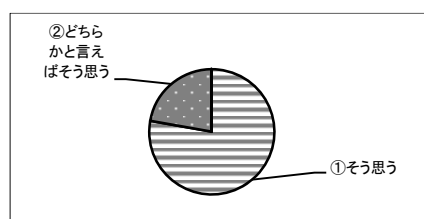
4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
①そう思う	7	77.8
②どちらかといえばそう思う	2	22.2
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



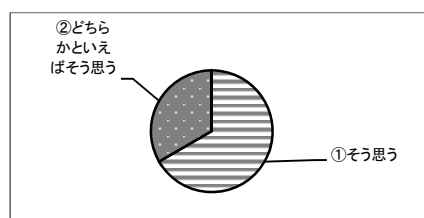
4-2 事務局は手際よくワークショップを運営していた

	度数	割合
①そう思う	7	77.8
②どちらかといえばそう思う	2	22.2
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



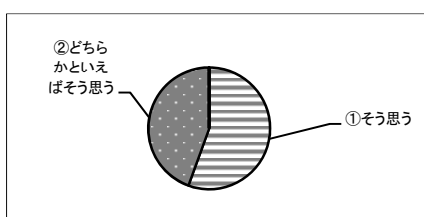
4-3 ワークショップ会場は快適な環境であった

	度数	割合
①そう思う	6	66.7
②どちらかといえばそう思う	3	33.3
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



5. ワークショップは全体を通して満足できるものであった

	度数	割合
①そう思う	5	55.6
②どちらかといえばそう思う	4	44.4
③どちらかといえばそう思わない	0	0.0
④そう思わない	0	0.0
計	9	100.0



6. 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい。
(別紙記載)

【自由記述欄】

3-2 ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書きください。

・もっとも学んだことは、学生のために、学生が理解できるようなシラバスを作ることが大切である、という点である。シラバスが、学生に説明を行うためのものであるという認識がなかったわけではないが、自分の考えていることをどのように表現するかに力点が置かれ、この授業を受講することによって学生がどのような力を身に付けることができるのか、どのような学習を行うのか、どのような課題があるのかなど、きめ細かく説明することの大切さを学びました。シラバスは、教師の学生に対する約束事であるということだけにとどまらず、学生が学びの指針となるものでなければならない。十分に検討を加え、学生にとって良いシラバスが書けるとともに、学生が満足できる授業が行えるよう授業内容や授業形態、課題の提示などを工夫していきたいと思う。

・学生参加型の授業は積極的に取り入れたと考えている。

・まず、第一にシラバス作成の重要性を再認識することができた。正直、今まで、シラバスの読み手である学生を意識してシラバスを書いていたかどうか自信がない。学生の目線を意識した上でシラバスを作成する重要性、作成方法、作成のポイント（コツ）を2日間で実習を通して知れたことは有意義であった。第二に、学生参加型の様々な授業方法を知ることができたこともありがたかった。コミュニケーション能力の向上をはかるための現在の英語授業にとってアクティビティは欠かせない。グループメンバーからも様々なアクティビティ情報を得られたこともよかった。最後に、成績評価の仕方を改めて考えさせられたことも有意義であった。いろいろな角度からの評価、また、学生にとって分かりやすく公平である評価を心がけたい。ワークショップで得たことを実際のクラスで応用できるよう十分に時間をかけてレッスンプランを立てることを今後の目標としたい。

・これまではシラバス作成や15回の授業の組み立てを自己流でおこなっていたが、本ワークショップで授業組み立て方法やシラバス作成方法のポイントを学ぶことができた。また、グループワークを適宜実施することで、授業構築の訓練になった。ここでは、様々なバックグラウンドをもった教員と話し合うことで、様々な視点を補うことができた。今後の教育実践では、早速、来年度のシラバス作成に適用してみたい。また、演習等でグループディスカッションの方法を取り入れられないか検討したい。

・1) 授業にあたり、私はこれまでは専ら質的保証（内容の準備）のために多くの時間を割いてきた。分かり易い、あるいは学生の集中力を増すための授業技法というものには、率直に述べてほとんど関心がなかった。しかし、今回のワークショップに参加し、全学挙げての“授業サービス技法”の体得に、莫大な力が注がれていること、重きがおかれていることに驚かされた。2) 本合宿において、時間を割いて説明されたことではなかったが、頂いた資料の中にあった、レポートの評価のための「ルーブリック評価法」は、理論的に妥当な優れた情報整理法であると感じた。10月から始まる実験レポートの客観評価のために、是非活用したい。

・学生どうしのコミュニケーション、意見交換といった学生参加型の授業を行うことの重要性を自分自身が体験できたことが一番良かったと思っています。実践の場では、講義終了後にグループ学習やディスカッションを取り入れていきたいと考えています。

・ワークショップでは、学生主体のグループワークやプレゼンの方法について学びました。それを受けて考えたのは、カリキュラムとしての授業間の連携の重要さでした。グループワークやプレゼンは学生が主体的に学習するうえで効果的な授業方法だと思います。一方で、それをある授業でどの程度実施するかは決定するうえでは、他の授業とのバランスが重要だと思います。例えば、ある学生が受講している授業の半分以上で、準備に多くの時間がかかるプレゼンが含まれていた場合、その学生にとってかなりの負担になり、逆に学習が阻害されてしまうことも考えられます。自分が授業方法を考えていくうえでは、同時期の他の授業について目を向けながら考えたいと思いました。

・実際にシラバスを書いて授業を行う予定はまだないが、今後シラバスを書くときには目的・目標設定が重要であることが理解できた。目的・目標を設定することで方向性が決まり、授業計画がより具体的になると感じた。やってみたい点：現在担当している実習指導でも、実習全体としての目的・目標はある。しかし、抽象度が高いので、自分が担当するグループの学生に何を学んでほしいかを再度考えたい。実習全体の目標に対応しながら、観察可能な行動という具体的な目標を設定することで、学生の評価にもつなげたい。

・グループディスカッションなどを導入して学生の学習意欲を向上させる大切さを学んだので、講義などで取り入れたい。また、シラバス作成では到達目標を明確にし、学生目線で設定し、それが成績評価ときちんと繋がるようにすることを心がけたい。そして、授業の形態は学年や人数などでも変化するるので、考慮して授業計画に臨みたい。

・ワークショップを受けて学んだことは、シラバスの目標設定欄と成績評価をリンクさせること、アイスブレイクの手法、大規模な（受講生の多い）授業であっても学生参加型の講義形式を取り入れることができること、などでした。これまで、シラバスの書き方に気を配ったことが少なかったことを反省すると共に、授業規模によらず学生を参加型の授業が考えられることなど、初めて知ることができました。ありがとうございます。アイスブレイクの手法など、さっそく先日のオリエンテーションで使わせて頂きました。来季の授業シラバスを書くときにはシラバスの書き方にも、今回学んだ内容を見返りたいと思います。

6. 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい。

・とてもゆったりとした環境で、準備物もまた、飲み物までご用意くださり大変充実した研修ができたと思います。時間的な制約があり、大変あわただしく過ぎた二日間ではありましたが、時間の設定はどんな場合でもしなければならず、そのことについては、長くすればまた別の意見が出てくることであろうと思っています。A グループは、互いの良さを発揮することができたのではないかと思います。とても考えられたグループ編成であったと感じました。至れり尽くせりの研修会をしていただき、本当にありがとうございました。授業に生かせるよう頑張りたいと思います。

・最初は不安でいっぱいでしたが、あれだけの短期間でよりよい授業作りのエッセンスを再確認でき、とても有りがたかったです。教授法などを履修していたのですが、眠っていたテキストを再び開き復習するよいチャンスを与えていただきました。ワークショップの準備をされた担当者の皆様のおかげで非常に有意義な時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました。可能であるならば、大学教育に関わる全教員が積極的に受講すべきワークショップだと思いました。

・題材の内容にトラップ（お遍路に宗教）をしかけておく、必然性が理解できない。そもそも宗教に気をつけるという観点は、私の専門には関係がなし、ほとんどの教員には関係ないことでしょう。また関係がある教員は気をつけなければいけないことをすでに知っているでしょう。お題を楽しませるという目的でトラップをしかけているならば、さらっと説明していただければわかる。したり顔で説明されて非常に不愉快だった。また講師に理系の教員も配置しておくべきでだと思った。なぜならば香川大学は半数が理系の学部であるため、受講生の約半数は、理系の教員となる可能性が高いためである（今回も理系が7、文系5）。私の印象では、文系の教員のスライドには文字が多すぎる。あの文字列の中でどこが重要なかがわかりにくい。説明する内容によっては仕方がないのかもしれないが、話すことをすべて書くのではなくて、ポイントを箇条書きにするとか、もう少し工夫できるのでは？またモバイルルーターなどでネットが使える環境を整備して欲しかった。

・特になし。講師ならびに関係事務の方々のお陰をもちまして、有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。

・ワークショップとして貴重な時間をいただき、ありがとうございました。他の学部の先生と授業について話し合うのは、大変有意義なものでした。また、講義部分についても、自分の授業や教育観を考えるよいきっかけとさせていただきました。一方で、講義やグループワークの際に、一方向的な進行の仕方になっている点には、やや疑問を感じるときもありました。もちろん、新任教員の研修会ですし、時間のコントロールを考えれば、一方向的にならざるを得ないのだと思います。ただ、講義の内容やグループワークでいただいたコメントに対して、疑問に思う部分もありましたので、それを表明できる機会があってもよかったのではないかと思います。ワークショップの目的にもよると思うのですが、個々の教員がもつ教育観や方法論について、双方向的に吟味するような形式もあり得るのではないかと思います。

・事前アンケートの問5と6について、あまり触れられることなく終わったことに疑問が残りました。

・日間、お世話になりました！ワークショップは、グループワークのタイムリミットも早く、忙しく感じるスケジュールでしたが、それがかえって、グループ間での協調性を高めたり、集中力を高める効果があったのではないかと感じています。有意義な研修になって良かったです。本当にありがとうございました。

平成 24 年度 第 18 回 愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項

1. 主 催

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室（教職員能力開発拠点）

「愛媛大学授業デザインワークショップ」は『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)』事業の一環である。

2. 期 日

第18回 平成24年7月7日（土）～7日8日（日）久万高原ふるさと旅行村

※集合・出発時刻 1日目 8:00 愛媛大学城北キャンパス正門前集合
 8:10 出発（マイクロバスで移動）

※解散時刻 2 日目 15:20 愛媛大学城北キャンパス正門前解散

3. 場所

久万高原ふるさと旅行村

〒791-1212 愛媛県上浮穴郡久万高原町下畑野川乙488番地 電話0892-41-0711

URL:<http://www.kumakogen.jp/modules/furusatomura/>

4. 参加対象者(一度参加した者は除く)

- 1) 一昨年度から今年度にかけて大学等に採用された、授業担当または担当予定の教員（授業担当経験 5 年以上を除く）
- 2) 参加を希望する教員

5. 実行委員

松本 長彦（実行委員長，教育・学生支援機構長）

佐藤 浩章（教育企画室副室長）

仲道 雅輝 (教育企画室助教)

大竹奈津子(教育企画室助教)

小林 直人（教育企画室長）

山田 剛史 (教育企画室准教授)

松本 章雄（能力開発室員）

6. ワークショップの目的

授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけます。

7. ワークショップの目標

- 1) 適切な目的・目標設定ができるようになる。
- 2) わかりやすいシラバスを書けるようになる。
- 3) 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 4) 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 5) 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができるようになる。

8. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる学部・学部の教員が、普段着で肩書きなしの対等な意見交換をすることで、学習効果を高めます。
- 3) 研修自体がグループ学習形式であり、学生参加型授業を体験します。

9. その他

- 1) 『愛媛大学 **FD** ハンドブック もっと!!授業を良くするするために』第一巻(黄色い冊子)をテキストとして使用します。お手元にない方は、当日会場でお渡しします。
- 2) 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
- 3) 宿泊しますので、洗面道具・タオル・寝間着(パジャマ)・虫さされなどの常備薬、懐中電灯等をご準備ください。

- 4) 旅費については、食事代、レクリエーション費等(8,500 円程度)は、当日会場にてお支払いいただくことになります。詳細については、おってご連絡いたします。
 ※キャンセルされる場合は一週間前までにご連絡ください。ご連絡がない場合は、参加費を請求する場合がございますのでご了承ください。
- 5) 現地までは、原則として、愛媛大学から出発するマイクロバスでの移動をお願いします。
- 6) 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行うことがありますのでご了承ください。
- 7) 修了証書は、全日程を参加された方のみに授与されますので、あらかじめご了承ください。

11. お申し込み・問い合わせ

各大学担当窓口にお申し込み下さい。

＜愛媛大学問い合わせ先＞

E-mail : natuko.otake.mc@ehime-u.ac.jp TEL : (089)927-8922 (担当 大竹)

12. プログラム日程

第Ⅰ部 1日目(朝・昼・夕)プログラム

9:30 現地到着

(敬称略)

時刻	内容
9:30-9:40	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い
9:40-10:05	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク
10:05-10:45	(3) 講義Ⅰ「シラバスの書き方」 ・目標設定の立て方 ・授業計画の立て方
10:45-12:00	(4) グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成
12:00-13:00	集合写真撮影・昼食・休憩
13:00-13:40	(5) 講義Ⅱ 「何が学生の学びを促進するのか？」

13:40－14:20	(6) 講義Ⅲ「様々な授業方法」 ・ 講義形式のメリット・デメリット ・ 双方向型授業のコツ ・ 体験型授業 ・ 参加型授業
14:20－14:30	休 憩
14:30－15:00	(7) 講義Ⅳ「よりよい成績評価の仕方」 ・ 成績評価の目的 ・ 評価の方法と評価対象
15:00－16:00	(8) グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 ・ 授業計画と評価計画
16:00－16:10	休 憩
16:10－17:25	(9) 中間発表 ・ 発表 3 分 ・ コメント 12 分
17:25－18:00	(10) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 ・ 授業計画案作成

第Ⅱ部 1日目（夜）プログラム日程

時刻	内容
18:00－19:00	夕食
19:00－21:00	(11) グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・ 授業計画案作成
21:00－21:30	交流会
21:30－	自由時間・お風呂

第Ⅲ部 2日目（朝・昼）プログラム日程

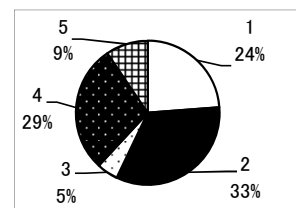
時刻	内容
7:30－8:30	朝食
8:30－10:30	(12) グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 ・ 役割決定 ・ 授業の練習
10:30－12:00	(13) ミニ授業（導入の10分） ・ 授業紹介 3分 ・ ミニ授業 10分 ・ 討議・検討 15分
12:00－12:30	(14) 閉会式 ・ グループ作業の振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・ 修了証書授与 ・ 閉会の言葉
12:30－13:30	昼 食

13:45 現地出発

第18回授業デザインワークショップ事後アンケート結果（回答者数：21名）

【設問1】 ワークショップへの参加動機は何ですか

1. 新任研修に参加して興味をもったため	5	23.8%
2. 実施要項を見て内容に興味をもったため	7	33.3%
3. 所属部署からの依頼があったため	1	4.8%
4. 他部署の人と交流したいため	6	28.6%
5. その他	2	9.5%
合計	21	

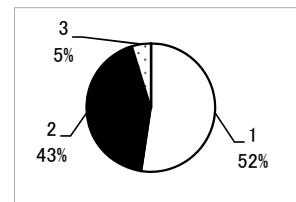


【設問2】 設問1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

- ・新任研修時に、教員は必ず参加することとの依頼があったため。
- ・必修かと思っていました。
- ・①、③、④もあてはまります。ワークショップへの興味はかなりありましたが、大学から参加は義務ですと指示されなければ、2日かけて参加したか怪しいためです。
- ・以前より、シラバスの作り方や授業の進め方について専門的に学びたかった。

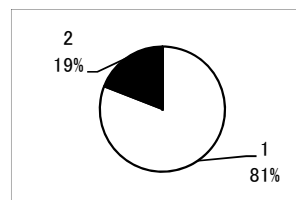
【設問3】 ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

1. そうである	11	52.4%
2. どちらかといえばそうである	9	42.9%
3. どちらかといえばそうではない	1	4.8%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



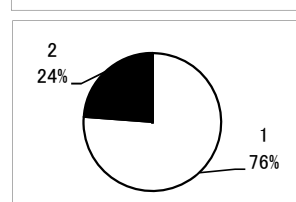
【設問4】 ワークショップの目的は、明確に設定されていた

1. そうである	17	81.0%
2. どちらかといえばそうである	4	19.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



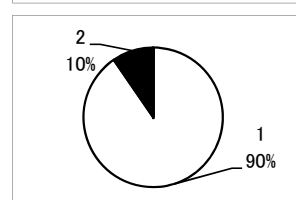
【設問5】 ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

1. そうである	16	76.2%
2. どちらかといえばそうである	5	23.8%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



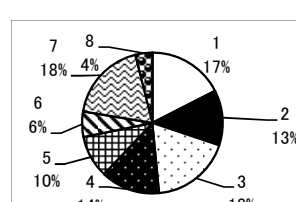
【設問6】 ワークショップは、わかりやすい順序ですすすめられていた

1. そうである	19	90.5%
2. どちらかといえばそうである	2	9.5%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



【設問7】 今回のワークショップで良かった点は以下のうちどれですか <複数選択可>

1. 学生の考える良い授業・悪い授業について考える機会を得た	18	85.7%
2. シラバスの書き方についての理解が深まった	13	61.9%
3. 複数の授業方法について知ることができた	19	90.5%
4. 成績評価についての理解が深まった	14	66.7%
5. 自らの開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	10	47.6%
6. ワークショップの手法を知ることができた	6	28.6%
7. 他学部等の教員と知り合いになった	19	90.5%
8. その他	4	19.0%
合計	103	

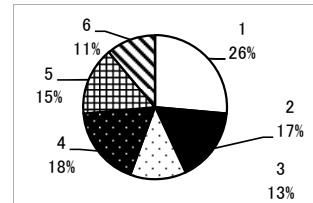


【設問8】 設問7で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

- ・他の先生の、模擬授業を拝見することができ、自分へフィードバックすべき点が多数気づかされ、かつ小林先生からの適切なアドバイスも大変参考になりました。
- ・「自らの開発した授業の～」が該当するのかもしれませんが、模擬授業の後に大竹先生や他の方からいただいたコメントが自分の授業改善にとっても役に立ちました。なかなかこんな機会はないので、授業コンサルティング？っていいものだなあと実感しました。また、他の方の話し方や授業の方法を見られたのもとても参考になりました。
- ・教育企画室のみなさんと知り合うことができ、授業デザインについての支援を受けやすくなった。
- ・自分の授業について模擬授業で批評していただき、自分では意識していなかった自分の癖とそれに対して学生がどう感じているかを認識することができた。

【設問9】 今回のワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか
 <複数選択可>

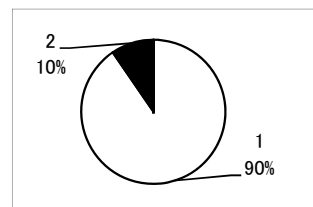
1. 適切な目的・目標設定ができるようになる	19	90.5%
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる	12	57.1%
3. 深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択できる	9	42.9%
3. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	13	61.9%
4. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	11	52.4%
5. 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができ	8	38.1%
合計	72	



【設問10】 今回のワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい（200字～400字程度）
 →別添資料参照

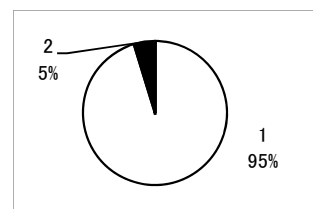
【設問11】 講師の言動は学習意欲を高めた

1. そうである	19	90.5%
2. どちらかといえばそうである	2	9.5%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



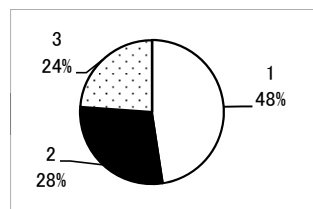
【設問12】 事務局は手際よくワークショップを運営していた

1. そうである	20	95.2%
2. どちらかといえばそうである	1	4.8%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



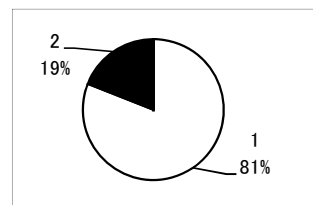
【設問13】 ワークショップ会場は快適な環境であった

1. そうである	10	47.6%
2. どちらかといえばそうである	6	28.6%
3. どちらかといえばそうではない	5	23.8%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



【設問14】 本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

1. そうである	17	81.0%
2. どちらかといえばそうである	4	19.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	21	



【設問15】 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書きください
 →別添資料参照

【設問10】 今回のワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい（200字～400字程度）

回答
ワークショップで学んだ点は大別して2つ。第1に、到達目標の明確化の必要性。明確化することによって授業のスケジュールを立てることが格段に楽になった。その意味において明確化は第一義的には学生のためにおこなうわけだが、われわれ自身のためでもあるように思う。第2に、受講者の数に応じた授業デザインが重要だということ。恥ずかしながらこれまであまり考えてこなかった点であり、模擬授業の際にフロアからご指摘を受けて本当に勉強になった。また、教育の場で今後実践してみたい点としては、新しく学んだ技法、とくに簡略的な技法の活用を挙げたい。これまでも、グループディスカッションやブレインストーミング、あるいはKJ法といったものについては積極的に活用してきたつもりだが、グループを決める必要があったり場合によっては模造紙やポストイットが必要になるため、肝心のグループディスカッションに至るまでに時間を要するという欠点もあった。今回のワークショップで、ペアの活用や「yes/no うちわ」等、より気軽に用いることのできる技法があるということを知ることができた。これらは今後ぜひ活用させていただきたい。
今回のワークショップで、自己中心的な説明方法で行ってきたことが良くわかりました。授業を設計する際に、注意すべき点（シラバス、授業計画、授業方法、グループワークの設定方法等）を勉強させていただきました。現時点で、すべてを理解できておりませんが、グループワークやアイスブレイクなどをまずは、取り入れてみたいと思います。
共通教育科目の目的・目標の設定が想像以上に難しいことを知った。目的・目標が幹となる部分であり、そこさえ決まってしまうと15回の講義内容はほぼ自動的に（内容の工夫は別として）決める事ができると体感した。また、ミニ授業を通して、授業方法（例えばY/Nのうち、KJ法など）の有用性を体感することができた。数学では講義・演習形式以外の授業方法は難しいと言われており、実際私もそう思っているが、Y/Nカードなどは活用できるかと思う。その他の方法についても頂いた資料から吟味してみたい。
シラバスを作成する際に、「目的」と「達成目標」との違いがよくわかっていなかったのだが、ワークショップに参加してどのような違いがあり、どのように記述すればよいのか、よくわかった。そして、授業の目的と目標についてしっかりと考えることを通して、その授業で教えるべきことは何かが明確になり、全体のスケジュールや構造が組み立てやすくなることが分かった。また、グループワークなどの学生が授業に積極的に参加する方法について学べたことは、今後の授業に活かせると思った。深い学び、浅い学びについて知ったことで、その授業をどのように位置づけていくのか、多様な学生の意欲やニーズにどのように対応した授業であるべきかなど、教育そのものについても深く考えさせられた。
＜ワークショップで学んだ点＞シラバスで目的、到達目標を明らかにすることの重要性を認識した。私がこれまでに作成したシラバスは、学生に不親切だったと痛感した。授業の目標や授業と通じて得られる能力が明記されていなければ、学生は授業を選択しようと思わないし、仮に選択してもミスマッチが起こる可能性が高くなる。まず、授業の意義、全体像を明らかにし、そのために各授業があるということ、を、わかりやすく紹介するように工夫しようと思う。大学や専門の異なる先生方と意見交換する機会を持てたことも大きかった。問題の捉え方やアプローチ方法も様々であり、バックグラウンドの異なる学生が集まる授業を担当する際に、今回の経験が生きてと思う。また、他大学の様子や取り組みを知ることができた。＜教育実践の場でやってみたい点＞個別の授業だけでなく、コースの目的や到達目標をより明らかにし、学生が「愛媛大学で勉強する意味」を見失わないよう、モチベーションを高く保てるようにしたい。
①学んだ点 ・新しい手法（パワポを使った授業）に挑戦してみて、作るポイント、見せるときのポイントを知りました。 ・自分の教案作成のときは、基本的に自分一人のアイデアしかないのでワンパターンでした。でも、分野も担当科目も違う先生と話して、新しい授業方法を知ることができ、内容によって手法を選ぶことの重要性に気づきました。 ・慣れて書いていたシラバスですが、改めて書き方を学び直すことで、今の自分の振り返りにつながりました。 ・模擬授業を通して、自分の癖を指摘してもらえたこと、また良い点も見つけてもらえたことで、小さな自信につながりました。②今後やってみたい点 ・パワポやレジメの手法を取り入れたい。 ・教員間で授業を見学し合うことの利点が大きかったので、できれば周囲にも勧めたい。
①わかりやすいシラバスの作り方：特に目的の書き方、到達目標の書き方、到達目標と対応させた成績評価、ルーブリック評価等②授業計画書の作り方、使い方③学生参加型のグループ作業等、様々な授業方法について、実践できるレベルまで、指導していただきました。また、ミニ授業発表会では、他の先生から役にたつ授業スキルを多く学ぶことができました。後期授業から、実践していきたいと考えています。

色々授業方法を勉強しましたシラバスの書き方を勉強しました 有益ですFrom other members, I learned how to prepare for the lessons and how to teach in class. It is important for me. IN future I would like to try to use the teaching methods taught here, such as KJ methods. and try my best to make the students have the deep and active study .
・本来は一人での作業であるシラバス作成をグループで議論でき、様々な視点や能力を結び合わせて作り上げることができたことが有意義であった。 ・模擬授業を通じて、わかりやすく説明することや教材の有効な使い方、また講義の際の目配りや間の取り方も勉強になった。 ・アイスブレイキングとしてのクイズ形式の導入を導入してみたい。 ・毎回の授業計画書を作成し、スケジュール管理し構成のわかりやすい授業を心掛けたい。
①授業の目的と到達目標と評価とに関連性を持つこと、評価目的と評価基準を明示することも学生のやる気につながる、目的にあわせて授業法を選択することなどを学ぶことができました。とくに、学生を主語にして考えることが、すべてに一番大切であると認識した次第です。②学んださまざまなしかけを使って、初めてでも学生同士が仲間になれるような雰囲気をつくってみたいです。あるいは連帯感をもてるような。また、私なりの動機づけの方法も意識して確立したいと思います。
今回のワークショップでは学生の興味や知的好奇心を喚起する方法を学んだ。特にクイズを導入したときには「解答は後ほど」とすることや授業の終わりに発展的内容に軽く触れて終わることはこれからの授業で活用していきたい。また、模擬授業で指摘されたように「淡々と話している」傾向があるので、声のトーンや話す早さに変化をつけることで、熱意だけではなく、授業内容が伝わる話し方を実践していきたいと思った。これまでの特別支援学校での指導経験から「指導と評価の一体化」を心がけてきたが、初等中等教育と同様に、高等教育においても目標を明確にし、評価基準を明確にするという視点が重要であることが確認できた。大学の授業でもこれまでの経験を活かしていくことができると思えるようになった。
①ミニッツ・ペーパーなどの効果的な使い方。GWでプライベートな問題について話す必要があるとき、事前指導を入れて心理的負担を低減すること。常に全体の流れを意識し、各回との関連付けを行うこと。ムードルの使い方。他の教員のレジュメの作り方（共同作業において）。②ミニッツ・ペーパーの使用。ムードルの使用。「刑法」という授業でもGWを用いてみたい。Yes・Noうちわ（赤青カード）を使ってみたい。
① ワークショップで学んだ点 ・シラバスの作成法について、学生の立場に立って考える事が出来るようになった。 ・特に最後に行った模擬授業が私にとって有益であった。具体的なアドバイス、例えば授業を行う上での「間」の取り方、授業で言った事柄で特に重要なものについては、「キーワード」として黒板に記載する事等、詳細に渡って色々指摘して下さり、自分一人では気づかない点が今回明らかになった。 ② 教育実践の場で今後やってみたい点 ・黒板の授業だけではなく、今回教わった点を踏まえてパワーポイントを使った授業にもチャレンジしてゆきたい。 ・今後、学生に対して授業の始めに「ice breaking」させることによって、より深く授業に集中出来る環境を作ってゆきたい。 ・学生にも質問に答えさせることによって、学生が主体的に学べる授業を作ってゆきたい。
回答（シラバス作成については勉強になった。特にシラバスに書いた授業目標を、評価可能なものとする書き方にする方法は今後に役立つと思う。他の様々な専門をお持ちの教員と知り合えて一緒に作業にできたことも、今後の教育・研究において役立つものと思われる。）
①学んだ点 ・様々な授業方法の呼称とその手法を知る機会を得、既に自ら体験、授業内で実践してきたことを専門用語を通して確認することが出来た。 ・シラバスの書き方 ・毎回の授業において、流しがち、見落としがちな部分を模擬授業とそのフィードバックを通して気づくことが出来た。 ・様々な分野、キャリアの教員同士が対等にいかに協調し合い、効率よく協同作業を行っていくか。 ・ワークショップの構成 ・Motivation Theories ②教育実践の場で今後やってみたい点 ・ワークショップにて紹介があった様々な授業方法 (ex. 逆転授業、Clicker、Yes/Noうちわ、ワークショップで体験したような「楽しい」ice breaking、 など) ・毎年恒例のシラバス作成の際に、ワークショップで学んだポイントを反映させて、書くこと。

授業の展開の方法（目標設定・授業の展開方法・シラバスの書き方等）を一連の流れとして学ぶことができた。また、様々な授業方法についての知識を得ることができた。ミニ授業では、他の先生方の授業を拝見し、授業の技法や話し方など学ぶことができた。今後授業で、学科や構成に応じたシラバスを作成し、また、引き込まれるような授業が展開できるよう様々な授業方法を試してみたい。特に現在は一方的な授業が主となっているので、学生参加型の授業方法を取り入れたい。
シラバスの書き方について講義を受けたことが過去にあったが、知識だけでは実践に移すまでには至らなかった。今回、模擬授業までの一連の流れを実際に行ってみたことで、自分の苦手な思考過程、作業の部分や授業の際の癖のようなものまでがわかってよかった。そのことが今回学んだ手法を取り入れることで改善できると感じられ自信につながった。 愛大に勤務でないため、今後のサポートがないことは残念であるが、今後も教師としての素養を養える研修があれば積極的に参加したいとおもう。
多くの有用な手法を学ぶことができたが、今後自分でよく整理する必要がある。整理した上で必要に応じてピックアップして活用していきたい。研修が終わった直後の現時点では全く処理しきれていないが、学生が参加しやすくなるような手法（Yes/No等）に関しては、早速取り入れていきたい。ミニ授業ではほかの人の授業を聞いたことは大変良かった。特に、ゆっくり話しても聞く側は全くストレスを感じないということに気がつけたのは大きな収穫であった。
・シラバスの記述項目の狙い、異議、必要性など学生の視点も交えて理解することができました。 ・作業は増えるものの、授業計画書を作成することにより各界の時間配分やアクション、チェックポイント、シラバスとの整合性などを確認することができ授業改善に有効であると感じました。 ・学生のやる気を出させるために、適当な動機づけモデルを選択し、それに基づく授業の展開を考えてみたいと思います ・担当する文系ゼミ活動においてThink, Pair&ShareやYes/Noカードなどを実践してみたいと思います。
さまざまな授業方法を知ることができた。特に学生を授業に巻き込み、参加させる方法については参考になった。一方、そのような授業方法は愛媛大学さんのようなレベルの大学の学生について有効な方法なのだろうか、という疑問も残っている。私の所属する大学での学生の動機づけや理解力を鑑みた時、授業方法以前の問題も出てくるような気がしている。とはいえ、それは単にこちらの言い逃れなのかもしれない、より良い方略を持てばしっかりと魅力を感じさせることもできるのかもしれないと、まだ逡巡している。もしも本学の学生も魅力を感じるのであれば、グループワーク、クリッカーの利用などを積極的に取り入れていきたい。
授業での到達目標と評価方法のリンクの仕方、それに基づいて授業全体を設計する、という手法について学んだ。また、グループワークを通じて、各回のレジュメの論理展開の重要性など班メンバーより指摘され参考になった。それとは別に、Yes, No うちわなど、クリッカーなど、学生の反応を即時に捉える手段が豊富にあることは勉強になった。また活用していきたいと思う

【設問15】 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

回答
ワークショップ会場の環境について補足させてください。静かだし、いい意味でケータイの電波が通じないし、良好な環境の下、ワークショップを受けさせていただきました。が、トイレだけはあまり快適でなかったように思います。
申し込み時点では、赴任直後のため内容についてあまり理解せずに申し込みました。実際参加しまして、授業を行う際の、勉強すべき事項を盛りだくさん勉強することができ大変良かったです。すべての内容を理解することはできませんでしたが、これからの授業（や対外的な講演）を行う際に配慮して実施するよう努力して参りたいと思います。私にとっては、様々な大学の他分野の先生方と交流する機会とその先生の模擬講義の聴講（解説評価付）が、今回のワークショップでの一番の成果と考えております。
事務局の皆様お疲れさまでした。とても手際良く運営されており感銘を受けました。講義を受けた感想人の意見を拾いながらも最終的には予定通りのオチまで持って行く技術等は凄いと思いました。まねしたいです。グループワークの感想目的・目標の設定で最初は議論が割れましたが、結局は論理的にまとまりました。最後の握手はどこかで使わせていただきます。ミニ授業の感想予期していたコメント、予期しなかったコメントの両方を多数いただくことができました。今後の課題としたいです。一点だけ気になったのですが、もっと厳しくても良かったかもしれません。お互い大人なので相当に言葉を選んで発言していただいていたようですが、もっとストレートでも良かったと思います。改善点の指摘の際に、発表者の意図を汲んで認めつつも、改善点があることを提示する、というやり方で意見を述べられていたと思うのですが、それはそういう技法（例えば一旦認められると人は他人の意見を聞きやすくなる）があるのでしょうか。そうだとすると、私はその技法は多用すべきではなく、どこかでストレートに言わなければ確信が伝わらないこともあると思います。今回の用に初対面だと難しいですが、ミニ授業の最初に厳しい事を言いますと前振りしておけば不可能でもなかったかと思います。

松山市内で実施すると、夜に帰宅される先生がいらっしゃるため、敢えて離れた環境で実施するという意図は理解しました。心配な点として、山地での開催だったため、研修所や宿舎でムカデを何度も発見し、場合によっては刺されていた可能性があったことが挙げられます。また、虫が苦手な先生だと、研修に集中できないのではないのでしょうか？このようなことを言い出すと、ゴキブリも出ない環境を用意しないといけませんし、それは不可能ですので、難しい点だとは重々承知しておりますが…。

設問13については、教室の広さは受講者の数に対してちょうど良かったと思います。みなさんの顔までよく見えましたから。冷房が故障しているということでちょっと暑かったのですが、それだけです。運営側がいろんな仕掛けを周到に（！）用意していて、面白くて、学生気分に戻って楽しめました。思っていた以上に同じ班の人や模擬授業のときに同じ部屋になった人と打ち解けて、率直に話せたことがとても良かったです。この人たちが同僚だったらいいなあと感じました。たぶんそれぞれの職場へ帰っても、こんなコミュニケーションをしていけたらと感じた人も多かったのではないのでしょうか。お世話になりました。ありがとうございました。

ワークショップの準備段階から最後まで、きめ細かいお世話と指導をしていただき、ありがとうございました。ご指導いただいたことを活かして、学習意欲の高まる授業を実践していきたいと考えています。これからも、ご指導よろしくお願いします。

よく練られた内容と進め方で、運営方法そのものも大変勉強になりました。深夜までそして早朝から、大変お世話になりました。

今回のワークショップは学部学生を対象とした講義を基本として想定していたが、演習の運営やフィールドワークの指導、大学院生への授業など、大学教員が担当する授業は対象も内容も多彩であるため、今回は対象としなかった授業デザインについても聞きたかった。また、新任教員とはいっても、大学での教育歴が長い参加者も多いはずであるため、講師からの講義を受けるだけでなく、実際に大学教育現場で教えている各自の経験に基づいた、他の参加者が行っている授業での工夫や技法について提示し、話し合う場がほしかった。今回のワークショップは、いわば「料理教室」のようなものであり、上手な料理を作るための技術を教わった参加者が、教わったことを活かして各自の家庭でどのような料理を作るかは、それぞれの才覚にかかっていると思う。そして、家庭料理とは、手に入れられる食材、調理に費やせる時間、食費にかけられる費用、食べさせる家族の好みや健康など、様々な制約条件がある中で、毎日一定の質の料理を提供さなければならないため、料理教室で教わった通りには作れないものである。それと同様に、週に4,5コマの授業を担当し、その他に会議や大学内での事務、自らの研究もしなければならない大学教員が、すべての担当授業でワークショップで教わったことを活かせるとは必ずしもいえない。制約条件として、3,4人の複数の教員が1コマの授業を入れ替わりで担当するために個別の教員の裁量で15回の授業の内容を組み立てられない授業の存在や、机と椅子が固定されていてグループワークに適さない教室、100人を超える受講者の多い授業などである。授業への学生の積極的参加を促すことで学ぶ意欲を喚起させるために、教員が授業を工夫する技法を習得することを目的としてワークショップは行われたのだろうが、では、教員が工夫した授業をする環境を大学側がどこまで提供できているのか、授業の内容を決定する裁量が各教員にどこまであるのかについて考えるべきではないかと思う。教員が授業を工夫するために様々な技法を学び、実際の教育現場で活かそうという熱意があったとしても、それを為し得ない環境が制約条件となっているのであれば、教育機関として大学側が改善すべき点も検証する必要がある。

このたびは、ワークショップ開催をいただき、ありがとうございました。みなさんの明確に企図された講義と丁寧な説明のおかげで、私自身のなかで試行錯誤していたことの多くが分かりやすかつ体系的に理解できるものとなりましたし、同時に多くの授業法や理論などを新しく学びました。また、ワークグループ形式・ワークショップ形式で、他者と学ぶ過程を共有できたことも何よりでした。ワークショップのプログラムそれ自体や適度にちりばめられたしかけも、自分自身が学生の立場になってその効果を知ることができました。すべて、今後活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

黄色いテキストブックを持参したのですが、配布されていきました。新任研修でもらっていたので、持参するように指示し、持っていない人にだけ配布し、忘れた人には貸し出していただくのでも良いように思います。全く個人的なことですが、喘息とアレルギーがあるので、研修室のタバコの臭い（カーテンに染みついている？）や食堂の黴臭さが気になりました。

ゼミで、ペア&シェアを試してみたところ、もともと一人で発言することを嫌がらない学生たちでしたが、より活発に意見を言うようになり、しかも、より密度の高い議論ができるようになりました。ワークショップでお世話になりました先生方に、御礼申し上げます。ありがとうございました。なお、環境面ですが、今年は雨の影響もあって、暑くてつらいということにはなかったのですが、冷房はあった方が良かったと思います。また、トイレは、人によると思うのですが、和式は苦手な人もいるかもしれません。

ワークショップの開催、本当にお疲れ様でした。私にとって非常に有益な二日間となりました。ただ一点、次回開催についてお願いしたい事としては、可能であれば松山市内で行って合宿形式で宿泊するか、一人で宿に泊まるかの選択肢を与えても良いのでは、とも思いました。合宿も交流が深まりとても良いと思いますが、他人に知られたいくない等の諸事情でどうしても一人で宿泊したいという方もおられるのでは、と思います。個人的には、他の方のイビキであり眠れなかったし（決してその方が悪いわけではありません）、他の方の睡眠を邪魔してはいけないとの遠慮でシャワーも控えておりました。しかし、全体を通してみると、本当に有意義な2日間であり、今回のワークショップでの学びを踏まえて、私が行う授業にプラスとなるようこれから授業計画を改良しようとしている所であります。本当にありがとうございました。今後とも、どうか宜しくお願い致します。

参加前までは、ハードスケジュールをこなせるか、一般的に女性教員が少ない「大学」という環境のなかで、女性の参加者はいるのか、など不安な気持ちがよぎったこともありましたが、絶妙なアイスブレイキングのお陰でそのような不安は一気に吹っ飛び、無理なく心地よいペースで一日半のワークショップに参加でき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。また、様々な大学の、多様な分野の教員と懇談する機会に恵まれ、とても楽しかったです。

これは一重に、愛大教育企画室の方々、細やかなサポートのお陰であり、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

ワークショップ参加の対象者について、教歴年数が一つの目安になっていましたが、少し気になったことがありました。参加者個人としては、関心があって参加させていただいたので、5年以上でも受け入れていただき、感謝しております。他方、グループワーク作業時に、経験年数が（無論個々の性格も）反映されてか、控えていてもつい仕切ってしまった感があり、他のメンバーには申し訳ないことでした。

今回ワークショップに参加して、これほど楽しく充実した研修になるとは良い意味での「想定外」であり、非常に満足しております。最後に頂いた「修了証書」も、形として残り、嬉しいです。

企画室の先生方、スタッフの方々、本当にお世話になり、ありがとうございました。

教育法、教授法といったものは、教員の専門領域によって異なる部分が大いと思う。その中で共通基盤となる教育法、教授法を学ぶという意味では役立つものだったと思うが、今後は応用編として専門領域ごとの教育法・教授法の講座を開設して頂ければ是非とも参加したい。例えば、哲学や思想、法律・制度といった授業のような、学生に難しい知識や思考が要求される授業で使える教育法・教授法を教えて頂けると有難い。

研修施設では、施設が今回の研修のみの使用であったので、研修に集中しやすい環境であったと思う。また、周囲の環境も静かであった。

初めてこのようなワークショップに参加させていただいたのですが、内容、進行、周囲の環境、スタッフの方々など本当に素晴らしく、得難い経験をさせていただくことができました。ありがとうございました。

短時間で非常に多くの手法が出てくるので、主要な手法の体系が分かるような簡単なまとめのプリントがあるとありがたいです。出版されている本がそれにあたるのかもしれませんが

エアコン故障のため湿度が高かった。事前に入念に準備いただいていたおかげで充実した時間を過ごさせていただきました。スタッフのみなさんのご尽力に感謝します。

以前から自分の自己流の授業の進め方に不安があり参照できるモデル授業に関心を持っていたことから、今回参加させていただきました。

事前に黄色いテキストをいただきざっと目を通して参加しました。実際のプログラムでは講義とグループワークが綿密に準備されとおり、読み返す時間はありませんでした。事前に予習すべき課題などを設定していれば当日のスケジュールが少しは楽になるかとも思いましたが、参加者の準備度合いにばらつきが出ることも考えられますね。）

俳句披露、尺八ファンファーレ、七夕の星座解説など懇親会も趣向が凝らされとても楽しく、みなさんと打ち解けることができました。ありがとうございました。

集合写真、俳句写真、ミニ授業のフィードバック、ビデオなど今後の振り返りに利用させていただきたく、お手数ですが取りまとめいただければと思っています。よろしくお願いします。

難しいとは思いますが、宿泊施設やワークショップ会場についてはもう少し清潔なところが望ましいと思うのです。トイレに行くのが苦痛でした。それと、蚊取り線香も仕方ないと思うのですが、アレルギーを持つものとしてはつらかったです。

グループワークの題材のテキスト選択について。あえて専門から外したとのことだが、逆に共通する専門分野の基礎科目を選ぶ方が良いのではないか（例：経済学者に他学部1回生でもわかる共通教育の日本経済入門をさせる、など）。全く違い専門の人と同じ班となり、話ができたのは非常に有益ではあったが、専門分野外では、15回のシラバスを責任をもって真面目に考えられるほど、どうしても内容についての知識のないことがもどかしく感じた。知識がない結果、学外講師に丸投げする、などのやや投げやりな講義計画が多くでていたように思う

今回の研修は、かなり多忙な中での強制参加でしたので、正直なところ、あまり乗り気ではなかったのですが、終わってみれば、なかなか楽しく、参考になる点も多い有意義な研修だったと思っています。スタッフの皆様の尽力とスムーズな運営に改めて御礼を申し上げます。

平成 24 年度 第 19 回 愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項

平成 24 年 8 月 28 日改訂

1. 主 催

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室（教職員能力開発拠点）

「愛媛大学授業デザインワークショップ」は『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)』事業の一環である。

2. 期 目

第19回 平成24年9月5日(水)～9月6日(木) 国立大洲青少年交流の家

※集合・出発時刻

1日目	8:00	愛媛大学城北キャンパス正門前集合
	8:10	出発（マイクロバスで移動）

※解散時刻 2日目 15:20 愛媛大学城北キャンパス正門前解散

3. 場所

国立大洲青少年交流の家

〒795-0001 愛媛県大洲北只 1086 電話 0893-24-5175

URL:<http://ozu.niye.go.jp/index.html>

4. 参加対象者(一度参加した者は除く)

- 1) 一昨年度から今年度にかけて大学等に採用された、授業担当または担当予定の教員（授業担当経験 5 年以上を除く）
- 2) 参加を希望する教員

5. 実行委員

松本 長彦（実行委員長、教育・学生支援機構長）

佐藤 浩章 (教育企画室副室長)

大竹奈津子（教育企画室助教）

小林 直人（教育企画室長）

山田 剛史 (教育企画室准教授)

山内 ちあき（教育企画課教育企画チーム）

6. 学外講師

吉田 博（徳島大学大学開放実践センター助教）

7. ワークショップの目的

授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループ作業として体験し、参加者相互の話し合いを経てそれに関する能力を身につけます。

8. ワークショップの目標

- 1) 適切な目的・目標設定ができるようになる。
- 2) わかりやすいシラバスを書けるようになる。
- 3) 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 4) 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになる。
- 5) 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができるようになる。

9. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる学部・教員が、普段着で肩書きなしの対等な意見交換をすることで、学習効果を高めます。
- 3) 研修自体がグループ学習形式であり、学生参加型授業を体験します。

10. その他

- 1) 『愛媛大学 FD ハンドブック もっと!!授業を良くするするために』第一巻(黄色い冊子)をテキ

- ストとして使用します。お手元がない方は、当日会場でお渡しします。
- 2) 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
 - 3) 宿泊しますので、洗面道具・タオル・寝間着（パジャマ）・虫さされなどの常備薬、懐中電灯等をご準備ください。
 - 4) 旅費については、食事代、レクリエーション費等(5,000 程度)は、当日会場にてお支払いいただくことになります。詳細については、おってご連絡いたします。
※キャンセルされる場合は一週間前までにご連絡ください。ご連絡がない場合は、参加費を請求する場合がございますのでご了承ください。
 - 5) 現地までは、原則として、愛媛大学から出発するマイクロバスでの移動をお願いします。
 - 6) 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行うことがありますのでご了承ください。
 - 7) 修了証書は、全日程を参加された方の方に授与されますので、あらかじめご了承ください。

11. お申し込み・問い合わせ

各大学担当窓口にお申し込み下さい。

<愛媛大学問い合わせ先>

E-mail : natuko.otake.mc@ehime-u.ac.jp TEL : (089)927-8922 (担当 大竹)

12. プログラム日程

第Ⅰ部 1日目（朝・昼・夕）プログラム

9:30 現地到着

(敬称略)

時刻	内容
9:30-9:40	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い
9:40-10:05	(2) アイスブレーキング ・自己紹介 ・グループワーク
10:05-10:45	(3) 講義Ⅰ「シラバスの書き方」 ・目標設定の立て方 ・授業計画の立て方
10:45-12:00	(4) グループワークⅠ「共通教育科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成
12:00-13:00	集合写真撮影・昼食・休憩

13:00—13:40	(5) 講義Ⅱ 「何が学生の学びを促進するのか？」
13:40—14:20	(6) 講義Ⅲ「様々な授業方法」 ・講義形式のメリット・デメリット ・双方向型授業のコツ ・体験型授業 ・参加型授業
14:20—14:30	休 憩
14:30—15:00	(7) 講義Ⅳ「よりよい成績評価の仕方」 ・成績評価の目的 ・評価の方法と評価対象
15:00—16:00	(8) グループワークⅡ「共通教育科目の開発Ⅱ」 ・授業計画と評価計画
16:00—16:10	休 憩
16:10—17:25	(9) 中間発表 ・発表 3分 ・コメント 12分
17:25—18:00	(10) グループワークⅢ「共通教育科目の開発Ⅲ」 ・授業計画案作成

第Ⅱ部 1日目（夜）プログラム日程

時刻	内容
18:00—19:00	夕食
19:00—21:00	(11) グループワークⅣ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・授業計画案作成
21:00—21:30	交流会
21:30—	自由時間・お風呂

第Ⅲ部 2日目（朝・昼）プログラム日程

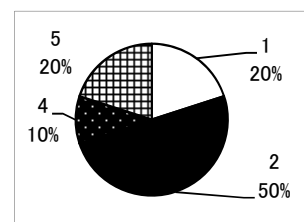
時刻	内容
7:30－8:30	朝食
8:30－10:30	(12) グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅴ」 ・ 役割決定 ・ 授業の練習
10:30－12:00	(13) ミニ授業（導入の10分） ・ 授業紹介 3分 ・ ミニ授業 10分 ・ 討議・検討 15分
12:00－12:30	(14) 閉会式 ・ グループ作業の振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・ 修了証書授与 ・ 閉会の言葉
12:30－13:30	昼 食

13:45 現地出発

第19回授業デザインワークショップ事後アンケート結果（回答者数：10名）

【設問1】 ワークショップへの参加動機は何ですか

1. 新任研修に参加して興味をもったため	2	20.0%
2. 実施要項を見て内容に興味をもったため	5	50.0%
3. 所属部署からの依頼があったため	0	0.0%
4. 他部署の人と交流したいため	1	10.0%
5. その他	2	20.0%
合計	10	

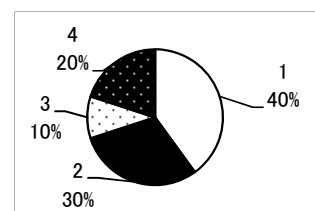


【設問2】 設問1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

- ・新人はでないといけないものだと思っていたから。
- ・昨年、参加した方から誘いがあったため

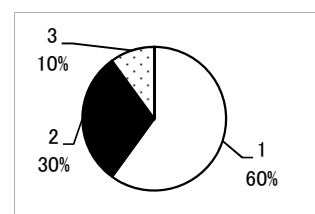
【設問3】 ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

1. そうである	4	40.0%
2. どちらかといえばそうである	3	30.0%
3. どちらかといえばそうではない	1	10.0%
4. そうではない	2	20.0%
合計	10	



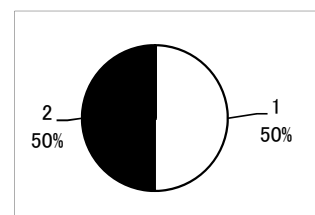
【設問4】 ワークショップの目的は、明確に設定されていた

1. そうである	6	60.0%
2. どちらかといえばそうである	3	30.0%
3. どちらかといえばそうではない	1	10.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



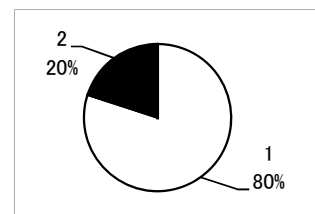
【設問5】 ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

1. そうである	5	50.0%
2. どちらかといえばそうである	5	50.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



【設問6】 ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた

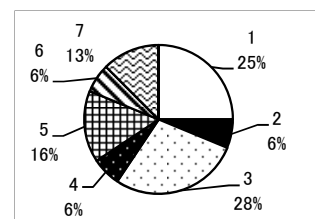
1. そうである	8	80.0%
2. どちらかといえばそうである	2	20.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



【設問7】 今回のワークショップで良かった点は以下のうちどれですか

<複数選択可>

1. 学生の考える良い授業・悪い授業について考える機会を得た	8	80.0%
2. シラバスの書き方についての理解が深まった	2	20.0%
3. 複数の授業方法について知ることができた	9	90.0%
4. 成績評価についての理解が深まった	2	20.0%
5. 自らの開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	5	50.0%
6. ワークショップの手法を知ることができた	2	20.0%
7. 他学部等の教員と知り合いになれた	4	40.0%
8. その他	0	0.0%
合計	32	

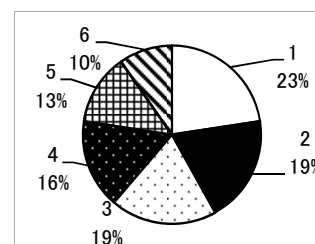


【設問8】 設問7で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

【設問9】 今回のワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか

<複数選択可>

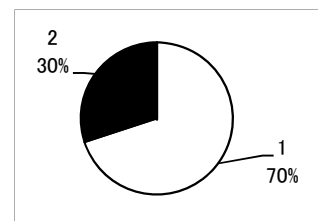
1. 適切な目的・目標設定ができるようになる	7	70.0%
2. わかりやすいシラバスを書けるようになる	6	60.0%
3. 深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択	6	60.0%
3. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	5	50.0%
4. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択でき	4	40.0%
5. 学生参加型のグループ作業を、自らの授業で導入することができ	3	30.0%
合計	31	



【設問10】 今回のワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい（200字～400字程度）
→別添資料参照

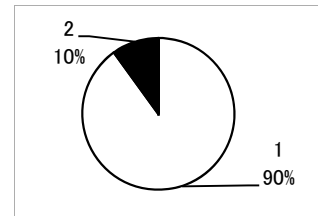
【設問11】 講師の言動は学習意欲を高めた

1. そうである	7	70.0%
2. どちらかといえばそうである	3	30.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



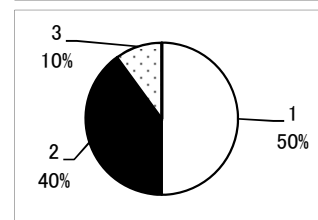
【設問12】 事務局は手際よくワークショップを運営していた

1. そうである	9	90.0%
2. どちらかといえばそうである	1	10.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



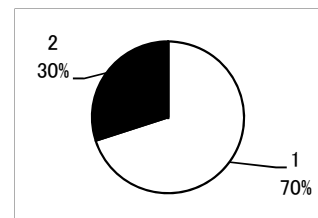
【設問13】 ワorkshop会場は快適な環境であった

1. そうである	5	50.0%
2. どちらかといえばそうである	4	40.0%
3. どちらかといえばそうではない	1	10.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



【設問14】 本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

1. そうである	7	70.0%
2. どちらかといえばそうである	3	30.0%
3. どちらかといえばそうではない	0	0.0%
4. そうではない	0	0.0%
合計	10	



【設問15】 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書きください
→別添資料参照

【設問10】 今回のワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい（200字～400字程度）

回答
・自分の専門以外の科目を担当する際の苦勞を知った。・他人の授業からたくさんのことを学べた。・話し方（テンポ）など、普段気にしていなかったことも授業では重要であることを知った。
授業における発問の仕方にもいくつか種類があって、状況に応じた使い分けが有効であることを学びました。例えば、まずは誰しもが答えられるやさしい質問を投げかけ、教室で積極的に手を挙げてもらえる雰囲気づくりをおこなった後、段階をおって難易度を挙げていく手法があるということを知りました。また、質問の投げかけに対して帰ってきた答えにきちんとレスポンスすることが重要であることを学びました。
シラバスを作成する際に教員の立場ではなく学生の観点で書くべきであること、効果的な授業のための様々な方法論を学んだことは今後ぜひ実践・参考にしていきたいと思う。
シラバスの作り方から授業方法の選択まで流れに沿って学ぶことができた。新任であるため来年度からシラバスの作成を一人で行うことはないと思われるが、今後の授業を実施するにあたって、その授業の狙いをわかり授業することの大切さを理解できた。
他の人への指摘であったが）、エーなどという間合いの声は、雑音でしかないという指摘はそのとおりで、気を付けなければならないと思い知らされた。語るときに学生との距離や、間合いの取り方が重要であることは、わかっているけど、なかなかできないことを、再度、気づかされた。講義では難しいが、学生に考えさせるような雰囲気や時間の作り方を工夫しなければいけないと思った。
研修目的で先生方の思いは十分に伝わった。各論でさまざまな手法を教えていただいたが、もう少し内容を具体的に聞きたかった。このような場面で対象人数には適・不適などがわかればさらに具体性があったような気がした。実際のミニ授業では講義内容を意識しながら行ったが、そのどれが良かったではなく全体の意識が高まった。また今後実践の場で必要な課題としてパワーポイント資料の必要性を考えていきたい。学生自身には自分の未知の力で学問を開拓するためには、多くの資料よりは考える力が最も大事ではないかと思った。
今回の研修で、シラバスの書き方について理解、何が学生の学びを促進するのか、複数の授業方法について知ることについてはすごく勉強になりました。私の次の課題は知識としてある程度吸収できたこれらのことを、次学期からの授業でどう実践していくかだと思います。授業は様々な方法があることを知りましたが、対象とする学生層を認識した上で目的と手段が明確になっていることが大切だと思いました。
ワークショップで学んだ点 シラバスを作製する上で、その効率的作業手順について学ぶことができた。また、良いシラバス、つまり学生が期待しているものをそこからつかみ取れるシラバス、とは何なのかを知ることができ、その為にどのようなことに注意が必要かを知ることができた。また、シラバスとは授業ルールや評価方法についても記載されているものであると知り、隙のないシラバスとは何なのかを知ることができた。アイスブレイクという技術が存在すること、また自身で体験することでその効果について知ることができた。実践教育の場で今後やってみたい点 ここで学んだシラバス作製、学生と教員双方向で議論する形の授業
幅広い知識を持った教員の実際の授業に参加できたことが一番の学びであった。また、自分の専門外の分野をいかに教えていくか、その目的や目標ポイントを絞って授業を進めることを短時間でできたことが自分の自信につながったと思う。それとともに、私自身はいつも授業案を作成して授業に臨んでいるが、授業案の大切さを再認識して、毎回丁寧に授業を展開することの大切さを再認識した。
シラバスの書き方を学生目線で改め、抽象的で理解が難しい用語をより具体的でわかりやすい内容に置き換えるようにする。授業の評価は、事前に細かい情報を学生に提供し、その情報に沿って授業運営を円滑に行うようにしたい。授業は、学生が積極参加できるように学生に意見を出させて収束させる方法をいくつか試したい。なかなか授業の難易度から見てKJ法のようなやり方を毎回試すことは難しいと思うが、グループを作って意見を出させる回を絞り、適用を考えている。

【設問15】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

回答
よく運営されていたと思います。今回は参加人数が少なかったので模擬授業が少人数体制になってしまい、大勢の学生を相手にしている雰囲気ではできなかったのは残念に思いますが、今は授業をもっていないので、授業の実施方法など考えることがありませんでしたが、今回のワークショップは教育について考える良い機会を与えてくれたと思います。いろいろな先生方とお話しもでき、参加して良かったと感じています。
今回のワークショップではたいへんお世話になり、誠にありがとうございました。正直申し上げますと、初めは参加に乗り気ではなかったですが、研修を終えた今、参加して本当によかったと感謝しています。研修を通して授業に関するテクニックを学ぶことができたのはもちろんのこと、普段会うことのできない方々と知り合う機会になったことが大きな収穫でした。そしてなにより個人的には、授業初体験の私に対し、最後の模擬授業の際に、同じグループの先生や参加メンバーの方々がかけてくださった温かいお言葉が非常にうれしく、今後の教員生活の最高の励みになりました。ワークショップの運営に携わってくださった皆様に厚く御礼申し上げます。
御存知の通り、各学科・専攻ごとに最適な授業・評価の方法は大きな差があります。その中で共通教育科目を選択し、それを中心にこのワークショップを行ったことは十分理解できます。しかし、このワークショップの主な対象は新任教員であり、その中でも授業の経験が非常に短いあるいは全然ない教員がほとんどです。その教員が実際に共通教育科目を担当するあるいはかかわることはおそらく数年或いは十数年の後の話であり、新任教員として、特に工学系の教員が感じる不安や問題意識とはかなり遠い世界の話になってしまいます。もちろん共通になる様々なことがあるためワークショップに参加すること自体は有益になりますが、その有益が、赴任して間もない時点で、ほぼ2つ日間ほかの仕事犠牲にまでしても得るべきことなのか考えてみると、そうとは思えないのが事実です。むしろ、同じ専攻のベテランの先生たちから1-2時間程度経験とかを話してもらうのがもっと大きな効果をもたらすのではないかなと思えるぐらいです。単純な考えですが、今回のような共通教育科目を中心したワークショップは、次の年から共通教育科目を新しく担当することになる教員に向けて行った方がいろんな面で効率・効果的であって、新任教員にはあまり向いてないと思います。新任教員向けのワークショップであれば、特に理工学系の教員の立場で考えますと、なるべく同じ専攻（文系、理系ぐらいでも）の先生たちをグループにして、そのグループに当てはまるプログラムを別に設けたほうが良いと思います。たとえば、理工学系であれば、授業や評価の方法には大した差がないので、むしろ同じ理工学系のベテランの先生に経験を話してもらったり学生指導における様々な問題に対する注意点などを教えてもらうのがより効果的ではないかと思われます。二日間もかけて、本学だけでは四国の大学を対象とする、大事なワークショップであれば、より効果的な方法を議論しつつ改善して行けたらと思います。
他の分野との交流は大変面白く、今回の授業での訴えたいこと等に違いがあることを感じたように思います。しかし、学生に教えるという一つの方向を目指している仲間同士での研修にはかなり意味があったようにおもいます。
宿泊施設研修なので、演習時間が長い時など、特に夏はいつでもシャワーだけでも使用できればいいなと思った。
上記2-4について、この研修の目的が知識の吸収とまずはアウトプットを見よう見まねでやってみることであればすごく有意義な研修でした。質問事項に「実践ができた」とありますが、今回の研修を通じて授業で実践ができるようになることが目標に設定されているのであれば、個人的には1泊2日の研修では難しいと思いました（もちろん個人差があると思いますが）
ワークショップのテーマとして大きく2つ、シラバス作りと模擬授業がありました。時間が少ないのに2つというのは、どちらのテーマに対しても100%の習得を難しくしているように思えました。力の入れていただいたところは良いのですが、例えばシラバスではそれ以外にも欄がありましたし、模擬授業でもスキル面で説明すべきことは多かったように思えます。また、模擬授業に関して言えば、フィードバックを頂いた後にチームにそれを持ち帰りより良いものにしたものかどのように違うかも見てみたかったです。つまり、年2回に分けてやってくれたらと思いました。もちろん時間のない方が多いので、それを考慮に入れての構成だったとは思いますが。
事務局のみなさま、お世話になりました。
スタッフの皆様にお世話になり、感謝しております。

新任教員FDワークショップ

『学生の学びを支援する授業の準備』

開催日
2012年
9/3(月)・4(火)

こんにちの大学では、「教師が教える」教育から「学生が学ぶ」教育へのパラダイム転換が起きています。学生の〈学び〉への意欲をいかに引き出していくか、という視点からの大学の授業に対する考え方が大きく変わろうとしているのです。

このワークショップは、新たに大学の教員となられた方々に、「学生の学びを支援する授業」について理解を深めていただき、今後の授業に役立てていただくことを目標としています。

講師：塩崎俊彦
立川 明
俣野秀典
(高知大学総合教育センター)

高知大学総合教育センター大学教育創造部門 HP
<https://olss.cc.kochi-u.ac.jp/create/>

1日目 2012年9月3日(月) 9:00~17:00

1. オリエンテーション／アイスブレイク
2. グループワーク「良い授業とは？」
3. ミニレクチャー「目標設定と授業計画、シラバスの書き方」
4. グループワーク「共通教育科目の開発①（目標設定と授業計画）」
5. ミニレクチャー「様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット」
6. ミニレクチャー「様々な成績評価、その目的と方法」
7. グループワーク「共通教育科目の開発②（授業計画と評価の方法・スケジュール）」
8. グループ発表「グループワーク中間報告」
9. グループワーク「共通教育科目の開発③（授業の計画・指導案）」

2日目 2012年9月4日(火) 9:00~12:00

10. グループワーク「共通教育科目の開発④（最終発表準備）」
11. グループ発表「新科目の紹介とミニ授業」
12. ふりかえり

会場：高知大学朝倉キャンパス共通教育棟3号館1階310教室

対象者：新任教員（大学での授業担当経験5年未満）および

新たに大学の授業を担当する教員

交流会：1日目終了後

高知大学
朝倉キャンパス
共通教育棟
3号館1階
310 STUDIO

*お申込み・お問い合わせ先

高知大学 総合教育センター事務係
〒780-8520
高知県高知市曙町2丁目5-1
Tel: 088-844-8652
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp



総合教育センター大学教育創造部門では、授業改善や新たな授業に取り組まれる教員のために、さまざまな支援を行っています。
御相談、申込については、下段のメールアドレス宛にお願い致します。

授業相談／授業コンサルティングのご案内

授業をやっていく上での疑問やお悩みなどのご相談に対応しています。お気軽にお問い合わせください。

また、授業改善のための授業コンサルティングも実施しております。こちらは授業中間期に実施するのが効果的です。下記を目途にお申し込みください。

1 学期 5 月 18 日（金）まで

2 学期 10 月 19 日（金）まで

「学生の反応がいまひとつ」、「授業改善の手順がわからない」などのご相談について、一緒に考え解決していきます。

グループワーク授業 OJT のご案内

本学が取り組んでいるグループワーク型授業について、実際に体験していただきながら、今後の指導のための理解を深めていただくために、当部門では On the Job Training を実施しております。下記の授業に OJT 教員として参加していただき、グループワーク型授業の考え方や進め方などを経験することができます。

OJT 対象授業（1 学期開講分）

OJT 対象授業（1 学期開講分）

- サイエンスリテラシーの化学：月曜 5 時限
- 環境を考える：木曜 4 時限
- 課題探求実践セミナー（自由探求学習）：木曜 4・5 時限（隔週開講）
- 課題探求実践セミナー（学びを創る）：金曜 4 時限
- 課題探求実践セミナー（自律協働入門）：金曜 5 時限

*お申込み・お問い合わせ先

高知大学 総合教育センター事務係
〒780-8520
高知県高知市曙町 2 丁目 5-1
Tel: 088-844-8652
E-mail: y-spod@kochi-u.ac.jp

平成 24 年度高知大学セミナー表

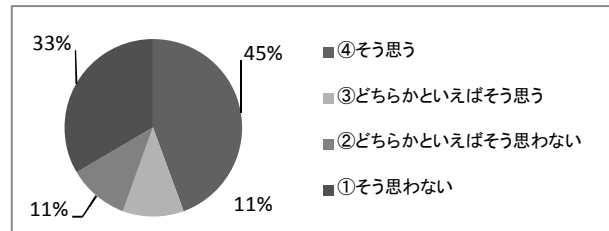
日 時	場所	プログラム名	講 師
9月3日（月）～ 9月4日（火）	9:00 ～17:00 310	学生の学びを支援する授業の準備 （新任 FD ワークショップ）	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 （総合教育センター）
9月6日（木）	13:30 ～15:30 未定	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン ～考え方と進め方～ <秋季 FD セミナー>	俣野秀典 （総合教育センター）
9月7日（金）	13:30 ～15:30 310	自習を助ける教材を創る・発信するための PowerPoint&Moodle 入門 <秋季 FD セミナー>	立川明（総合教育センター）
9月12日（水）	10:00 ～12:00 会議室 3	成績評価とフィードバック～評価の原則から ループリック評価まで～ <秋季 FD セミナー>	俣野秀典 （総合教育センター）
1月30日（水）	13:30 ～16:00 310 （予定）	学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方 <春季 FD セミナー>	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 （総合教育センター）
2月12日（火）～ 2月13日（水）	10:00 ～17:00 310	ファシリテーション力養成道場	俣野秀典・塩崎俊彦・立川明 （総合教育センター）
3月21日（木）	13:30 ～16:30 物部	アクティブラーニング ～学生参加型授業のつくり方 <春季 FD セミナー>	立川明（総合教育センター）
3月26日（火）	13:30 ～17:00 310	初年次科目のためのグループワークの技法 <春季 FD セミナー>	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 （総合教育センター）
3月27日（水）	10:00 ～18:00 310	能動学習支援者必須！ グループワークのための ファシリテーション入門 <春季 FD セミナー>	塩崎俊彦・立川明・俣野秀典 （総合教育センター）

1. 参加者ご自身について

(1) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか？(具体的に)
別紙参照

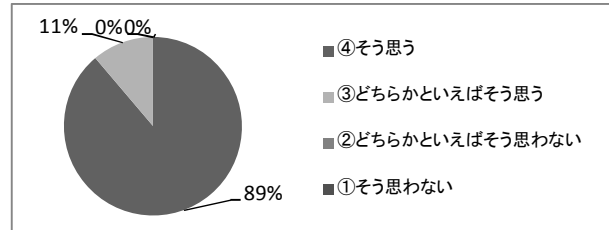
2-1 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④そう思う	4	44.4
③どちらかといえばそう思う	1	11.1
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	3	33.3
	9	100



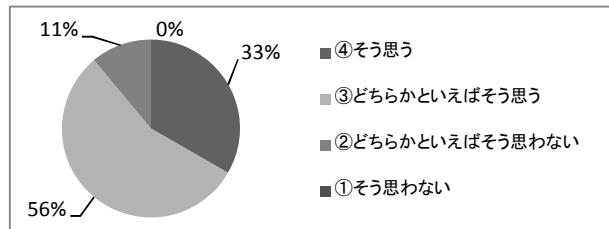
2-2 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	度数	割合
④そう思う	8	88.9
③どちらかといえばそう思う	1	11.1
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



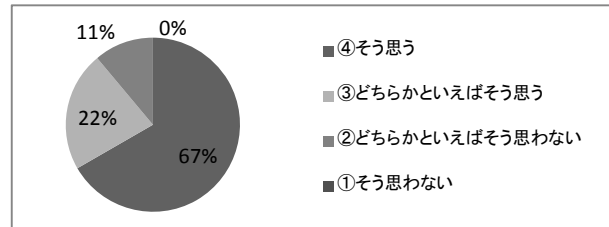
2-3 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	度数	割合
④そう思う	3	33.3
③どちらかといえばそう思う	5	55.6
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	0	0.0
	9	100



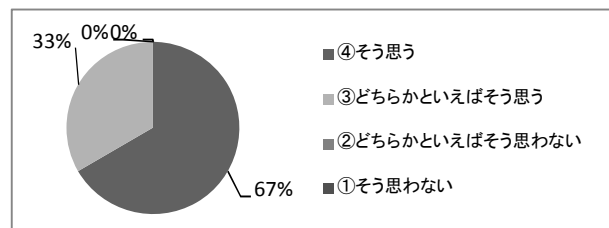
3-1 研修の目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	6	66.7
③どちらかといえばそう思う	2	22.2
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	0	0.0
	9	100



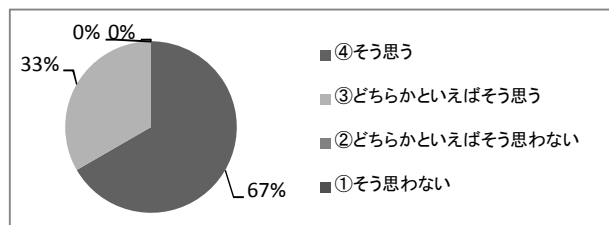
3-2 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④そう思う	6	66.7
③どちらかといえばそう思う	3	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



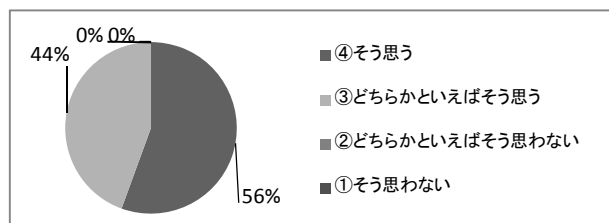
3-3 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④そう思う	6	66.7
③どちらかといえばそう思う	3	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



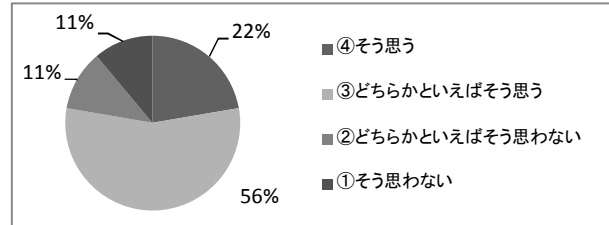
3-4 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	度数	割合
④そう思う	5	55.6
③どちらかといえばそう思う	4	44.4
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



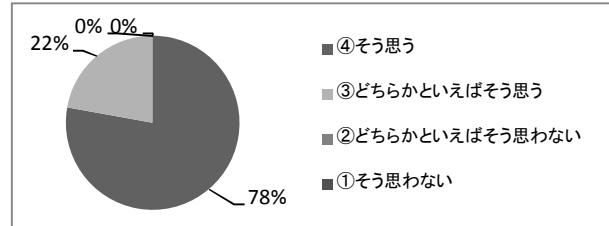
3-5 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	度数	割合
④そう思う	2	22.2
③どちらかといえばそう思う	5	55.6
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	1	11.1
	9	100



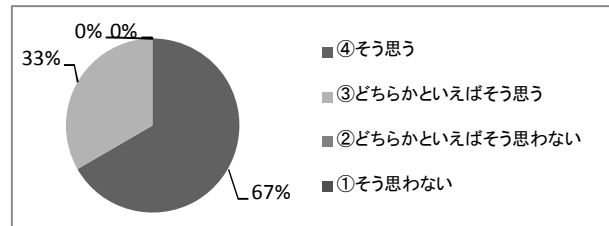
4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④そう思う	7	77.8
③どちらかといえばそう思う	2	22.2
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



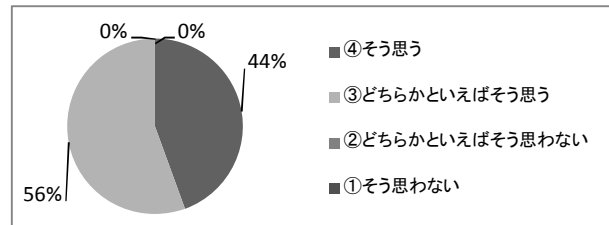
4-2 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	度数	割合
④そう思う	6	66.7
③どちらかといえばそう思う	3	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



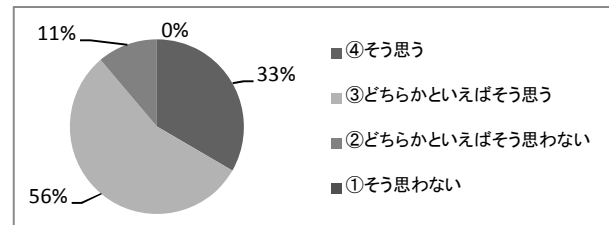
4-3 講師の用意した教材は分かりやすかった

	度数	割合
④そう思う	4	44.4
③どちらかといえばそう思う	5	55.6
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



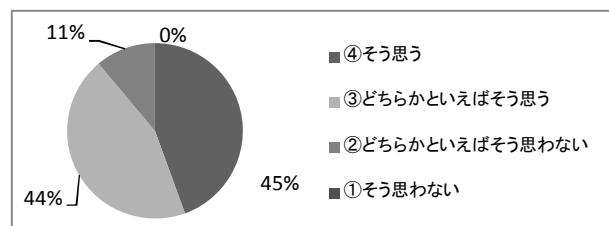
5-1 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④そう思う	3	33.3
③どちらかといえばそう思う	5	55.6
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	0	0.0
	9	100



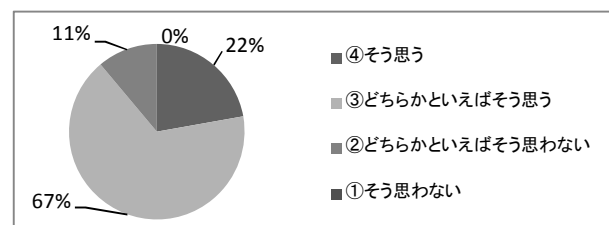
5-2 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	度数	割合
④そう思う	4	44.4
③どちらかといえばそう思う	4	44.4
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	0	0.0
	9	100



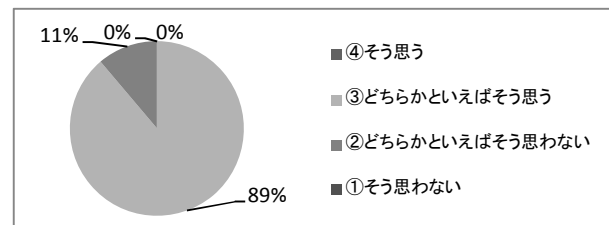
5-3 研修の内容は十分に理解できた

	度数	割合
④そう思う	2	22.2
③どちらかといえばそう思う	6	66.7
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	0	0.0
	9	100



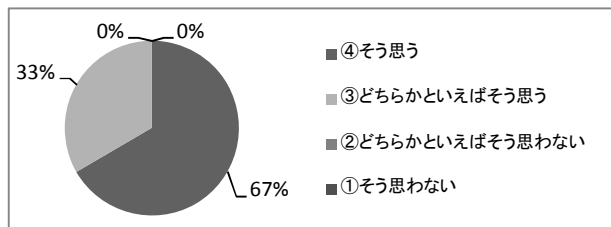
5-4 新たに人的なつながりをつくることができた

	度数	割合
④そう思う	0	0.0
③どちらかといえばそう思う	8	88.9
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	0	0.0
	9	100



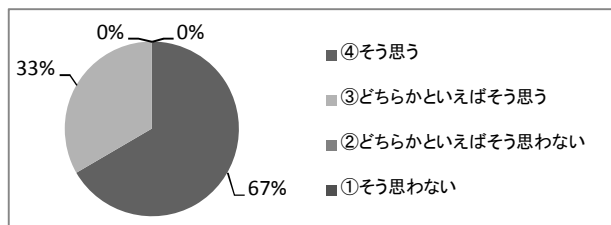
6-1 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④そう思う	6	66.7
③どちらかといえばそう思う	3	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



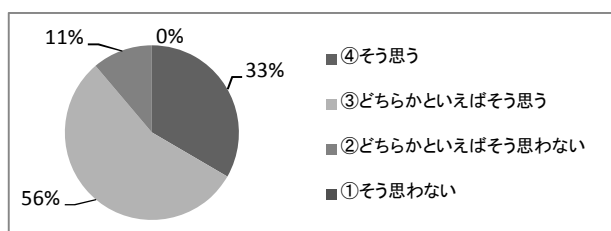
6-2 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	度数	割合
④そう思う	6	66.7
③どちらかといえばそう思う	3	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	9	100



6-3 関連する研修を受けてみたい

	度数	割合
④そう思う	3	33.3
③どちらかといえばそう思う	5	55.6
②どちらかといえばそう思わない	1	11.1
①そう思わない	0	0.0
	9	100



1-(1). 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか？(具体的に)

- ・ 具体的な講義の進め方と成績評価のやり方
- ・ 授業の組み立て、構成、スキル、効果的な教授方法(講義内容、人数、目的に応じた方法)
- ・ 話術、各種仕掛け
- ・ 授業の組み立て方
- ・ 授業全体で目的、目標を達成できるような構成能力
- ・ 授業計画書の作り方 学生のやる気を起こす講義の組み立て方
- ・ 話法など学生の参加意欲を高める方法。今回は無かったが大学院生教育をどうするかも大事
- ・ シラバスに関する知識 いくつかの講義のやり方 学生の立場に立った進め方
- ・ わかりやすい配布資料の作り方、有効的なパワーポイントの使い方、

5-5. 受講してよかったと思われる点を、具体的にお書きください

- ・ シラバスの重要性が理解できた。いろいろな講義に関するスキルを体感できた。
- ・ シラバス作成の基本的知識が得られた。様々な仕掛けをされていたのを体験できた。→(仕掛けによって自然と引き込まれた。熱意を感じた。)ことを実感できた。
- ・ シラバスについて理解が深まった。授業を構成するにあたっての仕掛けのバリエーションが増えた。
- ・ シラバスのつけ方がわかった
- ・ シラバスの重要性、特に目標設定の大切さを知った。人文系の様子を少し知ることができた。
- ・ 授業の進め方、シラバスの書き方を様々なグループを通して知ることができた。
- ・ 今までGWの進め方が分からず、導入する気がなかったが、前向きになれた
- ・ 横のつながりができた
- ・ 今まで自分なりに書いていたシラバスの書き方や重要性を知れた。実際に授業に使えるような授業進行の工夫や成績評価の仕方を学べた。

6-4. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

- ・ シラバスをグループで作成することが少ないと思いますが、今回はグループで作成しましたが、本来は1人1人が作製する方がよいのではないのでしょうか。
- ・ 2日間にして、1日目の終了を19:00ぐらいにしてほしい。
- ・ いろんな仕掛けがあつてよかったと思います。今後もいろいろ試されて下さい。
- ・ 必要な知識は一度につめこんでほしい。その後にWG的なことをした方がよい。
- ・ 講師の先生方のプロフィールを最初に聞きたかった。
- ・ この研修は適当な長さと思うが、時間が長いと敷居が高く、前半後半に分けて半分受講できた方がよい
- ・ 評価の実例の紹介
- ・ 事前、ないしは最中に参加者の疑問や知りたいことを聞いて、すべてには無理でも、それらに答える時間がもっとあればよかった。

6-5. 研修ですぐに使ってみたいと感じたこと(アクションプラン)を具体的にお書き下さい。

- ・ 演習を1人1人にやらせていたが、GWで実施してみようと思います。
- ・ ワークシート, グループワーク
- ・ シラバスの作成
- ・ 演習授業において、GW。
- ・ シラバスの新規作成
- ・ シラバスの書き方

7. 今後高知大(高知県内)で実施するFD研修について、希望するもの

- ・ Webページ簡単作成法
- ・ HTMLによるWebページ作成法
- ・ ルーブリック評価講習 (2)
- ・ 学生の学びを引き出すためのシラバスの書き方
- ・ PowerPoint活用講習
- ・ 能動性を引き出すプレゼンテーション講習 (2)
- ・ 能動性を引き出す授業の進め方
- ・ 小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン
- ・ ALCネットアカデミー利用講習
- ・ 授業改善個別支援(授業コンサルティング)
- ・ 授業改善個別支援(アクションプラン作成) (2)
- ・ 授業デザイン(インストラクショナルデザイン)
- ・ TBL: チーム基盤学習で授業効率・成績UP (2)
- ・ 90分しゃべり続けても大丈夫! 発声法入門
- ・ 聴衆が理解しやすい話しの組み立て講習
- ・ 初回授業ですべきモチベーションの上げ方
- ・ 授業の最初にすべき事: サンドル教授の秘密 (2)
- ・ 初回授業でべきモチベーション
- ・ 分かり易い説明のためのプレゼンテーションのコツ
- ・ 能動性を引き出すファシリテーション研修
- ・ 英語による授業のやり方
- ・ 分かり易い説明のためのプレゼンテーションのコツ
- ・ PowerPoint操作入門(資料作成とプレゼンテーション)
- ・ オンライン学習支援システム入門(グループ作成とアンケートの実施)

教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ実施要項

1. 主 催

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室
(事務局:愛媛大学 教育学生支援部 能力開発室)

2. 期 間

平成24年9月22日(土)～23日(日)

3. 場 所

愛媛大学城北キャンパス愛大ミューズ内
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番

4. 参加対象者

将来, 初等・中等教育や高等教育機関等で教える仕事に就きたい大学院生

5. 参加費

3,000 円(食費(一日目夜、二日目昼), 懇親会費)*愛媛大学までの交通費は含みません。
(宿泊については、ご希望があればご紹介いたしますので事務局までご連絡ください。)

6. 定員

30名

7. 実行委員

愛媛大学 教育学生支援機構 教育企画室員

8. ワークショップの目的

授業など教える仕事をするにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学びます。具体的には, 教え方のデザインに関わる一連の過程をグループ作業として体験し, 参加者相互の話し合いを経てインストラクション・スキル, コミュニケーション・スキルを身につけます。

また, 後輩指導のコツについて学び, 作成した授業プランの発表を通して, プレゼンテーションスキルを身に付けます。

9. ワークショップの目標

1. 教え方の基本について説明ができるようになる。
2. 大人の学習の動機づけについて説明ができるようになる。
3. 自分の考えや知識を適切に伝えることができるようになる。
4. メンタリングについて説明ができるようになる。

10. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる大学・研究科の大学院生が意見交換をすることで、学習効果を高めます。

11. その他

1. 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
2. 食事代等の 3000 円については、当日会場にて一括で徴収させていただきます。
3. 当日、カメラとビデオカメラでの撮影を行うことがありますのでご了承ください。

12. 本件に関する問い合わせ先

教育企画室 外線番号 (089)927-8922 内線番号 8929

担当者 大竹奈津子

13. プログラム日程

1 日目プログラム日程

時刻	内容
13:00-13:15	(1) オリエンテーション ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い
13:15-13:45	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク
13:45-14:05	(3) グループワーク I 「学習意欲を促進する要因とは？」
14:05-14:55	(4) 講義 I 「セミナーの作り方」 ・教え方の基本
14:55-15:30	(5) グループワーク II ・目標設定 ・授業プランの作り方
15:30-16:10	(6) 講義 II 「成人学習論」 ・動機づけ
16:10-16:20	休 憩
16:20-17:00	(7) 講義 III 「メンタリングの基本」 ・メンタリングについて ・よいメンターとは

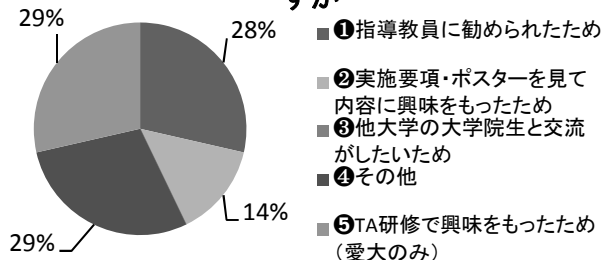
17:00-18:00	(8) グループワークⅢ ・授業プラン作成 ・授業プランの評価作成
18:00-19:00	夕食
19:00-21:00	(10) グループワークⅣ ・授業プラン作成 中間提出
21:00-22:00	交流会

2日目プログラム日程

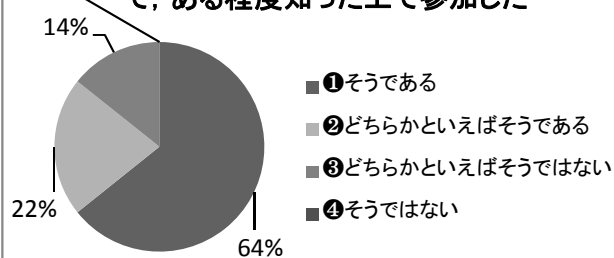
時刻	内容
9:00-10:00	(12) 講義Ⅳ「効果的なプレゼンテーションの方法」 ・論理的に話すコツ ・魅せるプレゼンの方法
10:00-12:00	(13) グループワークⅤ ・授業プラン作成
12:00-13:00	昼食
13:00-14:00	(13) グループワークⅥ ・発表練習
14:00-15:30	(14) グループ発表 ・授業プラン発表 8分 ・討議・検討 20分
15:30-16:00	(15) 閉会式 ・グループ作業の振り返り（学んだことは何か？どう実践に活かすか？） ・閉会の言葉 ・記念撮影

教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップ事後アンケート集計結果

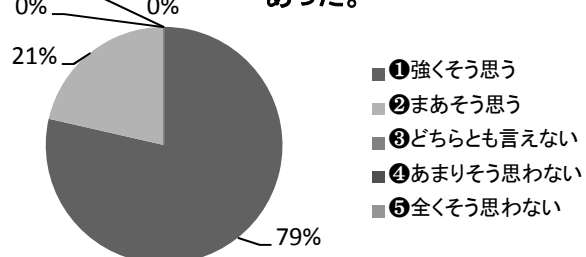
1-1. ワークショップへの参加動機は何ですか



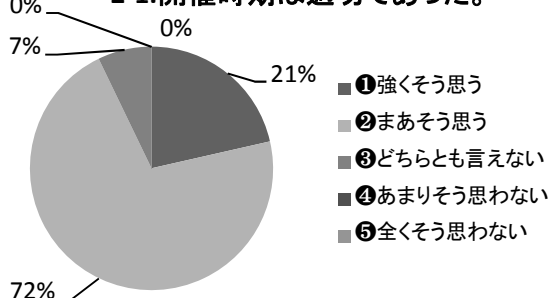
1-2. ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した



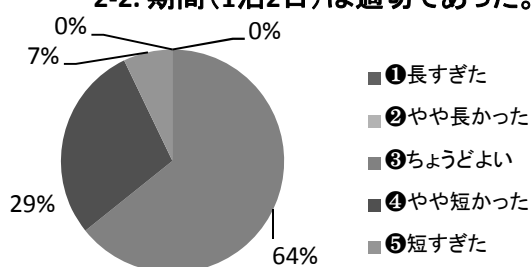
1-3. 本ワークショップは全体として満足であった。



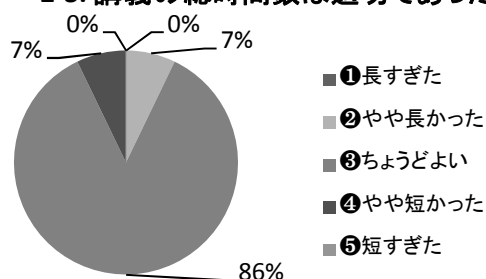
2-1. 開催時期は適切であった。



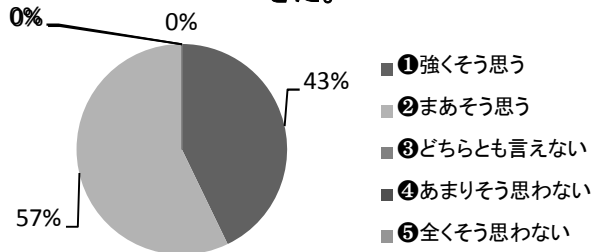
2-2. 期間(1泊2日)は適切であった。



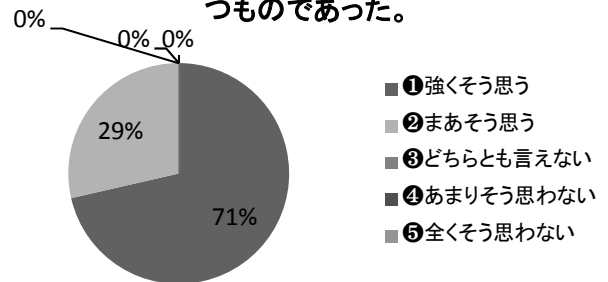
2-3. 講義の総時間数は適切であった。



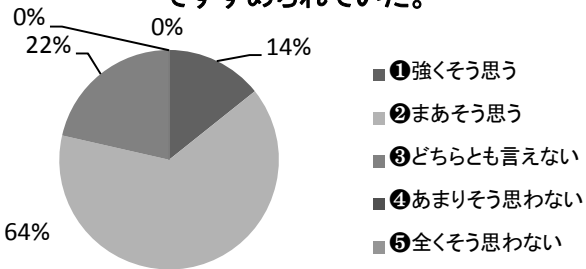
3-1. プログラムの目的・目標をよく理解できた。



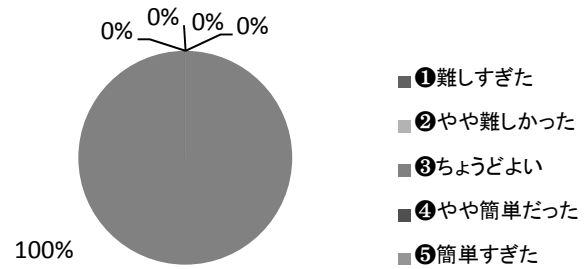
3-2. ワークショップの内容は自分に役立つものであった。



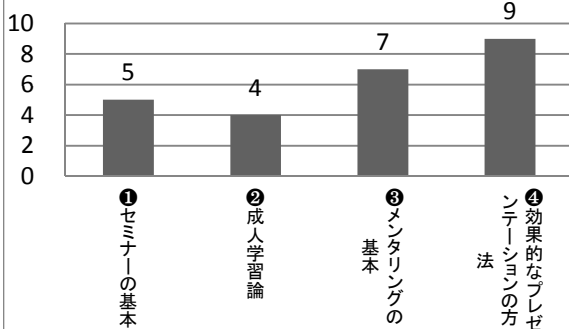
3-3. ワークショップは分かりやすい順序ですすめられていた。



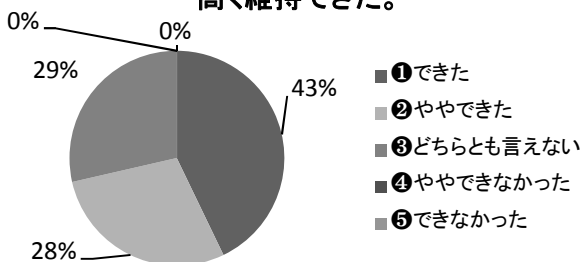
3-4. 講義内容のレベルは適切であった。



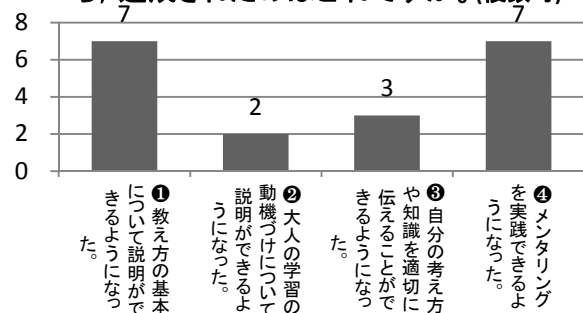
3-5. 講義の中で興味を持って取り組めたものは以下のうちどれですか。(複数可)



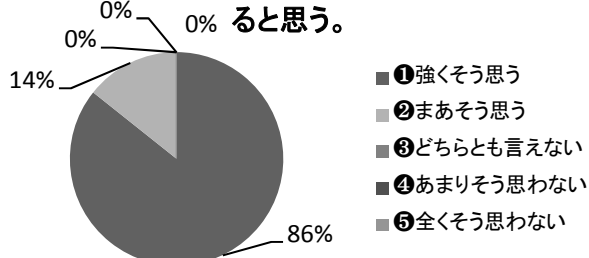
4-1. 受講期間中、常にモチベーションを高く維持できた。



4-2. ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか。(複数可)



4-3. 受講による経験や知識を今後の大学生活や社会生活に活かすことができると思う。

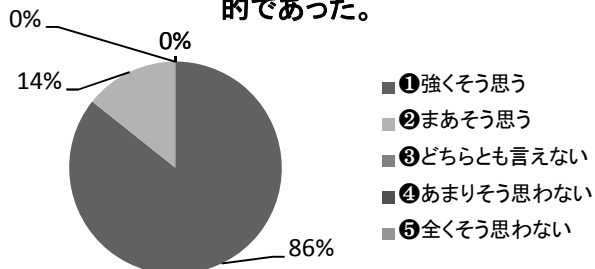


4-4. ①, ②と答えた方に質問です。それは具体的にどのような場面で活用できそうですか。

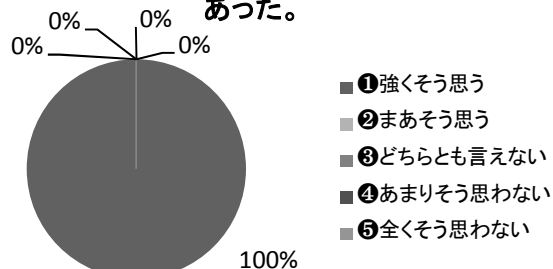
別紙参照

4-5. ③, ④, ⑤と答えた方に質問です。それはなぜですか。

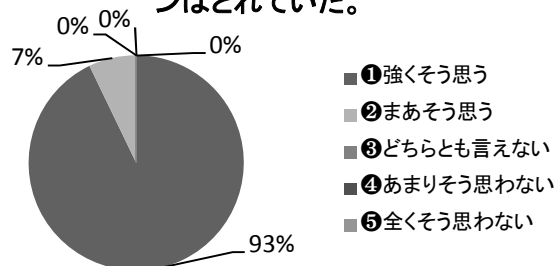
5-1. スタッフの指導・助言の方法は効果的であった。



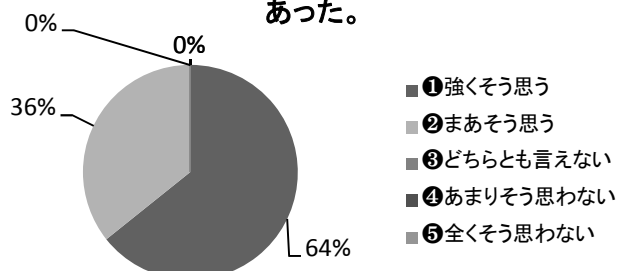
5-2. スタッフの専門知識や経験は有益であった。



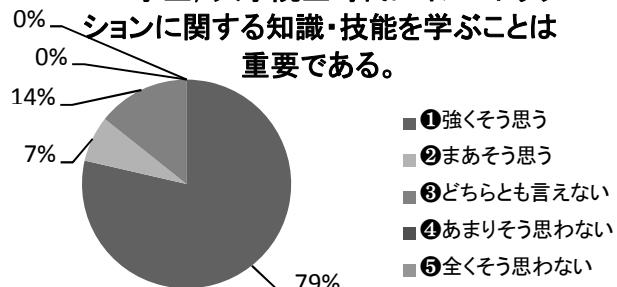
5-3. スタッフと受講生とのコミュニケーションはとれていた。



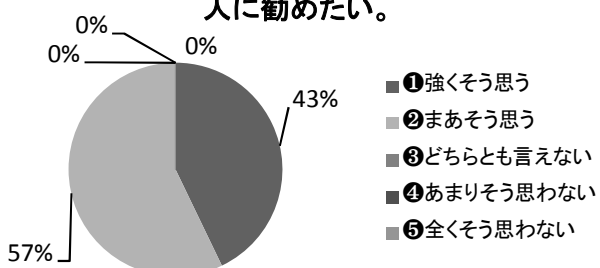
6-1. ワークショップ会場は快適な環境であった。



6-2. 学生、大学院生時代にインストラクションに関する知識・技能を学ぶことは重要である。



6-3. 本ワークショップの受講を後輩や友人に勧めたい。



4-4.①, ②と答えた方に質問です。それは具体的にどのような場面で活用できそうですか。

- ・ 教員になり、実際に生徒に授業をするとき、計画するとき
- ・ 新しい環境になったときの対人とのコミュニケーション
- ・ 人の悩みだったり、相談された時
- ・ 実際に自分で授業を創っていくとき、全体としての目的・目標と一つひとつの授業の目標との関連性をより意識できる
- ・ 人との接し方と相手の気持ちを考えて発言できる
- ・ 後輩育成の場面や研修担当になった場合
- ・ 人から相談を受けるってことは、どんな場面でもありうるのでそこで、メンタリングが役立つのではないかと考える。
- ・ プレゼンテーションを作る機会は修士課程で多くなるので、学んだ手法を活かしていけると思う。
- ・ 目標・目的を具体的にすることで、自分の伝えたいことを明確にすることは、誰かに教えたり仕事をする上で重要だと思うので、参考になった。
- ・ 教員として授業展開を考える際、目的・目標を具体的に示すことで、授業構成が自然に明確化さ
- ・ 修士論文の発表時に活用したい(プレゼンテーション) ・職場での人間関係に活かしたい(メンタリング)
- ・ 教師になった時
- ・ 健康教室などで話す際の話の組み立てに、今回習ったような目的・目標を立てたりクラス展開案を作ったりしてよりわかりやすく興味深くできそう。
- ・ 人と話すときに「間」を意識し、より店舗のある話し方を心がけたい。
- ・ 来年度からは、後輩(学部)の人と関わる機会が多くなりそうなので、その時にメンタリングで学んだことを活かしつつ、関わっていけそうだなと思います。
- ・ 学会の発表の時や、修士論文発表の時には、プレゼンテーションのやり方のところでの学びを活かせると思います。
- ・ 院生活でも、社会にでてもメンタリングは使えそうだと思う。
- ・ バイト先でも人間関係や非常勤講師をする際の学生指導
- ・ 研究室でのゼミ、論文紹介、成果報告でのプレゼン ・メンタリングが社会生活では活用できる(仕事内容、人間関係などで)
- ・ ゼミナールの発表や、その他の発表、TAでの活動

本ワークショップのよかった点、あなたのやる気を向上させた点、次回以降も継続して行うべき点を具体的に記述してください。

- ・ 授業の作り方、伝え方やコミュニケーションの技法など、実際に将来社会に出た時に役立つ知識を詳しく学ぶことができ、実践できたことが良かった、すぐくためになる講義でした。
- ・ 一から授業を作る点が良く、継続してほしい
- ・ 教員を志す方の意識の高さ、能力の高さを実感できて刺激になった。
- ・ 授業の成り立ち、プロセスが分かり、とても参考になった。
- ・ GWが多いので仲間意識が育って楽しかった
- ・ 学生と教員の距離が遠すぎず、近すぎずでいい感じでした。
- ・ やる気は周りに触発されたってことが、大きな点だと思います。(雰囲気)
- ・ WSIは毎年すべきだと思います。他では教えてくれない重要な点が学べる。
- ・ 普段関わらない人と交流を持てることはいいと思った。個人的には教員の方と話ができて、今後の目標も持てたので満足しています。
- ・ 授業・セミナーのデザインの考え方
- ・ スタッフの方がさりげなく声を書けてくれたり、細やかな環境づくりをしてくれたこと
- ・ プレゼンテーションなどに関しても、講義だけではなく、常に自ら実践して言動であらわしてくれていた、終始とても無駄のない言動に感じた。
- ・ 生徒の条件を限定して同じ目的を持った人が集まっていたので、会話しやすかったし、充実していた
- ・ 体力的にハードではなるのですが、そのハードさを共有することによって、短期間でグループ内で結束できた感があり、ハードスケジュールもあながち悪くないと思いました。

- ・「呼び名」つき名札：良かったです。
- ・1泊2日という普段あまりない環境での学びは非日常感がでて、やる気になりました。お弁当がおいしかったのもよかったです。個人で模擬授業をすることも、大学生相手にとなると機会も少ないので、「いい経験」でした。講師の方々が細かく何回もアドバイスをしてくださって、とてもありがたかったです。
- ・他分野の院生の方々が参加していてとても刺激になった。
- ・最後に発表するという事で、このワークショップでの成果が明確でモチベーションが上がったような気がします。
- ・少しタイトなスケジュールでハードでしたが、だからこそおしりに火がついてやらなきゃ、と思えたのかなとも思います。GWなので、みんなでやれたということも大きかったです。また、模擬授業をするというのは、すごくプレッシャーでしたが、それだけに緊張感を持てたりでよかったです。
- ・学生が学ぶ上で、スタッフの雰囲気作りが良かった。
- ・受け身の講義だけで終わらない(身に授業を行う)。
- ・弁当、お菓子、飲み物(気分転換できた)
- ・学ぶ場所もきれいだったこと、やる気を向上させた点は自分たちの授業計画案の評価が見えるところで行っていたこと、また、弁当がうまかった。飲み会も楽しかった。

本ワークショップをさらに良くするために必要なこと、あなたのやる気を下げた点、次回以降は十分に検討した方がよい点を具体的に記述して下さい。

- ・テーマ「恐竜」「温泉」、「恋愛」って難しいと思う
- ・プレゼン方法の講義をワークショップの前にしてほしい。それを踏まえて効果的なプレゼンに臨める意欲が増したと思う。時間がなくて難しかった。
- ・時間配分、こちらが遅いのかもしれないですが少し余るくらいの時間(GW)があればなって思いました。はじめ、やります！と言ってから連絡しますと言われ長い時間待って忘れていすのか、抽選漏れしたのかわからなかった。連絡しまくる必要はないですが、何かしら連絡があればと思いました。
- ・どうせならもう少し時間をとって、GWをしたかった。
- ・もう少し、時間が欲しい。 パソコンを一人一台用意してほしい。(資料収集のため)
- ・特になし。
- ・夜遅くまで作業して、眠かった
- ・懇親会の時間がもっとほしかったです。残念！
- ・せっかくの飲み会だったのに、2日目にしてほしかったなと思いました。もう少し、全体で行うアイスブレイクがあるといいなと思います。グループ作りから自分たちでできるといいなと思います。
- ・講義のタイミングを変えてほしい。朝からグループワークだと、頭が回らないので、話し合いが盛り上がりません。
- ・「教える」という中で、授業というのが分かりやすい形だとは思いますが、もっと下のレベルの「教える」についても学びたかった。
- ・スケジュールが早く、初めはついていくのが大変だと思いました。結果的にはよかったと思います。
- ・スライドが完成してから、発表までの時間が少し短く感じたので、練習時間がもう少しあれば。
- ・特にない。

ファシリテーション力養成道場 開講

場の雰囲気を作る
ことができる！

議論を整理できる！

傾聴力・質問力が
アップ！

たくさんのアイデア
が出せる！

合意形成をはかる
ことができる！

みんなが話せる “場”を作る。

ファシリテーションとは「複数の人たちが話し合う場がよりよいものとなるよう、支援すること」を意味しています。
ゼミや仕事といったオフィシャルな場だけでなく、サークルや友人との話し合いの場をより効果的に運営し、参加者の気持ちを引き出しながら目的に向かって進めていくスキルです。
今回開講される「ファシリテーション力養成道場」では2日間にわたりこの考え方・スキルを学びます。

●日程：2日間 2月12日(火)10:00～17:00

13日(水)10:00～17:00

●場所：朝倉キャンパス共通教育棟3号館1階
310号教室

●講師：俣野秀典 先生 塩崎俊彦 先生
立川明 先生

●参加費：200円

●応募方法：件名を【ファシリテーション力養成道場参加希望】とし、
(1)氏名 (2)学部・学科 (3)学年 (4)学籍番号
(5)電話番号・e-mailアドレスを明記のうえ、メールにてお申し込み
下さい。※直接お越しいただきお申込みいただくこともできます。

●応募先：
コラボレーション・サポート・パーク【朝倉キャンパスIKUS2階】
cobo@kochi-u.ac.jp

★道場受講後、半年間の授業ファシリテーターを経験すると、履歴書に記載可能な認定書が交付されます。

学んだことを
すぐに体験
しながら行う
スタイルが
良かった。



想像していた
より、内容が
濃くてFT以外
のことでも重
要なことを多く
教えてもらえ
た。

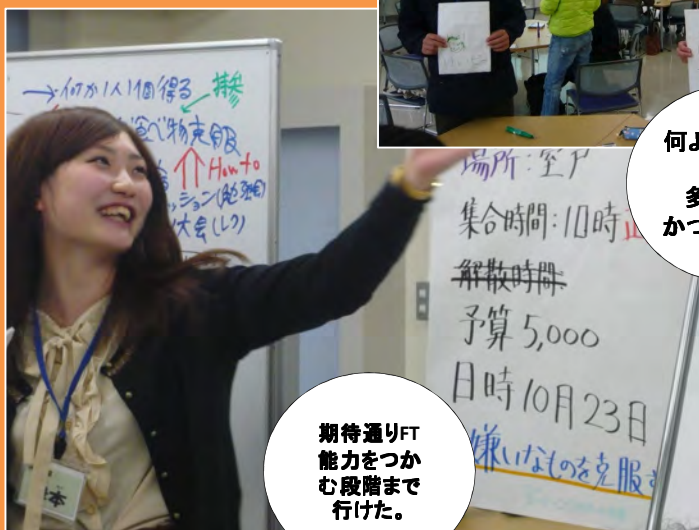
今までの話し
合いの方法と
全く違う方法
で、うまく話し
合いができる
という事を
知った。



何よりも楽しい
要素が
多かった。
かつ、悩めた。



期待通りFT
能力をつか
む段階まで
行けた。

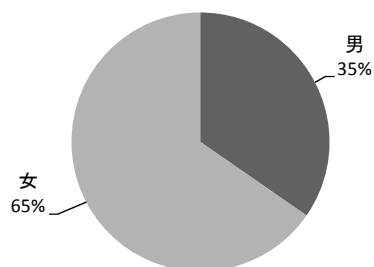


今まででき
なかった体
験をする事
ができた。

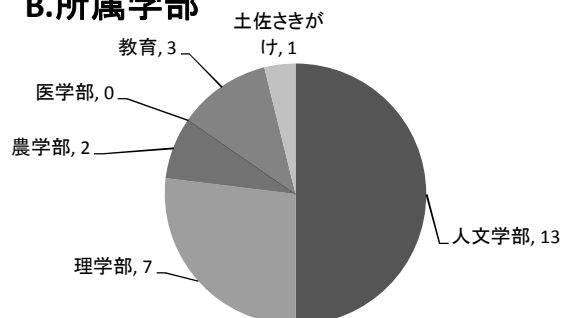


平成24年度 2月12日13日実施 ファシリテーション力養成道場 アンケート結果

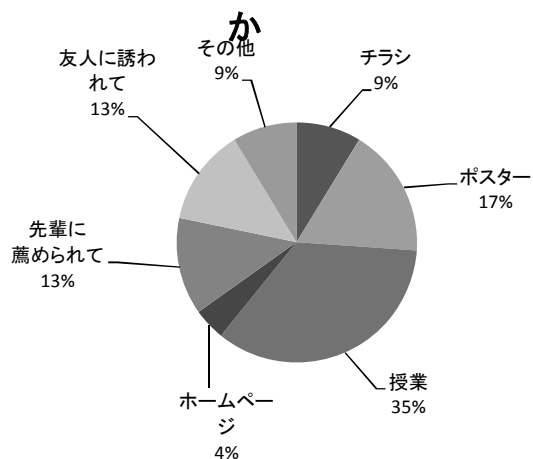
A.男女別



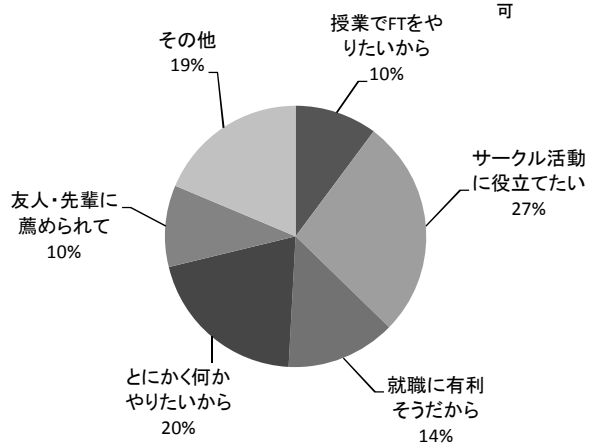
B.所属学部



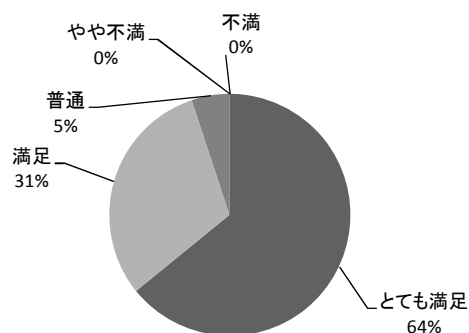
1.この講座をどこで知りました※複数回答可



2.なぜ受講しようと思いましたか※複数回答可



3-1.今日の講座について



平成 24 年度 2 月 12 日 13 日実施
ファシリテーション力養成道場 アンケート集計結果(自由記述欄)

■3-3 特に良かった内容は？

- ・ファシリテーションを実際に体験することで、どのような事をすべきかを学んだ。
- ・2 日目のはじめに FG の書き方を学べたこと。要約もためになった。
- ・各ワークの実践。
- ・一人ずつ FT をして、それにみんなでコメントをすること。実践できるし、他の人を見ることで気づくことが多かったから。
- ・アイスブレイキングが印象的だったのと、最後 3 グループでの話し合い。
- ・それぞれの説明の後に入っていた演習で、実際にファシリテーターを体験できるようになっていたところ。
- ・最後の総合演習。うまくいかなかったが改善点が自分で分かることができて良かった。
- ・FG のやりかたについていろいろな種類を知ることができたこと。
- ・資料を配ってくれてそれをとじるファイルもあったので道場を受けっぱなしという事がないので良かったです。
- ・オープン&クローズドクエスチョン。
- ・傾聴。
- ・実際に体験、演習できる。内容が濃い。
- ・学習したことが、すぐ実践できる点。
- ・班員全員が FT なることができる話し合い。
- ・FG の種類や使い道の説明。
- ・初心者同士で話あえたから。気軽に学ぶこともおおかった。振り返りの時間も設けてくれて考え直し、整理することができた。
- ・さまざまな人と交流しながら、自分の能力は勿論、他者の能力も観察でき、とてもおもしろかったから。
- ・オープンクエスチョン、クローズドクエスチョンの技法、実際に FT をやってみること。具体的な文字の書き方。
- ・ペイオフマトリクスで FG をしたこと。
- ・1 日目の A、B、C グループに分かれてお互いの議論を議論するという内容。
- ・模造紙の書き方。

■5 なぜ FT の考え方やスキルを身につけたいのか？

- ・教師になりたいので、ファシリテーションの能力を持つことで、生徒に話し合いなどの進め方の参考になりたい。
- ・人の話を上手く聞いて、会話を楽しくしたかったから。グループワークを円滑にしたかったから。
- ・サークルでスピーディにレベルの高いミーティングがしたかったから。
- ・どのような話し合いの場においても使えるそうだから。
- ・きっかけは自由探求 I を受けたことで、話し合いをするときどうしたらうまくいくのかとな

やんだからです。

- ・防災を考える場ではワークショップを行う事も多く、そこではファシリテーションが必要になってくるから、団体などでのミーティング時にも必要となるから。

- ・とにかく何かしてみたく、FT の能力に魅力を感じた。

- ・就職に役立つと思ったから。／日常生活でも活かすことができると思ったから。／何か新しい事をやってみたかったから。

- ・P サポでファシリテーションの考え方を少し学びこれから生活していくうえで役に立ちそうだったのでもっと学んでみたいと思った。

- ・自分の理想的な人間が、気配りのできる究極に優しい人間。そういう人間になるためのスキルが身につけられると思った。

- ・先輩の話の中に、ファシリテーションって単語が出てきて、何それ？って聞いたら、そんなんも知らんの！？って反応をされたことがあって、ちょっとショックだったから。

- ・人の話を聞いてまとめたいと思ったから。

- ・部活やクルベジ等の話し合いの時に困っていたから。

- ・サークルで部会をまとめる時に有利だと思ったから。

- ・サークルだけではなく将来に活かしたいから。

- ・考え方は身についたと思う。／意識するポイントとして一番大事にしたいことは、相互の意見を的確に伝えあい発表することです。

- ・サークルや学生団体の活動で、役に立つと思ったから。／今まで学んだことのないものを学びたいと思ったから。

- ・CBI でFT をしていて、どう場を回すか、つくっていくか、分からなかったから。FT をしている先輩がかっこよく、きちんと基礎を学んで自分らしい FT 像をつくりたかったから。

- ・バイトやサークルで、もっと積極的にうごけるようになりたいから。

- ・プレゼンをするときに、参考になると思った。部活の話し合いがグダグダなので改善したかった。

■6 FT 道場に参加することのメリットは？

- ・自分から進んで FT になれる。／知らない人の中でファシリテーションできる。／人みしりの克服！！

- ・話し合いのとき何に気をつけたらいいのか分かる。／見やすい板書の書き方がわかる。／自分から発言できるようになる。

- ・ミーティング中の人の話の聞き方が変わる。／ミーティング中の進め方がわかる。／ミーティング中の質を向上させられる。

- ・授業、サークル活動などの会議に役立てることができる。／普段の会話の中でも使えそう。／勉強をするときに、上手くまとめる事が出来る。

- ・いろんなひとのいいところ、自分にないところがぬすめる。／すじがとおた考え方ができる。しようとするようになる。／人にうまく伝える方法が分かった。／人と話すときの大切なことに本当に気づけました。

・大学生活ではサークルや団体のミーティングをよりよくすることができる。／日常から人の話を聞くとともに役立つ。／将来的には仕事における会議でファシリテーション能力が求められる。

・様々な授業に活かせる。／会社などの会議につかえる。／サークルに活かせる。

・話し合いとかで役立つと思う。／ノートの取り方も工夫できるようになる。／話し合いなどの場で積極的になれる。

・将来使える技術に直轄している。／すぐに使える技術もたくさんある。／ファシリテーションについてもっと知りたくなる。

・みんなのいいところをみつけられる。／自分を分析することができる。／議論をスムーズにすすめられる。

・サークルなどの話し合いで使える。／教育実習の時の板書の充実につながる。／友達の相談とかにのるときに、より親身になってる事を伝えられる。

・日常役立つ。／変われる。／授業で役立つ。

・知れる(ペンの使い方、話し方など)／他学部の人と関われる。／将来、MTなどで使えると思う。

・コミュニケーション能力が上がる。／社会に出た時に会議などで使える。／サークルの運営が円滑になる。

・自分のスキルアップ。／さまざまな人との出会い。／いろんな人のサポートができるようになる。

・FTのやり方を知っているという事で知識から自信へ。／他の人の意見を受け止められるようになった。／話し合いがスムーズにいく努力をしようと思えるようになった。

・MTで効果的な役割を持てる。／ノートの取り方、話の進め方などに活用できる。／友達が増える！

・話し合いの場がたのしくなる。／人の意図するところを発言や表情から読み取れる。／話し合いの場が深まる。

・人との出会い。／会議や議論を構造化して考えられる。／直接就職後の活動に役立つ。

・話し合い上手くなる。／普段のノートの書き方も上手くなる。／人の話を聞くのが上手くなる。

■7 FTを上手くできたとしたら、どんな気持ちになれそうか？

・皆を盛り上げてファシリテートできる。自分も盛り上がる。

・わくわく。どんな結論が出るだろう？

・上手く場が回っていて、良い気分になっている。得意気。

・達成感と、みんなが納得してくれている顔を見たら嬉しいと思う。

・悩んでいた時の自分のように皆も悩んでいて、それをうまく導けていてうれしい気持ち。

・それまでより自分にもっと自信を持つことができていると思う。

・非常に楽しそう。／場の空気をコントロールできたら達成感がある。

・苦戦しながらも、イキイキとしていると思います。ファシリテーションを自分の武器にできていると良いなあ…と思います。

・話をうまくつなげられていて気持ちがいい！おもしろい意見が出たり和やかな雰囲気できていて楽しい！

- ・自分の持っている意見を言いたくてしかたがない。
- ・話がまとまってよかった！さすが、私。
- ・得意気。楽しそう。
- ・FT 道場受けといてよかったなあ。
- ・満足感と高揚感にあふれている。
- ・自分も成長できたのだなあ実感している。
- ・ええ調子や！！／みんないい意見出してくれよる。
- ・楽しい！／もっと楽しくしたい！
- ・もっとうまくファシリテートしたい！そのために自分には何ができるか？
- ・「自分が」というより、「自分たち」が満足できていると思います。
- ・この講義を受けてのぞむので、自信に満ちている。

■8 あなたにとってファシリテーションとは？

- ・皆参加型の話し合い！！盛り上がり、楽しむ。
- ・人の可能性を引き出す仕事。
- ・MT を円滑に、SPEEDY に行うために必要不可欠なもの。
- ・話し合いをより有益なものにするもの。
- ・皆の意見を有効に活用する術。
- ・人の話を聴き、理解し、より良い考えへと発展させること。
- ・自分のものにできたら、武器になるし、やりがいのあるもの。
- ・潤滑油。話し合いをスムーズに進めるスキル。
- ・気の利く人にしかできないこと。
- ・人をちょっと格好良く、魅力的にみせる力。
- ・きっかけ。
- ・人生の壁(山！？かも)→とりあえず乗り越えるもの。
- ・つまらない会議を楽しくするもの。
- ・人と人とをつなぎ(つな)げるサポート。
- ・仲間意識向上。
- ・人が意見を生み、まとめあげる力を最大限にできるもの。
- ・今まで見えなかった自分、ファシリテーションする相手の見えなかった側面を掘り下げる。
- ・より円滑に、楽しく人と話し合うテクニック。
- ・話し合いを円滑にしてくれる助っ人。

■9 この道場を後輩や友人にどのように勧めますか？

- ・社会人になったら絶対に必要な能力やけん！！
- ・おかしを食べながらいろんな人と話せるよーと言う。

- ・「社会に出て必要になる力が身につけられるから、単位取れんでもおいでやー！！！」
- ・大学生活にも、就職、その後の仕事にも絶対に役に立つ！！とアピールする。
- ・本当に楽しいよ！
- ・他ではできん経験できる！
- ・自分でやりたいと思ってやらなければ意味がないと思うので、道場について宣伝はしても本人にその意思がなければ勧めないと思う。興味を持ってそうな人やファシリテーション能力が今後必要になるだろう人には自分の時にどのようなことを学んだか伝えて勧める。
- ・学生生活や就職で非常に有意義な知識が身につく。
- ・話し合いというものを見つめ直すことができるし、新しい発見がたくさんあるから参加してみたら？と誘います。
- ・絶対将来役に立つから！！
- ・成長できるから！
- ・楽しいし、知ってるに越したことはないよ。しかも、参加費がめっちゃ安い！！
- ・こんな機会ないよ～！！
- ・授業を受けた人による説明を受けられるようにする。
- ・他学部の人と交流できる上に、履歴書に書ける資格がもらえることを伝える。
- ・「たくさんの人を何かしらの形でまとめたり、導いたりしたい考えているのなら、行くべきだよ」と言う。
- ・履歴書かけるでー！！
- ・タメになる！／楽しい交流の場である。／人と話せる。
- ・とにかくたのしいから行ってみよう！！相手や自分の気持ちを知りたくなるし、知ってほしいと思える。
- ・受講してかわったこと、気分がよかったことを伝える。内容は、受講して分かることだと思うのでふせておきます。
- ・楽しいよ、とにかくとりあえず参加してみて、とさそう。

5．平成24年度活動報告
（1）FD事業
②「FDerの養成」資料

②F D e r の養成

平成24年度FDファシリテーター養成研修（S P O D） （合宿ワークショップ研修）実施要項

1 目 的

平成24年度徳島大学全学FD推進プログラム実施計画に基づいて実施するFDファシリテーター養成研修を、S P O D加盟校に開放し、各大学・短大・高専でFDを企画・実施する立場にあるFDリーダーを養成するための研修を実施します。

2 目 標

1. FD活動の理念と活動計画を理解する
2. 自校等のFDプログラムを開発する
3. FDリーダーとして活動できる能力と資質を体得する
4. FDリーダー間の仲間づくり、FDネットワークづくりをする

3 実 施 日 平成24年6月9日（土）～10日（日） （1泊2日）

4 実施場所 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立淡路青少年交流の家 （兵庫県南あわじ市阿万塩屋町 TEL 0799-55-2696）

5 日 程 別紙「日程表」のとおり

6 対 象 者 徳島大学 ・各学部・共通教育センターFD委員会委員及び中堅以上の教員（2名以上） S P O D*加盟校 ・S P O D加盟校の大学・短大・高専のFD担当者（各加盟校2名以上、同一部局の者が望ましい）

*S P O D＝四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

7 交通機関 往復借上バス

8 出発日時 平成24年6月9日（土）8時40分（8時30分集合） 及び場所 徳島大学工学部電気電子工学科棟横

9 そ の 他 諸経費3,000円（食事4回分、シーツ代等） ※施設使用料（宿泊費）は無料です。 ※徳島大学までの往復交通費も各大学・短大・高専でご負担願います。

10 主 催 徳島大学 大学教育委員会・FD専門委員会 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

2012 年度 F D ファシリテーター養成研修日程

第 1 日 (2012 年 6 月 9 日・土曜日)

8:30 徳島大学集合

8:40 徳島大学出発

9:30 国立淡路青少年交流の家到着

時 刻	内 容	講師・担当者	場 所
9:30-10:00	・ 記念写真撮影、部屋の確認、会場設営	研修事務局	特別第 1 研修室
10:00-10:30	(1) オリエンテーション ・ FD への期待 ・ 研修のねらいと意義 ・ 進め方とスタッフ紹介	副学長 (教育担当) 高石喜久 FD 専門委員会委員長 日置善郎 (進行) 川野卓二	特別第 1 研修室
10:30-12:00	(2) アイスブレイク & World Cafe	吉田 博	特別第 1 研修室
12:00-13:00	昼食 (12:20~12:50) 休憩		食 堂
13:00-13:50	(3) 講義: F D 概論 (定義と種類)	宮田政徳	特別第 1 研修室
13:50-14:00	休憩		
14:00-15:00	(4) 講義&ワーク①: F D プログラム立案 (ニーズや課題の把握)	香川順子	特別第 1 研修室
15:00-15:10	休憩		
15:10-17:50	(5) 講義&ワーク②: F D 研修実施要項作成 と F D プログラム作成 (適宜コーヒープレークをとる)	香川順子他	特別第 1 研修室
17:50-18:30	夕食 (18:00~18:30) 休憩		食 堂
18:30-19:30	自由時間		
19:30-20:30	(6) F D 交流会	吉田 博	食 堂
20:30-22:30	風呂他 (入浴時間 21:30~22:00)		浴 室

22:30 就寝及び消灯

第2日（2012年6月10日・日曜日）

時 刻	内 容	講師・担当者	場 所
7:00-7:20	朝のつどい		つどいの広場
7:20-8:30	朝食（7:20～7:45） 掃除（点検・退室）		食堂・宿泊室
8:30-9:10	(7) 講義&ワーク③：FDプログラム評価シート作成	川野卓二	特別第1研修室
9:10-10:30	(8) ワーク④：FDプログラム作成の仕上げ	スタッフ全員	特別第1研修室
10:30-10:40	休憩		
10:40-12:00	(9) ワーク⑤：FDプログラム発表	川野卓二	特別第1研修室
12:00-13:00	昼食(12:20～12:50) 休憩		食 堂
13:00-13:30	(10) プログラムのまとめ ・ 講評 ・ 参加証書授与 ・ アンケート ・ おわりの言葉	副学長（教育担当） 高石喜久 FD専門委員会委員長 日置善郎 （進行）宮田政徳	特別第1研修室

13:40 バス発車 - 14:30 常三島キャンパス着

【参加者と活動内容】

- ・ 徳島大学の学部等からの参加者は学部FD委員及び中堅以上の教員2名以上とする。
- ・ SPODの各大学等から数名程度の参加を募る。
- ・ 各部局・各校参加者2名でグループを組む。
- ・ 徳島大学からの参加者は「部局FD年度計画」、SPODの大学等からの参加者は自校のニーズに基づいて、グループ毎にFDプログラムを作成・発表し、参加者全員で検討する。

平成24年度 全学FD推進プログラム FDファシリテーター養成研修 アンケート結果

【アンケート概要】

部局FD担当者等を対象に行ったFDファシリテーター養成研修(6月9日～6月10日)参加者を対象に、研修プログラムに関する調査を行った。(19名回答)

●事前アンケート 記入日:2012年6月9日(土)

1. 参加者ご自身について

問番号	回答項目	大学	短期大学	高等専門学校	その他	未解答	合計
1-(1)	所属先	17	0	2	0	0	19

問番号	回答項目	国(国立大学法人)	地方自治体(公立大学法人を含む)	学校法人	その他	未解答	合計
1-(2)	所属先の設置者	17	0	2	0	0	19

1-自由記述	今回のFDファシリテーター養成研修に参加するにあたっての自己目標は何ですか？身につけたいスキル等なるべく具体的にご記入ください。	※別途記述
--------	--	-------

2. 研修参加への経緯について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
2-1	研修の目的や内容についてある程度知った上で参加した	6	9	2	2	0	19
2-2	自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した	6	7	5	1	0	19
2-3	研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した	6	3	7	3	0	19

●事後アンケート 記入日:2012年6月10日(日)

3. 研修プログラムの設計について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
3-1	研修の目的は明確に設定されていた	9	9	1	0	0	19
3-2	研修は自分の業務に生かせる内容だった	8	10	1	0	0	19
3-3	研修はわかりやすい順序ですすめられた	11	5	3	0	0	19
3-4	研修の時間は目的を達成するために丁度よい長さだった	10	4	5	0	0	19
3-5	研修の実施時期は適当だった	9	7	3	0	0	19
3-6	参加者の人数は適当だった	13	5	1	0	0	19

4.講師について		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	未解答	合計 回答数
4-1	講師の言動は学習意欲を高めた	13	5	1	0	0	19
4-2	講師は研修に必要な知識を十分に持っていた	13	5	1	0	0	19
4-3	講師の用意した教材はわかりやすかった	7	7	5	0	0	19

5.研修の会場・スタッフについて		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	未解答	合計 回答数
5-1	研修会場は快適な環境だった	11	7	1	0	0	19
5-2	研修会場には十分な設備が整っていた	10	9	0	0	0	19
5-3	スタッフは手際よく研修を運営していた	14	5	0	0	0	19

6.研修の成果について		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	未解答	合計 回答数
6-1	自分に必要な知識やスキルを身につけることができた	3	14	0	1	1	19
6-2	受講したことによってFDの取り組み方が改善されると思う	5	12	2	0	0	19
6-3	新たに人的なつながりをつくることができた	10	9	0	0	0	19
自由記述	研修に参加して身についたと思われることを具体的にお書き下さい。					※別途記述	

7.研修全体について		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わない	未解答	合計 回答数
7-1	研修は全体的に満足できるものだった	12	7	0	0	0	19
7-2	研修は期待を上回る内容だった	8	7	4	0	0	19
7-3	今後もこの研修を継続していくべきだと思う	14	5	0	0	0	19
自由記述	研修に参加してよかったと思われる点を具体的にお書き下さい。					※別途記述	
	この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。					※別途記述	

●事前アンケート

1. 参加者ご自身について

回答者 番号	今回のFDファシリテーター養成研修に参加するにあたっての自己目標は何ですか？身につけたいスキル等なるべく具体的にご記入ください。
1	企画力
2	ファシリテーターとしてあるべき姿とは？を学ぶ
3	他部局の職員との交流を深める
4	懇親のつもりで来ましたが、今は特にはないのですが、この研修内で見つけたいと思います。
5	研修計画の立て方
6	自分でFD研修を実施できるだけの知識と技術を身につける。
7	他機関で具体的にどのようなテーマの研修を行っているか等の情報を収集することと、それを高専でどう生かせるのか。
8	学生支援に対する様々な意見・考え方を知る
9	実効性のあるFDプログラムの開発のためのスキル
10	学部のFD計画をより良いものにすること～FDへの参加者を増やすための工夫などアイディアが欲しい。
11	参加者のモチベーションを上げる方法、魅力あるFD研修にする方法について考えたい
12	自学部のFD活動の活性化に力になれるよう、ファシリテーションスキルをひとつでも多く身につけたい
13	事務処理速度のUP
14	有効なFDの立案・実施
15	FDプログラム立案にあたっての、ニーズの把握方法と立案のコツを学ぶこと
16	人を巻き込む力を修得できればと思っています。
17	教育に熱心でない教員にどのようにしたら教育に関心を持つか勉強したい
18	学科の新生向け教育のためのFDプログラムの開発
19	FDの意義、実質化

6. 研修の成果について

回答者 番号	研修に参加して身についたと思われることを具体的にお書き下さい。
1	FDプログラム評価、学習成果にも応用できる。
2	他学部の現状ととりくみが大変よくわかりました。教育（授業）をいかにわかりやすくするか、何かツールを使用するか参考になりました。
3	FDの意義と教員の問題点を確認できたこと。
4	FDへの取り組みの内容を知ることができました。
5	
6	具体的な研修を行う上での方法が分かり大変勉強になりました。
7	World Café等のグループワークの方法
8	FDに対する様々な考え方
9	評価の視点、整理方法、5フェイズの視点は新鮮でした。⇒このFD講座の評価もよろしくお願いします。
10	FD活動を計画する際に評価の視点が必要なことが分かった。
11	FD研修を実践していくためのモチベーションアップにつながった。
12	無理やりでも企画を形にするスキル
13	FDの意義、必要性を理解できること。
14	プログラムの組み立て方、評価方法
15	FDの根拠、理論がわかった。
16	プログラムの作成手順および評価を前提とすることの重要性を理解できたこと。
17	World Caféは新たな概念であったが、説明不足もあった。FDプログラム作成は身についたが、作成は困難であった。
18	FDプログラムの組み立て方について、基本的なところは学べたと思います。プログラムの評価計画は初めて見たので、中身は消化不足でした。持ち帰って勉強します。
19	・FDの計画のたて方 ・FDの評価のし方 ・部局によって（参加者）によってFDへの対応のし方の差

7. 研修全体について

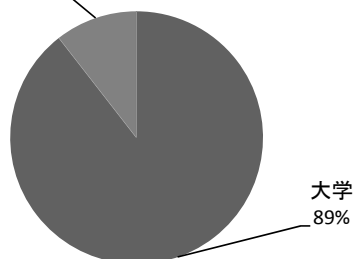
回答者 番号	研修に参加してよかったと思われることを具体的にお書き下さい。
1	雑談で、特に良い情報を得られた。
2	人脈形成、皆様の熱意、理論構築が勉強になりました。また発想着眼点の豊かさにはおどろきました。
3	宿泊研修のメリット(効果)を実感できたこと。
4	・懇親がはかれて、 ・FDそのものの内容を知ることができて、 ・計画的にワークプロダクトの作り方、またプロセスがよく練れていて、プロジェクト作りの参考になった。
5	
6	各大学学部のような問題や対応が聴けて良かったです。
7	他機関・部局の取り組み等の情報が得られた。
8	
9	内部で検討していたプログラムを体系化し、また多くの意見をもらえる機会となったこと。 まちづくりWSの手法が多くとり入れられていて大変興味深い体験でした。
10	具体的に学部のFD活動の計画の立案ができた。
11	良い人間関係のとり方をうまく調整してチームワークの雰囲気をつくることによって先生方の協力が得られ、より達成感の得られる研修になることが実感できた。
12	他の部局の皆さんとも話す機会があり、抱えている問題を共有できたこと。
13	他部局の先生たちの問題意識など、貴重な情報を得ることができた。日頃たまっていた(教育に関して)言いたいことを言うことで多少発散させることができた。
14	FD企画立案のノウハウが分かった点。各大学、部局の取り組みが分かった点。
15	・他大学、他部局、他教員のFDに対する着眼点を知ることができた。 ・FDプログラムのアイデアを知ることができた。
16	温かなスタッフさんによる指導がよかった。丁寧なものでした。(理解しやすかった。)
17	協同で作業できたことはよかった。同じ部局の人とも討論できたことは新鮮であった。
18	機材の使い方など参考になりました。他大学等の状況についてお互いに情報交換する機会という点も、良かったと思います。
19	・全学のFD取組の実態が少し分かった。 ・仲間作り

回答者 番号	この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
1	時間に余裕を、or 企画を縮小(成果が高まるのでは)
2	天候にも恵まれ、大変有意義な研修でした。 準備から運営全てに大変入念にいただいた皆様、大変お世話になりました。非常に快適でした。
3	FDの関心のない教員に参加してもらいたいと思う。
4	ここに集まっていらっしゃる方々は、FDのことをよくわかっていらっしゃる方々ばかりでした。本当にFDに必要な先生もいらっしゃると思います。強制的に順番に全員参加としてはいかが、と思います。
5	アメニティーの高い研修会場と宿泊施設
6	
7	参加する機関がもう少し数多くあると良かったと思います。
8	
9	・多少“プログラム”の説明がワークショップに偏っているくらいが感じられました。 ・対話的手法以外の方法のプログラムも出ていたので、WSのこまかな技法よりは、コンセプトづくりに力を入れた方がよいと思います。 ・FD目標の課題と、FDプログラムがつながっていなかったため、FDプログラムをたてる部局における教育上の課題をもう少しつっこんで(原因を含めて)分析するフェーズがあった方がよいと感じました。 ・各フェイズで部局間の共有があった方がよいです。 ・振かえりの会 自己目標に対するコメントを書いて、共有した方がよいと思います。
10	事前の準備として具体的にもう少し用意できていればよりよかったと思う。
11	作業用の机がもう少し広ければ・・・
12	やるべき事が見えないままワークに入ってしまった部分があり求めている成果物をもう少しわかりやすくしていただけたと良かった。
13	FDに関する技法(テクニカルな部分)をもう少し丁寧に教授していただければと思いました。
14	FDに人が集まらない理由の1つは、FDが十分に企画立案されていないことによるのかもしれない、と思いました。その点、今回のようなリーダー研修の受講者が増えれば、より魅力的な企画が作られ、参加者が増えると思われる。大変良い企画でした。ありがとうございました。
15	
16	特になし
17	準備は十分にやっていたと思うが、講義、ワーク等、ただ形だけでしていた感がぬぐえない。講師の方のFDも必要！？
18	1日目午後の進行はばたばたしていた感じです。ワンステップずつついでに進めていったら良くなると思います。
19	この研修に関してではないが、学部長、学科長レベルのFD研修も必要では。

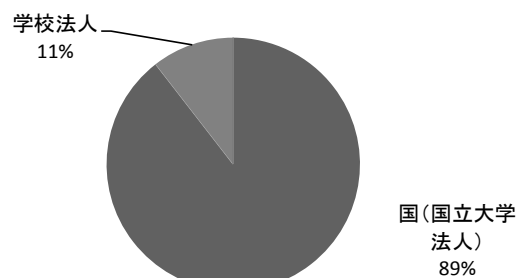
※自由記述の番号は回答者が連動しています。

以上

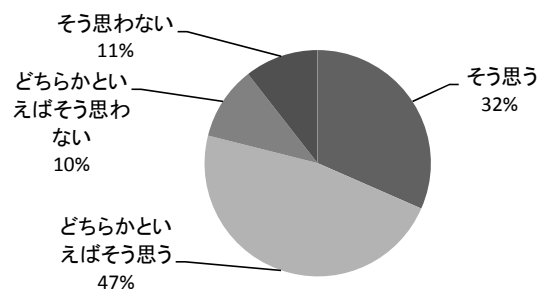
1-(1) 所属先



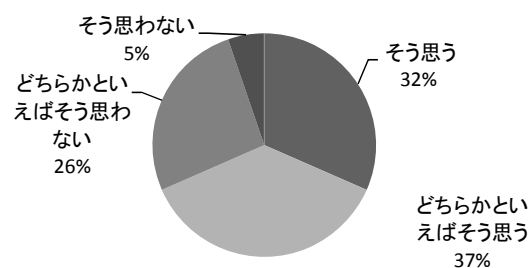
1-(2) 所属先の設置者



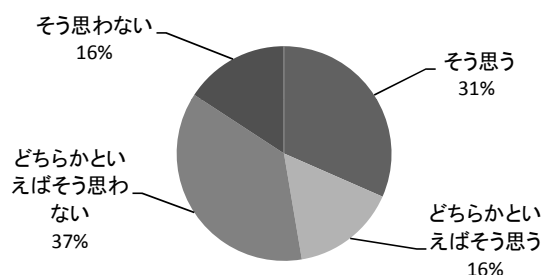
2-1 研修の目的や内容についてある程度知った上で参加した



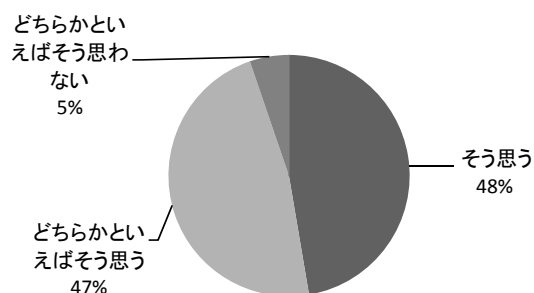
2-2 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した



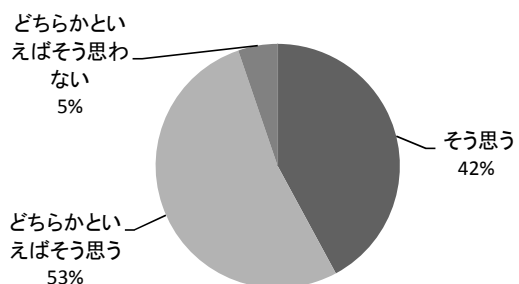
2-3 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した



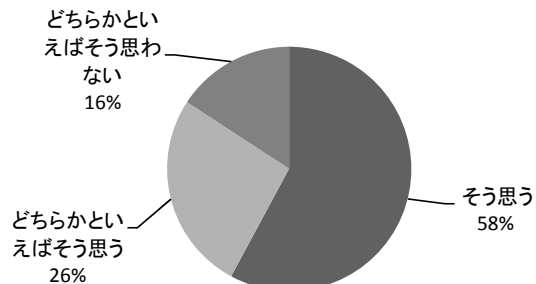
3-1 研修の目的は明確に設定されていた



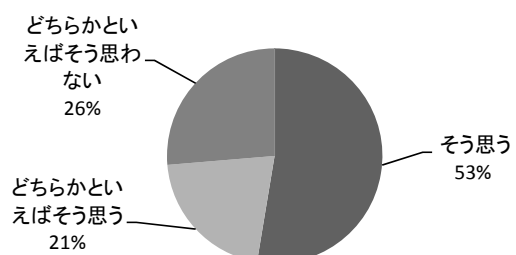
3-2 研修は自分の業務に生かせる内容だった



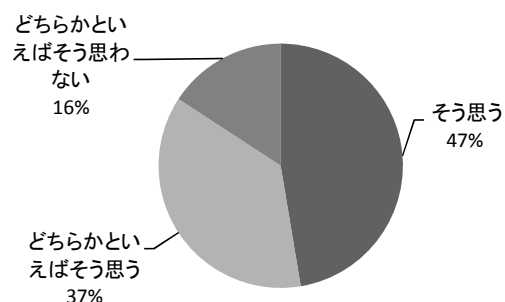
3-3 研修はわかりやすい順序ですすすめられた



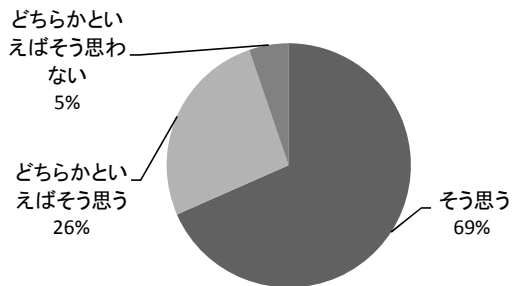
3-4 研修の時間は目的を達成するために丁度よい長さだった



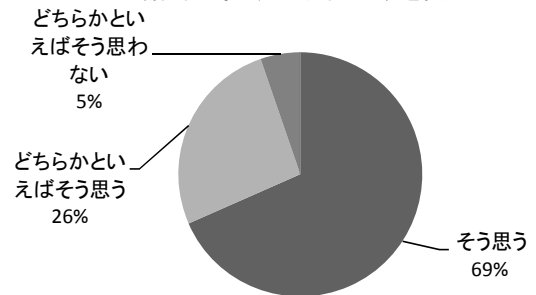
3-5 研修の実施時期は適当だった



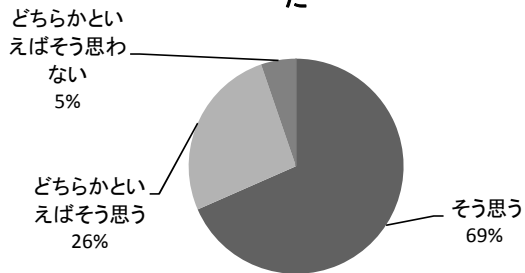
3-6 参加者の人数は適当だった



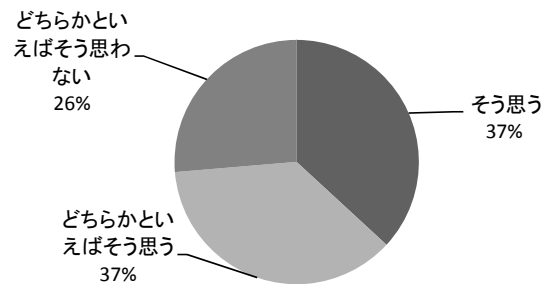
4-1 講師の言動は学習意欲を高めた



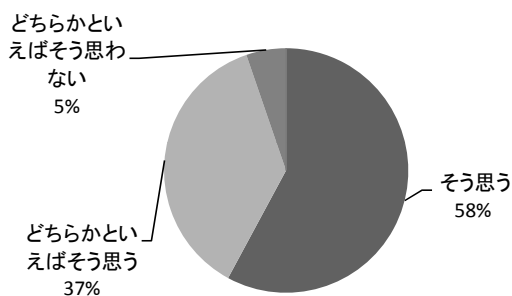
4-2 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた



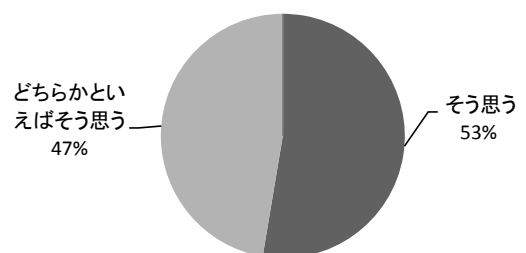
4-3 講師の用意した教材はわかりやすかった



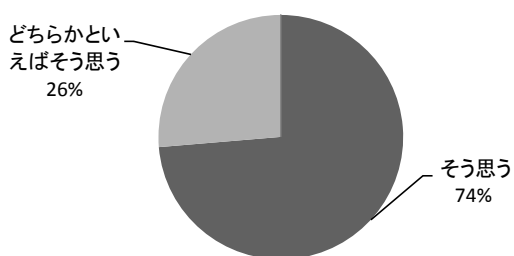
5-1 研修会場は快適な環境だった



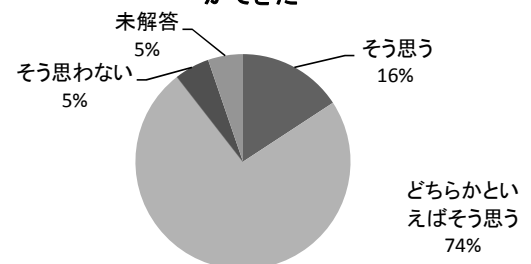
5-2 研修会場には十分な設備が整っていた



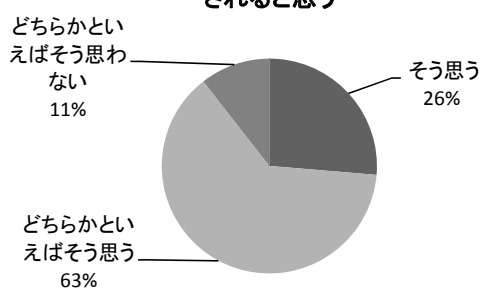
5-3 スタッフは手際よく研修を運営していた



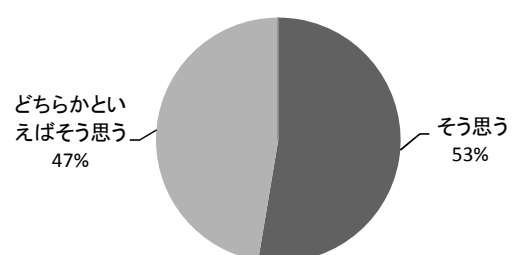
6-1 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた



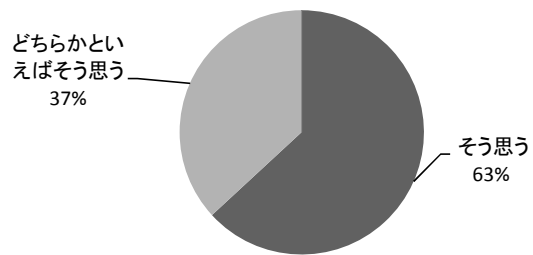
6-2 受講したことによってFDの取り組み方が改善されると思う



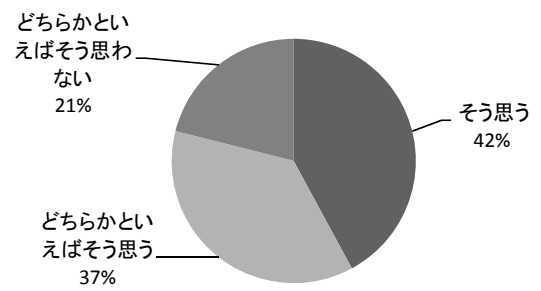
6-3 新たに人的なつながりをつくることができた



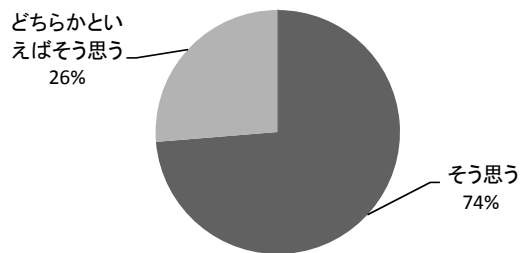
7-1 研修は全体的に満足できるものだった



7-2 研修は期待を上回る内容だった



7-3 今後もこの研修を継続していくべきだと思う



5．平成24年度活動報告

（1）FD事業

③「教育業績記録（ティーチング・ポートフォリオ）の開発」資料

③教育業績記録（ティーチング・ポートフォリオ）開発

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（西四国対象）の開催について

日 時：平成24年9月25日（火）～26日（水）

別添「スケジュール表」参照

場 所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミューズ

【オリエンテーション・TP作成作業等】

教育・学生支援機構会議室（3階）

【個人ミーティング】

教育・学生支援機構ミーティングルーム（3階）等

主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

目 的：ティーチング・ポートフォリオを実際に作成してもらう。また、ティーチング・ポートフォリオを多くの教員に作成してもらうために、メンター養成を行う。

参加対象者：SPOD西四国（愛媛県，高知県）加盟校の教員

メンター：秦 敬治（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長 教授）

山田 剛史（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 准教授）

中山 晃（愛媛大学教育・学生支援機構英語教育センター 准教授）

大竹 奈津子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 助教）

泉谷 道子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 特任助教）

スケジュール表

	1 日目 (9 月 2 5 日(火))	2 日目 (9 月 2 6 日(水))	後 日
8:00AM			
9:00			
10:00	オリエンテーション+全体コメント及び作業指針	第 2 回個人ミーティング	第 2 校原稿提出締切 月 日 () 時
11:00	T P 作成作業	T P 作成作業	
12:00	第 1 回個人ミーティング	意見交換+昼食	メンターより メールにてコメント 月 日 () 時
1:00PM	意見交換+昼食	第 3 回個人ミーティング	
2:00			
3:00	T P 作成作業	T P 作成作業	第 3 校原稿提出締切 月 日 () 時
4:00			
5:00			
6:00		T P 披露 修了式	
7:00			
8:00		修了を祝う会	
9:00			
10:00	原稿提出締切 10:00		
11:00			
0:00AM			

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ事後アンケート

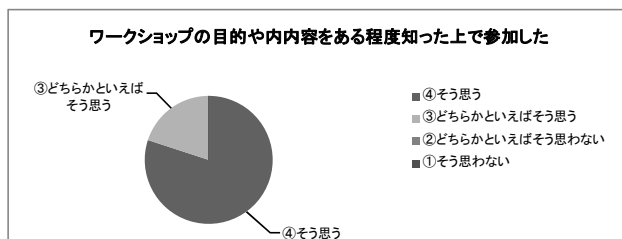
1. 参加者ご自身について

開催日	参加者	回答者
平成24.9.25～26	7名	5名

2. 研修参加の経緯について

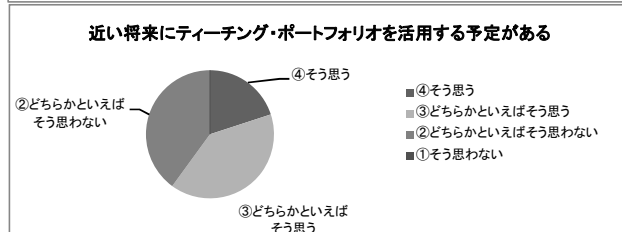
1. ワークショップの目的や内容がある程度知った上で参加した

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



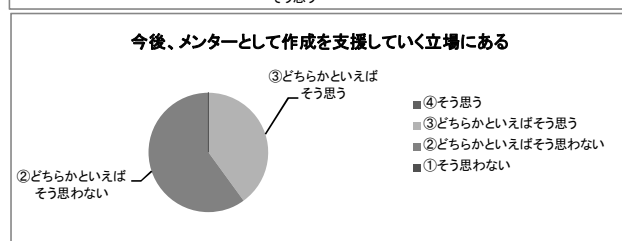
2. 近い将来にティーチング・ポートフォリオを活用する予定がある

	度数	割合
④そう思う	1	20.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	2	40.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



3. 今後、メンターとして作成を支援していく立場にある

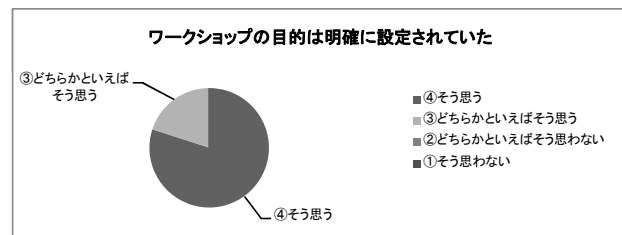
	度数	割合
④そう思う	0	0.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	3	60.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



3. 研修プログラムの設計について

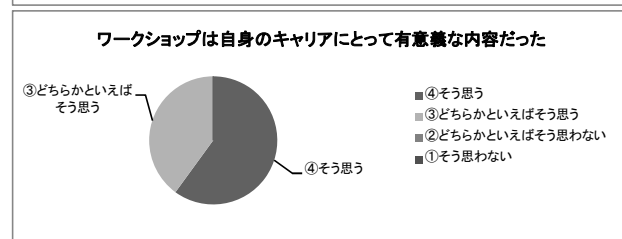
1. ワークショップの目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



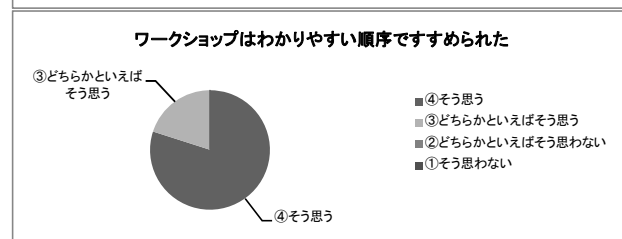
2. ワークショップは自身のキャリアにとって有意義な内容だった

	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



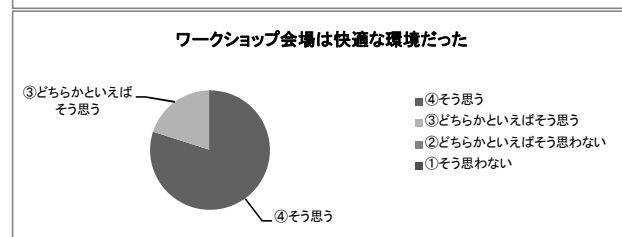
3. ワークショップはわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



4. ワークショップ会場は快適な環境だった

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



4. 研修スタッフについて

1. メンターからの助言は役に立った

	度数	割合
④そう思う	5	100.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0

2. 事務局は手際よく研修を運営していた

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0

5. 研修成果について

1. ティーaching・ポートフォリオがどのようなものか理解できた

	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0

2. ティーaching・ポートフォリオを作成できるようになった

	度数	割合
④そう思う	2	40.0
③どちらかといえばそう思う	3	60.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0

3. ティーaching・ポートフォリオは自身の教育改善につながる

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0

4. 今後、メンターの依頼があれば引き受けてもよい

	度数	割合
④そう思う	0	0.0
③どちらかといえばそう思う	3	60.0
②どちらかといえばそう思わない	2	40.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0

6. 研修成果について

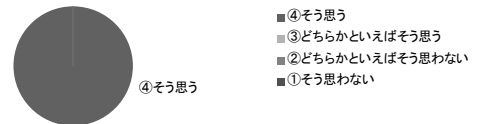
1. 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④そう思う	5	100.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0

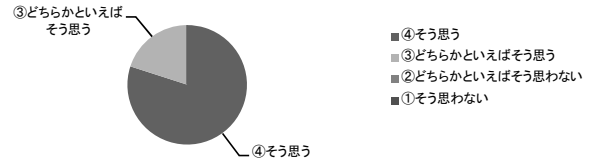
2. ティーaching・ポートフォリオの作成を同僚にもすすめたい

	度数	割合
④そう思う	1	20.0
③どちらかといえばそう思う	3	60.0
②どちらかといえばそう思わない	1	20.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0

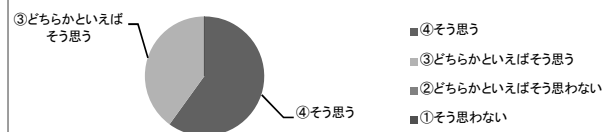
メンターからの助言は役に立った



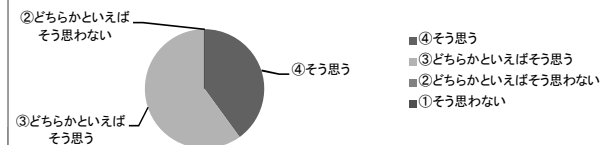
事務局は手際よく研修を運営していた



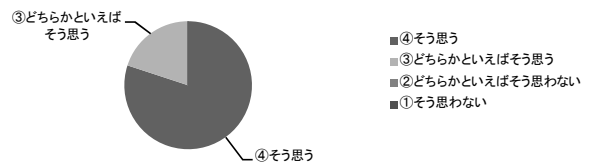
ティーaching・ポートフォリオがどのようなものか理解できた



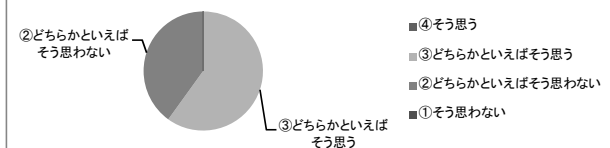
ティーaching・ポートフォリオを作成できるようになった



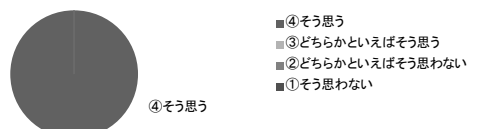
ティーaching・ポートフォリオは自身の教育改善につながる



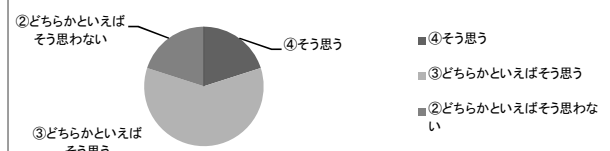
今後、メンターの依頼があれば引き受けてもよい



研修は全体的に満足できるものだった



ティーaching・ポートフォリオの作成を同僚にもすすめたい



【自由記述】

○ワークショップの場所、開催時期、日程等についてのご感想をお聞かせ下さい。

- ・2日間集中して作業できる環境はよかったと思います。
- ・特に要望はありませんが、今後も夏季休暇中等時間を取りやすい時期に開催していただければ、参加しやすいと思います。
- ・高専はちょうど試験期間中でしたので、融通が利きました。平常授業時にはおそらく参加できなかったでしょう。
- ・場所：愛媛大なので往来に便利だった。
教室：西日対策さえあれば、より快適だったと思う。
時期：夏休み後半で、長期出張等が入らない時期だったため都合が良かった。
日程：1泊2日だと時間が足りないように思う。合宿形式だと資料（エビデンス）収集に難があるので、原稿の1泊2日＋エビデンスを揃えて後日提出、という形式が現実的かとも考える。

・会場は落ち着いて集中できる雰囲気（しかもお茶菓子が充実し）、よかったと思います。3日間ではなく2日間としたのは、他の業務もありますので、適切だったと思います。ワークショップ後の第2校や最終稿の締め切りが新学期開始と重なる多忙な時期だったので、徹夜が続きました。作業の遅い者にとっては、もう少し時間的なゆとりがあると助かります。

○事前課題（スタートアップ・シート）について、ご感想をお聞かせ下さい。

- ・記入欄と設問を同じ書式で記入するようになっていたため、全体を確認しづらく、書きにくいように感じました。質問と記入欄を別の用紙にする、表にする、など、ご検討いただければ、と思います。
- ・スタートアップ・シートがあることで、当日参加するまでに自分の教育理念等のある程度整理することが出来たため、とても有効な方法の一つだと思いました。ただ、初めて書く内容ですので、もう少し例示を多くしていただけると、より深くリフレクションでき、かつ記述内容も豊かになると思いました。
- ・自分のデータを整理するのに役立った。エビデンスとして持参すべきものを電子データでもっともってこれば良かったと思いました。そういった示唆もあったら良かったのではと思います。実物限定と最初思っていました。
- ・予め自分の考えを整理する上で役立った。「面談」が中核のシステムなので、如何ともし難いとは思いますが、事前に多少なりともメンターからのコメントがあれば、WS時の事前準備（エビデンスの収集等）には役に立つのかも知れない。

・エビデンスの項目リストは TP 作業全体を通して参考になりました。スタートアップ・シートは、表紙の留意事項の趣旨に沿って、全体的に力を入れて書きました。特に、設問 4-1 の全部の担当科目の作文は結構頑張りましたが、実際の TP 作業では深入りしない科目も多かったのも、もっとポイントを絞った簡潔な書き方でよかったのかもしれない。

○ティーチング・ポートフォリオを作成してみたご感想をお聞かせ下さい。

・書類を作ることを目的に思っていたのですが、自身の活動の振り返りと意味づけをするためのよい機会になりました。

・「とても有益だった」の一言に尽きます。この取り組みが、いかに大学教員にとって必要なかを多くの方々に知っていただきたいと改めて思いました。

・メンターをやることについてはまだ全然自信がありません。今回、メンターの先生にいろいろな自分の中身を引き出してもらって自分についてもう一度理解することができました。今までの教師生活を振り返ることにより、やってきたことを整理できたし、どういう信念をもってやってきたのかや、実は一貫した信念があったこともわかり自信となった。

・総じて刺激的な経験であった。時間不足は悩ましい（時間が少なめだからこそ集中できた面もあるので・・・）。作成プロセスが「本文を書き、メンターと話し、エビデンスを探す」（順不同）の繰り返しだとすると、合宿形式では「エビデンスを探す」プロセスが不十分になりがちかも知れない（わたしは勤務地での開催だったので、どうにかなったが・・・）。

・未だによく分かっていない部分が多くあり、他の人に説明できるか自信がありません。メンターの先生に、私の意識の底にあった教育に対する考え方を、意識できる形で引っ張り上げていただいたことに、とても感謝しています。10 ページに収めるという前提で、テーマを絞って書きました。確かに重要な点を強調できましたが、多面性を切り捨てた感もあり、振り返りとして適当であったのか、今は判断できません。今回の「書く」という行為は、内省的な振り返りというより、自分の教育上のキャリアを他人に説明するためのエビデンス作りの色彩が濃いような気がします。

○ワークショップに参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

・メンターの方が最後まで関わってくださったおかげで、最後まで仕上げることができました。一人でできる内容でも共同ですることによって効果を上げることを、改めて体験できました。現在の学生との相談を、自ら体験できたような感じです。

・メンターの先生との面談で、内面的なことを分析していただいたこと。関係者の皆様、どうもありがとうございました。

・普段の業務では出会うことが出来ない方々（例えば、他大学・他学部の先生方）と、空間をともにしながら作業を進めることが出来ること。最後の「T P 披露」の方法がとても参考になりました。これまで、第三者から客観的に見ていただく機会に恵まれてこなかったこともあり、この方法を何かの機会に試したいと思います。ただ、仮に、T P 全文を全員の前で発表するというありがちな形式になると、参加者が少なくなると思いますので、この方法を継続していただけたらと思います。

・7名のメンティーがおり、初対面でしたが、それぞれの教育の信念があり、歴史があり、実績があり、関心が持てた。また、2日間同じ部屋で作業を行い、ゆるい連帯感のようなものが生まれ共感しあえた。修了を祝う会で、メンターやメンティーともっといろいろ話したかった。久しぶりに自分のことを聞いてくれる体験ができ、すっきりとした。

・T P という「成果物」を作るプロセスには一定の達成感がある。反面、それなりの労力を要することもあり、一度、形にしてしまったことで、そのまま安住してしまいそうな自分も存在する。T P は「更新」を念頭に置いた「持続的プロセス」なのだと思うが、どのように「更新」を行っていくのか、また、諸事情からT P を言語化できなかった／しなかった“可能性”についても、このまま切り捨てることなく生かすことが出来ないか、とも考える。以上のような考えが生まれる機会となったことが、今回W S に参加して良かった点ではないかと思う。

○ワークショップをよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

・これまで作成されたT P を参考にしながら、作成したいと思いました（とくに、近い業務をされている方、学部、学科等）。指定されたテキスト以外に、参考になる文献はないでしょうか。当方でも、今回のワークショップを機会にいくつか購入したのですが参考になるものが少なかったため、ご専門の先生方からいくつかご紹介いただけたら助かります。

・高専の先生が参加しやすいしかけがあれば良いのですが。

・「更新」研修時なら可能と思う（T P の初回作成時は困難かと思うが）、メンティー間でのT P （作成中含む）相互披露および意見交換、メンター（聞き手／引き出し役）だけでなく、部分的にでも「批判役」が介在すること。

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（高専対象）実施要項

- 1 日 時：平成24年12月21日（金）～23日（日）
別添「スケジュール表」参照
- 2 場 所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミューズ
【オリエンテーション・TP作成作業等】
教育・学生支援機構会議室（3階）
【個人ミーティング】
教育・学生支援機構ミーティングルーム（3階）ほか
- 3 主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）
- 4 協力校：阿南工業高等専門学校
- 5 目 的：ティーチング・ポートフォリオを実際に作成してもらう。
また、ティーチング・ポートフォリオを多くの教員に作成してもらうために、
メンター養成を行う。
- 6 参加者対象者：四国地区の高等専門学校教員等
- 7 メンター：皆本 晃弥（佐賀大学大学院工学系研究科知能情報システム学専攻 准教授）
松本 高志（阿南工業高等専門学校電気電子工学科 准教授）
奥本 良博（阿南工業高等専門学校機械工学科 准教授）
清水 栄子（阿南工業高等専門学校 特命講師）
大竹 奈津子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 助教）
- 8 その他：本ワークショップは、阿南工業高等専門学校との共同実施により行う。
また、同時並行でアカデミック・ポートフォリオ開発ワークショップを実施する。

TPWSスケジュール表

	12月21日(金)	12月22日(土)	12月23日(日)
AM 8:00			
9:00			
10:00		第2回個人ミーティング	第3回個人ミーティング
11:00			
12:00		意見交換+昼食	意見交換+昼食
PM 1:00	オリエンテーション		TP作成作業
2:00	意見交換+昼食		プレゼンテーション準備
3:00	第1回個人ミーティング		TP披露 修了式
4:00			
5:00	TP作成作業	TP作成作業	
6:00			
7:00	情報交換・懇親会(任意)		
8:00			
9:00			
10:00	初稿提出締切 10:00	第2稿提出締切 10:00	
11:00			
AM 0:00			第3稿提出締切 月 日() :

最終稿提出締切
月 日() :

アカデミック・ポートフォリオ開発ワークショップ実施要項

- 1 日 時：平成24年12月21日（金）～23日（日）
別添「スケジュール表」参照
- 2 場 所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミューズ
【オリエンテーション・TP作成作業等】
教育・学生支援機構会議室（3階）
【個人ミーティング】
教育・学生支援機構ミーティングルーム（3階）ほか
- 3 主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）
- 4 協力校：阿南工業高等専門学校
- 5 目 的：アカデミック・ポートフォリオを実際に作成してもらう。
また、アカデミック・ポートフォリオの作成を通して、アカデミック・ポートフォリオについての理解を深め、自身や大学・高専における教育改善に役立てる。
- 6 参加対象者：SPOD加盟校の教員で、既にティーチング・ポートフォリオを作成している者
- 7 定 員：5名
- 8 メンター：皆本 晃弥（佐賀大学大学院工学系研究科知能情報システム学専攻 准教授）
松本 高志（阿南工業高等専門学校電気電子工学科 准教授）
奥本 良博（阿南工業高等専門学校機械工学科 准教授）
- 9 その他：本ワークショップは、阿南工業高等専門学校との共同実施により行う。
また、同時並行でティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップを実施する。

APWSスケジュール表

	12月21日(金)	12月22日(土)	12月23日(日)
AM 8:00			
9:00			
10:00		第2回個人ミーティング	第3回個人ミーティング
11:00			
12:00		意見交換+昼食	意見交換+昼食
PM 1:00	オリエンテーション		意見交換+昼食
2:00	意見交換+昼食		AP作成作業
3:00	第1回個人ミーティング		プレゼンテーション準備
4:00			AP披露 修了式
5:00	AP作成作業	AP作成作業	
6:00			
7:00	情報交換・懇親会(任意)		
8:00			
9:00			
10:00	初稿提出締切 10:00	第2稿提出締切 10:00	
11:00			
AM 0:00			第3稿提出締切 月 日() :

最終稿提出締切
月 日() :

(SPOD)ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ事前アンケート①

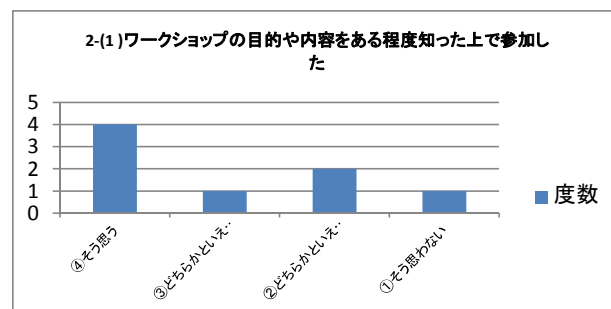
開催日	参加者	回答者
平成24.12/21～23	8名	8名

1. 参加者ご自身について

2. 研修参加の経緯について

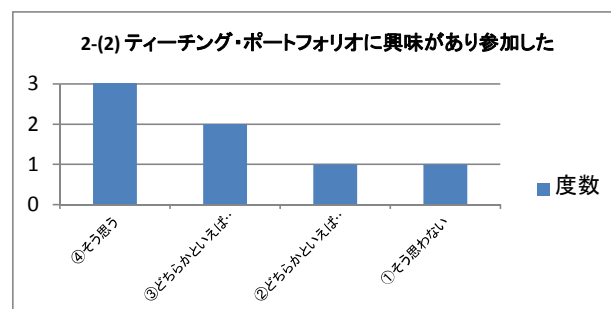
(1) ワークショップの目的や内容がある程度知った上で参加した

	度数	割合
④そう思う	4	50.0
③どちらかといえばそう思う	1	12.5
②どちらかといえばそう思わない	2	25.0
①そう思わない	1	12.5
計	8	100.0



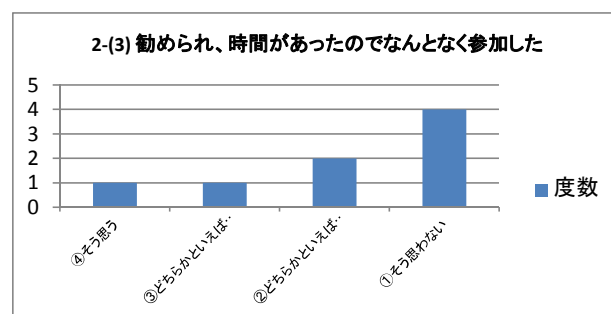
(2) ティーチング・ポートフォリオに興味があり参加した

	度数	割合
④そう思う	4	50.0
③どちらかといえばそう思う	2	25.0
②どちらかといえばそう思わない	1	12.5
①そう思わない	1	12.5
計	8	100.0



(3) 勧められ、時間があつたのでなんとなく参加した

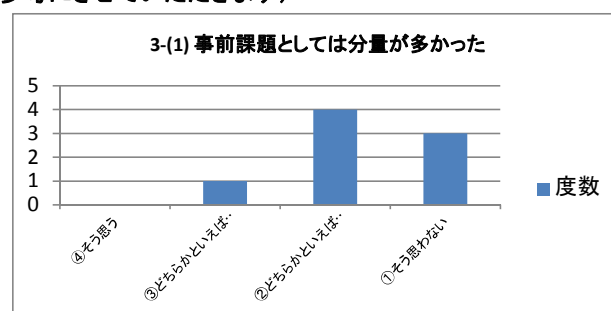
	度数	割合
④そう思う	1	12.5
③どちらかといえばそう思う	1	12.5
②どちらかといえばそう思わない	2	25.0
①そう思わない	4	50.0
計	8	100.0



3. スタートアップシートについてお伺いします。(今後の改良の参考にさせていただきます)

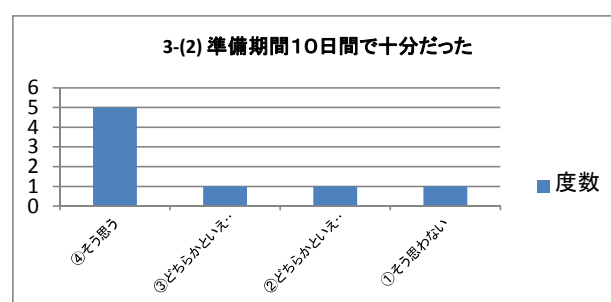
(1) 事前課題としては分量が多かった

	度数	割合
④そう思う	0	0.0
③どちらかといえばそう思う	1	12.5
②どちらかといえばそう思わない	4	50.0
①そう思わない	3	37.5
計	8	100.0



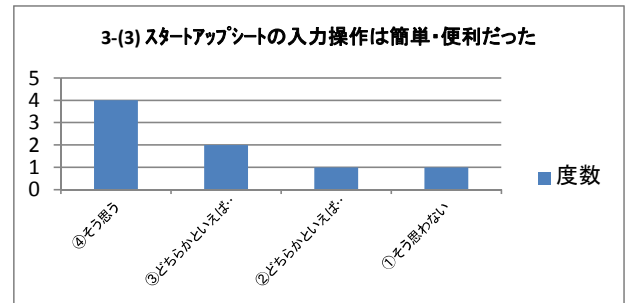
(2) 準備期間10日間で十分だった

	度数	割合
④そう思う	5	62.5
③どちらかといえばそう思う	1	12.5
②どちらかといえばそう思わない	1	12.5
①そう思わない	1	12.5
計	8	100.0



(3) スタートアップシートの入力操作は簡単・便利だった

	度数	割合
④そう思う	4	50.0
③どちらかといえばそう思う	2	25.0
②どちらかといえばそう思わない	1	12.5
①そう思わない	1	12.5
計	8	100.0



(4) スタートアップシートの中で、答えにくい設問がありましたか。あればその番号とその理由をお書きください。

- ・ 10.11 特に記述する内容が浮かばなかった為
- ・ 3, 選択式にしていただけると分かり易い。 6. 「宿題」と「レポート」、「報告書」の違いが分からない。
- ・ 特にありません (TPでも経験しているので)
- ・ 4-1 受講者数が定員でなければ、記録を取り出すのが大変だった。 5. 特に戦略といったものを意識していなかったの

(5) 追加した方がよいと思われる設問や改変のアイデアがございましたか。あればお書きください。

- ・ 4-2について、整理される項目 (回答 任意でもよいと思います)があると良いと思います。
- ・ 添付ファイルをつけて良いかどうか、説明があるといいと思います。

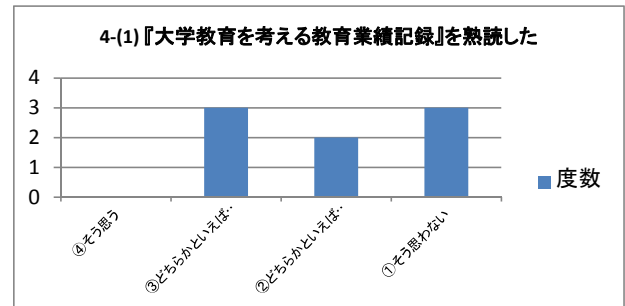
(6) 入力ソフトについて改善した方がよい点がございましたか。あればお書きください。

- ・ Excelシートがうまく更新できていなかったようです。
- ・ Word、Excelのリンクが、よく分かりませんでした。(Macのせい？設定のせい？)
- ・ エビデンスの表を大きく見ようとダブルクリックすると、小さいまま編集画面になった。

4. スタートアップシート以外にどのような事前準備をされましたか。

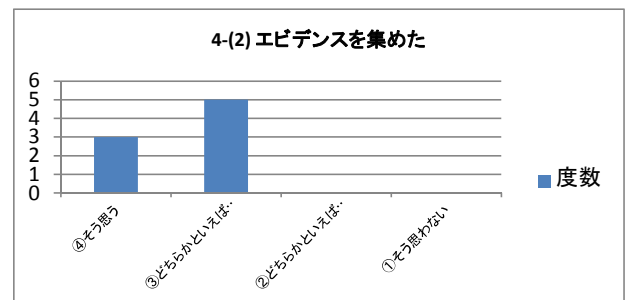
(1) 『大学教育を考える教育業績記録』を熟読した

	度数	割合
④そう思う	0	0.0
③どちらかといえばそう思う	3	37.5
②どちらかといえばそう思わない	2	25.0
①そう思わない	3	37.5
計	8	100.0



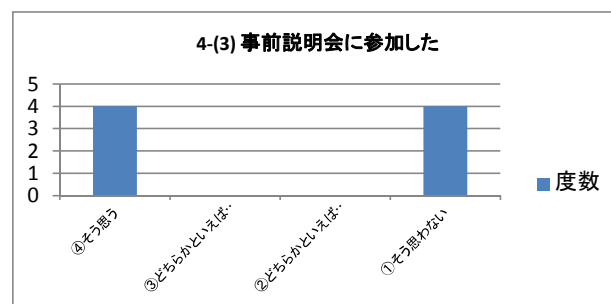
(2) エビデンスをあつめた

	度数	割合
④そう思う	3	37.5
③どちらかといえばそう思う	5	62.5
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	8	100.0



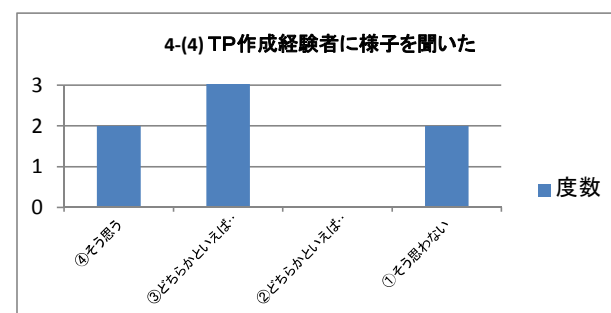
(3) 事前説明会に参加した

	度数	割合
④そう思う	4	50.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	4	50.0
計	8	100.0



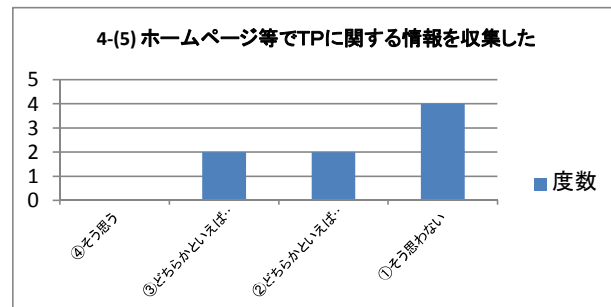
(4) TP作成経験者に様子を聞いた

	度数	割合
④そう思う	2	25.0
③どちらかといえばそう思う	4	50.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	2	25.0
計	8	100.0



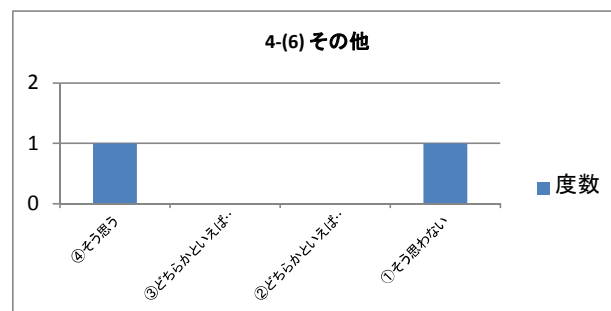
(5) ホームページ等でTPに関する情報を収集した

	度数	割合
④そう思う	0	0.0
③どちらかといえばそう思う	2	25.0
②どちらかといえばそう思わない	2	25.0
①そう思わない	4	50.0
計	8	100.0



(6) その他(採用時の教育目標を思い出した。)

	度数	割合
④そう思う	1	50.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	1	50.0
計	2	100.0



(SPOD)ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ事後アンケート

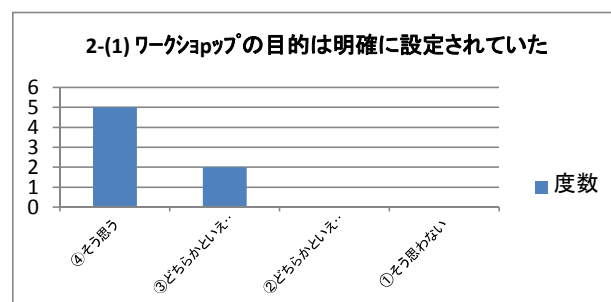
開催日	参加者	回答者
平成24.12/21～23	8名	7名

1. 参加者ご自身について(所属・役職・氏名)

2. 研修プログラムの設計について

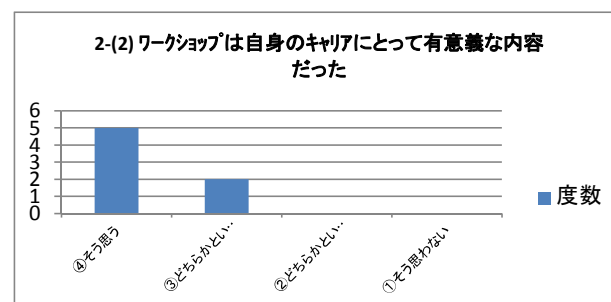
(1) ワークショップの目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	5	71.4
③どちらかといえばそう思う	2	28.6
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



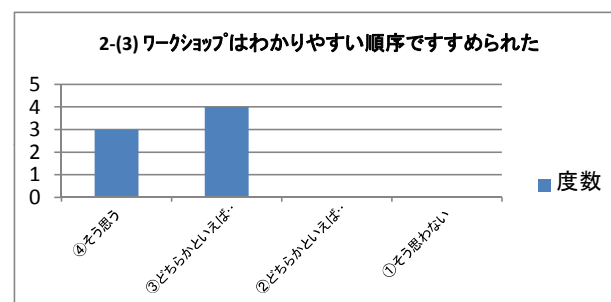
(2) ワークショップは自身のキャリアにとって有意義な内容だった

	度数	割合
④そう思う	5	71.4
③どちらかといえばそう思う	2	28.6
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



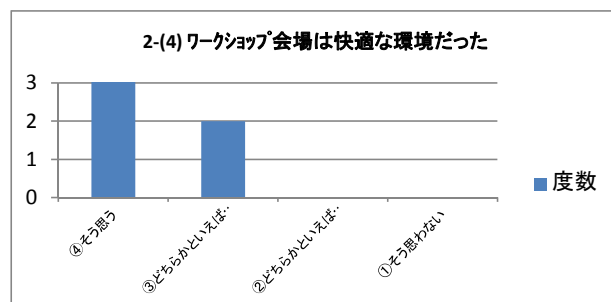
(3) ワークショップはわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④そう思う	3	42.9
③どちらかといえばそう思う	4	57.1
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



(4) ワークショップ会場は快適な環境だった

	度数	割合
④そう思う	5	71.4
③どちらかといえばそう思う	2	28.6
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



(5) ワークショップの場所、開催時期、日程等についてのご感想をお聞かせ下さい。

- ・ 3日間必要とするのであれば、今回のような時期が良いと思います。
- ・ 特に問題はないと思います。別室でお願いしたら良かったかなと感じています。(咳がひどかったので) 廊下の突き当たりの部屋が空いていれば良かったのですが…。
- ・ 3日間は長いと思いました。
- ・ 適切であった。
- ・ 年末で、多忙な時期ではあったが、仕方ないと思う。部屋の暖房が私には暖かすぎることがあった。
- ・ あと1日だけ後ろなら、授業のやりくりが必要なかった。
- ・ 2～3月か、9月の平日にやっていただけるとありがたいです。

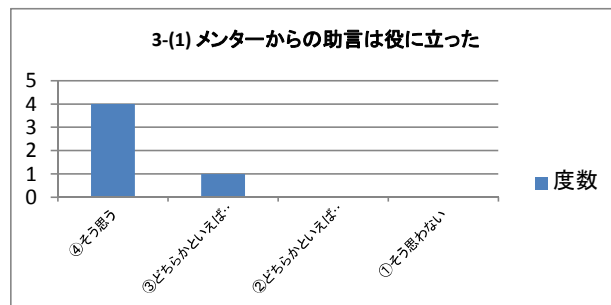
(6) ポートフォリオの内容／構造等について、今後日本の高等教育(あるいは高専教育)における有効な利用に向けた改善のアイデアがございましたらお聞かせください。

- ・書く内容をもう少し絞り、項目をより具体的ににして、統一感を持たせた方が良いのではないのでしょうか。
- ・単なる「教育理念」という項目ではなく、利用目的に応じた「教育理念」だと、初めてなら書きやすいのかなと感じます。
- ・人事用にTP/APを使うようになると、新しいことに挑戦するより、学校が決めた(お墨付きがある)事しかしない、おべっか使いの教員が増えてしまうのではないかという懸念があります。
- ・あまり形式が決まっていない方が、好ましい。教員によって、書きたいこと、書くべき事が違っているため。
- ・採用や点検評価の資料として、義務づけられること。

3. 研修スタッフについて

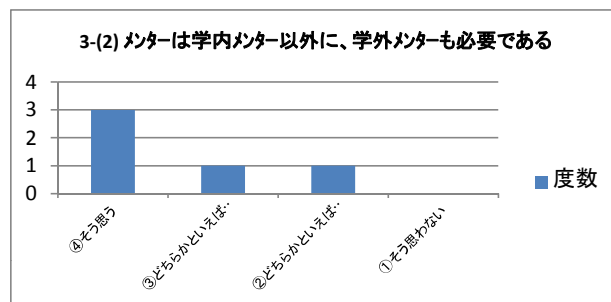
(1) メンターからの助言は役に立った

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



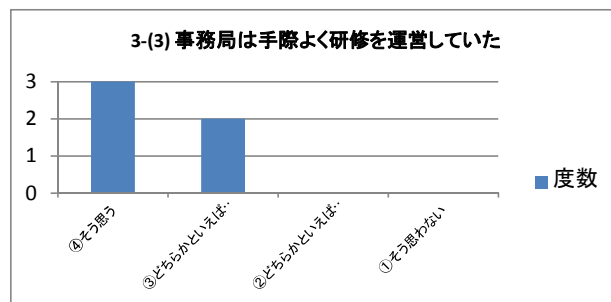
(2) メンターは学内メンター以外に、学外メンターも必要である

	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	1	20.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



(3) 事務局は手際よく研修を運営していた

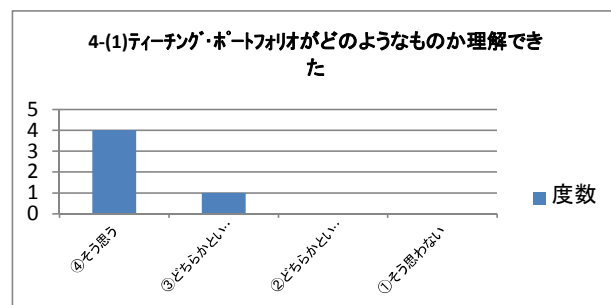
	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



4. 研修成果について

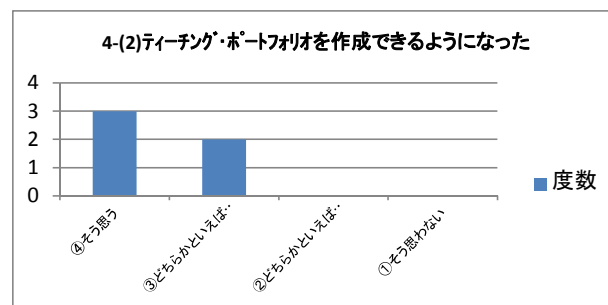
(1) ティーチング・ポートフォリオがどのようなものか理解できた

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



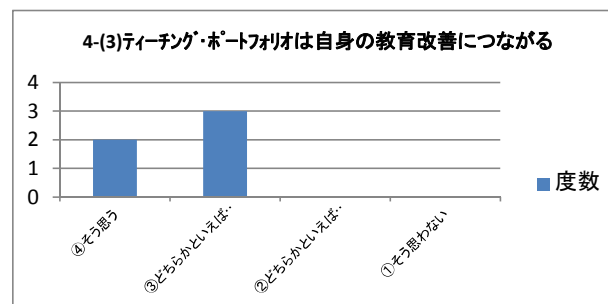
(2) ティーチング・ポートフォリオを作成できるようになった

	度数	割合
④そう思う	3	60.0
③どちらかといえばそう思う	2	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



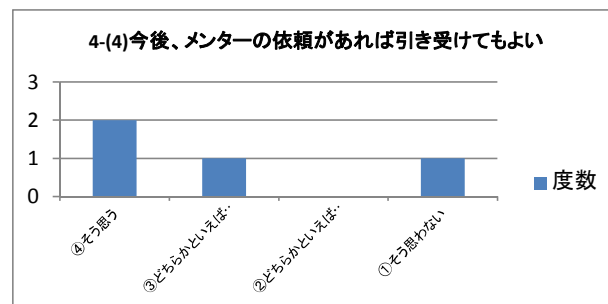
(3) ティーチング・ポートフォリオは自身の教育改善につながる

	度数	割合
④そう思う	2	40.0
③どちらかといえばそう思う	3	60.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



(4) 今後、メンターの依頼があれば引き受けてもよい

	度数	割合
④そう思う	2	50.0
③どちらかといえばそう思う	1	25.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	1	25.0
計	4	100.0



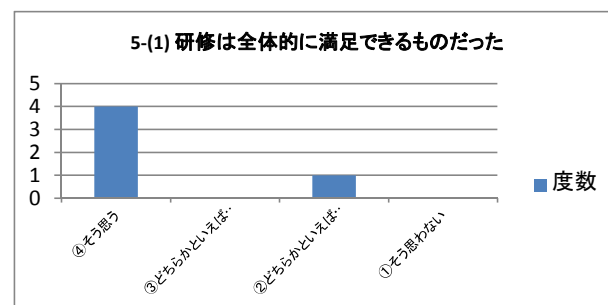
(5) ティーチング・ポートフォリオを作成してみたご感想をお聞かせ下さい。

- ・ TPが何に利用出来るかではなく、何に利用するTPを作るか、なのかなと感じました。
- ・ メンターは大変そうだと思います。
- ・ アカデミック・ポートフォリオを作成してみて、立ち位置をよりはっきりさせることが出来た。
- ・ 今までやってきたことが繋がり、とてもスッキリしました。

5. 研修全体について

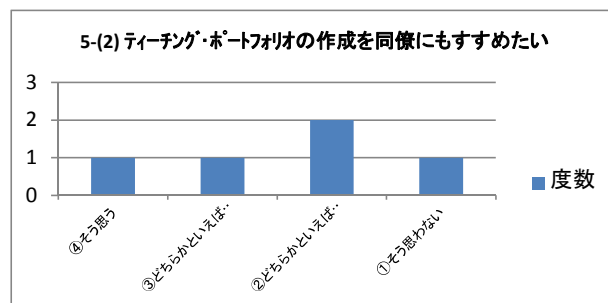
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④そう思う	4	80.0
③どちらかといえばそう思う	0	0.0
②どちらかといえばそう思わない	1	20.0
①そう思わない	0	0.0
計	5	100.0



(2) ティーチング・ポートフォリオの作成を同僚にもすすめたい

	度数	割合
④そう思う	1	20.0
③どちらかといえばそう思う	1	20.0
②どちらかといえばそう思わない	2	40.0
①そう思わない	1	20.0
計	5	100.0



(3) ワークショップに参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ 学外のメンターの先生でよかったと思います。
- ・ 内省できた。
- ・ 自分の作成目的として、テニユアトラック制度のPDプログラムの修了案件として、AP・TPを作ることになっているので、そのための準備という意味合いもあり、十分達成された。
- ・ 学外の先生方とお話ができしたこと。

(4) ワークショップをよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ スタートアップの段階で、目的についてもっと考える時間があっても良かったのかなと思います。そうであれば、同僚にも勧められるのかなと思います。
- ・ 初めてTPを作成する人用のスタートアップシートは、個人用(自己満足用)と、人事用の2種類を用意した方が、すっきりすると思う。「教育目標」は、人事用であれば、学校のもので自分で決めた目標とが一致していなくてはいけません。一方、個人用であれば、その制約はそれほど厳しくない。両社は作成の目的があまりに大きく違うように思う。
- ・ 最後の発展の際の時間厳守ルール！
- ・ 開催時期と普及・啓発の方法を検討する。

平成24年度「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」 実施要項

1 目 的

平成20年度よりFDが義務化され、学士課程教育の構築へ向けて各大学における教育の質向上に対する課題が高まっています。徳島大学では、実質的なFDの取り組みを進めるため、2回目の「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を開催いたします。本ワークショップは、教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修の一つとして実施します。

2 目 標

1. 個人の教育活動を振り返り、教育理念を再考する。
2. 個人の教育活動を振り返り、教育目的を整理する。
3. 個人の教育活動を振り返り、教育戦略・方法を整理する。
4. 個人の教育活動を振り返り、その成果を整理する。
5. 個人の教育活動を振り返り、具体的な課題を明確にする。
6. 参加者同士の関係性をつくる

3 概 要

ワークショップでは、個人の教育活動を振り返り、自身の教育理念、教育目的、戦略、方法、成果、課題などを中心に整理を行っていきます。メンターが寄り添い、話し合いを重ねながら自身のティーチング・ポートフォリオを作成していきます。SPOD加盟校より集まった参加者同士で対話を行いながら、自身の教育活動について3日間集中して振り返る作業を行っていきます。

4 実 施 日 平成25年3月7日（木）～9日（土）

5 実 施 場 所 共通教育棟6号館201（徳島大学大学開放実践センター2階）

6 プログラム 別紙「スケジュール表」参照

7 対 象 者 SPOD加盟校教員

*SPOD＝四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

8 メ ン タ ー

大阪府立大学工業高等専門学校 北野健一
徳島大学大学開放実践センター 香川順子 ほか

9 参 加 費 無料（SPOD加盟校の場合）

10 主 催 徳島大学 大学教育委員会・FD専門委員会 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

第 1 日 (2013 年 3 月 7 日・木曜日)

集合場所：共通教育 6 号館 201 (徳島大学大学開放実践センター 2 階)

時 刻	内 容	講師・担当者	備 考
11:30-12:00	受付 (共通教育 6 号館 201) *11:50 までにお集りください		7:00AM 徳島市に「大雨警報かつ暴風警報」または「洪水警報かつ暴風警報」が出ていたら中止
12:00-12:30	オリエンテーション ・ はじめに (副学長よりあいさつ) ・ 自己紹介 (スタッフ・参加者) ・ ティーチング・ポートフォリオとは	香川順子 (進行) 副学長 (教育担当) 高石喜久 北野健一	教室：6-201
12:30-14:00	アイスブレイク 昼食 ・ 初稿へ向けての共通アドバイス ミニ・ワーク	北野健一	教室：6-201
14:00-15:00	第 1 回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 14:00-14:30 二人目 14:30-15:00	メンター全員	個人ミーティングの部屋へ移動
15:00-17:00	TP作成作業		教室：6-201
19:00-21:00	情報交換会 (任意参加)		大学生協 2 階

* 22:00 初稿提出締切

ファイル名 kagawa1_0307(名前+稿番号+日付)

第 2 日 (2013 年 3 月 8 日・金曜日)

時 刻	内 容	講師・担当者	備 考
9:00-10:00	TP作成作業		教室：6-201
10:00-11:00	第2回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 10:00-10:30 二人目 10:30-11:00	メンター全員	個人ミーティングの部屋へ移動
11:00-12:00	TP作成作業		教室：6-201
12:00-13:00	意見交換 昼食 ・ 第 1 稿に共通するコメントと情報共有 ・ 第 2 稿をまとめるにあたって	北野健一	教室：6-201
13:00-17:00	TP作成作業		教室：6-201

* 22:00 第 2 稿提出締切

ファイル名 kagawa2_0308(名前+稿番号+日付)

第3日(2013年3月9日・土曜日)

時 刻	内 容	講師・担当者	備 考
9:00-10:00	TP作成作業		教室：6-201
10:00-11:00	第3回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 10:00-10:30 二人目 10:30-11:00	メンター全員	個人ミーティングの部屋へ移動
11:00-12:00	TP作成作業		教室：6-201
12:00-13:00	意見交換 昼食 ・第3稿をまとめるにあたって ・TP 披露の形式説明 ・より良いメンターになるためには(ワーク)	香川順子(進行) 北野健一	教室：6-201
13:00-14:00	TP作成作業		教室：6-201
14:00-	プレゼンテーション準備 ・プレゼンテーションの準備(A4 1枚)		教室：6-201
15:00-16:00	TP披露・修了式 ・メンティーによるプレゼンテーション ・FD専門委員会委員長挨拶 ・修了証授与 ・ワークショップを振り返って ・記念写真 ・アンケート	香川順子(進行) FD専門委員会委員長 日置善郎	教室：6-201

* 22:00 第3稿提出締切

【ワークショップ終了後の流れ】

● 第3稿提出〆切

月 日 () : まで

ファイル名 kagawa3_0309(名前+稿番号+日付)

↓

月 日 () までにメンターよりコメント

↓

● 最終稿提出〆切

3月 22(金) 17:00 まで

エビデンスは各自が完成させて報告

ファイル名 kagawa4_0322(名前+稿番号+日付)

5．平成24年度活動報告

（1）FD事業

④「各種FDプログラムの体系化・標準化 に向けた開発，実施」資料

④各種FDプログラムの体系化・標準化に向けた開発，実施

SPODフォーラム2012「授業に活かせる理解と記憶の教育学」

1. 到達目標

- ・理解・記憶について、理論を踏まえて、説明することができる。
- ・自らの授業において理解と記憶を促す授業を設計するアイデアを生み出す。

2. 対象者

より良い授業や研修等を目指している教員・職員・学生ならどなたでも

3. 日 時

平成24年8月23日（木）9：00～10：30

4. 場 所

徳島大学 常三島キャンパス 共通教育4号館 4階 4-404教室

5. 担当講師

佐藤 浩章（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 副室長・准教授）

6. 概 要

新しい教育方法としてアクティブ・ラーニングが推奨されています。しかしながら、単に学生を活動に参加させるだけでは、アクティブ・ラーニングにはなりません。一方、様々な制約から講義法で授業を教えなければならないこともあります。講義法においても、アクティブ・ラーニングを取り入れることは可能です。行動だけではなく思考においてもアクティブに学習させるためには、人間の認知のメカニズムを踏まえた、授業設計を行う必要があります。

本プログラムでは、2011年に実施したSPOD内教員ニーズアンケートでも要望の高かった、「理解と記憶」に関わる心理学等の理論を、どのように授業に活用できるのかを学習します。理解する、記憶する、忘却するとは、どういうことなのか。さらに理解や記憶を促し、忘却させない授業を設計するための工夫について考えます。具体的には、理解に関するレクチャーをベースに適宜ペアワーク、グループワークを入れ込みながら進めていきます。

授業に活かせる理解と記憶の教育学アンケート集計結果

当日参加者数：45名

アンケート回答者数：44名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	33	75.0
② 短期大学	8	18.2
③ 高等専門学校	2	4.5
④ その他 ()	1	2.3
計	44	100.0

その他の記述内容
記述なし

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国（国立大学法人）	14	31.8
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	3	6.8
③ 学校法人	26	59.1
④ その他 ()	1	2.3
計	44	100.0

その他の記述内容
独立行政法人

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	25	56.8
② 北海道	0	0.0
③ 東北	0	0.0
④ 関東	9	20.5
⑤ 中部	3	6.8
⑥ 近畿	2	4.5
⑦ 中国	2	4.5
⑧ 九州・沖縄	3	6.8
計	44	100.0

(4) 職種

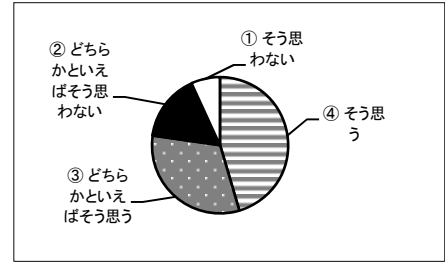
	度数	割合
① 教員	35	79.5
② 職員	8	18.2
③ 学生	1	2.3
④ その他 ()	0	0.0
計	44	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

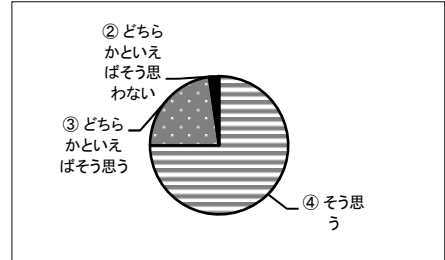
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	20	45.5
③ どちらかといえばそう思う	14	31.8
② どちらかといえばそう思わない	7	15.9
① そう思わない	3	6.8
計	44	100.0



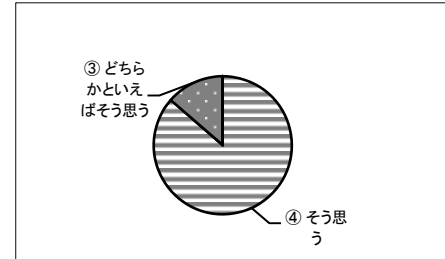
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	33	75.0
③ どちらかといえばそう思う	10	22.7
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



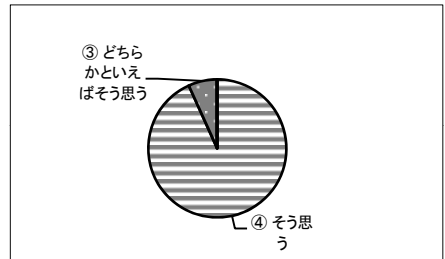
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	38	86.4
③ どちらかといえばそう思う	6	13.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



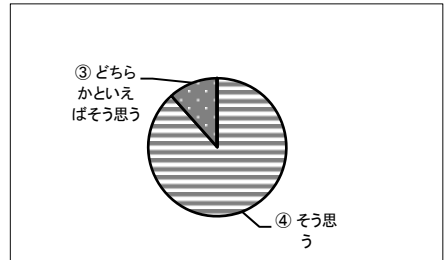
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	41	93.2
③ どちらかといえばそう思う	3	6.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



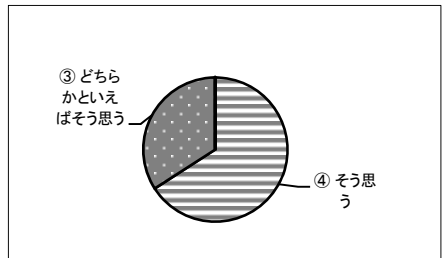
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	38	88.4
③ どちらかといえばそう思う	5	11.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	43	100.0



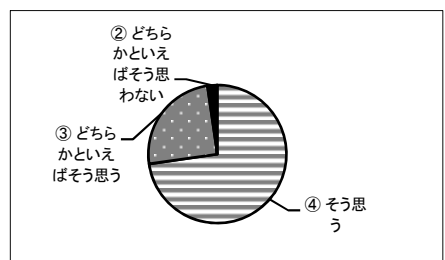
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	29	65.9
③ どちらかといえばそう思う	15	34.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



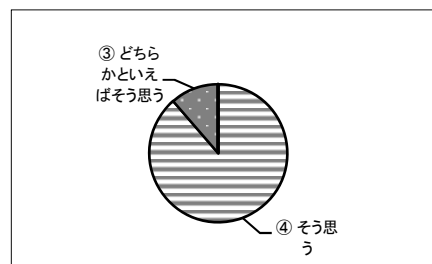
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	32	72.7
③ どちらかといえばそう思う	11	25.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	39	88.6
③ どちらかといえばそう思う	5	11.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 日頃の自分の授業を振り返ることができた。改善したらよい点が分かった。
- 記憶について新しい知識が得られた。
- 自分の知らない知識を多く得ることができた。
- 今後の授業実施に大変参考になるお話でありました。
- いつもながらよく構成され配慮された内容と進め方で、大変参考になりました。
- 改めて授業を見直すことができました。また、先生の語り、講義が参考になりました。ありがとう
- 構造化の大切さはとても参考になった。後期から是非取り入れて授業をしたい。
- 改善への手がかりが多く示されていた。ありがとうございます。
- 他大学の先生方の講義手法を聞くことができた。今後工夫できそうな気がしてきた。
- どのようにして学習者の記憶を充実させることができるかを知ることができた。
- 記憶のメカニズムについて、今まで知らなかった新しい知識をご教示いただき、大変勉強になりました。
- 理解のメカニズムをよく理解できた。自分の授業のやり方を再確認できた。
- 知識を基盤に学習が発展することが分かっているが、なぜゆとり教育にいったのか・・・と疑問を感じた。自分にとっては、授業の中で使ってみたい仕掛けをたくさん気づいた。使ってみた
- 内容でもあるが、この90分の組立そのものが大変参考になりました。ありがとうございました。
- 大変参考になりました。
- 現在の授業で教え方に悩んでいたのも、非常に参考になりました。
- 授業場面を想定しての具体的なレベルの内容でよかった。
- 昨年の要望に沿ったプログラムだったので、とても有意義でした。自信の理論づけ強化に繋がります
- 記憶のメカニズムについての理論について理解することで、今後の授業に活かせるアイデア、注意点に気づくことができて大変良かったです。
- 反省すべき点が多かったこと。
- 体系的に大変分かりやすいお話でした。授業全体、あるいは毎回の内容を図式化して貼り出そうと思います。
- 長期記憶に繋がる分かりやすい授業をするためのポイントが分かった。内容が充実しており、お土産もうれしい。
- 自分の授業の欠点をイヤと言うほど知らされました。
- 体系的かつ具体的に理解と記憶について学ぶことができた。自らの授業を振り返ることができた。他の先生方の取り組みを知れた。どうもありがとうございました。
- 理解と記憶のメカニズムを非常に分かりやすくご説明いただきありがとうございました。既有知との関連づけや精緻化等を行って学生に対する説明を行うときなどに活用できればと思います。
- 「教える」ことを改めて受講者の立場で考え直すことができた。
- 全般的によかった。
- 分かりやすい内容で、且つ（SPOD初参加だったので）すべてが新しい内容だったので刺激的だった
- 普段の自身が実施している講義の進め方を見直す必要があると認識でした。一方的な講義では学生の理解は得られないと感じた。
- 理解と記憶のメカニズムから学習について学ぶことができ、非常に有益でした。ありがとうございます。
- 講義をする上で重要なことが分かった。先生の講義も分かりやすかったです。（さすがと思いました。）
- 自分の授業を見直すよい機会になった。
- 大変参考になりました。
- 職員でも十分に業務に活用できる。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 特にありません。ありがとうございました。
- 時間を半日（2～3時間）に設定して、グループワークの内容をフィードバックするようなワークショップ形式も有効ではないかと感じた。
- とても分かりやすくよかった。
- もう少し時間があつた方がよいと思います。
- 職員だったので、教員向けの本プログラムで直接的に役に立つということは少なかったかもしれませんが、教員に伝えたり、自分の普段の生活の中で役立てたいと思います。
- このような講義は、大学教員にとって、とても大切だと思った。
- 「1. 講義法の意義」のところで、用語の意味するところがよく分からないところがありました。もう少し説明があればありがたかったです。
- もう少し時間枠を伸ばして欲しい。
- 2時間にして、もう少し話す時間などを多くしていただけると良いと思います。
- ワークシートに具体的に記入する作業があればと思いますが、内容を考えると時間的に難しいのかもしれない。
- 特にありません。来年も是非佐藤先生のセミナーを受けたい。
- 職員として参加させていただきましたが、大変に多くの学びがありました。佐藤先生ありがとうございました。

教育系外部資金申請書作成支援セミナー実施要項

～資金を獲得できる申請書づくりのための10のコツ～

1. 実施日

平成25年3月15日（金） 10:00 ～ 12:00

2. 会 場

愛媛大学 城北キャンパス 愛大ミューズ M3 2 番教室

3. 参加対象者

【愛媛大学関係者】愛大 GP 申請書ならびに教育系外部資金申請を作成予定の教職員及び教育コーディネーター（附属学校園を含む）

【SPOD 関係者】教育系外部資金申請書を作成予定の SPOD 加盟校教職員

※同組織から2～4名程度の参加が望ましい。1名でも作業は可能ですが作業負荷が高くなります。

4. 内 容

（1）講義「資金を獲得できる申請書づくりのための10のコツ」（30分）

（2）講義「大学教育改革のトレンドを読む2012-2013」（30分）

（3）オプション・メニュー（60分）

以下のいずれかを選択できます。経験豊富な講師が作業をサポートします。

A：申請書執筆

（個人もしくはグループ作業。申請予定の申請書様式並びにパソコンをご持参ください。）

B：所属組織の教育課題リストアップ

（ブレインストーミングとKJ法によるワークを通して、課題を洗い出します。）

C：申請書のコンサルティング

（すでに申請書を完成された方については事前に送付いただいた上で個別対応します。）

5. 講師・コンサルタント

佐藤浩章（教育企画室副室長／准教授）、山田剛史（教育企画室准教授）、

阿部光伸（教育企画室助教）、仲道雅輝（教育企画室助教）、大竹奈津子（教育企画室助教）

6. 到達目標

- ① 所属学部・学科の教育課題を説明できる。
- ② 国内外の教育改革のトレンドを説明できる。
- ③ 上記課題を基に、愛大GPの取組みを企画できる。
- ④ 申請書づくりのコツを参照しながら、申請書を作成する見通しが持てる。

7. 主 催

愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

8. 本件に関する問い合わせ先

愛媛大学教育学生支援部教育企画課 山内ちあき

電話番号 (089)927-9154 内線番号 8943 kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

5．平成24年度活動報告

（2）SD事業

①「SDプログラムの開発，実施」資料

①SDプログラムの開発，実施

講師養成研修「ビジネスマナー入門編（大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）」 実施要項

1. 目 的

SPOD－SD講師を務める際に必要なスキルを、外部講師が研修時に使用するテキストに沿って学び、習得することを目的とする。

2. 内 容

大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）のうち，ビジネスマナー入門編の研修科目に特化して実施する。

3. 対象者

平成22年度・平成23年度講師養成研修を受講したSPOD加盟校の職員，および，次世代リーダー養成研修の修了者（1期生）

4. 日 時

平成24年5月18日（金）9：00～17：00

5. 場 所

愛媛大学本部4階 第4会議室

6. 日 程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 旅 費

愛媛大学の旅費規則に準じて支給します。

8. 担当講師

株式会社インソース 講師 原 由紀子 氏

9. 受講定員

10名

10. 修了証書

本研修を修了した者には修了証書を交付する。

11. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD），愛媛大学

講師養成研修「ビジネスマナー入門編」 日程表

研修会場：愛媛大学本部第4会議室

	受付	8:40	9:00	9:15	12:00
5月18日 (金) 午前	オリエンテーション				3. 実践ロールプレイング <ロールプレイ/グループワーク> 【手順1】シナリオを考える(作戦タイム約30分間) 「講義」の流れ、「ワーク」の進め方、最後のまとめ方などについて考える 【手順2】講師役の順番を決める 【手順3】講師役が研修を実施する(研修タイム10分間) ★10分間のうち冒頭5分をビデオ撮影(2チームに分かれ、ビデオ2台使用) 【手順4】受講者役が、講師役にフィードバック(フィードバックタイム5分間) 講師役に「よかった点」「改善した方がよい点」をフィードバック 終了後、次の講師役と交代 【手順5】ロールプレイングの振り返り 全員でビデオ確認「よかった点」「改善した方がよい点」をフィードバック 【手順6】ペアで研修実施ロールプレを繰り返し行う
		12:00	13:00		17:00
5月18日 (金) 午後	休憩				4. まとめ 【参考】講師に必要なコミュニケーションスキルを習得する(復習) ■講師として人前で話す力、研修の進め方を講義 (1) 分かりやすい話し方の条件 (2) 内容を考える (3) 姿勢・態度・表情 (4) 声について (5) 間のとり方 (6) 分かりやすい話をするための構成方法 (7) 板書の仕方、指す、指名する (8) 演習の種類と進め方 (9) フィードバックのポイント

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：講師養成研修「ビジネスマナー入門編
(大学人, 社会人としての基礎力養成プログラム (レベル I))」
実施日：平成24年5月18日 (金)

アンケート回答者数：11名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	10	90.9
② 短期大学	1	9.1
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	11	100.0

(2) 所属先の設置者

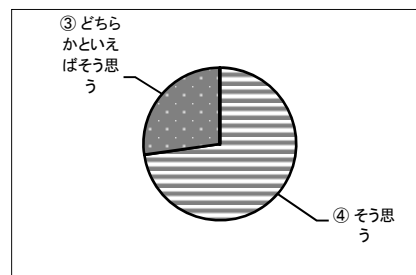
	回答数	割合
① 国 (国立大学法人)	7	63.6
② 地方自治体 (公立大学法人を含む)	0	0.0
③ 学校法人	4	36.4
④ その他 ()	0	0.0
計	11	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。(具体的に) 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

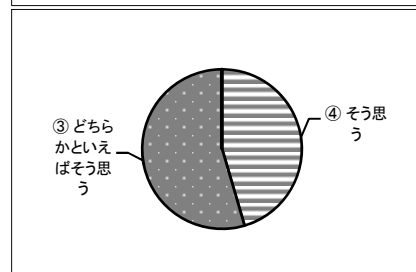
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	8	72.7
③ どちらかといえばそう思う	3	27.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



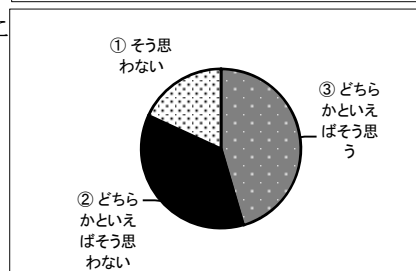
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	5	45.5
③ どちらかといえばそう思う	6	54.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



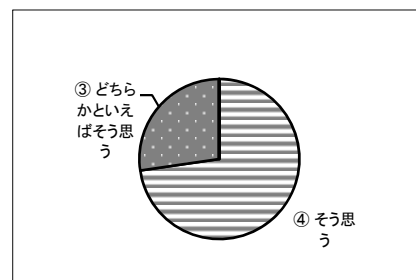
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	0	0.0
③ どちらかといえばそう思う	5	45.5
② どちらかといえばそう思わない	4	36.4
① そう思わない	2	18.2
計	11	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

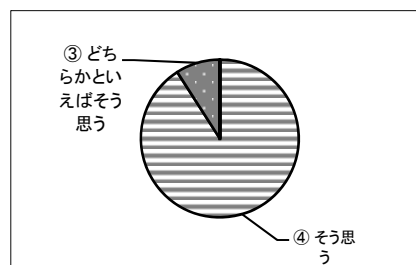
	回答数	割合
④ そう思う	8	72.7
③ どちらかといえばそう思う	3	27.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



3. 研修プログラムの設計について

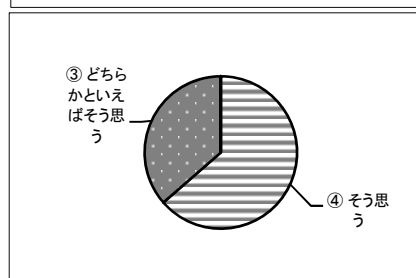
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	10	90.9
③ どちらかといえばそう思う	1	9.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



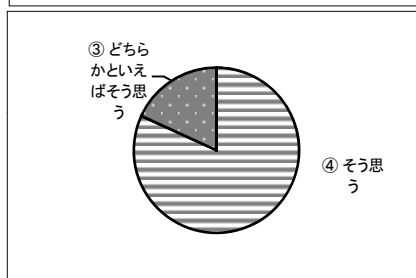
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	7	63.6
③ どちらかといえばそう思う	4	36.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



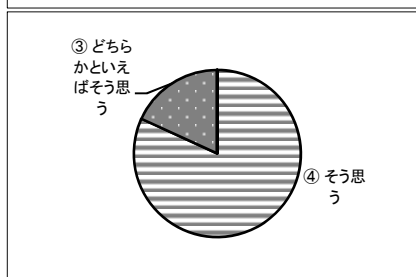
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	9	81.8
③ どちらかといえばそう思う	2	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



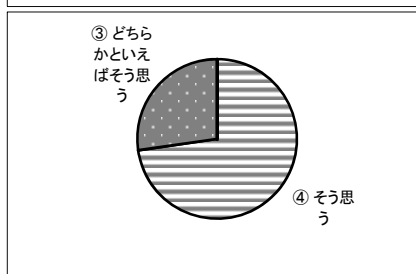
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	9	81.8
③ どちらかといえばそう思う	2	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



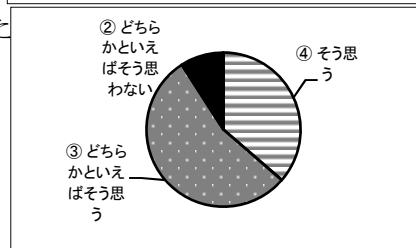
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	8	72.7
③ どちらかといえばそう思う	3	27.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



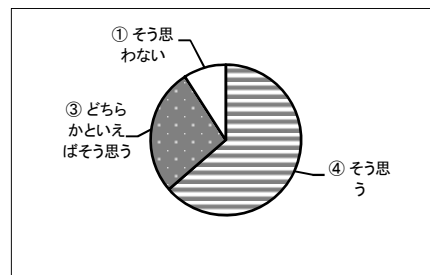
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	4	36.4
③ どちらかといえばそう思う	6	54.5
② どちらかといえばそう思わない	1	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



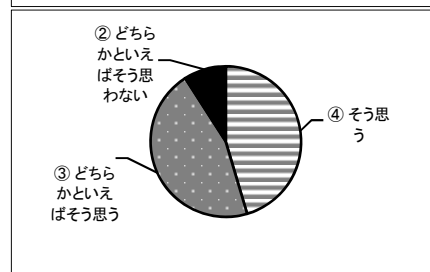
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	7	63.6
③ どちらかといえばそう思う	3	27.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	9.1
計	11	100.0



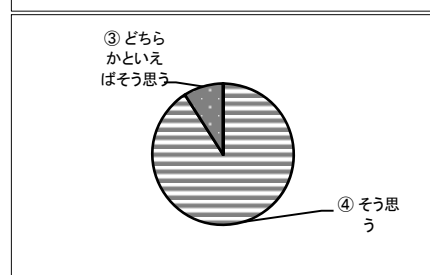
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	5	45.5
③ どちらかといえばそう思う	5	45.5
② どちらかといえばそう思わない	1	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

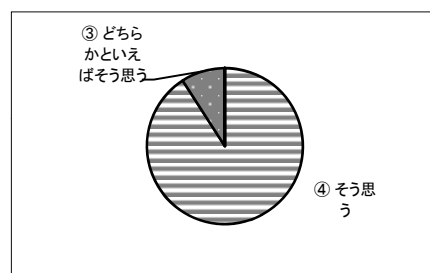
	回答数	割合
④ そう思う	10	90.9
③ どちらかといえばそう思う	1	9.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



4. 研修スタッフについて

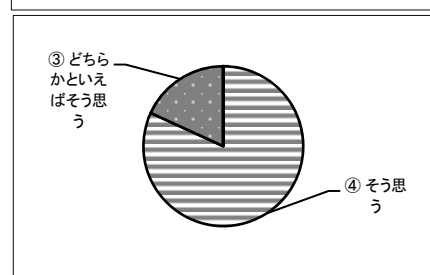
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	10	90.9
③ どちらかといえばそう思う	1	9.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



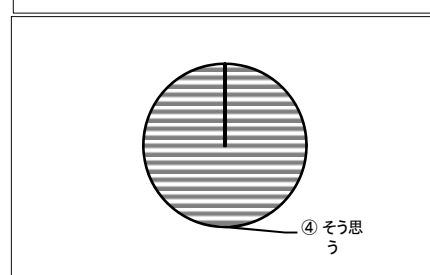
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	9	81.8
③ どちらかといえばそう思う	2	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



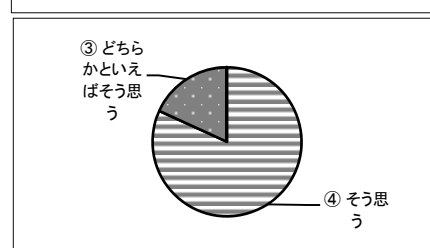
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	11	100.0
③ どちらかといえばそう思う	0	0.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



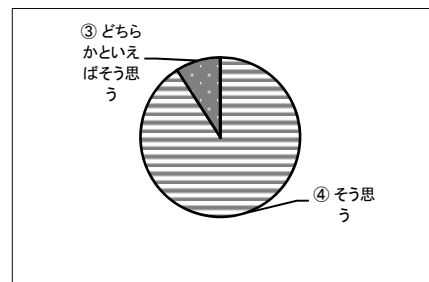
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	9	81.8
③ どちらかといえばそう思う	2	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

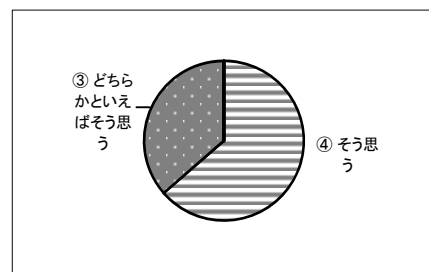
	回答数	割合
④ そう思う	10	90.9
③ どちらかといえばそう思う	1	9.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



5. 研修成果について

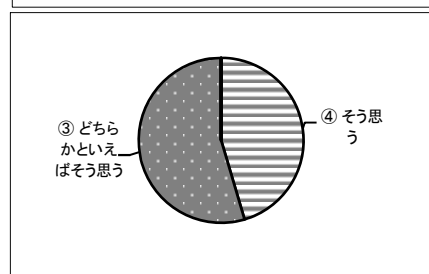
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	7	63.6
③ どちらかといえばそう思う	4	36.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



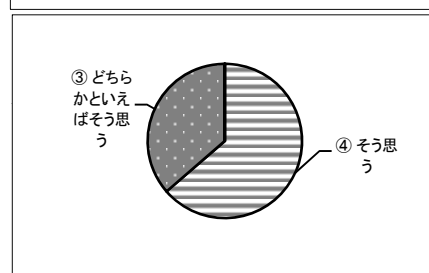
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	5	45.5
③ どちらかといえばそう思う	6	54.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



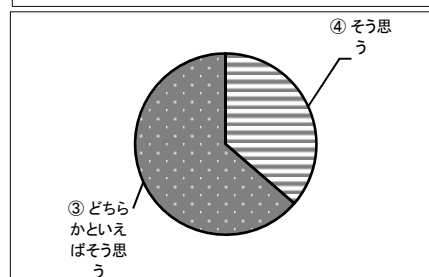
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	7	63.6
③ どちらかといえばそう思う	4	36.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	4	36.4
③ どちらかといえばそう思う	7	63.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



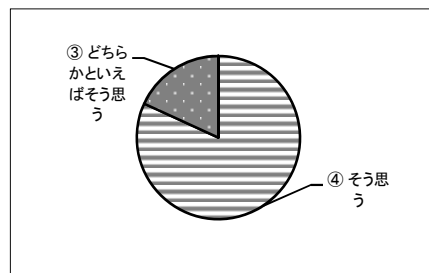
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	9	81.8
③ どちらかといえばそう思う	2	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0

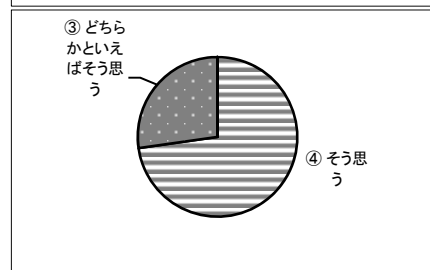
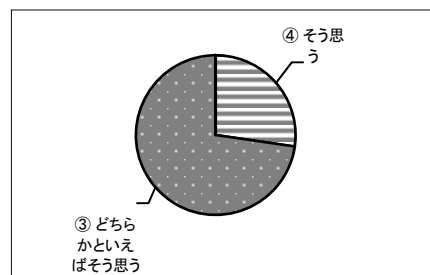


(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	3	27.3
③ どちらかといえばそう思う	8	72.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0

(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	8	72.7
③ どちらかといえばそう思う	3	27.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



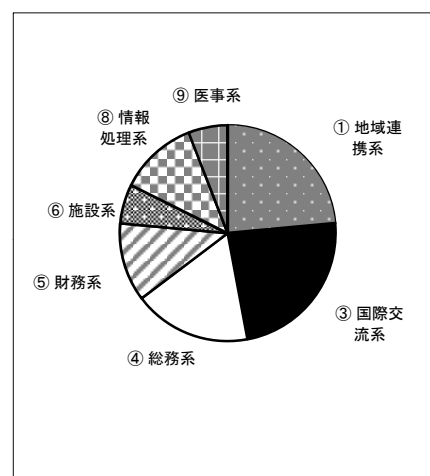
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 地域連携系	4	23.5
② 社会連携系	0	0.0
③ 国際交流系	4	23.5
④ 総務系	3	17.6
⑤ 財務系	2	11.8
⑥ 施設系	1	5.9
⑦ 図書系	0	0.0
⑧ 情報処理系	2	11.8
⑨ 医事系	1	5.9
⑩ その他	0	0.0
計	17	100.0



【自由記述欄】

- 1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)
 - ・ プレゼンテーションスキル
 - ・ 話し方
 - ・ 一般知識
 - ・ 分析力
 - ・ 伝達能力
 - ・ 研修の構成の仕方
 - ・ 大学の置かれている状況 (国の政策レベル)

5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書き下さい。
 - ・ 自分の課題点をたくさん知ることができ、大変有意義だった。(3)
 - ・ プレゼンテーションのスキルについて、理解できた。(2)
 - ・ 人前で話す機会がないため緊張感をもって臨めた。
 - ・ 役立つ内容であった。(特に電話対応, 基礎)
 - ・ 昨年の講師養成プログラムの復習でもあったので非常に分かりやすかった。
 - ・ 今後も勉強を続けていくことの大切さを再認識することができた。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば, 具体的にお書き下さい。
 - ・ プロジェクターが全員で利用できれば良かった。
 - ・ 今回の内容であれば, 1 日半くらいでも良かったのでは。

講師養成研修実施要項

1. 目 的

SPOD加盟校の意欲のある職員に対して、研修講師として必要な心構え、知識、技法を習得させることにより、将来のSPOD－SD講師として育成することを目的とする。

2. 内 容

- (1) 組織内講師の役割を説明することができる
- (2) 教育課題の探索から研修詳細の設計まで考え方と方法を習得する
- (3) 企画した内容を伝達できるインストラクションスキルを習得する

3. 対象者

将来SPOD－SD講師になる意欲のある職員

4. 日 時

平成25年2月6日（水）～2月8日（金）

5. 場 所

愛媛大学校友会館2階 サロン

6. 旅 費

愛媛大学の旅費規則に準じて支給します。

7. 担当講師

株式会社インソース 講師 原 由紀子 氏

8. 受講定員

30名

9. 修了証書

本研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、愛媛大学

講師養成研修日程表

研修会場：愛媛大学校友会館2階 サロン

	9:00	12:00	12:30	13:00	17:00	18:00
第1日目 2月6日 (水)			受付	オリエンテーション	1. 1人1分程度で自己紹介(ビデオ撮影) 2. 「よい研修」の条件を考える <個人ワーク・グループワーク> 3. 研修実施の基本 <講義> 4. プレゼンテーション力を身につける <講義> <個人ワーク・グループワーク> 5. パワーポイント・ホワイトボードの活用による視覚的效果 <講義>	懇親会
第2日目 2月7日 (木)		6. ビデオを見て、自分のプレゼンテーションを知る <ビデオ確認> 7. プレゼンテーション演習 <ロールプレイング>	休憩	8. インストラクションスキルを身につける① <講義> <個人・グループワーク> 9. インストラクションスキルを身につける② <講義> <個人・グループワーク> 10. トップ研修講師のインストラクションテクニック <講義> 11. 実践ロールプレイング <個人ワーク・グループワーク> <ロールプレイング>		
第3日目 2月8日 (金)		12. 実践ロールプレイング【前日の続き】 <個人ワーク・グループワーク> <ロールプレイング> 13. 自分のインストラクションスキルを ブラッシュアップする <個人ワーク>	休憩	14. 実践ロールプレイング ～2回目～ <個人ワーク・グループワーク> <ロールプレイング> 15. 成果発表～1人ずつ(あるいはグループの代表) <全体発表> 16. 3日間のまとめ	修了式	

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：講師養成研修

実施日：平成25年2月6日（水）～2月8日（金）

アンケート回答者数：12名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	12	100.0
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	12	100.0

(2) 所属先の設置者

	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	10	83.3
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	0	0.0
③ 学校法人	2	16.7
④ その他（ ）	0	0.0
計	12	100.0

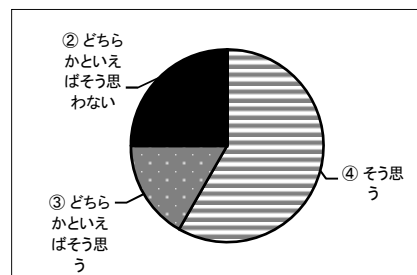
(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）

別紙記載

2. 研修参加への経緯について

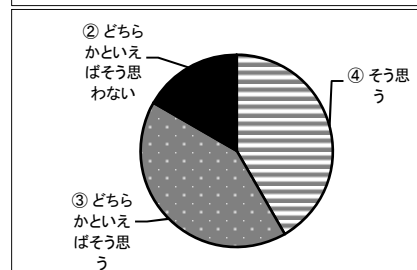
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	7	58.3
③ どちらかといえばそう思う	2	16.7
② どちらかといえばそう思わない	3	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



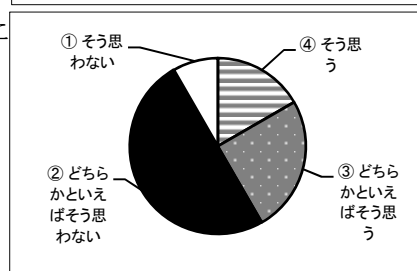
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	5	41.7
③ どちらかといえばそう思う	5	41.7
② どちらかといえばそう思わない	2	16.7
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



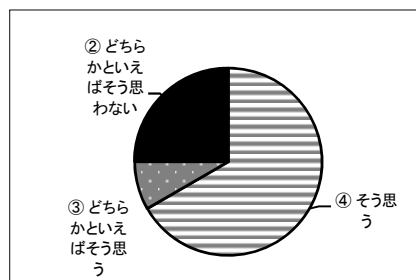
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	2	16.7
③ どちらかといえばそう思う	3	25.0
② どちらかといえばそう思わない	6	50.0
① そう思わない	1	8.3
計	12	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

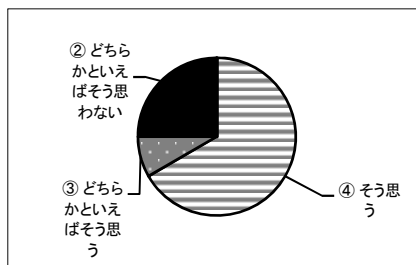
	回答数	割合
④ そう思う	8	66.7
③ どちらかといえばそう思う	1	8.3
② どちらかといえばそう思わない	3	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



3. 研修プログラムの設計について

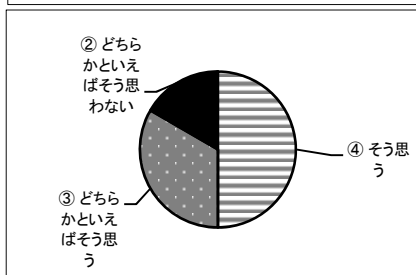
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	8	66.7
③ どちらかといえばそう思う	1	8.3
② どちらかといえばそう思わない	3	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



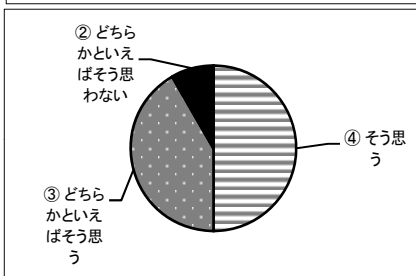
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	6	50.0
③ どちらかといえばそう思う	4	33.3
② どちらかといえばそう思わない	2	16.7
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



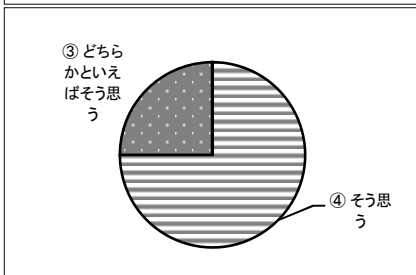
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	6	50.0
③ どちらかといえばそう思う	5	41.7
② どちらかといえばそう思わない	1	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



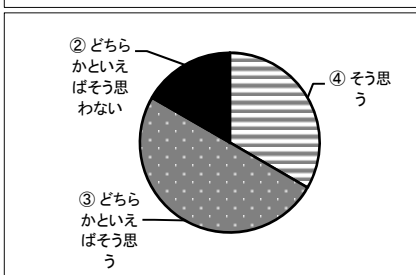
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	9	75.0
③ どちらかといえばそう思う	3	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



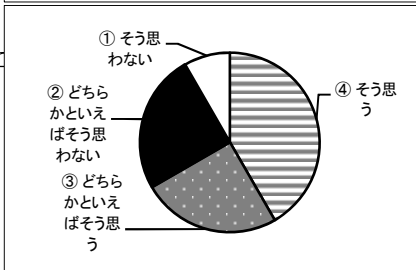
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	4	33.3
③ どちらかといえばそう思う	6	50.0
② どちらかといえばそう思わない	2	16.7
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



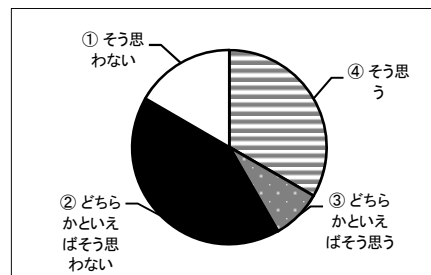
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	5	41.7
③ どちらかといえばそう思う	3	25.0
② どちらかといえばそう思わない	3	25.0
① そう思わない	1	8.3
計	12	100.0



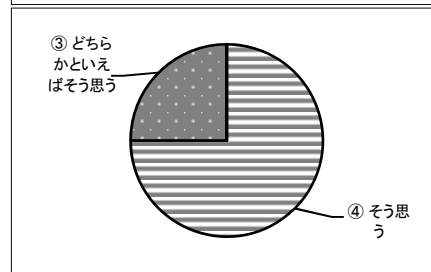
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	4	33.3
③ どちらかといえばそう思う	1	8.3
② どちらかといえばそう思わない	5	41.7
① そう思わない	2	16.7
計	12	100.0



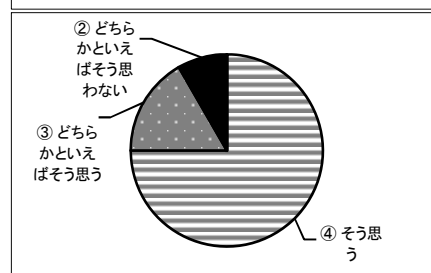
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	9	75.0
③ どちらかといえばそう思う	3	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

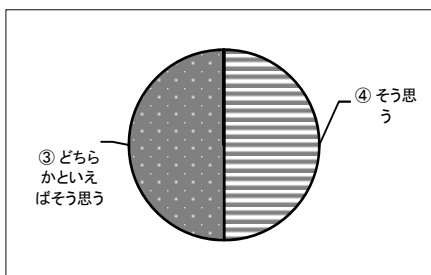
	回答数	割合
④ そう思う	9	75.0
③ どちらかといえばそう思う	2	16.7
② どちらかといえばそう思わない	1	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



4. 研修スタッフについて

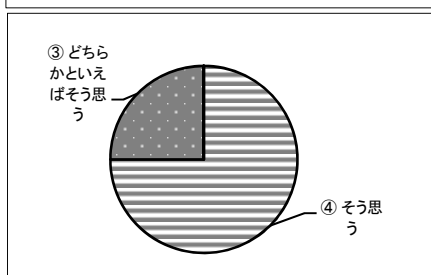
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	6	50.0
③ どちらかといえばそう思う	6	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



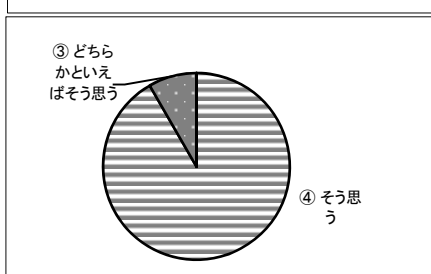
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	9	75.0
③ どちらかといえばそう思う	3	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



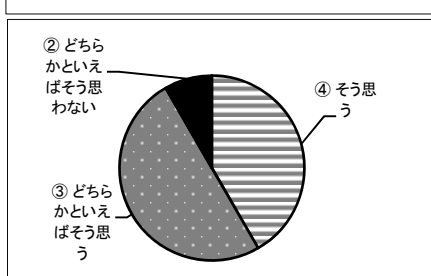
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	11	100.0
③ どちらかといえばそう思う	1	5.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	105.9



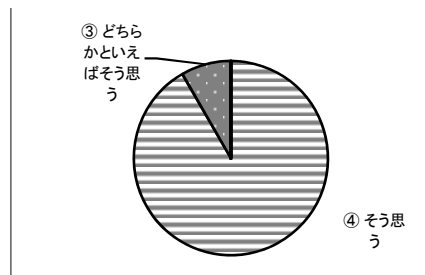
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	5	41.7
③ どちらかといえばそう思う	6	50.0
② どちらかといえばそう思わない	1	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

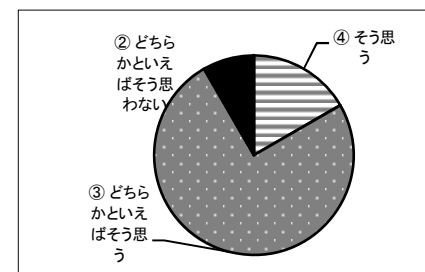
	回答数	割合
④ そう思う	11	91.7
③ どちらかといえばそう思う	1	8.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



5. 研修成果について

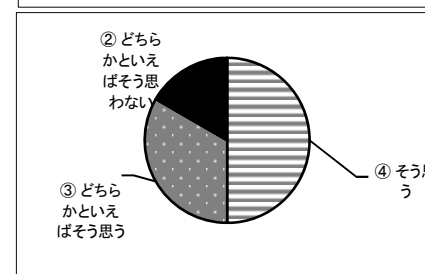
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	2	16.7
③ どちらかといえばそう思う	9	75.0
② どちらかといえばそう思わない	1	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



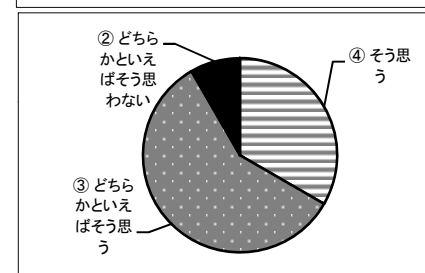
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	6	54.5
③ どちらかといえばそう思う	4	36.4
② どちらかといえばそう思わない	2	11.8
① そう思わない	0	0.0
計	12	102.7



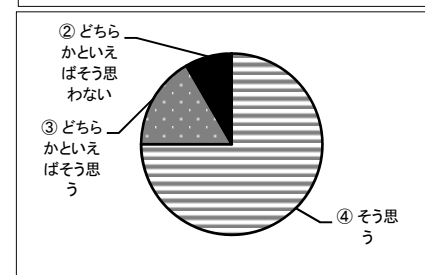
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	4	33.3
③ どちらかといえばそう思う	7	58.3
② どちらかといえばそう思わない	1	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	9	75.0
③ どちらかといえばそう思う	2	16.7
② どちらかといえばそう思わない	1	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	12	100.0



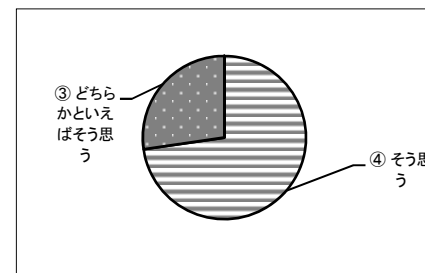
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

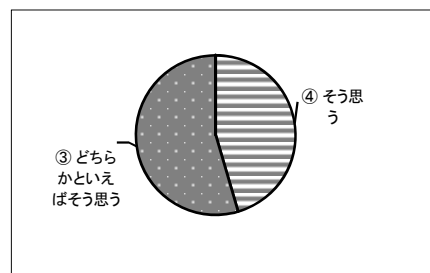
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	8	72.7
③ どちらかといえばそう思う	3	27.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



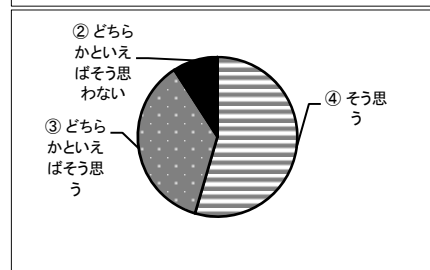
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	5	45.5
③ どちらかといえばそう思う	6	54.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	6	54.5
③ どちらかといえばそう思う	4	36.4
② どちらかといえばそう思わない	1	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	11	100.0



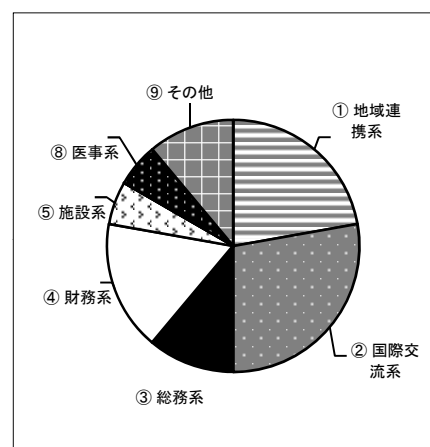
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 地域連携系	4	22.2
② 国際交流系	5	27.8
③ 総務系	2	11.1
④ 財務系	3	16.7
⑤ 施設系	1	5.6
⑥ 図書系	0	0.0
⑦ 情報処理系	0	0.0
⑧ 医事系	1	5.6
⑨ その他	2	11.1
計	18	100.0



【自由記述欄】

- 1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)
- ・ 今回の研修のテーマとなった知識全般
(ビジネスマナー, コミュニケーション, ビジネス文書)
 - ・ ITスキル
 - ・ プレゼンテーションソフトの使い方に関するスキル
 - ・ パソコン (エクセル, パワーポイント)
 - ・ 知財関係
 - ・ インストラクションスキル全般
 - ・ プレゼン方法
 - ・ モチベーションが上がる組織作り
 - ・ 原稿を見ずにいかに長く話することができるか。
 - ・ 構成力
 - ・ 学生相談におけるコミュニケーション・スキル
 - ・ 学生相談におけるカウンセリング・スキル
 - ・ メンタルヘルス
5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書き下さい。
- ・ 日頃したことのないことを実施することができた。
 - ・ プレゼンテーションの理論の部分の勉強できたこと。
 - ・ これまで断片的でしかなかった知識が少し体系化された。
 - ・ 説明の組立て方が学べた。
 - ・ 短時間にまとめ, 伝えることを体験できた。
 - ・ 業務に活かせる要素が多く良かった。
 - ・ 講師の適切なアドバイスのおかげで, よく理解できた。
 - ・ 今までやっていたことを見直してみるきっかけができて良かったと思います。
 - ・ 自分自身の問題点を再確認できた。
 - ・ 自分の悪いところがたくさん見つかりました。
 - ・ 講師の立場で物事が見えた。
 - ・ 意欲がわいたので, 少し頑張ってみます。
 - ・ みなさんの会話力 (説明力) は, とてもレベルが高いと痛感した。
 - ・ 意欲的な方々と知り合えて, とても刺激になった。
 - ・ 受講者とのつながりが持てた。
6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば, 具体的にお書き下さい。
- ・ 開催時期がもう少し早ければ, その年度での研修 (自分が講師となつての研修) にいかせたと思います。
 - ・ 一度限りではなく, 複数回実施していただきたいです。
 - ・ 時期的な調整 (時期) が必要
 - ・ 実施時期が11月くらいで, 2日間のコースだとより参加しやすく良かったように思います。(業務の調整等が容易ではないため)
 - ・ 研修に出やすい環境 (本当に参加したい人のため)
 - ・ どのような課題があるのか事前に分かっていた方がやりやすいかもしれません。
 - ・ 教材の数が多いため, 番号や記号を付けてわかりやすくしてほしい。
 - ・ 参加者の皆さまともう少し知り合える時間があれば良いと思う。
 - ・ 採用間もない職員も適正に応じて受講してよいと思う。

平成24年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）
実 施 要 項

1. 目 的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内 容

大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）のうち，5つの研修科目を実施する。

- ・コミュニケーション入門
- ・ビジネスマナー入門
- ・プレゼンテーション入門
- ・職員キャリア形成入門
- ・リーダーシップ入門

3. 対象者

係員相当級の職員

4. 期 間

平成24年10月17日（水）～10月19日（金）

5. 場 所

愛媛大学校友会館 2階サロン

6. 日 程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	助教	大竹奈津子
愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	阿部 光伸
愛媛大学	教育学生支援部	部長	米澤 慎二 他

8. 受講定員

30名

9. 受講証明書

研修を修了した者には受講証明書を交付する。

10. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD），愛媛大学

平成24年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修日程表

研修会場：愛媛大学校友会館2階サロ

	9:00	10:30	12:00	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	16:00	17:15	17:30	18:30		
第1日目 10月17日 (水)				受付	開講式・オリエンテーション	【コミュニケーション入門】 1 コミュニケーションの基本 2 「きく」の意味 3 「聴く」スキル＝「傾聴力」のポイント 4 「訊く」スキル＝「質問力」のポイント 【愛媛大学 久保 秀二, 兒玉 直子】								懇親会
第2日目 10月18日 (木)		【ビジネスマナー入門 1】 1 ビジネス文書とは ～基礎知識 2 ビジネス文書作成時のポイント 3 文書作成時のポイント ～構造編 【聖カタリナ大学 玉岡 兼治】	【ビジネスマナー入門 2】 1 ビジネスマナーの基本 2 来客対応のマナー 【徳島文理大学 藤巻 晃】	休憩	【ビジネスマナー入門 2】 3 電話対応のマナー 【徳島文理大学 藤巻 晃】	【プレゼンテーション入門】 1 プレゼンテーションの前に 2 プレゼンテーションの基礎 3 話す内容を検討する 4 「話すスキル」 5 総合演習 【愛媛大学 谷中 恭伸】								
第3日目 10月19日 (金)		【職員キャリア形成入門】 1. 今まで振り返って多面的に考える自分の仕事 2. 自己を理解する 3. これからを考える ～次の2年, 10年を主体的に生きる 4. 明日から働こう ～自分の目標設定とアクションプラン作成 【愛媛大学 大竹 奈津子, 阿部 光伸】	休憩	【リーダーシップ入門】 1. リーダーとは 2. 立場を変えてつきつめて考える仕事 3. 指導・教育のポイント 4. 業務改善・目標管理 【愛媛大学 米澤 慎二, 岸岡 洋介】							閉講式			

※研修スケジュールは，進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成24年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）
 実施日：平成24年10月17日（水）～10月19日（金）
 実施会場：愛媛大学校友会館2階（サロン）
 アンケート回答者数：44名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	42	93.3
② 短期大学	1	2.2
③ 高等専門学校	2	4.4
④ その他（ ）	0	0.0
計	45	100.0

(2) 所属先の設置者

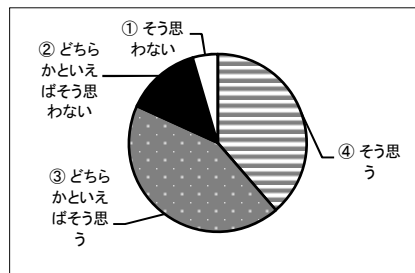
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	38	86.4
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	1	2.3
③ 学校法人	5	11.4
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	44	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に） 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

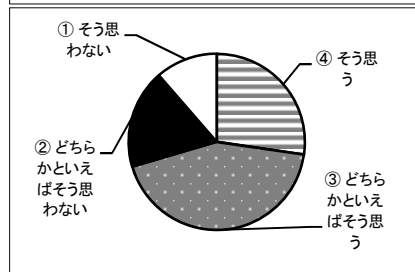
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	17	38.6
③ どちらかといえばそう思う	19	43.2
② どちらかといえばそう思わない	6	13.6
① そう思わない	2	4.5
計	44	100.0



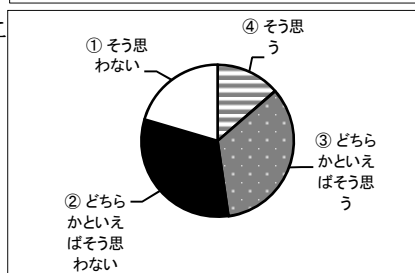
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	12	27.3
③ どちらかといえばそう思う	19	43.2
② どちらかといえばそう思わない	8	18.2
① そう思わない	5	11.4
計	44	100.0



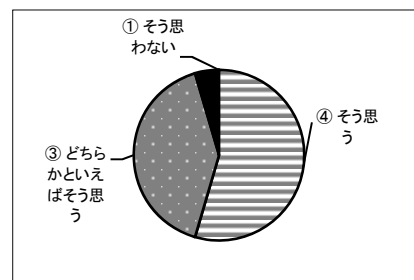
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	6	13.6
③ どちらかといえばそう思う	15	34.1
② どちらかといえばそう思わない	14	31.8
① そう思わない	9	20.5
計	44	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

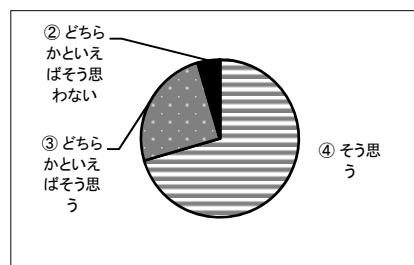
	回答数	割合
④ そう思う	24	54.5
③ どちらかといえばそう思う	18	40.9
② どちらかといえばそう思わない	2	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



3. 研修プログラムの設計について

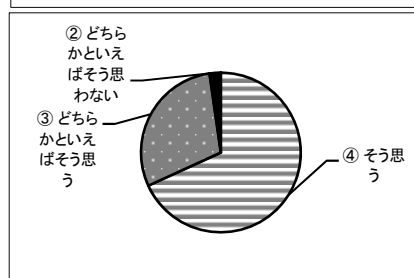
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	31	70.5
③ どちらかといえばそう思う	11	25.0
② どちらかといえばそう思わない	2	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



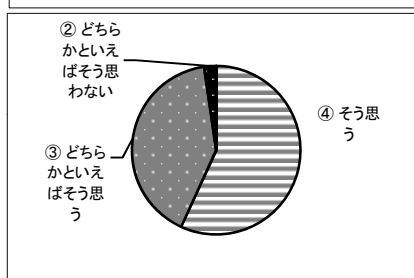
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	30	68.2
③ どちらかといえばそう思う	13	29.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



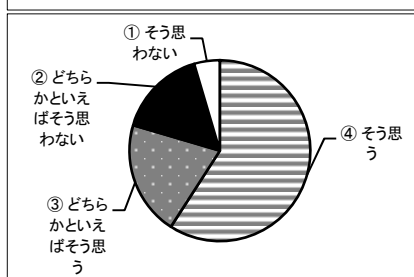
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	25	56.8
③ どちらかといえばそう思う	18	40.9
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



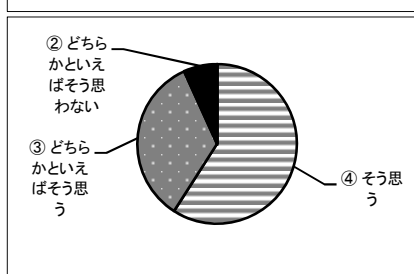
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	26	59.1
③ どちらかといえばそう思う	9	20.5
② どちらかといえばそう思わない	7	15.9
① そう思わない	2	4.5
計	44	100.0



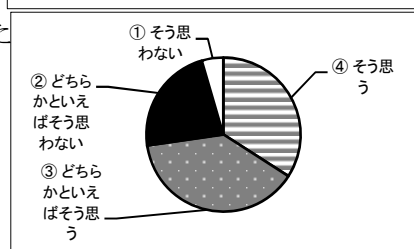
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	26	59.1
③ どちらかといえばそう思う	15	34.1
② どちらかといえばそう思わない	3	6.8
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



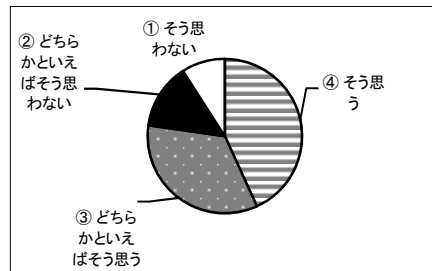
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	15	34.1
③ どちらかといえばそう思う	17	38.6
② どちらかといえばそう思わない	10	22.7
① そう思わない	2	4.5
計	44	100.0



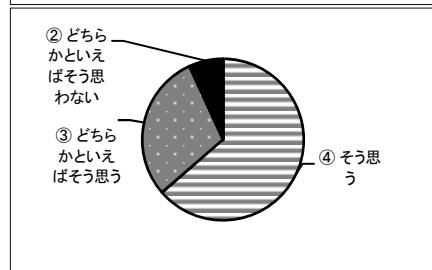
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	19	43.2
③ どちらかといえばそう思う	15	34.1
② どちらかといえばそう思わない	6	13.6
① そう思わない	4	9.1
計	44	100.0



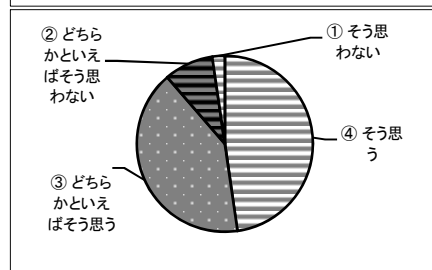
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	28	63.6
③ どちらかといえばそう思う	13	29.5
② どちらかといえばそう思わない	3	6.8
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

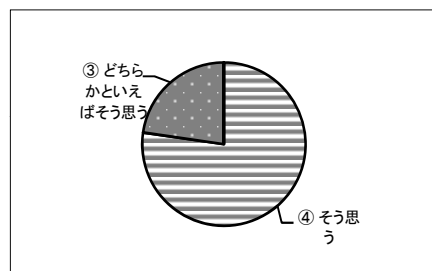
	回答数	割合
④ そう思う	21	47.7
③ どちらかといえばそう思う	18	40.9
② どちらかといえばそう思わない	4	9.1
① そう思わない	1	2.3
計	44	100.0



4. 研修スタッフについて

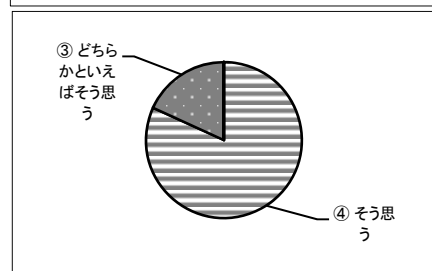
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	34	77.3
③ どちらかといえばそう思う	10	22.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



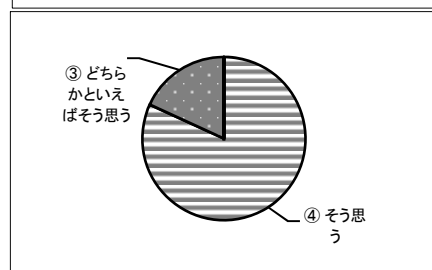
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	36	81.8
③ どちらかといえばそう思う	8	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



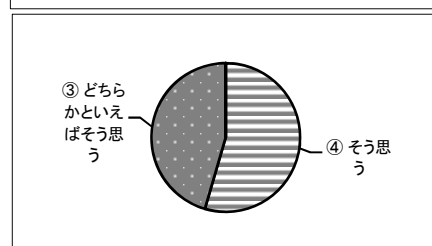
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	36	81.8
③ どちらかといえばそう思う	8	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



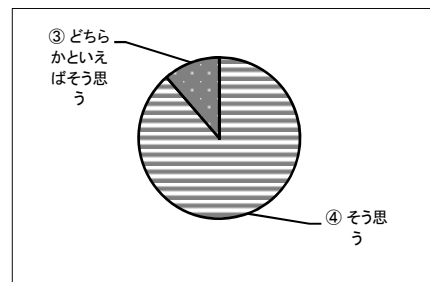
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	24	54.5
③ どちらかといえばそう思う	20	45.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

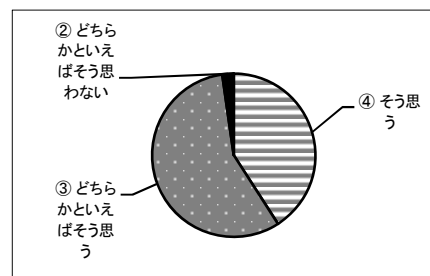
	回答数	割合
④ そう思う	39	88.6
③ どちらかといえばそう思う	5	11.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



5. 研修成果について

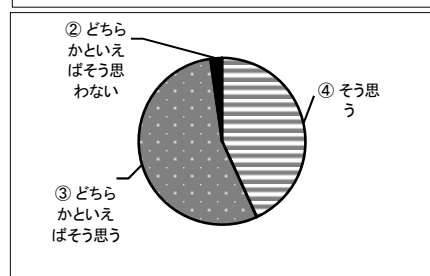
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	18	40.9
③ どちらかといえばそう思う	25	56.8
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



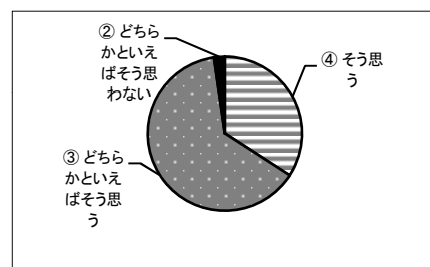
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	19	43.2
③ どちらかといえばそう思う	24	54.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



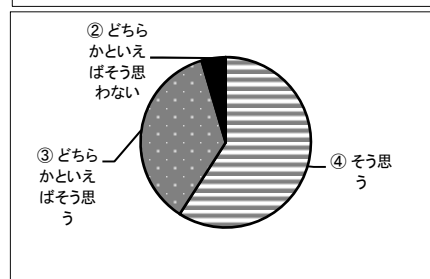
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	15	34.1
③ どちらかといえばそう思う	28	63.6
② どちらかといえばそう思わない	1	2.3
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	26	59.1
③ どちらかといえばそう思う	16	36.4
② どちらかといえばそう思わない	2	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



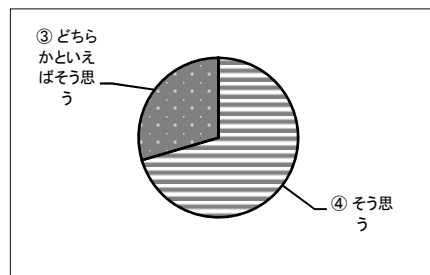
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

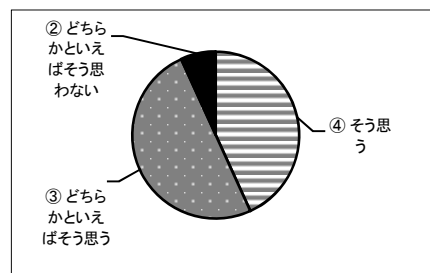
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	31	70.5
③ どちらかといえばそう思う	13	29.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



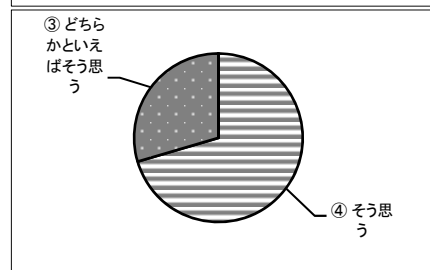
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	19	43.2
③ どちらかといえばそう思う	22	50.0
② どちらかといえばそう思わない	3	6.8
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	31	70.5
③ どちらかといえばそう思う	13	29.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	44	100.0



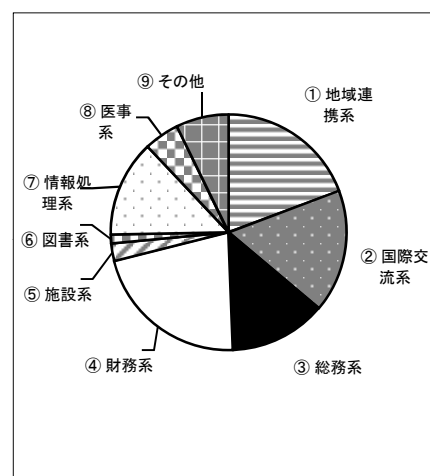
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 地域連携系	16	19.3
② 国際交流系	14	16.9
③ 総務系	11	13.3
④ 財務系	18	21.7
⑤ 施設系	2	2.4
⑥ 図書系	1	1.2
⑦ 情報処理系	11	13.3
⑧ 医事系	4	4.8
⑨ その他	6	7.2
計	83	100.0



その他の記述内容

- ・ 人事・労務
- ・ HP作成入門・パワーポイント・イラストレーター等
- ・ カウンセラー
- ・ 法律・規則の解釈
- ・ 大学全入時代に入り、どのように各大学が生き残っていくか
- ・ 人事系

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ コミュニケーション能力 (13)
(相手や手段に応じた言葉遣いや態度等, 特に上司と)
- ・ プレゼンテーション能力 (12)
(話の組み立て方, 要点のまとめ方, 作成・発表スキル, 人にわかりやすく説明する能力, 時間内に内容をまとめて把握し, それを自分の表現で伝える)
- ・ ビジネスマナー (8)
(敬語, 電話応対, メモのとり方, 窓口マナー, など)
- ・ パソコンスキル (6)
(Word, Excel, PowerPoint, Access, イラストレーター, ホームページ作成, 情報処理能力)
- ・ ビジネス文書作成力 (5)
- ・ リーダーシップ (3)
- ・ 説明力 (3) (上司や先輩に分かりやすく業務の報告や説明をするときに必要)
- ・ 傾聴力 (2)
- ・ フォロワーシップ (2)
- ・ 話す力 (2)
- ・ 調べる力 (2)
- ・ 対話力 (自分の意見をしっかり要点を押さえ, 相手に伝わるように話すこと)
- ・ 弁論力
- ・ 英語力
- ・ 計画を立てて取り組む力
- ・ 積極的に意見を出す力
- ・ 仕切る力
- ・ 人間力
- ・ 論理的に考える力
- ・ 上手に頼める力
- ・ 意見調整能力
- ・ 基礎的な研修全般
- ・ 会計などの数字を見るスキル
- ・ 大学職員としての知識
- ・ 大学に関する知識
- ・ 人を知ること
- ・ 社会の状況を知る力
- ・ 自分の状況を把握する力
- ・ 係員・係長のチームでの仕事がうまくいく様, ほうれんそうを徹底する。
- ・ 業務知識を増やす。
- ・ マナーを含めて, 誤っていた点に多く気付かされた。自分は雑だったと実感できた。
- ・ 広い視野
- ・ 大学・課の方針を意識して仕事する
- ・ 主体的に考えて動くこと

- ・ 学生，先生への対応の仕方について
- ・ ミスを減らす慎重さ
- ・ キャリアについて考える

5. 受講して良かったと思われる点を，具体的にお書き下さい。

- ・ 他大学職員との交流機会（14）
- ・ ビジネスマナー，コミュニケーションの重要性を再確認できた。（4）
- ・ 自分にはない意見を共有することができたこと。（3）
- ・ 今さら人には聞けない一般常識（マナーや文書作成）を学べた。（2）
- ・ 文書の作成について，議事録の書き方等，大変勉強になりました。（2）
- ・ 普段の自分を振り返る機会になってよかった。（2）
- ・ 他大学の同世代の職員の方の考えを知ることができた。（2）
- ・ 第一印象の大切さを実感しました。
- ・ 現在自分のしている仕事（電話対応や窓口対応）の改善すべき点がはっきりと分かった。
多種多様に渡るスキル・知識を享受できたこと。
- ・ 知識はいろいろと教えてもらえたので，後は自分次第で身につくかどうかが決まると
思います。出来るだけ努力しようと思っています。
- ・ 講師の方の説明は，すごく分かりやすかった。
- ・ ストレッチ，良かったと思います。
- ・ 実践レベルでの研修ができたので，仕事で役立つと思う。
- ・ 今後仕事をしていく上でのモチベーションが上がった。

【グループワークについて】

- ・ グループワークが中心だったので，他大学（高専）の人とも関わることができ，仕事の
内容に関わらず，よい考えを教えてもらえた。
- ・ ワークが多く，理論でわかっている，行動は難しいという実感が得られた。
- ・ グループが入れ替わることにより，役割が変わるので良かった。
- ・ 話すのが苦手だが，そんな中，話す機会がたくさんあったから。
- ・ 発表する（自分の考えを述べる）ことが多く，この3日間で話すことに苦手意識が薄く
なったと思う。
- ・ 人前で自分の意見を述べられる力を養えた。

【プレゼンテーションについて】

- ・ プレゼンの方法を学べた点
- ・ プレゼンテーション入門を受講して，心が開きました。
- ・ プレゼンテーションで人に分かりやすく伝えるにはどうすべきか，考えるきっかけにな
った。
- ・ 人前で話す度胸が少しついた。
- ・ プレゼン，グループワークの機会はルーチンワークには少ないため，自分のスキルアッ
プの良い経験になった。
- ・ プレゼン等普段の仕事において使えるようなテクニックがあって良かった。
- ・ 人前で話す難しさと，自分のスキルの無さに気づくことができたこと。
- ・ プレゼンテーション時の評価をしてもらうことはなかなかないので，早い時期に自己の

改善点を知れたこと。

【キャリアについて】

- ・ 今まで仕事をしてきた中での良かった点、悪かった点を発見できた。自分のキャリア形成について考える良い機会になった。
 - ・ 自分のキャリアを振り返り、自分の目指す場所を認識することができたこと。明日からすぐに行動を変えてゆけるという希望が湧いているので、参加して良かった。
 - ・ 自分に不足している点がたくさんあることを再確認でき、改善していこうと思えたこと。
 - ・ 明日から即実践出来ることを教えて頂き、業務に活かしていきたいと思いました。
 - ・ 社会人として身に付けるべきマナーを学べただけでなく、自分が大学職員になろうと思ったきっかけ等自分を見直す良い機会となった。
 - ・ 自己分析をする事が出来た。
 - ・ 社会人や大学人の基礎もちろん知ることができたが、自分自身についてもよくわかりました。強みは伸ばし、弱点も改善できると知ってモチベーションが上がりました。
 - ・ 何が自分に足りていないかわかった。
 - ・ 自分の弱い部分を再確認できた。これから少しでも改善できるよう意識していきたい。
 - ・ 普段の業務の中では気づけなかった、苦手なことなどが露骨に表れて良かった。改善するように努力したいと思った。
6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
- ・ 予想を超える人数だということで、教室が狭かった点だけ、少し気になった。参加して良かったです。ありがとうございました。
 - ・ 作業テーブルをもっと大きく（もう1回りほど）していただけたら、よりグループワークがしやすかったような気がします。（ちょっとグラグラしていて、書きづらかった）
 - ・ 机の位置が、少し良くなかった気がする。斜めに配置されると、逆に体が疲れる気がした。
 - ・ グループでプレゼンする時に、隣のグループとのスペースが狭かった。
 - ・ 部屋が少し狭く思った。また、となりが学長室かと思うと、気をつかった。
 - ・ 日光が当たっている人がいて、気の毒だった。
 - ・ あまり関係ないかもしれないのですが、窓際の席がすごく寒かったです。
 - ・ 最終日は移動時間を考慮して、午後までが良い。
（徳島の人達は帰宅が22時頃になるそうです。）
 - ・ 内容的には、入社後1～3ヶ月以内には学びたかったというものが多かった。特にマナーやコミュニケーションなどは早期に勉強しておくべき内容。
 - ・ 休憩の回数をもう少し増やしたら、受講者の集中力が続くと思います。
 - ・ 内容はとてもよかったが、連続で3日間は少しつらかった。
 - ・ 職員の方が講師をされているので、もっと経験談とかも交えてほしかった。
 - ・ 講義のフィードバックをすれば、細かい点が改善できるのではないかな？
 - ・ 柔軟な発想と独自の工夫を期待したい。（1～2分計るのにタイマーを使用する必要があるのか？腕時計で十分では？何度も導入にアイスブレイクを行う必要があるのか？）
 - ・ 時々、指示を理解できない（ついていけない）時があったので、指示は2・3回言って頂けた方がありがたかったです。
 - ・ プレゼンテーションやキャリアについての講義は、もっと時間が欲しかったです。
 - ・ グループワークにもう少し時間をかけたい。

- ・ 研修の資料を持ち帰る入れ物があつたらいいなあと思いました。
- ・ 配付資料が多すぎる気がしたので、もう少し少量にまとめていただけると助かります。
- ・ 基礎として身に付けるべき能力であるので、少しですが物足り無さもありました。
- ・ ストレッチよりもおもしろい話をして欲しかった。
- ・ アンケート用紙が初日に配られたので、探す手間がなくなるよう最終日に配っていただければ、有難いと思います。
- ・ 懇親会は大学内が良いかなと思いました。
- ・ 講師の方々、及び事務局の方々の対応は完璧だったと思います。ありがとうございました。
- ・ 今回参加し、ワークが多く、他大学の人と協力して何かを作り上げる作業を行えたので、とても良い機会になりました。ありがとうございました。
- ・ ストレッチは、全体でやった方がやりやすいので、良かったと思います。
- ・ グループワークや実践が多く、非常にわかりやすく満足しています。
- ・ 内容はとても素晴らしいものだったと思う。
- ・ これからの自分のスキルアップ、人生をよりよくするのに良いきっかけとなる知識を得られたと思います。後は自分次第ですが、1つずつ変えていきたいです。

平成24年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）
実施要項

1. 目 的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内 容

大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）のうち，1つの研修科目を実施する。

・情報科学応用編「Access」

（Microsoft Office Access 2010の活用方法を，パソコンを用いた演習を交えて習得します。）

3. 対象者

OA事務中級職員（業務で多数のExcel形式の表，データや帳票等を使用している方），職位不問

4. 期 間

平成24年9月13日（木）～9月14日（金）

5. 場 所

愛媛大学総合情報メディアセンター4階（第6演習室）

6. 日 程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

Winスクール 黒田 伸仁 氏

Winスクール 陣内 恭子 氏

8. 受講定員

30名（定員に達し次第，締切らせていただきます。）

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD），愛媛大学

平成24年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ) 日程表

研修会場：愛媛大学総合情報メディアセンター4階(第6演習室)

講師： Winスクール 黒田 伸仁 氏

講師： Winスクール 陣内 恭子 氏

	8:40 9:00	12:00 13:00	17:00 18:30	
9月13日 (木)	【情報科学応用編:Access】 1. データベースとテーブルを作成できる Accessの基礎知識／データベースの設計／テーブルの作成 フィールドの設定／データ型／オートナンバー型／データのインポート／ テーブルのフィルタ機能／リレーションシップについて 2. クエリによるデータの加工ができる クエリの概要／クエリのビュー／クエリの作成・利用について／ 並び替え／演算フィールド 3. フォームの作成と編集ができる フォームの概要／フォームの作成・利用／フォームウィザード／ コントロールのサイズ変更・移動／コントロールの書式設定	休 憩	【情報科学応用編:Access】 4. クエリによるデータの抽出と集計ができる データの抽出／複合条件(AND・OR条件)／パラメータクエリ／ 比較演算子の利用／データの集計／Where条件の設定 5. レポートを作成できる レポートの概要／目的のレポートを作成する方法／ レポートウィザード／レポートの印刷／ 宛名ラベルウィザードを用いたのラベル作成 6. 便利な機能1 オブジェクトの依存関係	懇親会
9月14日 (金)	【情報科学応用編:Access】 7. テーブルを活用し、リレーションシップの定義ができる テーブルの構成／フィールドプロパティの設定／ リレーションシップの作成／手動結合と自動結合／参照整合性の確認 8. クエリの活用と編集ができる 関数の利用／クエリの結合方法と集計について／ アクションクエリ(削除クエリ・追加クエリ・更新クエリ) 9. フォームの活用と編集ができる フォームコントロールの作成／コンボボックス／リストボックス／ タブオーダーの設定／メイン・サブフォームについて	休 憩	【情報科学応用編:Access】 10. レポートの活用と編集ができる レポートのレイアウト変更／メイン・サブレポートの作成／ コントロールの書式設定／演算コントロール 11. マクロの作成と編集ができる マクロの基礎からマクロを利用したメインパネルを作成 12. 便利な機能2 ハイパーリンクの設定／条件付き書式／データのエクスポート／ データベースの最適化／バックアップ／セキュリティ	閉 講 式

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成24年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）
 実施日：平成24年9月13日（木）～9月14日（金）
 実施会場：愛媛大学総合情報メディアセンター4階（第6演習室）
 アンケート回答者数：40名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	37	92.5
② 短期大学	1	2.5
③ 高等専門学校	1	2.5
④ その他（ ）	1	2.5
計	40	100.0

(2) 所属先の設置者

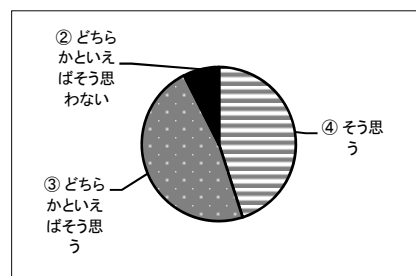
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	30	75.0
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	5	12.5
③ 学校法人	4	10.0
④ その他（独立行政法人）	1	2.5
計	40	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に） 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

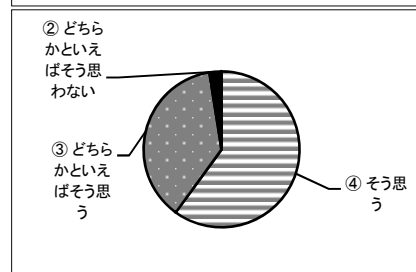
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	18	45.0
③ どちらかといえばそう思う	19	47.5
② どちらかといえばそう思わない	3	7.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



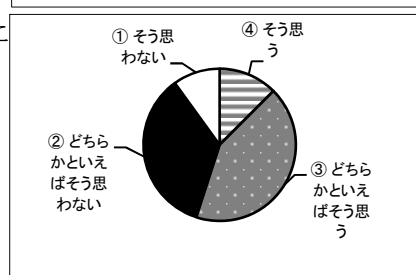
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	24	60.0
③ どちらかといえばそう思う	15	37.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



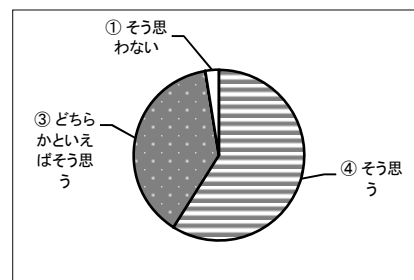
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	5	12.5
③ どちらかといえばそう思う	17	42.5
② どちらかといえばそう思わない	14	35.0
① そう思わない	4	10.0
計	40	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

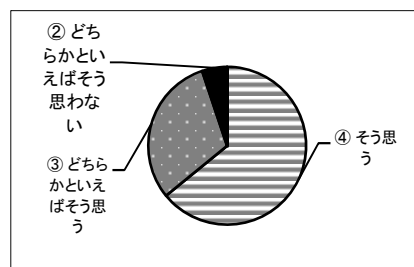
	回答数	割合
④ そう思う	23	59.0
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	2.6
計	39	100.0



3. 研修プログラムの設計について

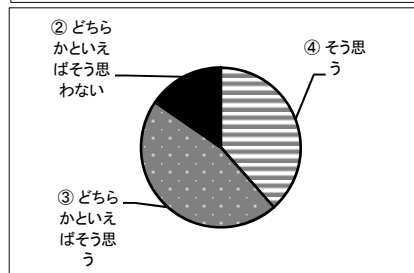
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	25	64.1
③ どちらかといえばそう思う	12	30.8
② どちらかといえばそう思わない	2	5.1
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



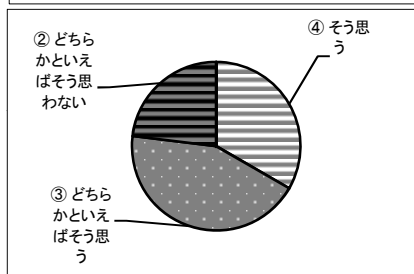
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	15	38.5
③ どちらかといえばそう思う	18	46.2
② どちらかといえばそう思わない	6	15.4
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



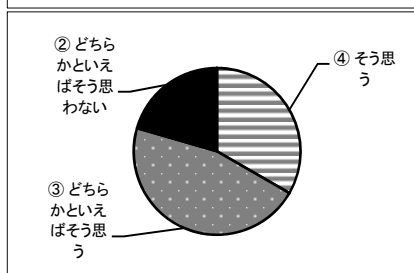
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	13	33.3
③ どちらかといえばそう思う	17	43.6
② どちらかといえばそう思わない	9	23.1
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



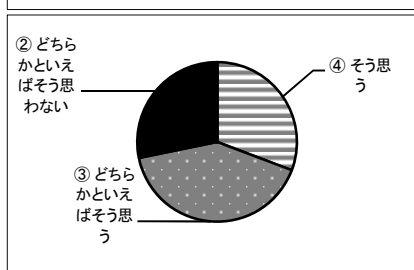
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	13	33.3
③ どちらかといえばそう思う	18	46.2
② どちらかといえばそう思わない	8	20.5
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



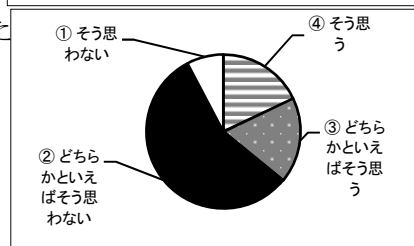
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	12	30.8
③ どちらかといえばそう思う	16	41.0
② どちらかといえばそう思わない	11	28.2
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



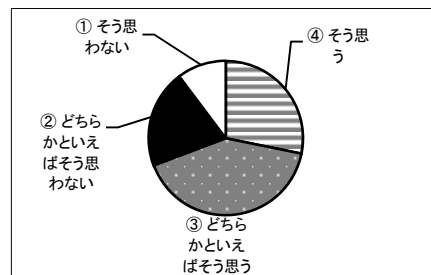
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	7	17.9
③ どちらかといえばそう思う	7	17.9
② どちらかといえばそう思わない	22	56.4
① そう思わない	3	7.7
計	39	100.0



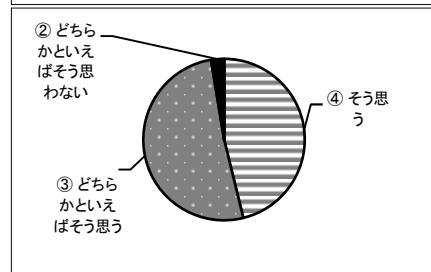
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	11	28.2
③ どちらかといえばそう思う	16	41.0
② どちらかといえばそう思わない	8	20.5
① そう思わない	4	10.3
計	39	100.0



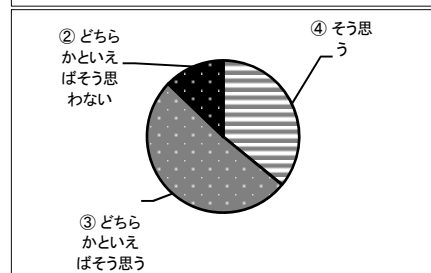
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	18	46.2
③ どちらかといえばそう思う	20	51.3
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

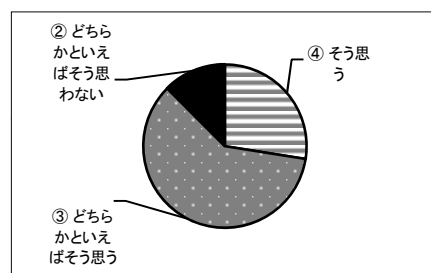
	回答数	割合
④ そう思う	14	35.9
③ どちらかといえばそう思う	20	51.3
② どちらかといえばそう思わない	5	12.8
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



4. 研修スタッフについて

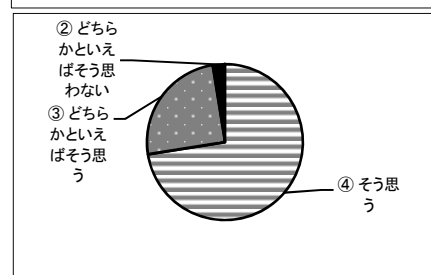
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	11	27.5
③ どちらかといえばそう思う	24	60.0
② どちらかといえばそう思わない	5	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



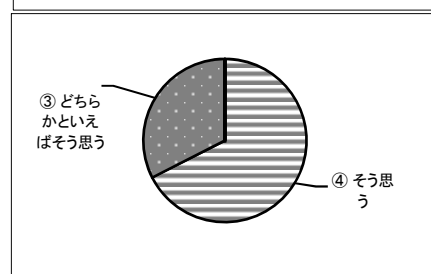
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	29	72.5
③ どちらかといえばそう思う	10	25.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



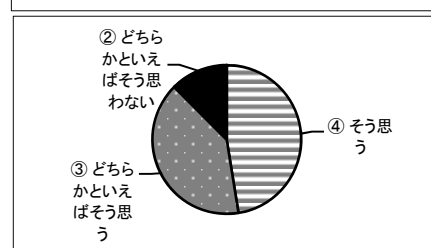
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	27	67.5
③ どちらかといえばそう思う	13	32.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



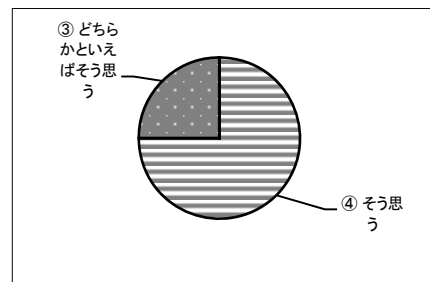
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	19	47.5
③ どちらかといえばそう思う	16	40.0
② どちらかといえばそう思わない	5	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

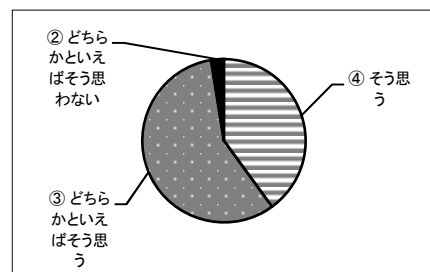
	回答数	割合
④ そう思う	30	75.0
③ どちらかといえばそう思う	10	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



5. 研修成果について

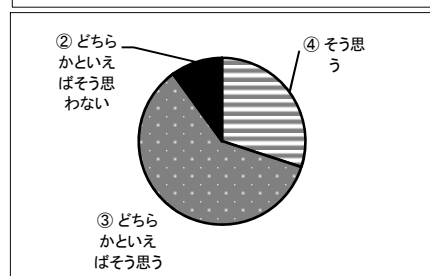
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	16	40.0
③ どちらかといえばそう思う	23	57.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



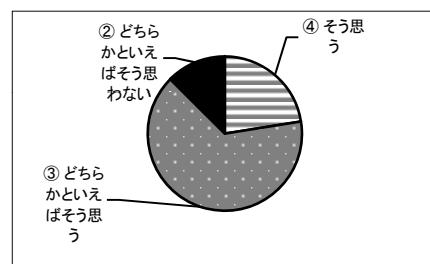
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	12	30.0
③ どちらかといえばそう思う	24	60.0
② どちらかといえばそう思わない	4	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



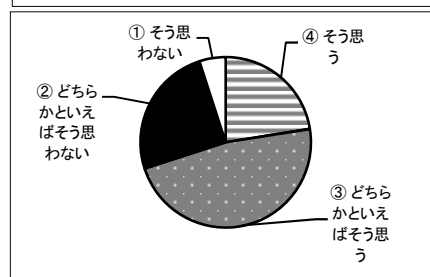
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	9	22.5
③ どちらかといえばそう思う	26	65.0
② どちらかといえばそう思わない	5	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	9	22.5
③ どちらかといえばそう思う	19	47.5
② どちらかといえばそう思わない	10	25.0
① そう思わない	2	5.0
計	40	100.0



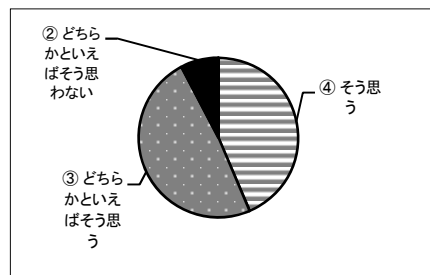
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

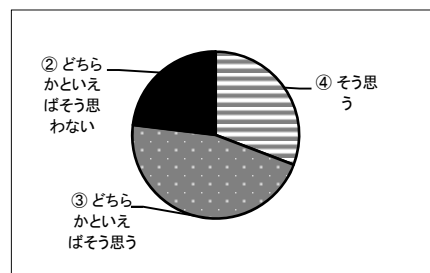
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	17	43.6
③ どちらかといえばそう思う	19	48.7
② どちらかといえばそう思わない	3	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	39.0	100.0



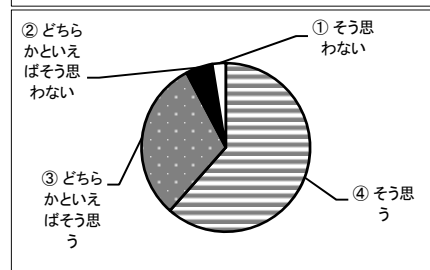
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	12	30.8
③ どちらかといえばそう思う	18	46.2
② どちらかといえばそう思わない	9	23.1
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	24	61.5
③ どちらかといえばそう思う	12	30.8
② どちらかといえばそう思わない	2	5.1
① そう思わない	1	2.6
計	39	100.0



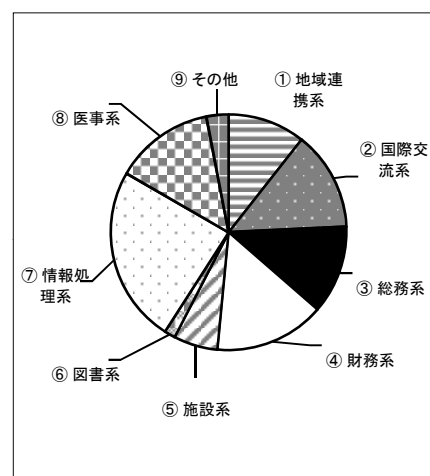
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 地域連携系	7	10.6
② 国際交流系	9	13.6
③ 総務系	8	12.1
④ 財務系	10	15.2
⑤ 施設系	4	6.1
⑥ 図書系	1	1.5
⑦ 情報処理系	16	24.2
⑧ 医事系	9	13.6
⑨ その他	2	3.0
計	66	100.0



その他の記述内容

- ・PCスキルアップ (Access, Excel, セキュリティ等)
- ・学務系
- ・すべて必要だと思うが、実務との位置関係をどうするかによって、効果が期待できない可能性があると思う。

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ プレゼンテーション能力 (5)
- ・ コミュニケーション能力 (3)
- ・ Access (データ処理, 全般) (4)
- ・ Access の基礎 (2)
- ・ Access を業務に沿って使いこなすスキル (2)
- ・ ワードの応用 (4)
- ・ Excel の応用 (3)
- ・ Excel の関数
- ・ PowerPoint
- ・ セキュリティ
- ・ 必要に応じたデータの抽出 (3)
- ・ パソコンスキル (2)
- ・ データ分析 (手早く)
- ・ DB 構築のためのスキル
- ・ I T
- ・ 画像編集, H P の作成
- ・ 医療系の知識
- ・ 財務関係の知識
- ・ 企画・発案力
- ・ 組織管理
- ・ 人材育成管理
- ・ 中国語
- ・ クレーム対応
- ・ 対応能力
- ・ あらゆる学生対応について
- ・ 人に説明できる知識とスキル
- ・ 相手を納得させる説明をするスキル
- ・ 周りの人を動かす力
- ・ 自己表現力
- ・ 事務としての経験と知識
- ・ 事務処理能力 (効率をよくする)
- ・ 基礎的な技術を, 必要に応じて活用する応用力
- ・ レポート作成
- ・ 複式簿記の知識
- ・ 情報処理のスキルも大切だと思いますが, 主体となる仕事内容を理解していないとうまく使えないので, それが必要だと思います。

5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ 今後の業務に活かせる知識を身に付けられた。（４）
- ・ Access の概要を理解することができた。（４）
- ・ Access を基礎から学べて良かった。（３）
- ・ 基礎～応用まで幅広く知ることができて良かった。（３）
- ・ 日常で Access を使用する機会が多いが、使い方がわからず使っていない機能が、今回の研修でその機能の使い方や意味を知ることができて良かった。（２）
- ・ Excel で行うべきことと、Access で行うべきことの差別化の助けになった。（２）
- ・ Access の基礎から学習できたので、自分以外が作成したデータベースにも取り組みやすくなったと思います。（２）
- ・ Access を初めてさわることができた。（２）
- ・ 日頃使用している Access のバージョンが古いので、新しいバージョンの使用法を具体的に知ることができて、良かったです。（２）
- ・ 今まで、Word、Excel の研修に飽きていたので、とても刺激的で楽しかった。
- ・ 今後業務をする上での手段が増えた。
- ・ 自己流だった点が改善されると思う。
- ・ テキスト（冊子）がわかりやすかった。
- ・ 他大学の人と交流することができた点。
- ・ 講師の方々の説明、対応がとても良くて、基礎から応用の内容がスムーズに、理解することができた。（わかりやすかった。）
- ・ 講師の黒田先生、陣内先生が多人数にもかかわらず、スピーディに分かりやすく教えていただき、ありがとうございました。聞きやすかったです。愛媛大学の方が、よりよい研修になるための熱意により、２日間頑張れました。本当にありがとうございました。
- ・ 現在、業務で Access を使用しているが、「何故これが・・・」と思う部分が理解できた。また、こうすればもっと楽に業務を行うことができると思った。改善すべき点が多かった。
- ・ 大量の個人情報データを扱うので、出来る限り分かりやすく簡単に出来る方法を知れて良かった。
- ・ 順序立てて、２日間一つの事を学べる機会は非常にまれで、Access への導入として、とても良かったと思う。
- ・ 今まで何となくぼんやりとやっていたものが、少しクリアになった。
- ・ 何とか少しでも習得できればとかねてより思っていた Access を受講できる機会を得られて、大変有難かったです。全くの初心者でしたので、ついていくだけで必死の受講となりました。帰任後、少しずつでも使っていきたいと思います。
- ・ Access の基本的なスキルについて具体的に経験できた。活用できるかは、まだ不明。
- ・ Access がどういう構造で作っていくものかが分かりました。仕事で使っているファイルについても、理解できそうに思われたこと。
- ・ 普段の業務中に、テキストを開いて・・・という事がないので、時間をとって学べた事が良かった。
- ・ 長年使用していなかったソフト（Access）のスキルの向上がはかれ、現在の業務の効率化に役立てられそうである。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

<研修時間について>

- ・ もう少し期間を長く、ゆっくり学習できるようにして欲しい。
- ・ 1日の時間をもう少し短くし、1日増やす。
- ・ 3～4日くらい Access 研修は少し期間を長くしても良いかと思いました。
- ・ 3日かけてもよい、内容が濃い研修でした。ありがとうございました。
- ・ 初心者にとっては、かなり高レベルでした。1日目と2日目を分けて、1日目だけをもっと時間をかけて学習したかったと思います。
- ・ 2日間でこなすには難しい内容だった。理解を深める為にも、もう少し研修日数が欲しい。
- ・ 応用編のみを2日間かけて行っても良いのでは。と思いました。基礎編と合わすなら、やはり3日は必要です。
- ・ 2日間では、詰め込みすぎか。3日ぐらいが良いのでは。
- ・ 基礎1で開講して、1度使ってその上で、日をおいて、後日2を開講。2日間では無理。少しつまと、おいてけぼりになる。
- ・ 2日間での研修では、スピードが速いのは仕方ないと思うが、振り返る時間や、演習をする時間をもう少し増やしてもらえたら、より理解が深まったと思います。スタッフの皆さまには、大変お世話になり、ありがとうございました。
- ・ 実際に操作したあとに内容確認する時間がもう少しあれば、理解が深まると思います。
- ・ 全くの初心者であったため、進行するスピードについていけなくなった場面があった。内容をスリムにするか、時間を増やすかして、手順をマスターするだけでなく、自分で理解するための時間が欲しかった。
- ・ 自分には少しペースがはやすぎでした。もう少し基礎をじっくり（テキスト以外の例題も使って）学習したかったです。
- ・ 日程は丁度良かった。

<プログラムについて>

- ・ Access のレベルによって、クラス分けがあるとよいと思います。（2）
- ・ 基礎編と応用編を分けて研修を実施すべき。
- ・ 受講希望者（募集時であって決定時ではありません）に、事前に自己点検表のような内容を配布して、Access の初級者・中級者別のプログラムを開発していただければ、よりよい研修成果を得られるのではないのでしょうか。ご検討いただければ幸甚に思います。
- ・ ぜひフォロー研修をしていただきたいです。
- ・ 応用の内容を深く学べれば良かった。
- ・ Excel 関数の研修もあると嬉しいです。
- ・ 大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修に適しているのか、少し疑問
- ・ 少しストレッチタイムがあったが、5分～10分のストレッチタイムをプログラムに組み込んでほしい。
- ・ 実際に業務で使いそうなデータを用いて研修すると、より理解を深めることが出来ると思います。

<その他>

- ・ 宿泊施設の確保（２）
- ・ 補助の講師を増やして欲しい。（２）
（１人だと、他の人が聞いているときに聞けません）
わからなくなった人は、置いていかれるのはかわいそうです。
- ・ 講師とのコミュニケーション（授業中）を図るには、３０人以下が良いと思う。
- ・ 研修生間のコミュニケーション（自己紹介）があれば、よりスムーズに受講できると思う。
- ・ 後方の席は、モニターが見えづらかった点
- ・ エアコンのききがあまりよくなかった（暑かった）点
- ・ Office の新しいバージョンに対応した方が良い。（もうすぐ変わる）
- ・ 現状のままで充分良い。
- ・ 専門の講師を招いての研修だったので、良かったと思う。

平成24年度（第2回）大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ） 実施要項

1. 目 的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内 容

大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）のうち，1つの研修科目を実施する。

・情報科学応用編「Access」

（Microsoft Office Access 2010の活用方法を，パソコンを用いた演習を交えて習得します。）

3. 対象者

OA事務中級職員（業務で多数のExcel形式の表，データや帳票等を使用している方），職位不問

4. 期 間

平成24年11月19日（月）～11月20日（火）

5. 場 所

愛媛大学総合情報メディアセンター2階（メディア演習室）

6. 日 程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

Winスクール 黒田 伸仁 氏

Winスクール 陣内 恭子 氏

8. 受講定員

30名

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD），愛媛大学

平成24年度(第2回)大学人, 社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ) 日程表

研修会場: 愛媛大学総合情報メディアセンター2階(メディア演習室)

講師: Winスクール 黒田 伸仁 氏

講師: Winスクール 陣内 恭子 氏

	8:30 9:00	12:00 13:00	17:00 18:30	
11月19日 (月)	【情報科学応用編:Access】 1. データベースとテーブルを作成できる Accessの基礎知識/データベースの設計/テーブルの作成 フィールドの設定/データ型/オートナンバー型/データのインポート/ テーブルのフィルタ機能/リレーションシップについて 2. クエリによるデータの加工ができる クエリの概要/クエリのビュー/クエリの作成・利用について/ 並び替え/演算フィールド 3. フォームの作成と編集ができる フォームの概要/フォームの作成・利用/フォームウィザード/ コントロールのサイズ変更・移動/コントロールの書式設定	休 憩	【情報科学応用編:Access】 4. クエリによるデータの抽出と集計ができる データの抽出/複合条件(AND・OR条件)/パラメータクエリ/ 比較演算子の利用/データの集計/Where条件の設定 5. レポートを作成できる レポートの概要/目的のレポートを作成する方法/ レポートウィザード/レポートの印刷/ 宛名ラベルウィザードを用いてのラベル作成 6. 便利な機能1 オブジェクトの依存関係	懇親会
11月20日 (火)	【情報科学応用編:Access】 7. テーブルを活用し、リレーションシップの定義ができる テーブルの構成/フィールドプロパティの設定/ リレーションシップの作成/手動結合と自動結合/参照整合性の確認 8. クエリの活用と編集ができる 関数の利用/クエリの結合方法と集計について/ アクションクエリ(削除クエリ・追加クエリ・更新クエリ) 9. フォームの活用と編集ができる フォームコントロールの作成/コンボボックス/リストボックス/ タブオーダーの設定/メイン・サブフォームについて	休 憩	【情報科学応用編:Access】 10. レポートの活用と編集ができる レポートのレイアウト変更/メイン・サブレポートの作成/ コントロールの書式設定/演算コントロール 11. マクロの作成と編集ができる マクロの基礎からマクロを利用したメインパネルを作成 12. 便利な機能2 ハイパーリンクの設定/条件付き書式/データのエクスポート/ データベースの最適化/バックアップ/セキュリティ	閉 講 式

※研修スケジュールは, 進行によって変更する場合があります。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成24年度（第2回）大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）
 実施日：平成24年11月19日（月）～11月20日（火）
 実施会場：愛媛大学総合情報メディアセンター2階（メディア演習室）
 アンケート回答者数：40名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	33	82.5
② 短期大学	3	7.5
③ 高等専門学校	4	10.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	40	100.0

(2) 所属先の設置者

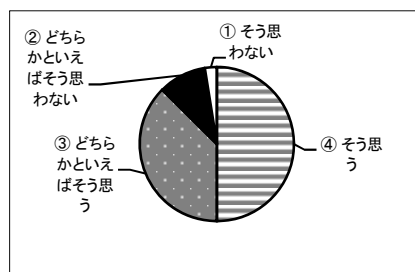
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	31	77.5
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	6	15.0
③ 学校法人	3	7.5
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	40	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に） 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

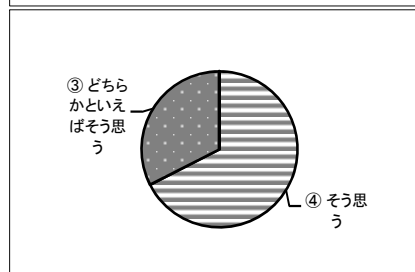
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	20	50.0
③ どちらかといえばそう思う	15	37.5
② どちらかといえばそう思わない	4	10.0
① そう思わない	1	2.5
計	40	100.0



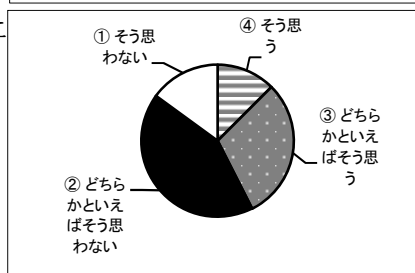
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	27	67.5
③ どちらかといえばそう思う	13	32.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



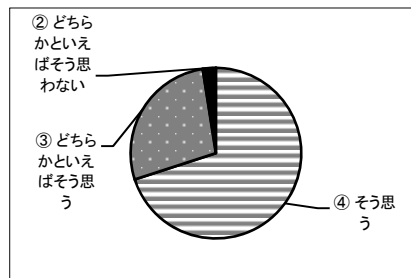
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	5	12.5
③ どちらかといえばそう思う	12	30.0
② どちらかといえばそう思わない	17	42.5
① そう思わない	6	15.0
計	40	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

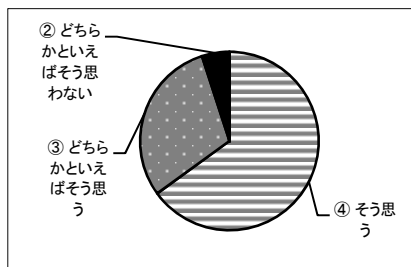
	回答数	割合
④ そう思う	28	70.0
③ どちらかといえばそう思う	11	27.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



3. 研修プログラムの設計について

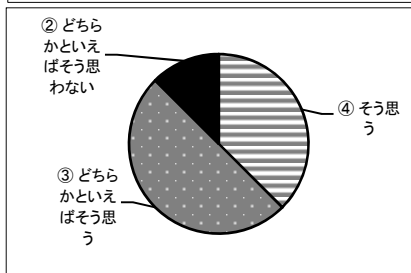
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	26	65.0
③ どちらかといえばそう思う	12	30.0
② どちらかといえばそう思わない	2	5.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



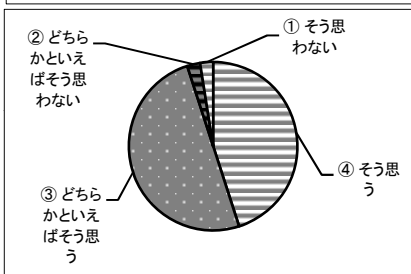
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	15	37.5
③ どちらかといえばそう思う	20	50.0
② どちらかといえばそう思わない	5	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



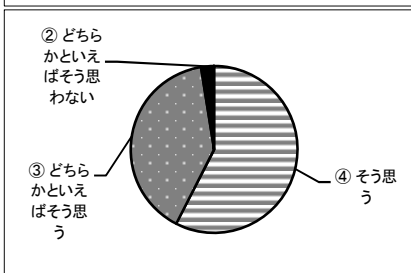
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	18	45.0
③ どちらかといえばそう思う	20	50.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.5
① そう思わない	1	2.5
計	40	100.0



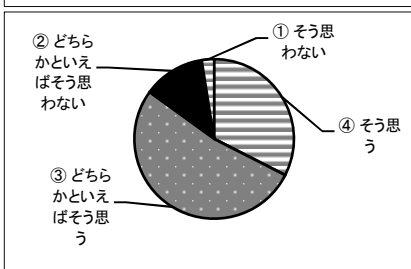
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	23	57.5
③ どちらかといえばそう思う	16	40.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



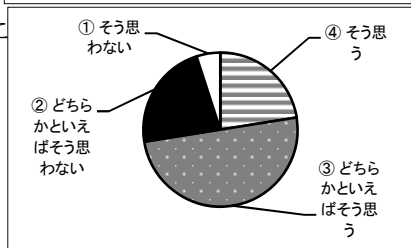
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	13	32.5
③ どちらかといえばそう思う	21	52.5
② どちらかといえばそう思わない	5	12.5
① そう思わない	1	2.5
計	40	100.0



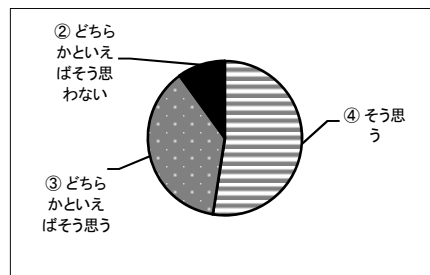
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	9	22.5
③ どちらかといえばそう思う	20	50.0
② どちらかといえばそう思わない	9	22.5
① そう思わない	2	5.0
計	40	100.0



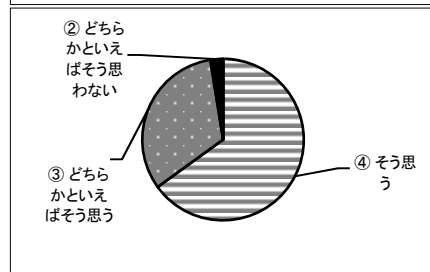
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	21	52.5
③ どちらかといえばそう思う	15	37.5
② どちらかといえばそう思わない	4	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



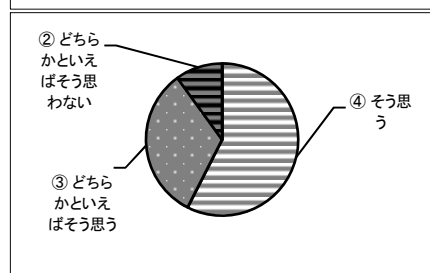
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	26	65.0
③ どちらかといえばそう思う	13	32.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

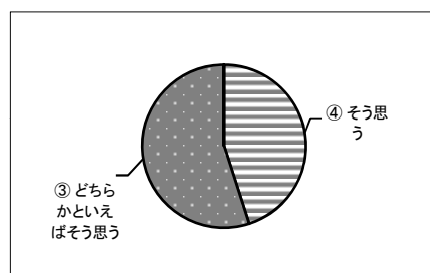
	回答数	割合
④ そう思う	23	57.5
③ どちらかといえばそう思う	13	32.5
② どちらかといえばそう思わない	4	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



4. 研修スタッフについて

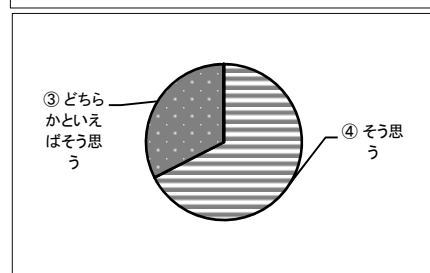
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	18	45.0
③ どちらかといえばそう思う	22	55.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



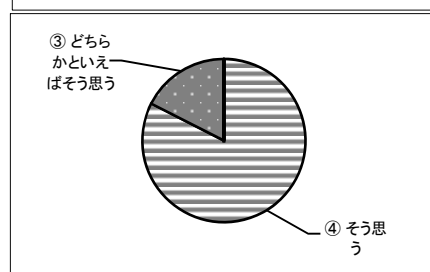
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	27	67.5
③ どちらかといえばそう思う	13	32.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



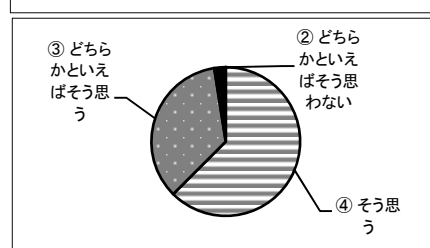
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	33	82.5
③ どちらかといえばそう思う	7	17.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



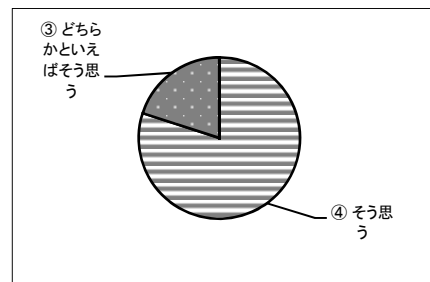
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	25	62.5
③ どちらかといえばそう思う	14	35.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

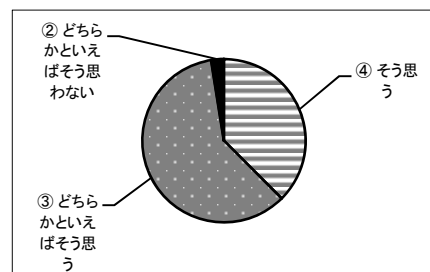
	回答数	割合
④ そう思う	32	80.0
③ どちらかといえばそう思う	8	20.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



5. 研修成果について

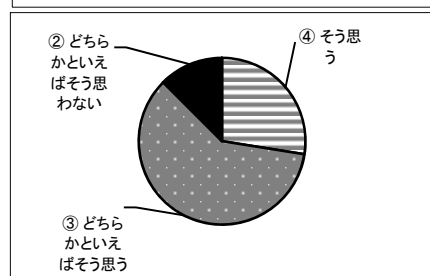
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	15	37.5
③ どちらかといえばそう思う	24	60.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



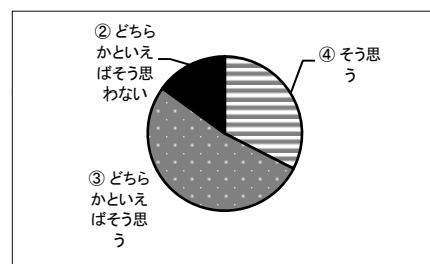
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	11	27.5
③ どちらかといえばそう思う	24	60.0
② どちらかといえばそう思わない	5	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



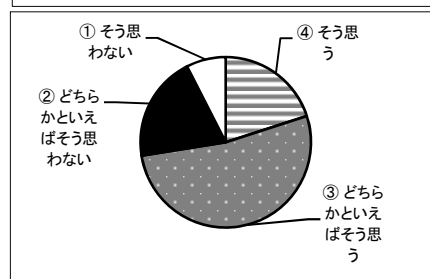
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	13	32.5
③ どちらかといえばそう思う	21	52.5
② どちらかといえばそう思わない	6	15.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	8	20.0
③ どちらかといえばそう思う	21	52.5
② どちらかといえばそう思わない	8	20.0
① そう思わない	3	7.5
計	40	100.0



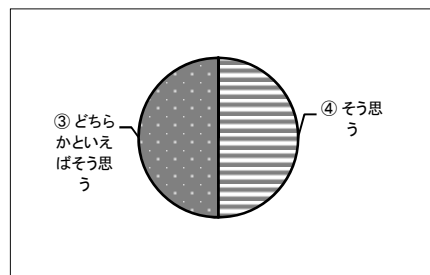
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

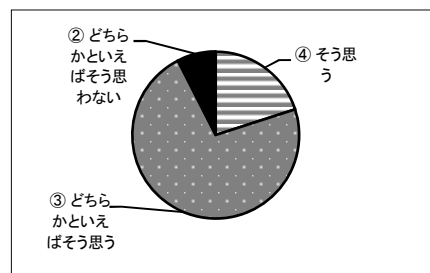
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	20	50.0
③ どちらかといえばそう思う	20	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40.0	100.0



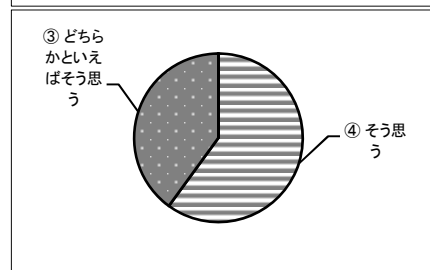
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	8	20.0
③ どちらかといえばそう思う	29	72.5
② どちらかといえばそう思わない	3	7.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	24	60.0
③ どちらかといえばそう思う	16	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



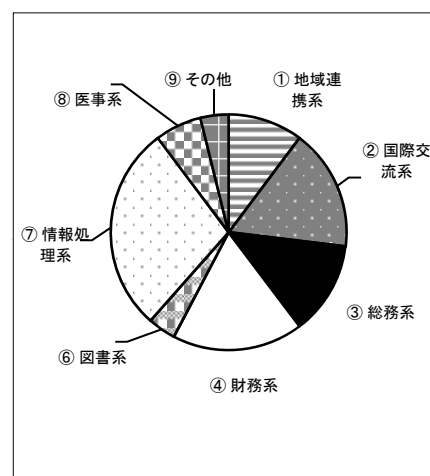
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 地域連携系	8	10.3
② 国際交流系	13	16.7
③ 総務系	10	12.8
④ 財務系	14	17.9
⑤ 施設系	0	0.0
⑥ 図書系	3	3.8
⑦ 情報処理系	22	28.2
⑧ 医事系	5	6.4
⑨ その他	3	3.8
計	78	100.0



その他の記述内容

- ・研究協力
- ・知的財産関係
- ・学務系

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ パソコンスキル (6)
(Excel, Word, メールソフト, セキュリティの知識, 等)
- ・ プレゼンテーション能力 (5)
- ・ コミュニケーション能力 (2)
- ・ 語学スキル (2)
- ・ Excel (2)
- ・ パワーポイントの知識 (2)
- ・ 既存 Access の修正等
- ・ Access の活用
- ・ 実際に Access をつくって, 実務で運用する経験
- ・ Access 全般
- ・ Access・Excel などの情報処理
- ・ VBA, SQL server, マクロ
- ・ Word, Excel の操作
- ・ オフィスをもっと使いこなせるようになりたい。
- ・ 関数について, もっと勉強したいです。
- ・ 効率的に業務を遂行出来るためのデータベースの構築
- ・ データ分析能力の向上 (Excel, Access 等)
- ・ ネットワーク, サーバー管理, 英会話
- ・ 文書作成
- ・ 文章表現
- ・ 専門的分野 (病院会計) の知識
- ・ 大学の組織についての知識
- ・ 学生との関わり方
- ・ 国際的に通用する人材育成 (学生) のカリキュラム充実
- ・ 業務に関する専門知識 (知財法, 民法, 商法, 契約書に関すること)
- ・ 説得力・説明力
- ・ 企画力
- ・ 知的財産に関しての知識
- ・ 学内の情報管理の仕組みを整備し, 必要な人が必要な情報を, 素早く得られる様な仕組みをつくるための知識
- ・ 所属組織特有の事務処理 (会計規則等) に関する広範な理解。→本研修に絡めて考えると, 規則, マニュアル, メモ等を効果的に整理する技法。
- ・ Excel で作成しているデータベース的な事柄を Access で管理出来れば効率化につながりそう。

5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書き下さい。

- ・ 他大学の職員と交流の機会をもてた。(2)
- ・ アクセスの利用につき, 自信ができた。
- ・ 曖昧だったアクセスの知識を明確なものにしてくれた。すぐには, 生かせなくても, い

つか業務に生かせそう。

- ・ アクセスというソフトの使い方を広く浅く？知ることが出来た。
- ・ Access を活かしきれていなかったことがあり、業務や抽出内容の幅が広がった。
- ・ Access を使う機会が最近なかったので、再確認できて良かったです。
- ・ 多少 Access を使用していたが、一部の機能のみだったので、テーブル・クエリなど、体系的に理解することが出来た。
- ・ リレーションシップなど基本的なところから分かりやすく教えて下さったことが良かったと思います。
- ・ Access で何ができるのか、全体的なことを知ることができた。
- ・ Access について系統的に学ぶことができた。実際に作業しながらなので、具体的だった。
- ・ 持ち帰って業務に活かせる内容が学べたと思う。
- ・ 今まで使い方の分かっていなかった関数の使い方が分かった。
- ・ 実務で使用はしていたが、ブラックボックス状況であったが、研修を受けた事で内容の改善に着手できそうである。
- ・ Access について意味も分からず使用していたが、その役割・機能・意味づけが分かった（整理できた）ように思う。
- ・ Access の基本的な使い方。
- ・ すぐに業務に役に立つので、受講して良かった。
- ・ 何となく知っていた用語を、きちっと理解できた。
- ・ 職場では改めてきくことのないような基本的な知識から体系的に教えていただいたので、分からないところが解決して良かったです。
- ・ Access の操作方法を基本から学ぶことができた。独学では分からないようなところも、講師が説明してくれて良かった。
- ・ Access について少なからず知識を得られたこと。
- ・ Access をより身近に感じる事が出来ました。これからはもっと Access をさわってみようと思います。
- ・ 今まで他人が作った Access を使うことはできていたが、受講して、自分で一から作れるようになったと思う。
- ・ Access データ処理の流れを理解することができた。
- ・ Excel での管理が難しい、連結した部分のデータの管理は、Access の方が良いと感じた。
- ・ リレーションシップの意味を理解することが出来た。
- ・ Access の利点分かった。使い方すら理解出来ていなかったもので、1 から学べて良かった。
- ・ 今までは独学だったため、危うい DB を作ってしまっていたが、リレーショナルやマクロについて学習できたので、今後実務にいかせると思います。
- ・ 「Access で作ったデータは解らない、触れない」ということはなくなった。元データをソートしたり、目的別に保存したりする手間が省けそうなので、Excel から移行できるものは移行したい。
- ・ テキスト等を持ち帰ることが出来るので、復習をすることが出来る。
- ・ 説明も資料もとても分かりやすかった。
- ・ 貴学人材育成チームの素晴らしい運営と、素敵な司会で、とても良い研修となりました。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ・ あと1日欲しい。(2)
- ・ 初日は急ぎすぎた感じがする。
- ・ 進み方が早かった。
- ・ 時間が足りないように感じた。遅れないようについていく必要があり、どうしてこのような処理が必要か自分で考える時間がなかった。
- ・ ちょっとしたミスひとつについていけなくなっていました。自分のレベル(現在の)では、今回の講座は難しかったと痛感しましたが、可能であれば「基礎」だけで2日間、別のタイミングで「応用」を開催していきたいです。
- ・ 2日間にしては量が多すぎるので、日数を増やすか、量を減らせば良いと思います。
- ・ 時間対分量を鑑みれば現在の内容は十分に目的を達していると思います。一方的に受講するスタイルは単調になりがちなので、もう少し参加型でもよいかと思いますが、基本的には上記のとおりです。
- ・ 研修の進行速度について、基礎については早く進めて、応用に時間をかけるようにすれば、もっと良くなると思いました。
- ・ とても丁寧に教えていただいたので、初心者の方でも充分ついていけましたが、もう少しテンポ良く教えていただいて、活用やマクロのところをもっと学びたかったと思いました。もう少しレベルが高い部分に期待していたので。
- ・ 時間をもう少し短く、日にちを増やす。
- ・ もう少し少人数での開催でも良いのでは。
- ・ 人数が多すぎて、指導員の人になかなかまわってきてくれなかった事。指導員を増やしてもいいかも。
- ・ 内容が多く、スピードも速い為、操作等につまづくと、そこから講習についていけなくなるので、補助員を多めに配置していただけると、スムーズに全員が進行できるようになるのではないのでしょうか。
- ・ 自分のレベルでは2日目の研修内容のみで十分だったため、次に本学から Access 研修の希望者がいればその旨を伝えたいと思うし、研修の募集をかける際にもっと細かくどの程度のスキルが必要な職員かを把握するともっと良くなると思った。
- ・ もう少し研修時間を長く、かつ少人数で、理解を深めつつ行くと、なお良い。
- ・ 研修内容を自分なりに復習する時間が研修期間中にあれば良かった。
- ・ 何の為にその作業をしているのかの説明があれば良かった。
- ・ 教材の DB を、実際に仕事で使っているものにする、より実践的かと思います。
- ・ 長時間 PC と向き合う為、疲労するので、途中散歩など挟むと良いと思う。
- ・ 事務局の皆さま、本当にお世話さまでした。ありがとうございました。頑張って復習して、今後の業務に活かしたいと思います。

平成24年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅢ）
実施要項

1. 目 的

高等教育機関の職員として一般的に求められている広汎な素養を習得することを目的とする。

2. 内 容

大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅢ）のうち，
1つの研修科目を実施する。

・大学政策論

3. 対象者

課長，課長補佐相当級の職員

4. 期 間

平成24年6月7日（木）～6月8日（金）

5. 場 所

愛媛大学本部2階 第2会議室・本部4階 第4会議室

6. 日 程

別紙「研修日程表」のとおり

7. 担当講師

順天堂大学	総務局企画調査室	部長	各務 正
愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	阿部光伸
愛媛大学	教育学生支援部	部長	米澤慎二

8. 受講定員

30名

9. 修了証書

研修を修了した者には修了証書を交付する。

10. 主 催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD），協力校：愛媛大学

平成24年度大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅢ）
スケジュール

	第1日目 (6/7)	第2日目 (6/8)
	大学政策論 講師：順天堂大学総務局企画調査室 各務 正 部長	大学政策論 講師：愛媛大学教育学生支援機構教育企画室 阿部 光伸 特任助教 愛媛大学教育学生支援部 米澤 慎二 部長
8:30		受付
9:00		オリエンテーション
		9:00 アイスブレイク
		9:30 危機管理対応実践
10		
11		
12:30	受付	お昼休憩
12:50	オリエンテーション	
13:00	13:00 はじめに 13:10 「どのような改善を考えていますか？」 13:30 その理由や達成方法等に関する検討	13:00 1990年代以降の大学改革 —中教審答申を中心に—
14		
15	15:00～15:30 休憩	
30	15:30 全体ディスカッション	リーダーシップ論 —部下を活かす—
16		
	16:30 まとめ	
17		
17:30		17:00 閉講式
	※到達目標※ ◎大学運営に関する改善策の検討プロセスを利用して、部署マネジメントを円滑に遂行するための上級職としての観点を整理する。 ・大学の意思決定、ルールに対して改善策を提案することができる ・規定の制定・改正にあたり、他の諸規定との調整を行うことができる	※到達目標※ ・危機管理対応、管理体制の構築を行うことができる ・ハラスメントに対する防止・対応を行うことができる ・社会動向に応じた大学の方針を企画立案を行うことができる ・大学の理念や建学の精神をもとに大学政策を策定することができる

※研修スケジュールは進行によって変更することがございます。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成24年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅢ）
 実施日：平成24年6月7日（木）～6月8日（金）
 実施会場：愛媛大学本部第2会議室
 アンケート回答者数：26名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	25	96.2
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	1	3.8
④ その他（ ）	0	0.0
計	26	100.0

(2) 所属先の設置者

	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	17	65.4
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	3	11.5
③ 学校法人	6	23.1
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	26	100.0

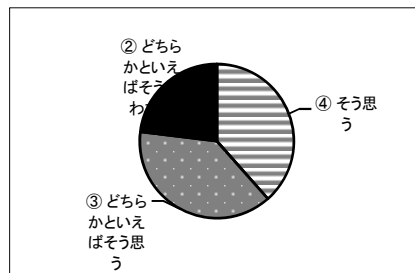
(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）

別紙記載

2. 研修参加への経緯について

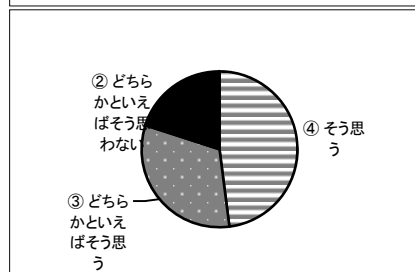
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	10	38.5
③ どちらかといえばそう思う	10	38.5
② どちらかといえばそう思わない	6	23.1
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



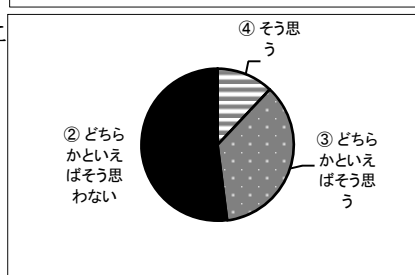
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	12	48.0
③ どちらかといえばそう思う	8	32.0
② どちらかといえばそう思わない	5	20.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



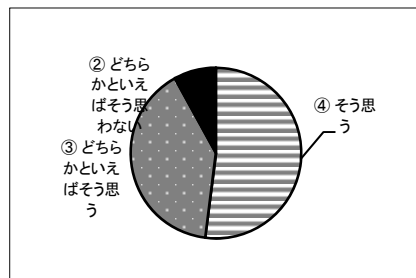
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	3	12.0
③ どちらかといえばそう思う	9	36.0
② どちらかといえばそう思わない	13	52.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

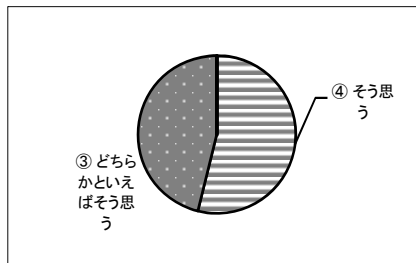
	回答数	割合
④ そう思う	13	52.0
③ どちらかといえばそう思う	10	40.0
② どちらかといえばそう思わない	2	8.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



3. 研修プログラムの設計について

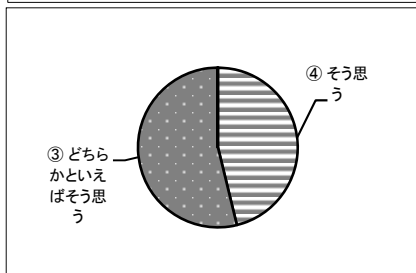
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	14	53.8
③ どちらかといえばそう思う	12	46.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



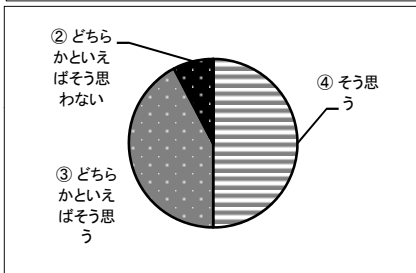
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	12	46.2
③ どちらかといえばそう思う	14	53.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



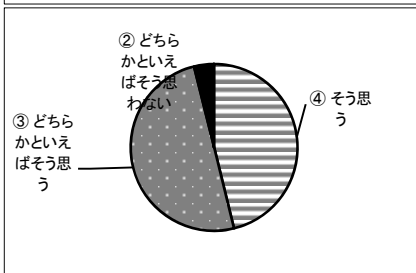
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	13	50.0
③ どちらかといえばそう思う	11	42.3
② どちらかといえばそう思わない	2	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



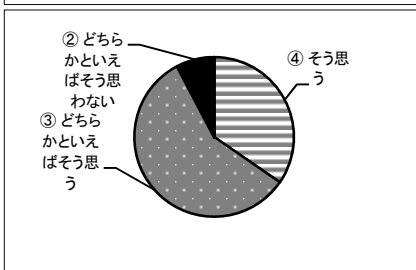
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	12	46.2
③ どちらかといえばそう思う	13	50.0
② どちらかといえばそう思わない	1	3.8
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



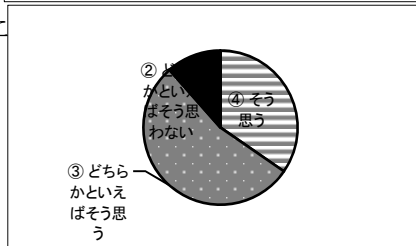
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	9	34.6
③ どちらかといえばそう思う	15	57.7
② どちらかといえばそう思わない	2	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



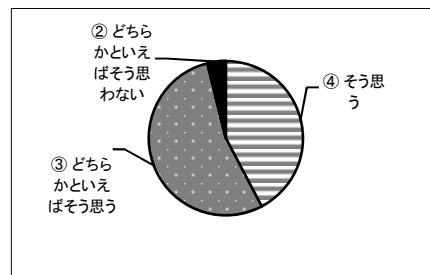
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	9	34.6
③ どちらかといえばそう思う	14	53.8
② どちらかといえばそう思わない	3	11.5
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



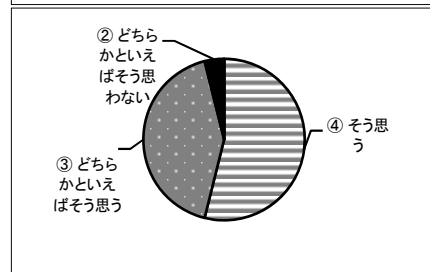
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	11	42.3
③ どちらかといえばそう思う	14	53.8
② どちらかといえばそう思わない	1	3.8
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



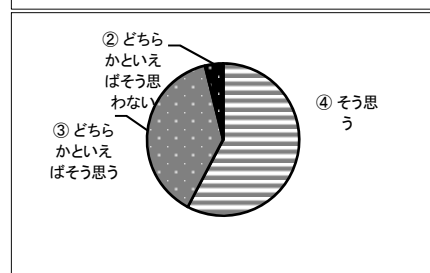
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	14	53.8
③ どちらかといえばそう思う	11	42.3
② どちらかといえばそう思わない	1	3.8
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

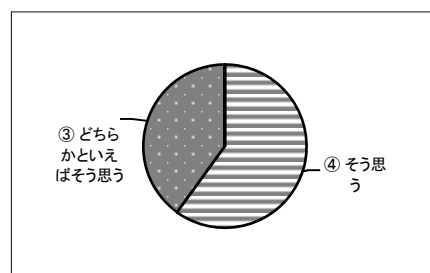
	回答数	割合
④ そう思う	15	57.7
③ どちらかといえばそう思う	10	38.5
② どちらかといえばそう思わない	1	3.8
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



4. 研修スタッフについて

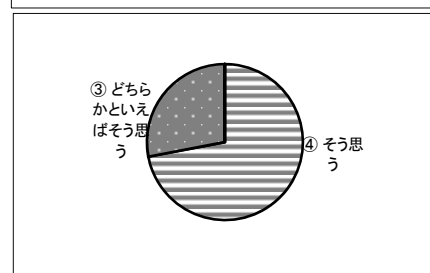
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	15	60.0
③ どちらかといえばそう思う	10	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



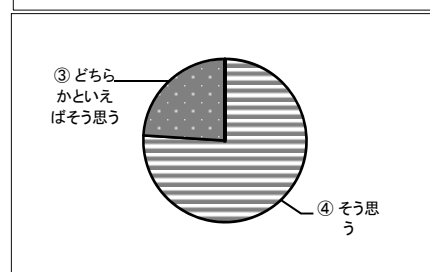
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	18	72.0
③ どちらかといえばそう思う	7	28.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



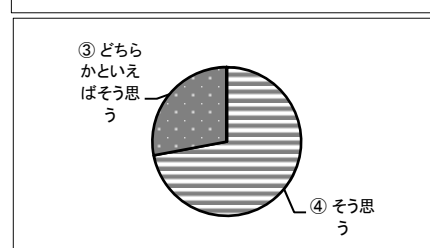
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	19	76.0
③ どちらかといえばそう思う	6	24.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



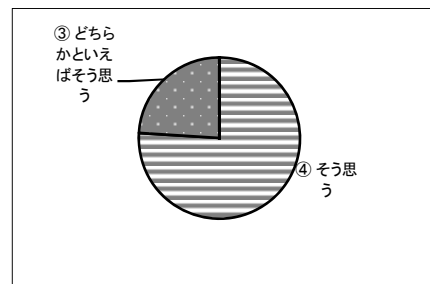
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	18	72.0
③ どちらかといえばそう思う	7	28.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

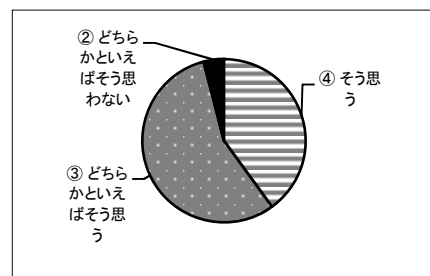
	回答数	割合
④ そう思う	19	76.0
③ どちらかといえばそう思う	6	24.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



5. 研修成果について

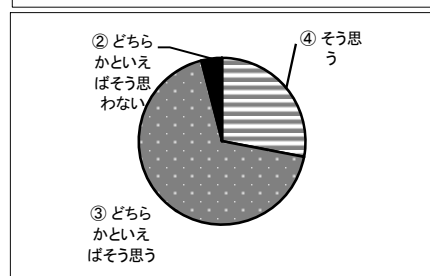
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	10	40.0
③ どちらかといえばそう思う	14	56.0
② どちらかといえばそう思わない	1	4.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



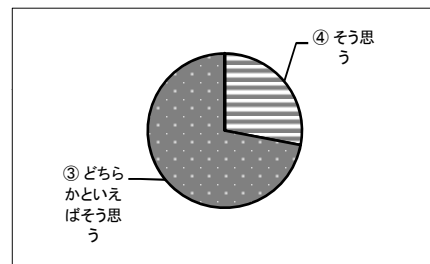
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	7	28.0
③ どちらかといえばそう思う	17	68.0
② どちらかといえばそう思わない	1	4.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



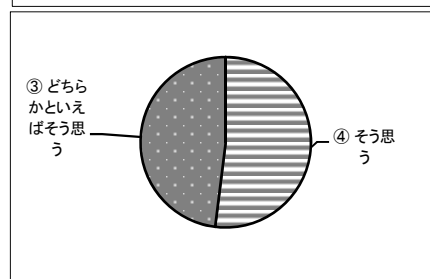
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	7	28.0
③ どちらかといえばそう思う	18	72.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	13	52.0
③ どちらかといえばそう思う	12	48.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



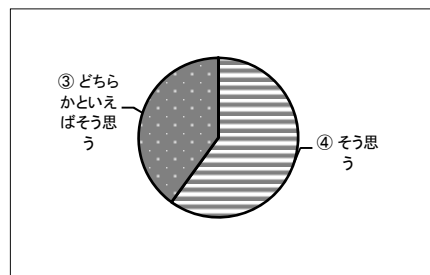
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

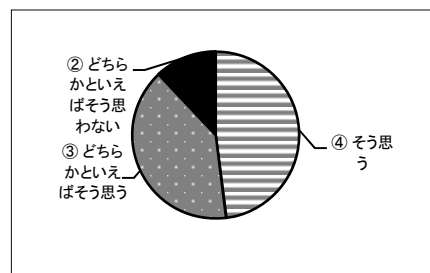
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	15	60.0
③ どちらかといえばそう思う	10	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



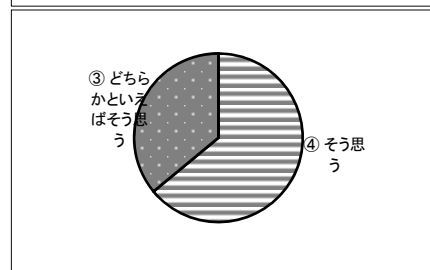
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	12	48.0
③ どちらかといえばそう思う	10	40.0
② どちらかといえばそう思わない	3	12.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	16	64.0
③ どちらかといえばそう思う	9	36.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	25	100.0



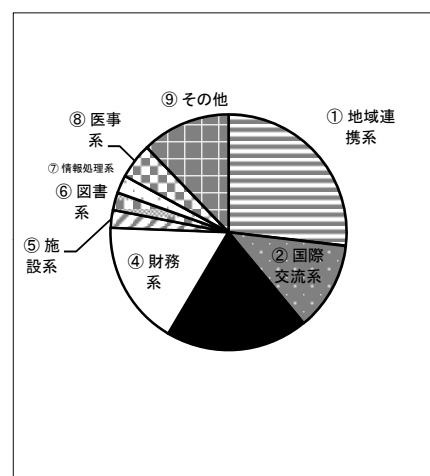
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 地域連携系	11	24.4
② 国際交流系	5	11.1
③ 総務系	8	17.8
④ 財務系	7	15.6
⑤ 施設系	1	2.2
⑥ 図書系	1	2.2
⑦ 情報処理系	1	2.2
⑧ 医事系	2	4.4
⑨ その他	5	11.1
計	41	91.1



その他の記述内容

- ・評価系
- ・学生系（窓口相談含む）
- ・発達系

【自由記述欄】

1（3）現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。（具体的に）

- ・ 部下への指導力（6）
（部下の明確な目標を設定できる能力）
- ・ プレゼンテーション能力（5）
- ・ コミュニケーション能力（3）
- ・ リーダーシップ（2）
- ・ 管理者としての心構え（2）
- ・ IT スキル（2）
- ・ 企画力（2）
- ・ 説得力（2）
- ・ 業務管理能力（2）
- ・ 大学運営に必要な知識
- ・ 分析力
- ・ 情報収集能力
- ・ 危機管理
- ・ クレーム処理
- ・ 傾聴力

5．受講して良かったと思われる点を，具体的にお書き下さい。

- ・ 他大学の方との交流や情報交換ができた。（4）
（他大学の実情等）
- ・ リーダーの職責について理解できた。（2）
（新しいリーダー像の発見があった）
- ・ 講師がよかった。（2）
- ・ 新たなスキルを身につけることができた。
- ・ 自分に必要な能力を自己啓発しなければならないことに気づいた。
- ・ 危機管理能力は実践的でよく，今後の業務に活かすことができる内容であった。
- ・ 日常業務を離れて物事に取り組むことが新鮮に感じられた。
- ・ やるべき事が明確化された。

6．研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば，具体的にお書き下さい。

- ・ 部長，局長クラスが参加できる講義も設置してほしい。
- ・ 人数を絞るあるいは時間を伸ばしてもう少しゆったりとしたプログラムにしてほしい。
- ・ 財務系は決算時期であるため，6月以降の開催にしてほしい。
- ・ 開催場所は静かな環境にしてほしい。
- ・ 1日目のワークの目的が不明確であった。理論や実践論を知識として習得した方がよい。

学務系職員養成プログラム研修実施要項

1. 目 的

SPOD加盟校の職員が高等教育機関の学務系業務担当職員として求められる専門的な素養を習得することを目的とする。

2. 到達目標

■学生相談実践

- ・学生の抱える問題や相談に適切にアドバイスをすることができる。
- ・問題のある学生に対して、指導教員及び学内関係機関と連携して対応すること

■学生危機管理対応実践

- ・学生生活における危険性（携帯電話・PC等サイト、カルト、薬物等）から学生を守る対応策を考えることができる。

■入試情報分析論

- ・受験生、保護者、高校とのニーズについて分析することができる
- ・入試に関するデータを分析することができる

■インターンシップ支援実践

- ・インターンシップ受入企業と連絡調整をすることができる。
- ・インターンシップ受入企業を開拓することができる。

■高等教育比較・分析論

- ・高等教育施策と自大学等の現状を比較・分析することができる。
- ・他大学等と自大学等の教育内容を比較・分析することができる。

3. 対象者

係長・主任相当級の職員

4. 期 間

平成24年7月12日（木）～13日（金）

5. 場 所

愛媛大学総合情報メディアセンター4階（放送大学愛媛学習センター講義室1・2）

6. 日 程
別紙「研修日程表」のとおり
7. 担当講師
愛媛大学学生支援センター 副センター長 野本 ひさ 他
8. 受講定員
30名
9. 受講証明書
研修を修了した者には受講証明書を交付する。
10. 主 催
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

学務系職員養成プログラム研修日程表

研修会場：愛媛大学総合情報メディアセンター4階

	12:00	12:30	13:00	15:00	15:10	16:10	17:00	18:00
第1日目 7月12日 (木)		受付	(総務担当 理事 渡邊 春重) プログラムについて (教育 学生支援部 米澤 慎二) 長	「高等教育比較・分析論」 愛媛大学教育企画室 山田剛史	休憩	「学生危機管理対応実践」 愛媛大学財務部長 西尾澄気		懇親会
	8:40	10:20	10:30		15:20	15:40		
第2日目 7月13日 (金)		「インターンシップ 支援実践」 愛媛大学 学生支援センター 研究員 岡靖子 愛媛大学就職支援課 岸 康介	休憩	「入試情報分析論」 愛媛大学入試課長 菊川 昭治	休憩	「学生相談実践」 愛媛大学学生支援センター 副センター長 野本ひさ	(総務担当 理事 渡邊 春重)	

※研修スケジュールは、進行によって変更する場合があります。

平成24年度 SPOD学務系職員養成プログラムアンケート集計結果

研修名：平成24年度学務系職員養成プログラム研修（レベルⅡ）

講師名：渡邊春重・米澤慎二・山田剛史・西尾澄気・岡靖子・埤康介・菊川昭治・野本ひさ（愛媛大学）

実施日：平成24年7月12日（木）～13日（金）

実施会場：放送大学愛媛学習センター講義室1・2（愛媛大学総合情報メディアセンター4階）

当日参加者数：22名

アンケート回答者数：22名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 4年制大学	16	72.7
② 短期大学	2	9.1
③ 高等専門学校	4	18.2
④ その他（ ）	0	0.0
計	22	100.0

その他の記述内容

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国（国立大学法人）	14	66.7
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	3	14.3
③ 学校法人	3	14.3
④ その他（ ）	1	4.8
計	21	100.0

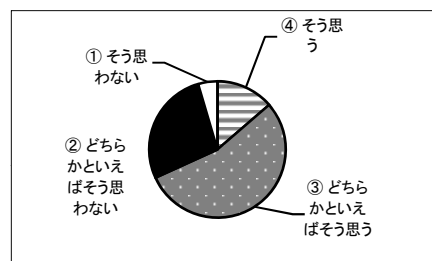
その他の記述内容

国立高等専門学校機構

2. 研修参加への経緯について

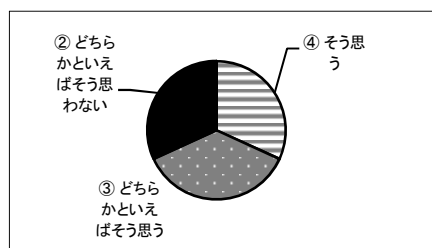
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	3	13.6
③ どちらかといえばそう思う	12	54.5
② どちらかといえばそう思わない	6	27.3
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



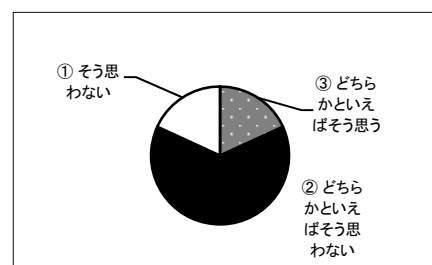
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	度数	割合
④ そう思う	7	31.8
③ どちらかといえばそう思う	8	36.4
② どちらかといえばそう思わない	7	31.8
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



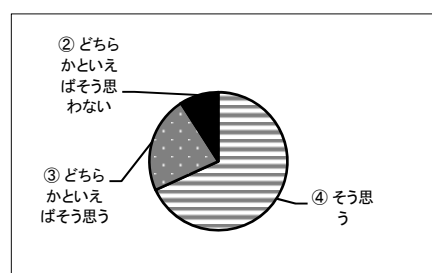
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	度数	割合
④ そう思う	0	0.0
③ どちらかといえばそう思う	4	18.2
② どちらかといえばそう思わない	14	63.6
① そう思わない	4	18.2
計	22	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

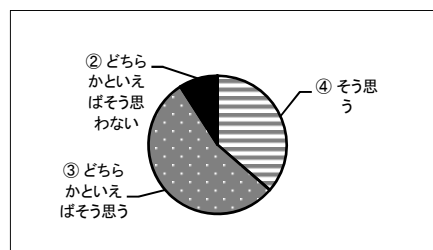
	度数	割合
④ そう思う	15	68.2
③ どちらかといえばそう思う	5	22.7
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



3. 研修プログラムの設計について

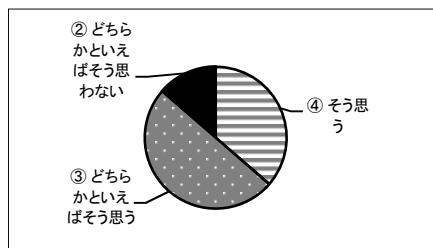
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④ そう思う	8	36.4
③ どちらかといえばそう思う	12	54.5
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



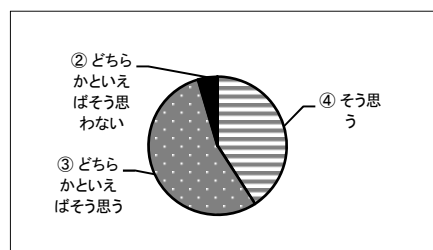
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	8	36.4
③ どちらかといえばそう思う	11	50.0
② どちらかといえばそう思わない	3	13.6
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



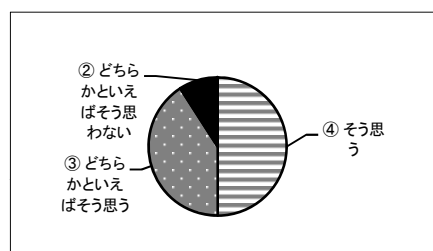
(3) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	9	40.9
③ どちらかといえばそう思う	12	54.5
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



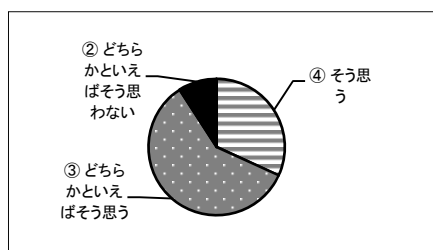
(4) 研修会場は快適な環境だった

	度数	割合
④ そう思う	11	50.0
③ どちらかといえばそう思う	9	40.9
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



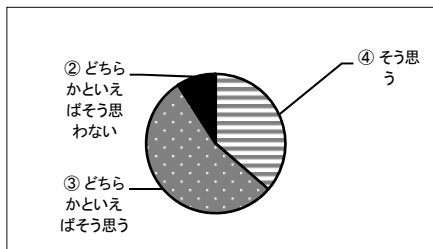
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	度数	割合
④ そう思う	7	31.8
③ どちらかといえばそう思う	13	59.1
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



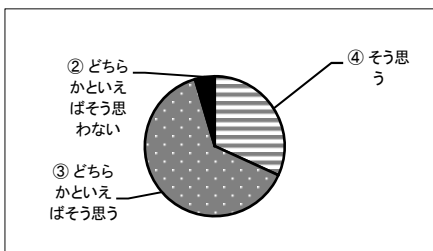
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度よい長さだった

	度数	割合
④ そう思う	8	36.4
③ どちらかといえばそう思う	12	54.5
② どちらかといえばそう思わない	2	9.1
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



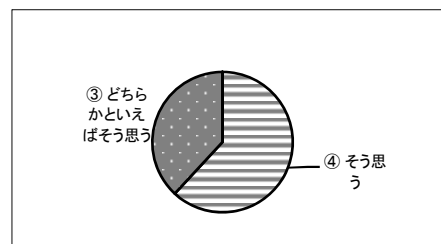
(7) 研修の実施時期は適当だった

	度数	割合
④ そう思う	7	31.8
③ どちらかといえばそう思う	14	63.6
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



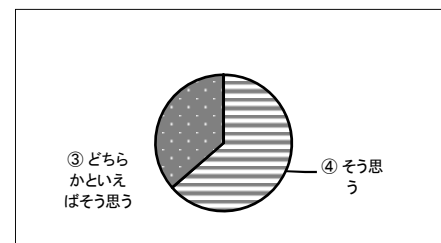
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	度数	割合
④ そう思う	13	61.9
③ どちらかといえばそう思う	8	38.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

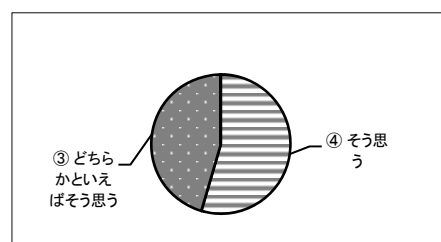
	度数	割合
④ そう思う	14	63.6
③ どちらかといえばそう思う	8	36.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



4. 研修スタッフについて

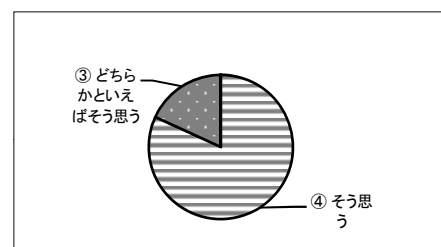
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	12	54.5
③ どちらかといえばそう思う	10	45.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



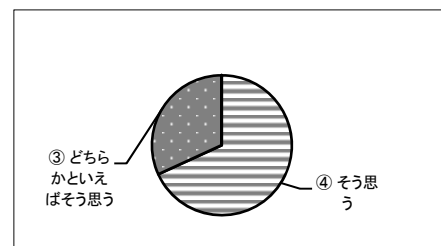
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	度数	割合
④ そう思う	18	81.8
③ どちらかといえばそう思う	4	18.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



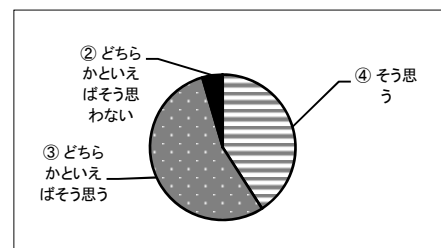
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	度数	割合
④ そう思う	15	68.2
③ どちらかといえばそう思う	7	31.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



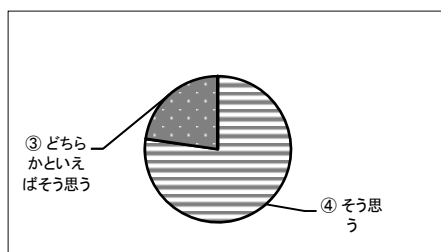
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	度数	割合
④ そう思う	9	40.9
③ どちらかといえばそう思う	12	54.5
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

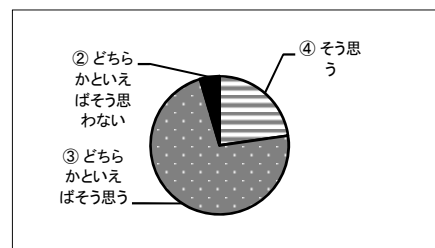
	度数	割合
④ そう思う	17	77.3
③ どちらかといえばそう思う	5	22.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



5. 研修成果について

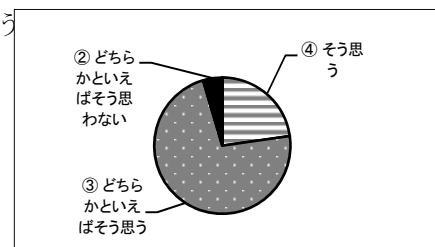
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	5	22.7
③ どちらかといえばそう思う	16	72.7
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



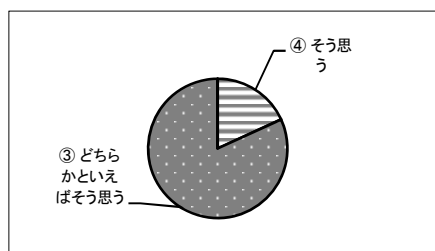
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	5	22.7
③ どちらかといえばそう思う	16	72.7
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



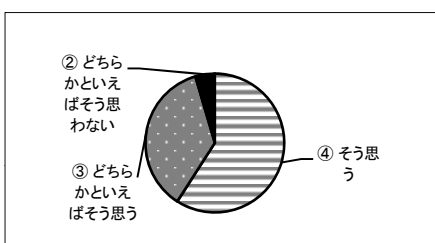
(3) 研修の内容は十分に理解できた

	度数	割合
④ そう思う	4	18.2
③ どちらかといえばそう思う	18	81.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

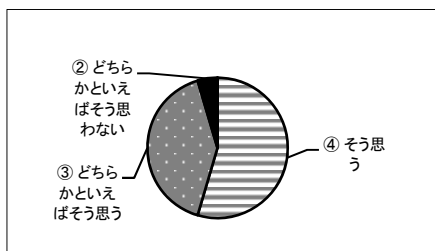
	度数	割合
④ そう思う	13	59.1
③ どちらかといえばそう思う	8	36.4
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



6. 研修全体について

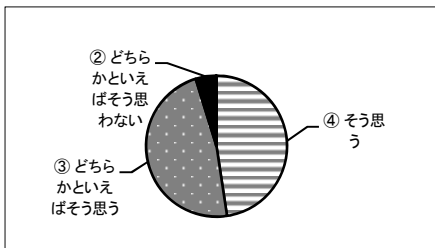
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	12	54.5
③ どちらかといえばそう思う	9	40.9
② どちらかといえばそう思わない	1	4.5
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



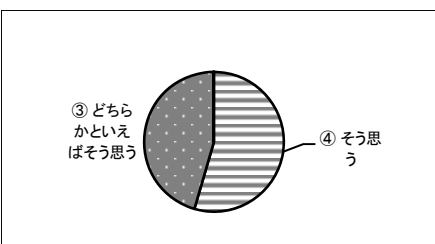
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	度数	割合
④ そう思う	10	47.6
③ どちらかといえばそう思う	10	47.6
② どちらかといえばそう思わない	1	4.8
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	度数	割合
④ そう思う	12	54.5
③ どちらかといえばそう思う	10	45.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



7. SPODにおけるSDプログラム開発について

	度数	割合
地域連携系	10	45.5
社会連携系	10	45.5
国際交流系	6	27.3
総務係	5	22.7
財務系	5	22.7
施設系	1	4.5
図書係	2	9.1
情報処理系	4	18.2
医事系	0	0.0
その他	0	0.0

1. (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ☐学務系全般
- ☐入試
- ☐FD, あまり関わったことがないから。
- ☐学生相談能力 (状況に応じた状況判断能力)
- ☐学生相談に関するスキルアップ
- ☐情報処理能力
- ☐高等教育論について
- ☐学生危機管理対応実践・・・担当者として必要となるから。
- ☐学生からの質問に的確に答えられる知識
- ☐学生相談と学生危機管理対策。共通事項としてどこまで手をかけてあげるものなのか判断に悩む。
- ☐学務系について全てです。
- ☐入試の事務方法
- ☐学生相談・支援
- ☐就職支援
- ☐法令関係
- ☐学生相談 上手に話を聞く, 真に受けない
- ☐危機管理, 学生相談
- ☐人間力
- ☐危機管理対応能力
- ☐学生に対する修学支援等を含むサービスを「体系的に」捉える事ができる能力

5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書きください。

- ☐他大学との交流が出来, 夜の部でいろいろな話を聞いて参考になった。
- ☐多様な受講生, 講師, スタッフからよい影響を受け意識改革が出来たこと。
- ☐学務系全般 (教務, 学生支援, 入試) に関する研修項目が設定されており, 各分野における教育問題, 懸案事項について理解することができた。
- ☐事例を取り上げてワークで考えをシェアしていき解決を図るところ。
- ☐学生危機管理対応実践・・・現在担当している業務に活かせる。
- ☐学生支援業務への基本的な取り組み方から, 発展的なワークショップまであり良かった。
- ☐日々自己流で仕事をしているので, 講師の方々やグループの他大学の方々のお話を聞いて, 見方を変えることが出来たこと。他大学の方々と知り合えたこと。
- ☐同じグループの方々から色々なお話を伺うことができ, とても勉強になりました。
- ☐他大学の担当者と知り合うことが出来た。
- ☐他大学の状況や取組から学べた。
- ☐他大学の色々な取組を知ることが出来た。
- ☐色々な事柄について見る方向によって見え方が違う。

- 再度スキルアップの必要性を感じ勉強する気持ちが出た。
 - 全て勉強になった。
 - 他大学の職員との交流が持てて良かった。
 - グループワークの際、他大学の現場の状況を知ることが出来て良かった。
 - 意見交換、情報交換ができて良かったです。
 - 班が同じではなく変わっていたので、より多くの方と話す事が出来ました。
- ありがとうございました。
- いつも図書館の業務に追われているので、今回の研修は大学人としての視野が広がった。
大学運営を「主体的」に捉えることが少し出来た。「アフター5」で知り合いが増えました。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

- ワーク形式よりは講義形式がいい。基礎的知識の講義がいい。
- もっとワークを増やして欲しい。
- 研修が2日間に渡るとは少しきつい感じがします。
- なんでも話し合う会に一度参加してみたい。
- 「学務系」職員以外にこの研修は是非受講して欲しい。なぜなら、私たちは「大学（高専）人」なので、学生は職員を学務系などの見方はしないと思う。

SPODフォーラム2012「社会連携入門ーこれであなたも社会連携通ー」

1. 到達目標

- ・社会連携を巡る基礎的な認識を深めることができる。
- ・大学の社会連携事業が抱えている今日的な課題について自ら認識することができる。
- ・問題解決方策に一定の光を当てることができる。
- ・チーム全体としての問題解決力、チームに貢献することの重要性を説明できる。
- ・社会連携（特に産学連携）の世界で話題になることの多い様々な概念、用語について説明できる。
- ・「社会連携通」になれる。

2. 対象者

大学等の社会連携活動に従事されている方、関心を持たれている方が中心ですが、教員、事務職員を問わず、社会連携初心者の方も大歓迎です。

3. 日 時

平成24年8月23日（木） 13：30～15：00

4. 場 所

徳島大学 常三島キャンパス 共通教育6号館 2階 6-201教室

5. 担当講師

土居 修身（愛媛大学社会連携推進機構 副機構長・教授授）

兒玉 直子（愛媛大学社会連携支援部社会連携課外部資金チームリーダー）

6. 概 要

まずは、大学の社会連携とは何か、何故社会連携なのか、どのような歴史的経緯があるのか、等社会連携を巡る基礎的な認識を深めます。研究分野や教育分野、これらをサポートする事務分野の方々も、このような基礎的認識を深めることにより日常の諸活動の幅が広がります。

次いで、主題である大学の社会連携事業が抱えている今日的な課題について問題提起し、その解決方策をグループワークで考えます。参加者が自らの課題として受け止め、その解決策を探る議論に参加することにより、チームとしての問題解決力をつけるとともに、チームに貢献することの重要性理解向上に繋がります。

最後に、社会連携（特に産学連携）の世界で話題になることの多い様々な概念、用語について解説します。社会連携虎の巻です。「これで貴方も社会連携通」がキャッチフレーズです。

社会連携入門-これであなとも社会連携通-アンケート集計結果

当日参加者数：37名

アンケート回答者数：36名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	34	94.4
② 短期大学	1	2.8
③ 高等専門学校	1	2.8
④ その他 ()	0	0.0
計	36	100.0

その他の記述内容

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国（国立大学法人）	15	41.7
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	6	16.7
③ 学校法人	15	41.7
④ その他 ()	0	0.0
計	36	100.0

その他の記述内容

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	19	52.8
② 北海道	0	0.0
③ 東北	1	2.8
④ 関東	2	5.6
⑤ 中部	2	5.6
⑥ 近畿	6	16.7
⑦ 中国	3	8.3
⑧ 九州・沖縄	3	8.3
計	36	100.0

(4) 職種

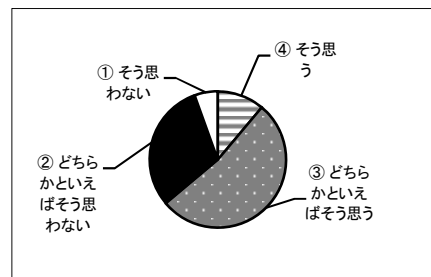
	度数	割合
① 教員	6	16.7
② 職員	30	83.3
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	0	0.0
計	36	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

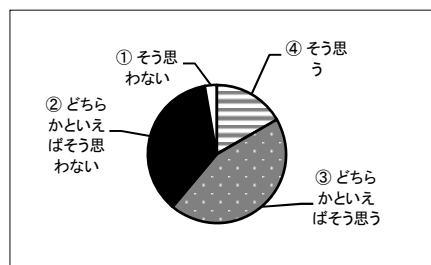
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	4	11.1
③ どちらかといえばそう思う	19	52.8
② どちらかといえばそう思わない	11	30.6
① そう思わない	2	5.6
計	36	100.0



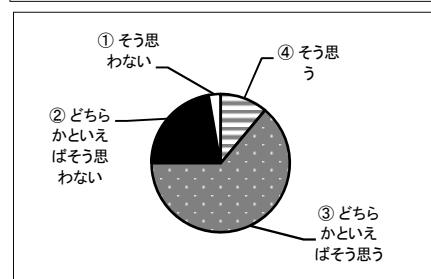
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	6	16.7
③ どちらかといえばそう思う	16	44.4
② どちらかといえばそう思わない	13	36.1
① そう思わない	1	2.8
計	36	100.0



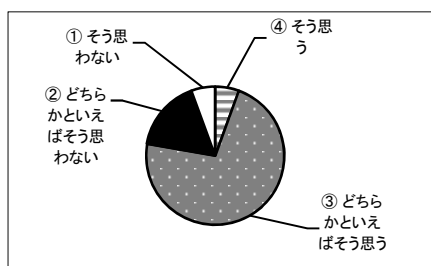
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	4	11.1
③ どちらかといえばそう思う	23	63.9
② どちらかといえばそう思わない	8	22.2
① そう思わない	1	2.8
計	36	100.0



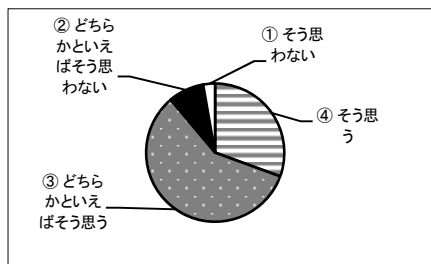
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	2	5.6
③ どちらかといえばそう思う	26	72.2
② どちらかといえばそう思わない	6	16.7
① そう思わない	2	5.6
計	36	100.0



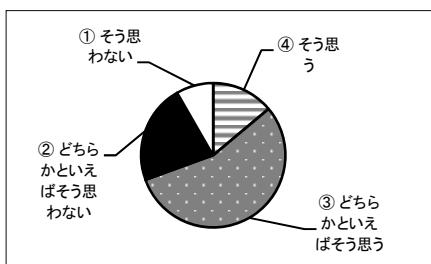
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	11	30.6
③ どちらかといえばそう思う	21	58.3
② どちらかといえばそう思わない	3	8.3
① そう思わない	1	2.8
計	36	100.0



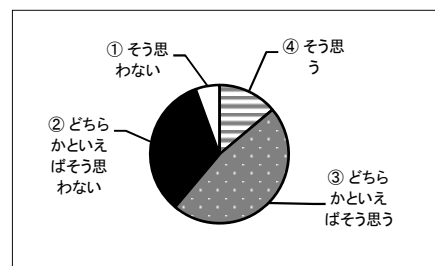
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	5	13.9
③ どちらかといえばそう思う	20	55.6
② どちらかといえばそう思わない	8	22.2
① そう思わない	3	8.3
計	36	100.0



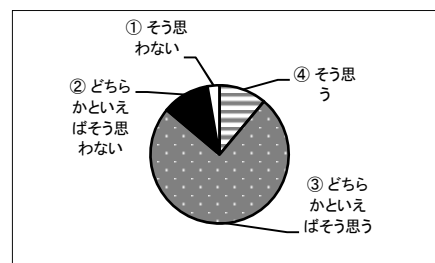
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	5	13.9
③ どちらかといえばそう思う	17	47.2
② どちらかといえばそう思わない	12	33.3
① そう思わない	2	5.6
計	36	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	4	11.1
③ どちらかといえばそう思う	27	75.0
② どちらかといえばそう思わない	4	11.1
① そう思わない	1	2.8
計	36	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ☐ 社会連携の問題点を知れて良かった。
- ☐ 部署柄関係のなかったテーマだったので、考える良いきっかけとなりました。
- ☐ 社会連携、産学官連携の概念が理解できた。大学の置かれた状況についても学ぶことができ、良かった。
- ☐ 社会連携（特に産学連携）の仕事をしているので頭の整理になった。
- ☐ 連携について理解が深まりました。
- ☐ 前半部分の大学改革への意識
- ☐ 連携の意義がよく分かりました。
- ☐ 非常に話が面白かったです。もっと聞きたいと思いました。
- ☐ 連携とは何か。
- ☐ 普段あまり聞けないお話が聞けて良かったです。
- ☐ 想定外の内容でしたが、将来役立ちそうです。
- ☐ 専門知識の取得。他の方の意見が聞けたこと。
- ☐ 曖昧に理解していた言葉（用語）を正しく理解できた。
- ☐ 漠然としか理解してなかったことが理解できた。
- ☐ 大学幹部の意識改革が必要だとしても、SPODフォーラムで言われても対象が異なると思う。
- ☐ 現在の大学における社会連携の問題点がよく分かった。
- ☐ 連携の何たるかが少し分かったように思います。今後に生かせると思います。
- ☐ 楽しい授業、楽しいメンバー（No3グループ）でした。
- ☐ 知らない言葉ばかりでしたが、勉強になりました。
- ☐ 後半の話を聞きたかったです。
- ☐ 日本の政府がいかにもダメか、再認識できて良かったと思う。
- ☐ 刺激になった。勉強意欲がわいた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ☐ じっくり深く知るには、2コマあった方がよかったように思う。
- ☐ もう少し時間を長くして、グループディスカッションしたい。
- ☐ 本日はありがとうございました。
- ☐ 仕事にどう活かすか課題だと思った。
- ☐ 海外での成功事例とか、具体的な例を挙げて説明して欲しかった。
- ☐ 暑いので秋か冬にやって欲しい。

次世代リーダー養成研修（第1回）実施要項

1. 目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に養成する。

2. 達成目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

3. 開催日（期間）

（第1回） 平成24年6月21日（木）～23日（土） （愛媛大学・松山大学）

※次世代リーダー養成研修のプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

※平成24年度の開催予定

（第2回） 平成24年 7月19日（木）～21日（土）（徳島大学・四国大学）

（第3回） 平成24年11月15日（木）～16日（金）（香川大学）

（第4回） 平成25年 1月24日（木）～26日（土）（高知大学・高知工科大学）

4. 場 所

愛媛県松山市道後樋又10番13号

愛媛大学 本部第2・第4会議室

愛媛県松山市文京町4番2号

松山大学 東本館7階会議室

5. 日 程

別紙「次世代リーダー養成研修（第1回）日程表」のとおり

6. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
- ※スタッフ・ポートフォリオ様式、記入要領等を送付しますので、参照してください。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。

※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。

※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

7. 募集人員

8名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

8. 講師

桜美林大学大学院大学アドミニストレーション研究科	教授	山本眞一
桜美林大学心理・教育学系健康福祉学群	准教授	石渡尊子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	教授	秦 敬治
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	准教授	山田剛史
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	大竹奈津子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	阿部光伸
愛媛大学教育学生支援部	部長	米澤愼二
愛媛大学総務部人事課	課長	吉田一恵 他

9. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

10. 主催

主担当：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

協力校：高知大学

次世代リーダー養成研修（平成24年度第1回）日程表

日時：6月21日（木）～22日（金）：愛媛大学 本部第2・4会議室

6月23日（土）

：松山大学 東本館7階会議室

時間	（1日目）6月21日（木） 愛媛大学		（2日目）6月22日（金） 愛媛大学		時間
	2期生	3期生	2期生	3期生	
9:00					9:00
9:30			【第4会議室】	【第2会議室】	
10:00	受付		プロジェクト企画進捗報告	「高等教育IR」	
10:30	【第4会議室】		講師：大竹 奈津子 阿部 光伸 米澤 慎二	講師：山田 剛史	
11:00	メンター入門	受付			11:00
11:30	講師：大竹 奈津子 阿部 光伸 米澤 慎二	開講式 【第2会議室】 オリエンテーション・ アイスブレイク		【第2会議室】 3期生による自大学プレゼンテーション 講師：秦・仲道・大竹・阿部・米澤・吉田	12:00
12:30	昼食		昼食		13:00
13:30	【第2会議室】 3期生へのメンタリング ※2期生が3期生と面談 講師：秦・仲道・大竹・阿部・米澤・吉田		【第2会議室】 3期生による自大学プレゼンテーション 講師：秦・仲道・大竹・阿部・米澤・吉田		14:00
15:00	【第5会議室】	【第2会議室】	【第4会議室】	【第2会議室】	
	SPODフォーラム用 シラバス作成 講師：大竹 奈津子 阿部 光伸 米澤 慎二	リーダーシップ論&実践Ⅰ 講師：秦 敬治	SPODフォーラム用 シラバス作成 講師：大竹 奈津子 阿部 光伸 米澤 慎二	「高等教育政策論」 講師：桜美林大学 教授 山本 真一	
17:30			修了プロジェクト発表（1期生） 【第2会議室】 講師：秦・仲道・大竹・阿部・米澤・吉田		17:00
18:30	休憩（チェックイン）		【第2会議室】 最終口頭試問（1期生）		17:30
21:00	【アクティブラーニングスペース ミューズ1F】 E L S 講師：秦・仲道・大竹・阿部		情報交換会 場所：セ・トリアン （愛媛大学城北キャンパス内）		18:00
	学生との情報交換会				19:00
					21:00

時間	(3 日 目) 6 月 2 3 日 (土) 松山大学		
9:00	2 期 生	3 期 生	
	【第 1 会 議 室】		
	「高等教育史」 講 師：桜美林大学 准教授 石 渡 尊子		
12:00	昼 食		
13:00	【第 1 会 議 室】		
	3 期 生による自大学プレゼンテーション 講 師：秦・仲道・大竹・阿部・米澤・吉田		
16:00	閉講式		

(注) 都合により、時間を変更する場合があります。

次世代リーダー養成研修（第2回）実施要項

1. 目的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に養成する。

2. 達成目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

3. 開催日（期間）

（第2回） 平成24年7月19日（木）～21日（土） （徳島大学・四国大学）

※次世代リーダー養成研修のプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

※平成24年度の開催予定

（第1回） 平成24年 6月21日（木）～23日（土）（愛媛大学・松山大学）

（第3回） 平成24年11月15日（木）～16日（金）（香川大学）

（第4回） 平成25年 1月24日（木）～26日（土）（高知大学・高知工科大学）

4. 場 所

徳島県徳島市新蔵町2丁目24番地 徳島大学

徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1 四国大学

5. 日 程

別紙「次世代リーダー養成研修（第2回）日程表」のとおり

6. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
- ※スタッフ・ポートフォリオ様式、記入要領等を送付しますので、参照してください。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。

※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。

※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

7. 募集人員

8名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

8. 講 師

九州共立大学共通教育センター	教授	船戸高樹
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	教授	秦 敬治
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	大竹奈津子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	阿部光伸
愛媛大学教育学生支援部	部長	米澤愼二
愛媛大学総務部人事課	課長	吉田一恵 他

9. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

10. 主 催

主担当：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

協力校：高知大学

次世代リーダー養成研修（第2回）日程表

日時：7月19日（木）

：四国大学本館4F

7月20日（金）～21日（土）：徳島大学・新蔵キャンパス

時間	（1日目）7月19日（木）四国大学		（2日目）7月20日（金）徳島大学		時間
	2期生	3期生	2期生	3期生	
			【共用室】	【第1・第2会議室】	9:00
			SPODフォーラム プログラム準備 講師：秦 敬治 仲道 雅輝 米澤 慎二	トップリーダーとの対談 徳島大学 岩川雅士理事 四国大学 佐藤勉事務局長 愛媛大学 渡邊春重理事 講師：大竹 奈津子 阿部 光伸 吉田 一恵	
12:00	【 中会議室 】 受付		昼食		12:00
13:00	開講式				13:00
	【第1小会議室】	【 中会議室 】	【第1・第2会議室】		13:00
	SPODフォーラム プログラム準備 講師：仲道 雅輝 米澤 慎二	課題プレゼンテーション 講師：大竹 奈津子 阿部 光伸 吉田 一恵	「リーダーシップについて語ろう！」 講師：高知大学 末本美千代 香川大学 野口 里美		
			【第1・第2会議室】		14:30
			「大学のガバナンスとマネジメント」 講師：九州共立大学 教授 船戸 高樹		
16:30	【第1小会議室】	【 中会議室 】			
	「プロジェクト企画進捗報告」 講師：秦・仲道・米澤	トップリーダーとの対談準備 講師：大竹・阿部・吉田			
17:30					17:30
			情報交換会		19:00

時間	(3 日 目) 7 月 2 1 日 (土) 徳島大学		
9:00	2 期 生	3 期 生	
	【第 1 ・ 第 2 会 議 室】		
	「 2 期 生 に よ る S P O D フ ォ ー ラ ム 		

(注) 都合により、時間を変更する場合があります。

次世代リーダー養成研修（第3回）実施要項

1. 目 的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に養成する。

2. 達成目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・ 高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・ 経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・ リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・ 情報収集・分析を行うことができる。
- ・ 企画策定・提案を行うことができる。
- ・ 判断を行うことができる。
- ・ 折衝・調整を行うことができる。
- ・ 後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・ 学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・ 立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・ 地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・ リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

3. 開催日（期間）

（第3回） 平成24年11月15日（木）～16日（金）（高松テルサ）

※次世代リーダー養成研修のプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

※平成24年度の開催予定

（第1回） 平成24年 6月21日（木）～23日（土）（愛媛大学・松山大学）

（第2回） 平成24年 7月19日（木）～21日（土）（徳島大学・四国大学）

（第4回） 平成25年 1月24日（木）～26日（土）（高知大学・高知工科大学）

4. 場 所

香川県高松市屋島西町2366-1 高松テルサ

5. 日 程

別紙「次世代リーダー養成研修（第3回）日程表」のとおり

6. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
- ※スタッフ・ポートフォリオ様式、記入要領等を送付しますので、参照してください。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。

※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。

※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

7. 募集人員

8名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

8. 講 師

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	教授	秦 敬治
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	大竹奈津子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	阿部光伸
愛媛大学教育学生支援部	部長	米澤慎二
愛媛大学総務部人事課	課長	吉田一恵 他

9. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

10. 主 催

主担当：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

協力校：高知大学

次世代リーダー養成研修（第3回）日程表

日時：平成24年11月15日（木）～16日（金）

場所：高松テルサ

時間	（1日目）11月15日（木）		（2日目）11月16日（金）		時間
	2期生	3期生	2期生	3期生	
			【第2研修室】 大学職員になろうキャンペーン・企画 講師：秦・仲道・大竹・阿部・米澤・吉田		9:00
12:30	受 付		昼食		12:00
13:00	開講式 挨拶：香川大学 高木 健一郎 理事		【第2研修室】		13:00
13:15	アイスブレイク		危機管理論&実践 講師：阿部・米澤		
	【第1研修室】 プロジェクト企画 進捗状況報告 講師：大竹・米澤	【第2・第3研修室】 3期生による 課題プレゼンテーション 南大阪コンソーシアム受講生による 課題プレゼンテーション 講師：秦・仲道・阿部・吉田			14:30
15:30	SPOD-SDプログラム 講師を目指して 講師：大竹・米澤		【第2研修室】 リーダーシップ論&実践Ⅱ 講師：秦		16:00
16:45	休憩		【第2研修室】 次世代リーダー養成研修（第3回）の振り返り 講師：秦・仲道・大竹・阿部・米澤・吉田		17:00
17:30	講話 講師：Denise Rollin				
19:00	休憩				
19:15	【第2研修室】 大学職員になろうキャンペーン・企画 講師：秦・仲道・大竹・阿部・米澤・吉田				
21:00					

（注）都合により、時間を変更する場合があります。

次世代リーダー養成研修（第4回）実施要項

1. 目 的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に養成する。

2. 達成目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる以下のことができる。

- ・ 高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・ 経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・ リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる以下のことができる。

- ・ 情報収集・分析を行うことができる。
- ・ 企画策定・提案を行うことができる。
- ・ 判断を行うことができる。
- ・ 折衝・調整を行うことができる。
- ・ 後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・ 学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・ 立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・ 地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・ リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

3. 開催日（期間）

（第4回） 平成25年 1月24日（木）～26日（土）（高知大学・高知工科大学）

※次世代リーダー養成研修のプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

ただし、全体として必要時間数が確保される場合は、1泊2日とする場合がある。

※平成24年度の開催予定

（第1回） 平成24年 6月21日（木）～23日（土）（愛媛大学・松山大学）

（第2回） 平成24年 7月19日（木）～21日（土）（徳島大学・四国大学）

（第3回） 平成24年11月15日（木）～16日（金）（高松テルサ）

4. 場 所

高知県高知市曙町二丁目5番1号

高知大学

高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

高知工科大学

5. 日 程

別紙「次世代リーダー養成研修（第4回）日程表」のとおり

6. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
- ・各機関の長が推薦する者。
- ・SPOD加盟校の職員。
- ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
※スタッフ・ポートフォリオ様式、記入要領等を送付しますので、参照してください。
- ・受講にあたっての抱負が明確であり、受講申込時に文書（400文字程度）で提出できる者。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。
※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。
※2年間で修了要件である全日程の9割以上出席可能な人を推薦してください。

7. 募集人員

8名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

8. 講 師

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	教授	秦 敬治
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	仲道雅輝
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	助教	大竹奈津子
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	阿部光伸
愛媛大学教育学生支援部	部長	米澤慎二
愛媛大学総務部人事課	課長	吉田一恵 他

9. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなし、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。
- ・全てのプログラムについてA～Dの4段階で評価し、総合判定A～Cの評価を得ること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

10. 主 催

主担当：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

協力校：高知大学

次世代リーダー養成研修（第4回）日程表

日時：1月24日（木）

：高知工科大学A-105教室

：1月25日（金）～26日（土）：高知大学総合研究棟2F

時間	（1日目）1月24日（木）		（2日目）1月25日（金）		時間
	2期生	3期生	2期生	3期生	
9:00					9:00
			課題プレゼンテーション -3期生- 「大学の構成員を巻き込んだプロジェクトの構築」 講師：秦・大竹・阿部・米澤・吉田		
12:30			昼食		12:00
13:30	開講式 高知工科大学 見学				13:00
	「修了プロジェクト発表」 -2期生- 講師：秦・大竹・阿部・米澤・吉田		「最終口頭試問」 講師：秦・阿部・吉田 「次世代リーダー養成研修を振り返って」 発表の準備	「フォロワーシップ実践」 講師：大竹 奈津子 米澤 慎二	15:00
				「インストラクショナルデザイン（ID）を活用した職員による企画・立案マネジメント」 講師：仲道 雅輝	
					17:30
18:00					18:00
19:00			修了パーティ		19:00

時間	(3 日 目) 1 月 2 6 日 (土)		
9:00	2 期 生	3 期 生	
	「メンタリング実践Ⅱ」 講師：秦・大竹・阿部・米澤・吉田		
11:00	課題プレゼンテーション -3 期 生- 「大学職員になろうキャンペーン・企画」 講師：秦・大竹・阿部・米澤・吉田		
12:30	昼 食		
13:30	「SDプログラム構築実践」 (講師担当プログラムの決定) 講師：大竹・米澤	「2年目に向けての 意見交換」 講師：秦・阿部・吉田	
	講話 講師：高知大学 深見理事・副学長		
14:20	次世代リーダー養成研修を振り返って-2 期 生- 講師：秦・大竹・阿部・米澤・吉田		
	修了式		
15:50			
16:20			

(注) 都合により、時間を変更する場合があります。

SPODフォーラム2012「トップリーダーセミナー」 高等教育の質保証に向けた認証評価のあり方と活用

1. 到達目標

- ・認証評価の基本方針および概要および第一サイクルの検証からみえる課題を理解する。
- ・認証評価の第二サイクルの方向性について理解する。
- ・認証評価システムを機関の内部質保証につなげるアイデアを共有する。

2. 対象者

教職員，管理職

3. 日 時

平成24年8月23日（木） 13：30～15：00

4. 場 所

徳島大学 常三島キャンパス 共通教育4号館 4階 4-402教室

5. 担当講師

栗田佳代子（大学評価・学位授与機構 研究開発部 准教授）

6. 概 要

平成16年度に導入された新しい質保証システムとしての認証評価について、認証評価機関の一つとして大学評価・学位授与機構も第一期の7年間を終えました。今年度からは新しい評価基準をもとに評価を実施しているところです。当機構では認証評価に関する説明会を1年に数度行っており、直接認証評価のプロセスに関連のある方々にご参加いただいております。しかしながら、認証評価を受けることによってもたらされる効果や意義が限定的という問題があることも認識しております。

本プログラムでは、認証評価についての基本的枠組みおよび第一サイクルの検証結果を踏まえた第二サイクルの変更点について話題提供しつつ、各機関の質の向上に資するための認証評価のとらえ方、活用の仕方について一緒に考えたいと思います。

トップリーダーセミナー「高等教育の質保証に向けた認証評価のあり方と活用」 アンケート集計結果

当日参加者数：47名

アンケート回答者数：40名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	32	80.0
② 短期大学	2	5.0
③ 高等専門学校	3	7.5
④ その他（ ）	3	7.5
計	40	100.0

その他の記述内容
記述なし (2)
大学団体 (1)

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国（国立大学法人）	14	35.0
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	2	5.0
③ 学校法人	21	52.5
④ その他（ ）	3	7.5
計	40	100.0

その他の記述内容
記述なし (3)

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	17	42.5
② 北海道	0	0.0
③ 東北	0	0.0
④ 関東	11	27.5
⑤ 中部	4	10.0
⑥ 近畿	4	10.0
⑦ 中国	3	7.5
⑧ 九州・沖縄	1	2.5
計	40	100.0

(4) 職種

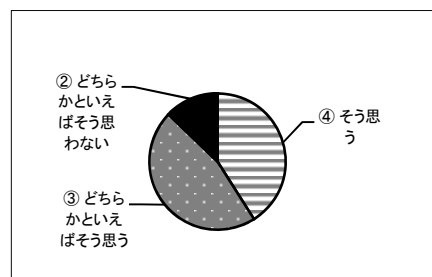
	度数	割合
① 教員	14	35.0
② 職員	24	60.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	2	5.0
計	40	100.0

その他の記述内容
記述なし (1)

2. この研修について

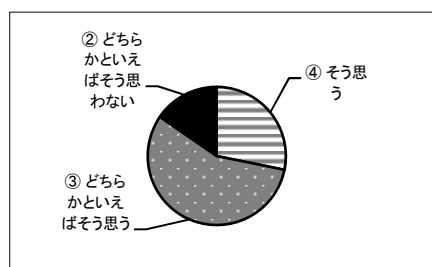
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	16	41.0
③ どちらかといえばそう思う	18	46.2
② どちらかといえばそう思わない	5	12.8
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



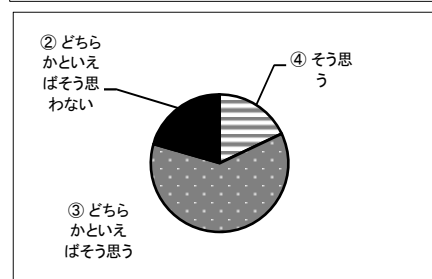
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	11	28.2
③ どちらかといえばそう思う	22	56.4
② どちらかといえばそう思わない	6	15.4
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



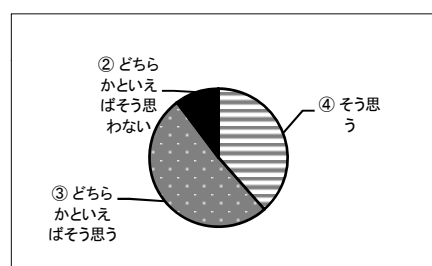
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	7	17.9
③ どちらかといえばそう思う	24	61.5
② どちらかといえばそう思わない	8	20.5
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



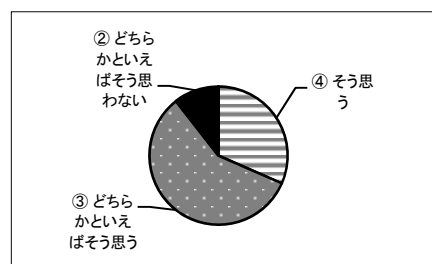
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	15	38.5
③ どちらかといえばそう思う	20	51.3
② どちらかといえばそう思わない	4	10.3
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



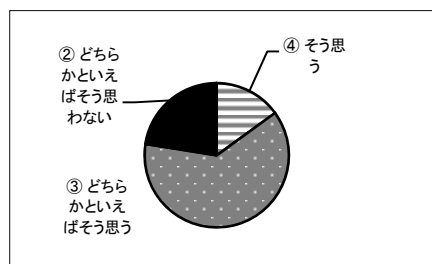
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	12	31.6
③ どちらかといえばそう思う	22	57.9
② どちらかといえばそう思わない	4	10.5
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0



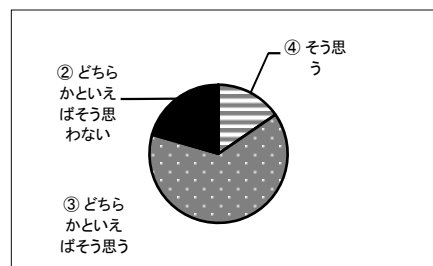
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	6	15.0
③ どちらかといえばそう思う	25	62.5
② どちらかといえばそう思わない	9	22.5
① そう思わない	0	0.0
計	40	100.0



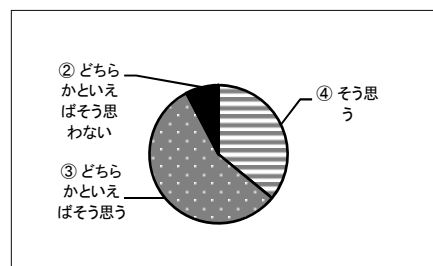
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	6	15.4
③ どちらかといえばそう思う	25	64.1
② どちらかといえばそう思わない	8	20.5
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	14	35.9
③ どちらかといえばそう思う	22	56.4
② どちらかといえばそう思わない	3	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 認証評価が大変よく分かった。
- 私立大ですが大変参考になりました。
- 認証評価についてよく分かりました。特に評価による効果の説明は分かりやすく勉強になりました。
- 認証評価について詳しく知ることが出来ました。ありがとうございました。
- 直接的に業務に関係のない内容だったためあまりすぐに役に立つことはないのですが、今後必要になることでもあると思いますので、しっかり勉強して参ります。
- ありがとうございます。
- 25年度に認証評価を受けることから有意義な内容であった。
- 認証評価の概要を理解することが出来た。
- 第2サイクルの評価基準を知ることができた。
- 第2サイクルの改善点がよく理解できました。
- ホームページに各国の質保証について載っていることが分かったので良かった。
- 選択評価の考え方、評価機構の姿勢がよく理解できた。
- 大学がどのような軸で評価されるか分かり、目的意識を持ってSDを進めるための土台としての知識を得られた。(SDというと漠然としがちなので)
- 最新の情報に触れることが出来たこと。比較的発言しやすい雰囲気作りがなされていたこと。
- 他機関の基準を口頭で伝えてもらえて理解が進んだ。
- テーマの内容から講義形式にならざるをえない点はあるが、グループで紹介を含めて少し話し合う機会を持って欲しかった。最後に質問の時間が10分程度取れたので、少しは意見の交換ができて良かったと思います。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ワークがないので、机の配置をレクチャー用にしてください。どうもありがとうございました。
- テーマについて：質保証について協議時間又は質疑時間がもう少し長くして欲しい。研修について：FDとSDと同時にするのはテーマによって無理があるのではないか。
- 今日の進め方では、机の配置は教室形式でよかったのでは。資料ありだが、PPスクリーンの意味が薄い。
- もう少し先生の研究やお考え等をお聞きしたかった。概要は説明会。資料で把握できるので。
- 評価制度の説明よりも評価結果の活用について意見交換する。プログラム構成のセミナーとしてはいかがでしょうか。
- 先生からも提案がありましたが、フロアの方との事例紹介、情報交換ができると良いと思いました。
- 参加者が多様なので難しいとは思いますが、基本的な理解を踏まえた上で、ディスカッション中心に組み立てた方がおもしろいかと思います。ありがとうございました。

5. 平成24年度活動報告
(2) SD事業
②「職員業績記録
(スタッフ・ポートフォリオ)の開発」資料

② 職員業績記録（スタッフ・ポートフォリオ）の開発

SPODフォーラム2012「スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ」

1. 目 的

スタッフ・ポートフォリオを実際に作成してもらう。また、スタッフ・ポートフォリオを作成することで、大学職員としての自己認識と方向性を明確にさせる。

2. 対象者

スタッフ・ポートフォリオに興味がある職員
自己のビジョンとゴールを明確にしたい職員
自己の業績をまとめたいと思う職員
若手職員の成長を促す人材育成マネジメントに興味がある職員
職員の能力を活用した人事マネジメントを実践したい職員

3. 日 時

平成24年8月24日（金）9：00～12：30

4. 場 所

徳島大学 常三島キャンパス 共通教育4号館 4階 4-404教室

5. 担当講師

阿部 光伸（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 特任助教）
上甲 功治（愛媛大学総務部人事課人材育成チームリーダー）
玉岡 兼治（聖カタリナ大学 図書課課長補佐）

6. 概 要

スタッフ・ポートフォリオ（職員業績記録）は、職員としての業績をエビデンスに基づき振り返ることで自身のビジョンとゴールを明確にすることができ、個人と組織のベクトルをマッチングさせることが出来るツールです。

本プログラムでは、スタッフ・ポートフォリオの有益性とは何かなどを明示した後に、SPOD-SDでの活用例及び愛媛大学での導入例を示し、実際にスタッフ・ポートフォリオを作成した職員の意見を聞くなど、実践例を紹介します。

スタッフ・ポートフォリオは大学や大学職員人事マネジメントにどのような影響や効果を与えるのか。また、職員個人にどのような影響や効果があるのか。さらには、スタッフ・ポートフォリオは簡単に作成することができるのか。作成する場合に重要なこととは何であろうか。このような疑問を一つずつ解決できるようなプログラムです。

7. 到達目標

- ・スタッフ・ポートフォリオとは何かを説明することができる。
- ・スタッフ・ポートフォリオの有益性を人事マネジメントの面から説明できる。
- ・スタッフ・ポートフォリオの有益性を職員個人の面から説明できる。
- ・スタッフ・ポートフォリオ作成の際に重要になるポイントを説明できる。

スタッフ・ポートフォリオの作成ワークショップアンケート集計結果

当日参加者数：21名

アンケート回答者数：19名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	17	89.5
② 短期大学	1	5.3
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他 ()	1	5.3
計	19	100.0

その他の記述内容
記述なし

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国（国立大学法人）	3	15.8
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	1	5.3
③ 学校法人	14	73.7
④ その他 ()	1	5.3
計	19	100.0

その他の記述内容
記述なし

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	3	15.8
② 北海道	1	5.3
③ 東北	1	5.3
④ 関東	4	21.1
⑤ 中部	1	5.3
⑥ 近畿	3	15.8
⑦ 中国	4	21.1
⑧ 九州・沖縄	2	10.5
計	19	100.0

(4) 職種

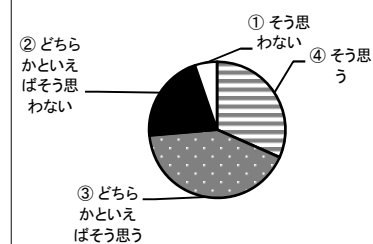
	度数	割合
① 教員	1	5.3
② 職員	17	89.5
③ 学生	0	0.0
④ その他 ()	1	5.3
計	19	100.0

その他の記述内容
記述なし

2. この研修について

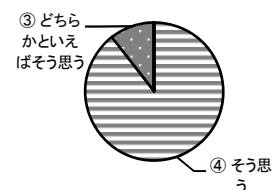
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	6	31.6
③ どちらかといえばそう思う	8	42.1
② どちらかといえばそう思わない	4	21.1
① そう思わない	1	5.3
計	19	100.0



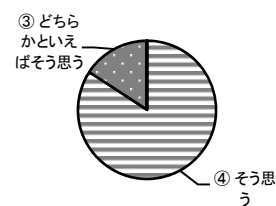
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	17	89.5
③ どちらかといえばそう思う	2	10.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



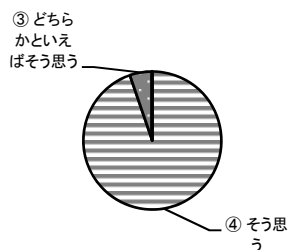
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	16	84.2
③ どちらかといえばそう思う	3	15.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



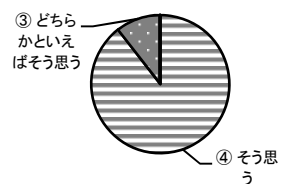
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	18	94.7
③ どちらかといえばそう思う	1	5.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



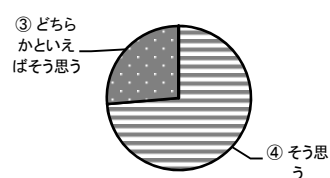
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	17	89.5
③ どちらかといえばそう思う	2	10.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



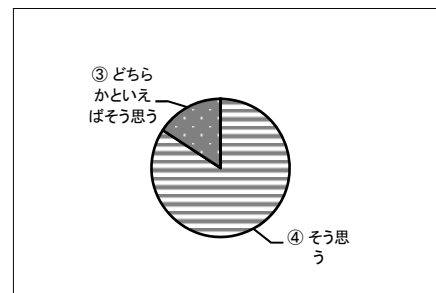
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	14	73.7
③ どちらかといえばそう思う	5	26.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



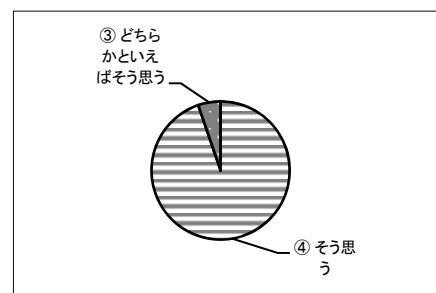
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	16	84.2
③ どちらかといえばそう思う	3	15.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	18	94.7
③ どちらかといえばそう思う	1	5.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 現在の自分に不足していることを確認することができました。
- 業務実績を可視化するという手法は大変参考になりました。自学でも取り組めたらと思います。
- 自分を改めて知ることができた。小刻みよいワークタイムで楽しめた。
- 自分と向きあうことができた。
- スタッフ・ポートフォリオを作ってみようと思います。
- 自分に気づけた部分があり、大変有意義でした。
- 個人的には本講習が3日間の最後のプログラムでしたが、最後に自分のことを語り、夢を描くという作業ができ、希望を抱いて職場に戻ることができます。初日、2日目で受講した際の”気づき” ”自分の知らない自分”を本講習で体現でき、軽やかな気持ちです。
- 話をしていることで、自分の考えが整理できていくことがよく分かりました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- とても勉強になりました。ありがとうございました。
- メンターとしてのスキルが重要かと思いました。

5．平成24年度活動報告

（3）SPODフォーラム

アクティブラーニング型授業の展開

話の構成:

- ①アクティブラーニングの背景
- ②アクティブラーニングとは
- ③アクティブラーニング型授業の展開
- ④ピアインストラクションの紹介

溝上 慎一

(京都大学高等教育研究開発推進センター／教育学研究科)

<http://smizok.net/>

E-mail mizokami.shinichi.4u@kyoto-u.ac.jp

1/30

Slide1

*

今日の話

- ①アクティブラーニングの登場の背景
- ②アクティブラーニングとは
- ③アクティブラーニング型授業の展開

Slide2

教授学習観の転換:「教える」から「学ぶ」へ

From Teaching to Learning

・米国の国家レポート(1983):

「これからの(アメリカの)卓越した高等教育の基本的考え方は、学生の学習を中心とした教育をおこなうことである。」(p.v)

参考: The Study Group on the Conditions of Excellence in American Higher Education (1983). *Involvement in Learning*.

・教員は何を教えるかではなくて、学生が何を学んだのかを指標として、FDや教育改善をおこなう。

参考:

- ・Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. *Change*, 27 (6), 12-25.
- ・Tagg, J. (2003). *The learning paradigm college*. Bolton, Massachusetts: Anker.

2

Slide3

「学生の学びと成長」の場としての大学教育

Student Learning and Development

大学教育は学生の価値や思考法、学習様式、対人関係・文化的スキルの発展に関心を持つべきである。

第1版“Education and Identity”が1969年に出版されたとき、多くの大学関係者はこの考えに賛同しなかった(Chickering & Reisser, 1993)。

参考:

- ・Chickering, A. W. (1969). *Education and identity*. San Francisco: Jossey-Bass.
- ・Chickering, A. W., & Reisser, L. (1993). *Education and identity*. 2nd ed. San Francisco: Jossey-Bass.



2

Slide4

1. 知識・理解	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。 (1)多文化・異文化に関する知識の理解 (2)人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能 (1)コミュニケーション・スキル（日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる） (2)数量的スキル（自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができ） (3)情報リテラシー（情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに即って効果的に活用することができ） (4)論理的思考力（情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる） (5)問題解決力（問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる）
2. 汎用的技能	(1)自己管理能力（自らを律して行動できる） (2)チームワーク、リーダーシップ（他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる） (3)倫理観（自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる） (4)市民としての社会的責任（社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる） (5)生涯学習力（卒業後も自律・自立して学習できる）
3. 態度・志向性	これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力
4. 総合的な学習経験と創造的思考力	

参考：中央教育審議会答申『学士課程教育の構築に向けて』（2008年12月24日）

知識習得の場としての大学

↓

知識習得の場
+
【拡張】知識活用能力養成の場

アクティブラーニング
(AL:Active Learning)

ジェネリックスキル

参考：
・溝上慎一（2012）. 学生の学びと成長 京都大学高等教育研究開発推進センター（編） 生成する大学教育学 ナカニシヤ出版 Pp.119-145.

Slide6

1

Slide8

3

アクティブラーニングとは

定義：
・授業者からの一方向的な知識伝達型授業(学習者の受動的な学習)から、学習者の能動的な学習を取り込んだ授業への転換を目指す再広義の教育政策用語。
・「アクティブラーニング型授業」等として使用されるべきである。

【メモ】海外の文献を参照して、学習の「能動性 (active)」をもって定義しようとするものがあるが、あれは△だと思う。(溝上)

高次の認知活動 (理解・記憶・再生・論理的/批判的/創造的思考・推論・判断・意志決定・問題解決など) からアウトプットにつながる過程のあらゆる活動

参考文献：
溝上慎一（2011）. アクティブラーニングからの総合的展開ー学士課程教育(授業・カリキュラム・質保証・FD)、キャリア教育、学生の学びと成長ー 河合塾（編） アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのかー経済系・工学系の全国大学調査からみえてきたことー 東信堂 pp.251-273.

今日の話

①アクティブラーニングの登場の背景
②アクティブラーニングとは
③アクティブラーニング型授業の展開
④ピアインストラクションの紹介

Slide7

*

さまざまなAL型の授業

- 学生参加型授業
e.g. コメント・質問を書かせる/フィードバック、理解度を確認(クリッカー、授業最後/最初に小テストミニレポート)
- 各種の共同学習を取り入れた授業
e.g. 協同学習/協同学習
- 各種の学習形態を取り入れた授業
e.g. 課題探究学習/問題解決学習
- PBLを取り入れた授業
e.g. Problem-Based Learning / Project-Based Learning
- ピアインストラクション

AL型授業の質を高める装置

- 書く・話すというアウトプットの活動
コメント用紙、レポート、ディスカッション、討論、プレゼンテーションなど
- さまざまな他者の視点を取り入れ、自己の理解を相対化させる
学生同士、教員、専門家・地域住民など外
部者など
- 宿題・課題を課す (授業外学習)
- 新たな知識・情報・体験へアクセスさせる
調べ学習、体験学習
- リフレクション
形成的・総括的評価
- 多重評価
小テスト、発表、質問、プレゼンテーション、
学生同士のピア評価など

POINT1: Active Involvement
(課題・他者) への積極的関与

POINT2: Active Communication
公共圏の他者とのコミュニケーション

Slide9

3

公共圏とは？

親密圏と公共圏で異なるのは、コミュニケーションを媒介する知がより共有されているかされていないかにある。

公共圏の人とコミュニケーションするには、
・世界観や立場の異なるさまざまな他者への興味・関心
・さまざまな知識・教養
・国際的には英語力が必要

一人の状態
(家庭、PC、マンガ、ゲーム、インターネットなど)

親密圏

公共圏

2つの対人コミュニケーションモード

- 親密圏...親密との他者との関係からなる領域
ex. 旧友、携帯、メール友達
- 公共圏...親密ではない、しばしば見知らぬ他者との関係からなる領域
ex. クラスメート、ゼミ、ビジネスなど

参考: 浅野智彦 (編) (2006). 検証・若者の変貌—失われた10年の後に— 勁草書房

Slide10

3

今日の話

- ①アクティブラーニングの登場の背景
- ②アクティブラーニングとは
- ③アクティブラーニング型授業の展開
- ④ピアインストラクションの紹介

Slide11

*

①知の重視

学習への深いアプローチ
(Deep Approach to Learning, Ference Marton)

与えられる知識や課題を記憶・習得する「浅い学習 (surface learning)」を越えて、主体的に既存の知識や経験に関連づけて理解する学習のこと。

アクティブラーニング

学習の形態を強調
学生参加、協同/協調学習、問題解決

ティープラーニング

学習の質を強調
概念を既有知識や経験と関連づける

学習の質にこだわってこそ(=ティープラーニング)、ジェネリックスキルは磨かれる。

参考:
エントウイスル, N. 山口栄一訳 (2010). 学生の理解を重視する大学授業 玉川大学出版部

Slide12

3

202

②アクティブラーニングのカリキュラム化

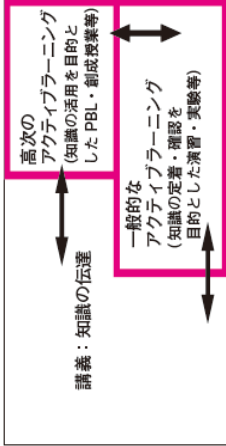
- ・授業A(→ AL型授業)
- ・授業B(→ AL型授業)
- ・授業C(→ AL型授業)
- ...
- ・授業N(→ AL型授業)

Example

Course unit/ Learning outcome	A	B	C	D	E	F	G	H	I
Unit 1		X				X			
Unit 2			X				X		
Unit 3				X				X	
Unit 4					X				X

X = THIS COMPETENCE IS DEVELOPED AND ASSESSED AND IS MENTIONED IN THE LEARNING OUTCOME OF THIS UNIT

カリキュラムマップによる組織的整理



参考文献：
河合塾（編）(2011). アクティブラーニングでなぜ学生が成長するのか—経済系・工学系の全国大学調査からみえてきたこと— 東信堂

③週複数回授業

- ・週1回の授業では、学習の質に深く迫れない。宿題や予習などと授業内容との関連づけが時間配分的に難しい。
- ・講義と演習 (seminar/tutorial) とのコンビネーションが理想的。

表 北米の典型的な講義＋演習の授業システム

月	水	木
講義 1h	講義 1h	演習 1h

*3セメスター単位の例

今日の話

- ①アクティブラーニングの登場の背景
- ②アクティブラーニングとは
- ③アクティブラーニング型授業の展開
- ④ピアインストラクションの紹介

今開発しているピアインストラクション

Dr. Eric Mazur: Harvard Professor of Physics



溝上：2012年度前期全学共通科目『自己形成の心理学』 主に1-2年生200名



POINT:

- ・学生を居眠りさせないためのクリッカーではない！
- ・Active Involvement/Active Communicationのためのクリッカー

驚いたのは...

Use the statement and figure below to answer the next two questions (15 and 16).
A large truck backs down out on the road and suddenly a push back into town by a small compact car is shown in the figure below.



15. While the car is still pushing the truck, is speeding up to get up to cruising speed.
1. the amount of force with which the car pushes on the truck is equal to that with which the truck pushes back on the car.
 2. the amount of force with which the car pushes on the truck is smaller than that with which the truck pushes back on the car.
 3. the amount of force with which the car pushes on the truck is greater than that with which the truck pushes back on the car.
 4. the truck's engine is not running so the truck cannot push back against the car. The truck is pushed forward simply because it is in the way of the car.
 5. neither the car nor the truck exerts any force on the other. The truck is pushed forward simply because it is in the way of the car.

なんと、本のほとんどのページ(pp.43-242)はクリッカ一課題(+ConcepTest)で占められている！ 良い問題こそが質の高い学習を促す。



Mazur, E. (1997). *Peer instruction: A user's manual*. New Jersey: Prentice Hall.

2

Slide17

興味があればお読みください

溝上慎一 (2006). 大学生の学び・入門ー大学の勉強は役に立つ！ー 有斐閣アルマ.

【関連】学習やキャリア意識をいかに日常課題とさせるかを論じた本。初年次教育テキスト。

溝上慎一 (2010). 現代青年期の心理学ー適応から自己形成の時代へー 有斐閣選書

【関連】青年期の現代への変貌を歴史的・社会的に概説しつつ、学習やキャリアが、大学生にとっていかに現代的な青年期課題になっているかを説明したもの。

クリッカ一に関する問い合わせ

【連絡先】 ㈱内田洋行 西日本大学営業部

担当: 日紫喜、土井

電話: 06-6920-2487

Fax: 06-6920-2788

*溝上に問い合わせてもかまいません。

mizokami.shinichi.4u@kyoto-u.ac.jp

まとめ

①アクティブラーニングの登場の背景

「教える」から「学ぶ」へ／学生の学びと成長／ジェネリクスキル

②アクティブラーニングとは

定義／さまざまなAL型授業／AL型授業の質を高める装置

③アクティブラーニング型授業の展開

知の重視／ALのカリキュラム化／週複数回授業

④ピアインストラクションの紹介

ご清聴有り難うございました

1

Slide18

講師プロフィール

1970年生まれ。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学高等教育教授システム開発センター助手・講師を経て、2003年より京都大学高等教育研究開発推進センター准教授。京都大学博士(教育学)。

大学院教育学研究科兼任。大阪府立大学学長補佐兼任。



<http://smizok.net/>

日本青年心理学会理事、日本発達心理学会理事、日本心理学会地域別代議員(近畿)、大学教育学会常任理事、『青年心理学研究』編集委員、『発達心理学研究』編集委員、『教育心理学研究』常任編集委員、『Journal of Adolescence』Editorial Board、『International Conference on the Dialogical Self』Scientific Committee。公益財団法人電通育英会大学生調査アドバイザーほか。

専門は、青年心理学(現代青年期、自己形成、自己の分権化、アイデンティティ資本など)と高等教育(大学生の学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事へのトランジションなど)。著書に『自己形成の心理学ー他者の森をかけ抜けて自己になる』(2008世界思想社、単著)、『現代青年期の心理学ー適応から自己形成の時代へー』(2010有斐閣選書、単著)、『大学生の学び・入門ー大学での勉強は役に立つ！ー』(2006有斐閣アルマ、単著)など多数。

アクティブ・ラーニングの国内外での実践例 ～ラーニング・ポートフォリオを中心に～

帝京大学高等教育開発センター
土持ゲアリー法一
(ファカルティ・デベロッパ―)

2012年SPODシンポジウム

1

はじめに

- 1) 中教審「予測困難な時代において生涯学び続け、**主体的に考える力**を育成する大学へ(審議まとめ)」(2012年)では、**学修時間**の増加、学修成果の把握としてのルーブリックや学修成果を重視した認証評価等が打ち出された。
- 2) この「審議まとめ」から「**学習**」が「**学修**」に変更になった。
- 3) 「学習」と「学修」は違う。「学修」とは、単位制度にもとづくもので、「**授業**」+「**準備学習**」のことである。
- 4) 中教審で問われているのは、「学修時間」であって、「**学習時間**」ではない。すなわち、「**学修時間**」といった場合、学生の学習時間の確保に**教員も「責任」**がある。

2012年SPODシンポジウム

2

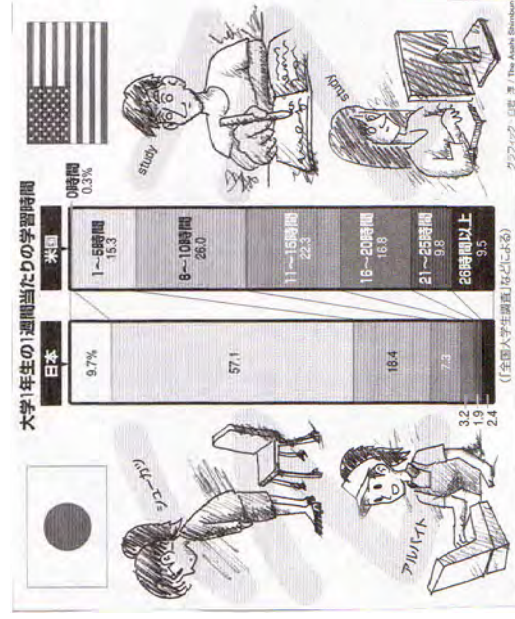
学修時間の確保

- 1) 中教審「審議まとめ」の影響もあって、**学修時間**の**確保**に向けて、どう対応すべきかが大きな議論となっているが、ここでは**学習の質**が問われている。
- 2) 次頁の**イラスト**は、『朝日新聞』(2012年7月31日)の「**耕論** 変わるか大学生の学習時間」の**日米比較**である。イラストでは、「**Study**」(**学修**)となっていて、「**Learning**」(**学習**)ではない。
- 3) なぜ、アクティブ・ラーニングが注目されるようになったか。学生の集中力に関するデータを次頁に紹介する。

2012年SPODシンポジウム

3

『朝日新聞』(2012年7月31日)より



2012年SPODシンポジウム

4

なぜ、アクティブ・ラーニングが必要か

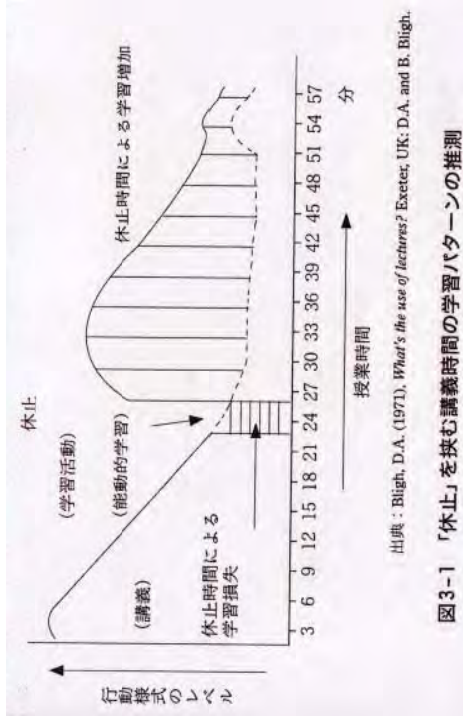


図3-1 「休止」を挟む講義時間の学習パターンの推測

2012年SPODシンポジウム

5

大講義室でもアクティブ・ラーニングは可能か



2012年SPODシンポジウム

6

アクティブ・ラーニングの効果

- 1) 本シンポジウム「アクティブ・ラーニングを通して、いかに学生に深い学びをもたらすか」に関連して、次頁の写真および帝京大学第1回FDフォーラム～**能動的学習～学生を学習させるには～URL**
<http://apps.v-main.teikyo-u.ac.jp/~ctl/>および『教育
学術新聞』(2012年8月8日)を参照。
- 2) フィンク博士は、アクティブ・ラーニングを **"Student Engagement"** と定義づけた。講演では、チーム・ベースド・ラーニング (TBL) など興味深い報告があったが、時間的な制約もあるので、その中の一つを紹介する。

2012年SPODシンポジウム

7

出典：「帝京大学第1回FDフォーラム～能動的学習～学生を学習させるには～」より



2012年SPODシンポジウム

8

アクティブ・ラーニングの効果に関する 実証的研究

- 1) アクティブ・ラーニングが、いかに学生の“Attendance”、“Student Engagement”および“Student Learning”を高めるのに効果的であるかについて、**ノーベル物理学受賞者カール・ワイマン博士**（アメリカ）の物理学の授業に関する実証的研究についての報告があった。
- 2) これは、ワイマン博士が2011年5月『サイエンス』誌で発表した論文（“Improved Learning in a Large-Enrollment Physics Class”）からのものである。

2012年SPODシンポジウム

9

研究成果

- 1) 物理学を学ぶ同レベル学生**250人**の**2つの大きなクラス**において、一人の教員が教週間、同じ講義を行った後、一方のクラスだけ、最後の1週間（3日間）をワイマン博士の研究指導を受けたポストドクが**アクティブ・ラーニング**を取り入れ、グループ学習を通して問題を解決したり、素早いフィードバックを行った。
- 2) その結果、**アクティブ・ラーニング**を取り入れたクラスでは、学生のAttendanceが**57%→75%**、Student Engagementも**45%→85%**に伸びた。
- 3) 最も顕著なことは、**Student Learning**が伸びたことである。すなわち、次員のグラフが示すように、講義だけの学生と実験的に**アクティブ・ラーニング**を取り入れた学生との間に大きな**変化**が見られた。これは、**アクティブ・ラーニング**が学生の学びを改善することを裏づける**画期的な研究**であるとフィンク博士は結論づけた。
- 4) フィンク博士によれば、**学習者中心の視点を教授法**に取り入れ、学生がただ勉強ただかを中心にするれば、授業へのAttendanceやEngagementも伸びると結んだ。

2012年SPODシンポジウム

11

出典：「帝京大学第1回FDフォーラム～能動的学習～ 学生を学習させるには～」より

- **Recent Study** by Carl Wieman, Nobel Prize Winner in Physics (Science, May 13, 2011, pp. 862-864)

1. What they did

- 2 large sections of a physics class
- Only changed activities for 1 week
- Change: Students worked problems in class – in groups – immediate feedback

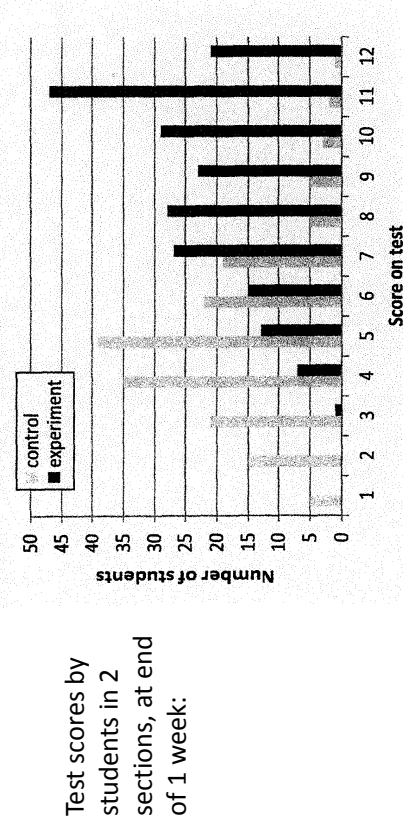
2. What happened when they did that?

- Attendance: 57% → **75%**
- Student engagement: 45% → **85%**
- **Student learning?**

2012年SPODシンポジウム

10

出典：「帝京大学第1回FDフォーラム～能動的学習～学生を学習させるには～」より



2012年SPODシンポジウム

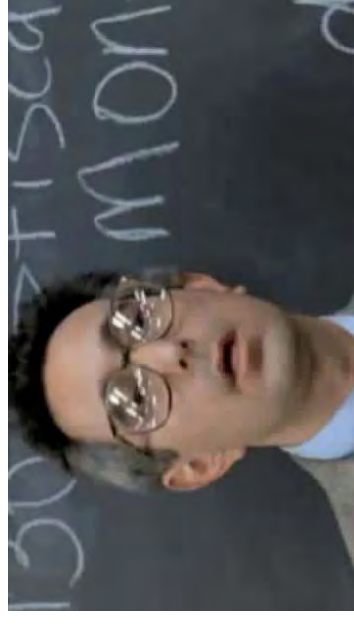
12

“Student Engagement” のない授業風景

- 1) アクティブ・ラーニングを促進するには、**Student Engagement** が不可欠である。
- 2) 次頁は、Student Engagement のない「**退屈**」な**経済学の授業の様子**である。
www.youtube.com/watch?v=dxPVyieptwA
- 3) この映像からも、授業には **Student Engagement** が不可欠であることがわかる。

2012年SPODシンポジウム

13



2012年SPODシンポジウム

14

Student Engagement を促す ラーニング・ポートフォリオの事例

- 1) ジョン・ズビザレタによれば、ラーニング・ポートフォリオは、次頁の3つの要素から構成される。すなわち、**省察**(リフレクション)、**共同作業**(メンタリング)、**証拠資料**(ドキュメンテーション)である。これらの3つの要素に学生が “Engagement” すること、「深い学び」に繋がる。
- 2) なかでも、**学習過程の振り返り**が重要で、**メタ認知**による**省察**が学びを深める(詳細については、拙著『ラーニング・ポートフォリオ～学習改善の秘訣～』(東信堂、2009年を参照)。

2012年SPODシンポジウム

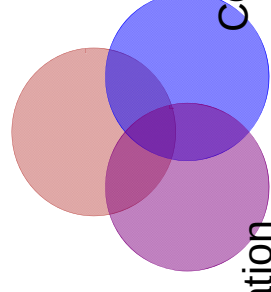
15

ジョン・ズビザレタ教授基調講演「ラーニング・ポートフォリオを活用した学生の学習向上」(弘前大学)より

The Learning Portfolio

Reflection + Documentation + Mentoring = *Learning!*

Reflection



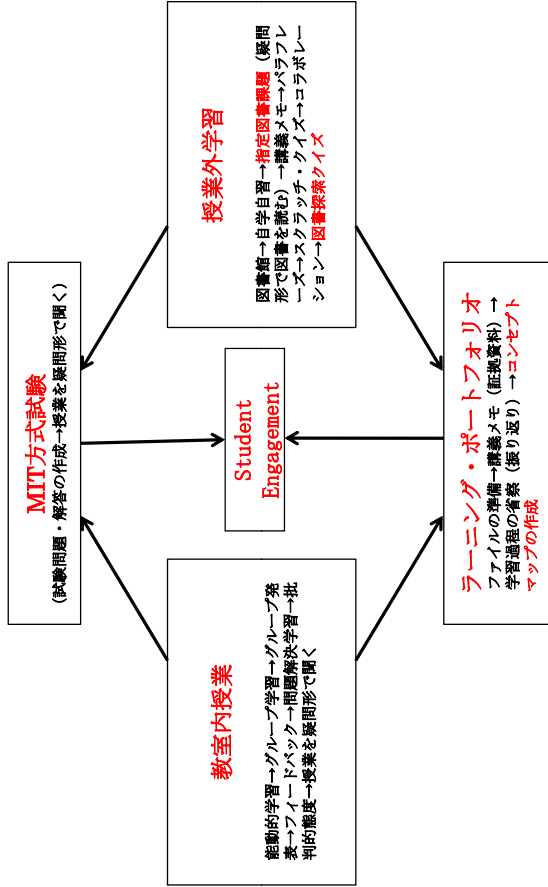
Documentation

Collaboration/
Mentoring

2012年SPODシンポジウム

16

「Student Engagement」を促す授業実践



2012年SPODシンポジウム

17

Student Engagementを促すMIT方式試験

- 1) 学生は、試験問題を作成するために**授業にEngagementし、批判的な姿勢で授業を受けなければならぬ**、学生から提出された問題の傾向を見るだけでも、学生がどのよう**にEngagement**したかがわかる。(詳細は、拙著『ラーニング・ポートフォリオ～学習改善の秘訣』(東信堂、2009年、151～2頁を参照)。
- 2) 学生は、試験問題を考えることで、**授業にEngagementでき、理解を深めることができる**。**教員は、学生からの試験問題を参考に最終問題を作成するので、Student Engagementを公平に評価できる**。

2012年SPODシンポジウム

19

アクティブ・ラーニングをサポートする 図書館職員

1) 本テーマは、「アクティブ・ラーニングを通して、いかに学生に深い学びをもたらすかー教員・職員と共に考えるー」であるが、前頁の「**授業外学習**」での**指定図書課題**は、帝京大学**図書館職員**の協力がなければ実現しない。なぜなら、学生は指定図書を読んだことを証明するスタンプをカウンターでもらわなければ、授業への出席が認められないからである。

2) **図書探索クイズ**も図書館職員のサポートが不可欠である。

2012年SPODシンポジウム

18



2012年SPODシンポジウム

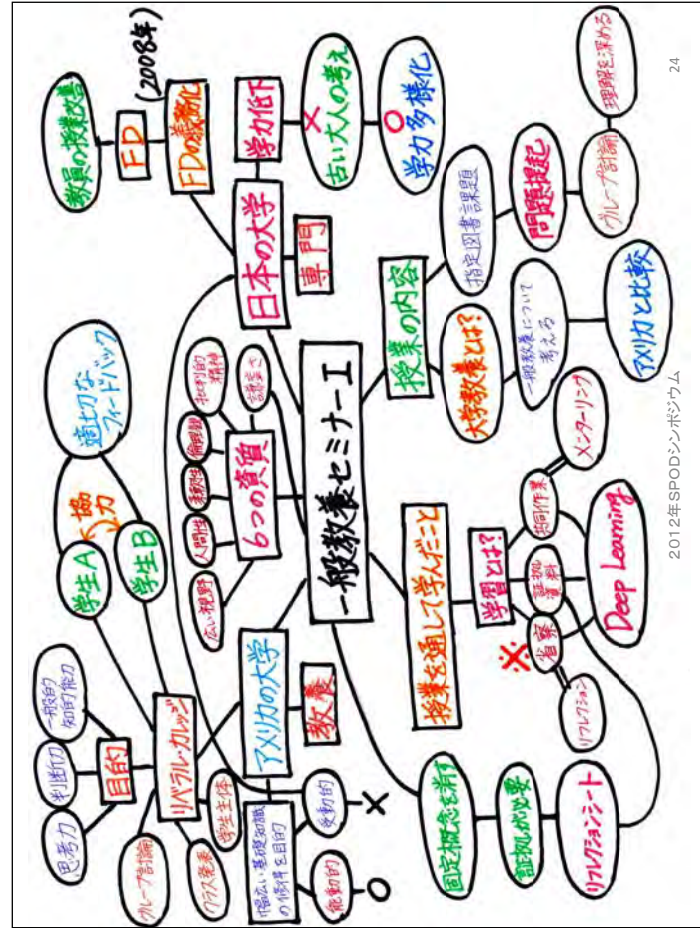
20

ラーニング・ポートフォリオ
「省察」による実践

- 1) **何を**学んだか、なぜ学んだか。
- 2) **いつ**学んだか、**どのような状況**あるいは**どのような条件下**で学んだか。

4)何を学び、学習計画や将来計画にどのように繋
がったか。

6)学習したことがどのように役立ったか。



- 1) 最初からポートフォリオをまとめさせるのは難しい。学生には、授業内容(15回)を振り返り、各単元が繋がられるように指導をしている。点(単元)を線(マッピング)で繋げることは重要である。
- 2) スティーブ・ジョブズは、「ドットを結ぶ」ことでアップルの成功に繋がった。ドット(単元)を結ぶ作業は、学生の創造力と集中力を高める。

3) 以下は、昨年度の帝京大学の学生が描いた**コンセプト・マップ**の一例である。これでポートフォリオを書く前に頭の整理ができ、ポートフォリオの要点を絞り込むことができる。この作業だけでも**平均4時間**を要する。これは、**Student Engagement**を裏づける**証拠資料**である。

投資家の「到達目標」がどのように達成できたといえますが、「リフレクシオ
ン（振り返り）シート」のもとに（A.4 約3頁、ワード文書）にまとめてく
ださい。また、「指定図書鑑賞・リフレクション（振り返り）シート」を証拠資
料としてフォルダーに貼じて提出してください。ラーニング・ポートフ
olio オートマチックをつけたり、コンセプト・マップを用いたりすること全体の大
まりが良くなります。

授業者の到達目標

- 1) グループ活動を通して、アメリカにおけるリベラルアーツによる教育者が研究に及ぼしている影響について理解を深めることができる。
- 2) グループ活動を通して、日本の大学と比較して、外国における「教養と研究」の違いについて理解を深めることができる。

ラーニング・ポフオリオをまとめるにあたって、以下の質問に答えるようにすることで、学習過程を省察でき内容を深めることができます。

- 1) この授業から何を学ぶことができたか。あるいは、逆に、学ぶことができませんでしたか。
- 2) どのような状態で最も学ぶことができましたか。あるいは、逆に、学ぶことができませんでしたか。
- 3) なぜ、学ぶことができたか。あるいは、なぜ、学ぶことができなかったか。

- 4) 学習者として何をどのようなに学びましたか。
- 5) この授業は、他の授業の学習やこれからの人生にどのような影響がありましたか。
- 6) この授業は、実践的な学習に役立ちましたか。
- 7) この授業を振り返って気づきましたか、それは、どのような意味においてですか。
- 8) この授業をもっと一度や直すとしたら、学習を始めたより、向上したりする点に何があるのかを教えてください。

これらのすべてに応える必要はありませんが、授業での学習過程を省略する
うえで手助けになるはずです。

一般教養セミナーⅠ（帝京大学）
ラーニング・ポートフォリオ評価 ルーブリック
（採点指針）

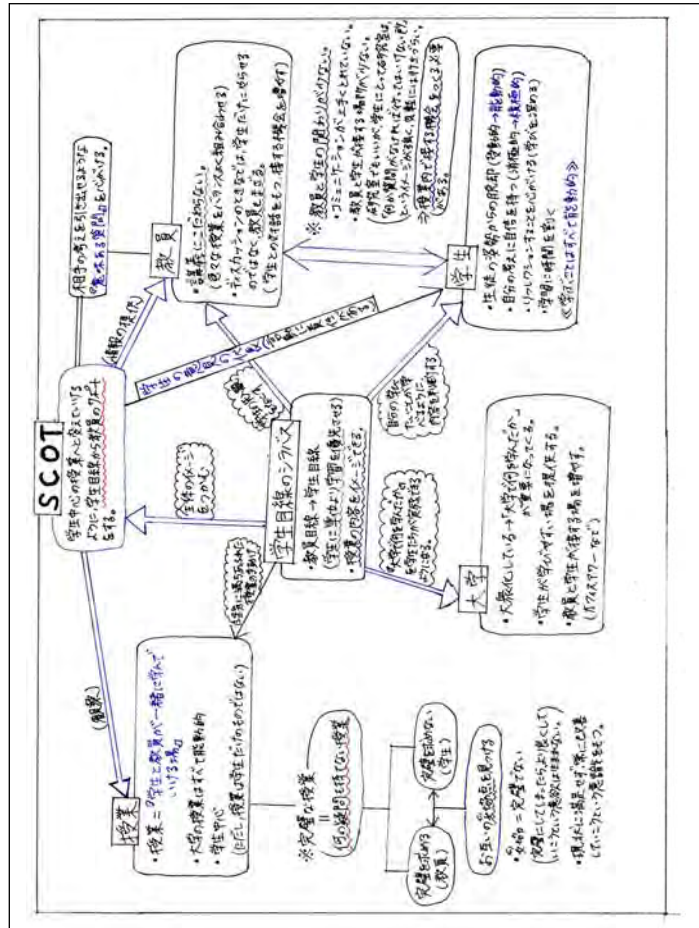
項目 配分	A (40点)	B (30点)	C (20点)	D (10点)
授業やグループ活動の成果	授業やグループ活動の成果が十分に反映したポートフォリオであるが、配分手 メージを飽かせる。	授業やグループ活動の成果がある程度反映したポート フォリオであるが、配分手 メージを飽かせる。	授業やグループ活動の成果がほとんど反映されない ポートフォリオであるが、配分手 メージを飽かせる。	授業やグループ活動の成果がほとんど反映されない ポートフォリオであるが、配分手 メージを飽かせる。
授業の到達目標がカバーさ れている程度	授業の到達目標がカバーさ れている程度が、ポート フォリオ（振り返り）シ ャーで裏づけられている。	授業の到達目標がある程度 カバーされているが、シ ャーで裏づけられている。	授業の到達目標がほとんど カバーされていないが、シ ャーで裏づけられている。	ポートフォリオとしての証拠 の裏づけがされていない。
授業の到達目標がカバーさ れている程度	授業の到達目標がカバーさ れている程度が、ポート フォリオ（振り返り）シ ャーで裏づけられている。	授業の到達目標がある程度 カバーされているが、シ ャーで裏づけられている。	授業の到達目標がほとんど カバーされていないが、シ ャーで裏づけられている。	ポートフォリオとしての証拠 の裏づけがされていない。
コンセプト・マップを描い て、各単元の繋がりを自分 の言葉でパラフレーズして 物語る能力	コンセプト・マップを描い て、各単元の繋がりを自分 の言葉でパラフレーズして 物語る能力	コンセプト・マップを描い て、各単元の繋がりを自分 の言葉でパラフレーズして 物語る能力	コンセプト・マップを描い て、各単元の繋がりを自分 の言葉でパラフレーズして 物語る能力	コンセプト・マップを描い て、各単元の繋がりを自分 の言葉でパラフレーズして 物語る能力
文章の一貫性があり、漢字 変換などの間違いがなく、 読みやすい文になっている。	文章の一貫性があり、漢字 変換などの間違いがなく、 読みやすい文になっている。	文章の一貫性があり、漢字 変換などの間違いがなく、 読みやすい文になっている。	文章の一貫性があり、漢字 変換などの間違いがなく、 読みやすい文になっている。	文章の一貫性があり、漢字 変換などの間違いがなく、 読みやすい文になっている。
省察（学習に対する振り返り） が見られ、次に繋がる 展開が見られている。	省察（学習に対する振り返り） が見られ、次に繋がる 展開が見られている。	省察（学習に対する振り返り） が見られ、次に繋がる 展開が見られている。	省察（学習に対する振り返り） が見られ、次に繋がる 展開が見られている。	省察（学習に対する振り返り） が見られ、次に繋がる 展開が見られている。

おわりに

- 1) "Student Engagement" に関連して、帝京大学 SCOT (学生による授業コンサルティング) プログラムについて紹介する。
- 2) 学生の視点に立って、授業改善を行う新たな試みである。詳細については、次頁の SCOT の **コンセプト・マップ** を参照。
- 3) SCOT の研修や活動の詳細については、URL <http://appsv.main.teikyo-u.ac.jp/~ctl/> を参照。
- 4) ここでも **職員の協力** が不可欠である。とくに、帝京大学では、**FD** を **F(フード) & D(ドリンク)** と位置づけ、夕方からのトレーニングには、サンドイッチや飲み物が提供される。

シラバスに関するコンサルティング

- 1) 本年6月、大学セミナーハウスで「～学生が授業を受けたいシラバス作り～」1泊2日のワークショップを行った。
- 2) **参加者42名**が**各自のシラバスを持参して**、SCOTが**学生の視点からコンサルティング**を行い、各グループから、「**ベスト・シラバス**」を選んだ(詳細については、次頁の写真および『教育芸術新聞』(2012年7月25日)を参照)。



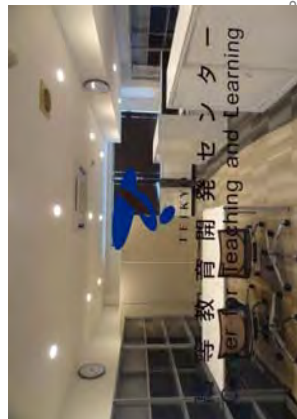


ご清聴ありがとうございました。

帝京大学高等教育開発センター
(Center for Teaching and Learning, Teikyo University)

042-678-3976

ctl@main.teikyo-u.ac.jp



PODシンポジウム

30



2012年SPOTシンポジウム

29

一般教養セミナーⅠ（帝京大学）（２０１２年度）
ラーニング・ポートフォリオ評価 ルーブリック（採点指針）

項目 /評価基準	A 60～50点	B 49～30点	C 29～10点	D 9～0点
内容	授業やグループ活動の成果が十分に反映されたポートフォリオで、読み手にイメージを抱かせる。	授業やグループ活動の成果がある程度反映されたポートフォリオであるが、読み手にイメージを抱かせない。	授業やグループ活動の成果がほとんど反映されていないポートフォリオで、読み手にイメージを抱かせない。	授業やグループ活動の成果がほとんど反映されていない。例えば、ポートフォリオとなっていない。
証拠資料	授業の到達目標が理解され、「リフレクション（振り返り）シート」で裏づけられている。	授業の到達目標がある程度理解され、「リフレクション（振り返り）シート」で裏づけられている。	授業の到達目標が理解されず、「リフレクション（振り返り）シート」で裏づけられていない。	ポートフォリオとしての証拠資料の裏づけが不十分である。
構成	コンセプト・マップを描いて、各単元の繋がりを自分の言葉でパラフレーズして物語風に記述している。	コンセプト・マップを描いて、各単元の繋がりを自分の言葉でパラフレーズしている。	コンセプト・マップを描いているが、各単元の繋がりが見られない。	コンセプト・マップも描かれず、各単元の繋がりも見られない。
文体	文章に一貫性があり、漢字などの間違いがなく、読みやすい文体とである。	文章にある程度の一貫性があり、漢字などの間違いがない。	文章に一貫性がなく、漢字などの間違いがある。	文章が支離滅裂で、句読点、文法に関して間違いが多すぎる。
省察	省察（学習に対する振り返り）が見られ、次への展開が述べられている。	省察（学習に対する振り返り）がある程度見られ、次への展開も述べられている。	省察（学習に対する振り返り）があまり見られず、次への展開もない。	省察（学習に対する振り返り）もなく、次への展開もない。

ラーニング・ポートフォリオ（テークホーム試験）

課題

授業での「到達目標」がどのように達成できたといえますか、「リフレクション（振り返り）シート」をもとに（A4 約3頁、ワード文書）にまとめてください。また、「指定図書課題・リフレクション（振り返り）シート」を証拠資料としてフォルダーに綴じて一緒に提出してください。ラーニング・ポートフォリオに副題をつけたり、コンセプト・マップを用いたりすることで全体のまとまりが良くなります。

授業の到達目標

- 1) グループ活動と討論を通して、アメリカにおけるリベラルアーツによる教養教育が研究に及ぼしている影響について理解を深めることができる。
- 2) グループ活動と討論を通して、日米の大学を比較して、両国における「教育と研究」の違いについて理解を深めることができる。

学習への省察

ラーニング・ポートフォリオをまとめるにあたって、以下の質問に答えるようにすることで、学習過程を省察でき内容を深めることができます。

- 1) この授業から何を学ぶことができましたか。あるいは、逆に、学ぶことができませんでしたか。
- 2) どのような状態で最も学ぶことができましたか。あるいは、逆に、学ぶことができませんでしたか。
- 3) なぜ、学ぶことができましたか。あるいは、なぜ、学ぶことができませんでしたか。
- 4) 学習者として何をどのように学びましたか。
- 5) この授業は、他の授業の学習やこれからの人生にどのような繋がりがありましたか。
- 6) この授業は、実践的な学習に役立ちましたか。
- 7) この授業を楽しむことができましたか。それは、どのような意味においてですか。
- 8) この授業をもう一度やり直すとしたら、学習を高めたり、向上したりするために何か違ったことをしますか。

これらのすべてに答える必要はありませんが、授業での学習過程を省察するうえで手助けになるはずです。

はじめに

福田は何ものか？（大学職員歴）

1992（H4）学校法人大阪国際学園入職（大阪国際女子大学・短期大学勤務）
一貫して入試課で学生募集担当、将来計画室兼務

2000（H12）学校法人高知工科大学入職

H12～入試

H17～企画広報（入試兼務）

H19～局長付企画調整担当：新学部開設（入試広報兼務）

H20～入試広報（企画調整兼務：工学部再編/公立大学法人化）

2009（H21）公立大学法人高知工科大学入職

H21～企画広報（入試兼務）

H22～総務

H23～広報室兼務（H24まで）

教務系の人間ではありません。場違い？

場違いな私がここにいる理由①

高知工科大学 浜田 正彦 様
平成24年5月1日
愛媛大学教育学生支援部 米澤 慎二

お世話になっております。突然のお願いで申し訳ございません。
すでに、ご承知のとおり、SPODでは、毎年度にSPODフォーラムを開催しています。昨年までは、愛媛大学を会場として実施していましたが、参加者からの要望もあり平成24年度は、8月22日（水）～24日（金）の日程で、徳島大学で実施することとなりました。

連休前のSPODコア協議会で、徳島大学からフォーラムの全体案が提案され、検討した結果、メインとなるシンポジウムには、職員の立場から話しができる人材が必要ではないかと意見があり、そこで、佐藤先生から、高知工科大学さんの職員の方で、どなたか推薦してもらえないだろうかとの話がありました。

佐藤先生としては、アクティブ・ラーニングでは、環境、建物も重要である。その点では、研究室がガラス張りだったり、空間にもこだわりがあり、全国の大学でも高知工科大学はかなり斬新的な取組をおこなっている。そこで、事例として、高知工科大学における学修環境整備状況を「アクティブ・ラーニングを促す学習環境整備」のようなタイトルでお話していただける職員の方を紹介していただきたい。というのが今回のお願いの趣旨です。

私から福田部長のお名前を出させていただきましたが、他に適任者がいれば、ご推薦いただければと思います。また、できれば、連休明けの7日には全体のプログラムを確定したいと考えています。ご配慮いただければ幸いです。勝手なお願いで申し訳ありませんが、ご検討の程、よろしくお願いいたします。

場違いな私がここにいる理由②

愛媛大学 米澤 さま
平成24年5月2日

おはようございます。突然の申し出、ありがとうございます。
申し出を受ける方向で検討します。
福田本人には、まだ了解を取っていませんが、大学として対応します。
（米澤さんのお願いですから）

はまだ



福田 さま

よろしく願います。

はまだ

アクティブ・ラーニングって何？

「アクティブ・ラーニング」とは「能動的な学習」のことで、授業者が一方的に学生に知識伝達をする講義スタイルではなく、課題研究やPBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)、ディスカッション、プレゼンテーションなど、学生の能動的な学習を取り込んだ授業を総称する用語である。

- 学生参加型授業
e.g. コメント・質問を書かせる／フィードバック、理解度を確認
クリッカー／レスポンス・アナライザー、授業最後／最初に小テスト／ミニレポートなど
- 各種の共同学習を取り入れた授業
e.g. 協調学習／協同学習
- 各種の学習形態を取り入れた授業
e.g. 課題解決学習／課題探求学習／問題解決学習／問題発見学習
- PBLを取り入れた授業
e.g. Problem-Based Learning／Project-Based Learning

提供: 溝上准教授

Kawaijuku Guideline 2010.11／溝上先生インタビュー記事より抜粋引用

アクティブ・ラーニングの質を高める装置

- (授業)
- 書く・話すというアウトプットの活動(コメント用紙、レポート、ディスカッション、討論、プレゼンテーションなど)
 - さまざまな他者(学生同士、教員、専門家・地域住民など外部者など)の視点を取り入れ、自己の理解を相対化させる
 - 宿題・課題を課す(授業外学習)
 - 新たな知識・情報・体験へアクセスさせる(調べ学習、体験学習)
 - リフレクション(形成的・総括的評価)
 - 多重評価(小テスト、発表、質問、プレゼンテーション、学生同士のピア評価など)

- (その他)
- e-learningによる基礎学習・自学自習システム
 - カリキュラムサポート(他の科目との連携)
 - ・導入科目(初年次教育、創造型科目、演習・実験など)と連携
 - ・実習・体験学習・フィールドワーク(病院、学校、施設など)と連携
 - 学習支援センター・コーナー(質問、学習相談など)
 - 学習環境の整備(図書館、自習室、教室デザインなど)

提供: 溝上准教授

Kawaijuku Guideline 2010.11／溝上先生インタビュー記事より抜粋引用

場違いな私が何をしゃべるのか

高知工科大学 浜田 正彦 様

平成24年5月1日

愛媛大学教育学生支援部 米澤 慎二

お世話になっております。突然のお願いで申し訳ございません。
すでに、ご承知のとおり、SPODでは、毎年夏にSPODフォーラムを開催しています。昨年までは、愛媛大学を会場として実施していましたが、参加者からの要望もあり平成24年度は、8月22日(水)～24日(金)の日程で、徳島大学で実施することとなりました。

連休前のSPODコア協議会で、徳島大学からフォーラムの全体案が提案され、検討した結果、メインとなるシンポジウムには、職員の立場から話しができる人材が必要ではないかとの意見があり、そこで、佐藤先生から、高知工科大学さんの職員の方で、どなたか推薦してもらえないだろうかとの話がありました。

佐藤先生としては、**アクティブ・ラーニングでは、環境、建物も重要である。その点では、研究室がガラス張りだったり、空間にもこだわりがあり、全国の大学でも高知工科大学はかなり斬新的な取組をおこなっている。そこで、事例として、高知工科大学における学習環境整備状況を「アクティブ・ラーニングを促す学習環境整備」のようなタイトルでお話していただける職員の方を紹介していただきたい。**というのが今回お願いの趣旨です。

私から福田新長のお名前を出させていただきましたが、他に適任者がいれば、ご紹介いただければと思います。また、できれば、夏休明けの7月には全体のプログラムを確定したいと考えています。ご配慮いただければ幸いです。勝手なお願いで申し訳ありませんが、ご検討の程、よろしくお願いいたします。

アクティブ・ラーニングを 促す環境整備

公立大学法人 高知工科大学
福田直史

福田は考えた・・・

アクティブ・ラーニングは学生自身を
「その気にさせる」しかけ。



「その気」になれば、**勝手に学習**しよる。



使える人材になる。

なるほど・・・

その目線で高知工科大学を見る

高知工科大学は・・・

『人が**育つ**大学』

岡村甫理事長
(2代目学長)
※KUTファウンダーの1人

岡村理事長いわく

人を育てるなんておこがましい。

我々は人を育てることなんてできない。

ただ、**人が育つための手助け（環境の整備）**はできる。

その環境で生活することで、人は勝手に育つ。
学生だけでなく、教職員、本学に関わる全ての
人が育つ大学をつくる。

なるほど・・・

**人が育つための手助け
（環境の整備）**

『人が育つ』大学のしかけ①

学修環境整備（ハード）

【コンセプト】 人と人が交わる場・オープン設計

刺激・モチベーション

教育研究棟

1F: 研究室・講義室

4F: 教員室・コモンスペース

コリドール

人が交わる場



教育研究棟 1 F



教育研究棟 4 F



コモンスペース

“人が育つ”建物の工夫

学生と教員が日常的に出会うように設計された教育研究棟。その4階にあるコモンスペースは、誰でも雑談からミニ授業まで自由に使えるコミュニケーションスペースです。その周辺にガラス張りの教員室があり、先生の研究姿勢も丸見えです。

『人が育つ』大学のしかけ②

質を高める装置(ソフト)

【システム】 クォーター制・全科目選択制・早期卒業制度
教育講師制度・オフィスアワー

【しかけ】 学会発表・スタデイスキルズ・少人数セミナー
奨学金・表彰・特待生・留学

【授業】 クリッカー・小テスト・レポート・宿題

クォーター制

“短期集中”で学ぶ

1年を四期に分け、8週間を一期とする制度。
一週間に1つの科目が2コマ進み、技術や知識
を確実に身につけながら短期間でステップアッ
プできるので、興味のある学問領域に、早く、深
く、触れることができます。

教育講師制度

入学から就職までサポート

社会・企業経験豊かな教育講師が4年間継続
して学生を指導・支援します。学生のやる気を
引き出し、人間力を高める高知工科大学独自の
制度。何でも相談に乗ってもらえる心強い存
在です。

スタデイスキルズ

社会・企業経験豊かな人生の大先輩から学び方を学ぶ

徹底した少人数指導で、実社会に必要な「論理的に、
正確に、読む・書く・話す力」を高め、学ぶ意欲と目的意
識を養う、KUT独自の科目「スタデイスキルズ」。高校と
大学との「学び方」の違いを認識し、そのギャップを埋め
るための架け橋となる導入科目です。授業では課題や
演習を通じ、レポートの書き方から、プレゼンテーショ
ン力、問題点の見つけ方、解決法までを学べるよう、細や
かにサポートしていきます。教育講師が、それぞれの
キャリアを活かし、専門分野に関連したテーマについて、
演習中心の授業を行います。

なるほど・・・

高知工科大学は
アクティブ・ラーニング
に取り組んでいるんだ！！

高知工科大学流に言うと

アクティブ・ラーニングは

育つ
『人が』仕組み！！

さて、その成果は・・・

？

ふくだの本音

成果はまずまず。

- 就職率・質（途切れていない企業とのパイプ）
- 学生との距離感・学生満足度
- 出席率.....etc.

でも・・・

ちよっと手をかけすぎの感あり。
どこまでが本当に必要な部分なのか……

ご清聴ありがとうございました。

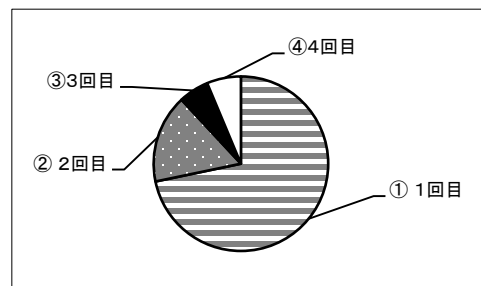
ふくだ

SPODフォーラム2012事前アンケート集計結果

アンケート回答者数：428名（webでの受講申込時に実施）

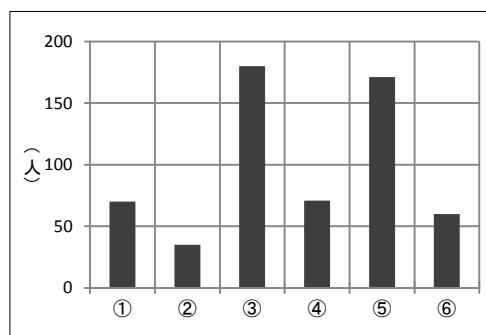
1. SPODフォーラムの参加は何回目ですか？

	度数	割合
① 1回目	307	71.7%
② 2回目	70	16.4%
③ 3回目	24	5.6%
④ 4回目	27	6.3%
計	428	100.0%



2. SPODフォーラムをどこで知りましたか？（複数選択可）

	度数	割合
① SPODホームページ	70	16.4%
② SPODメールマガジン	35	8.2%
③ SPODフォーラムチラシ	180	42.1%
④ SPOD研修プログラムガイド201	71	16.6%
⑤ SPOD関係者からの案内	171	40.0%
⑥ その他	60	14.0%
アンケート回答者数	428	

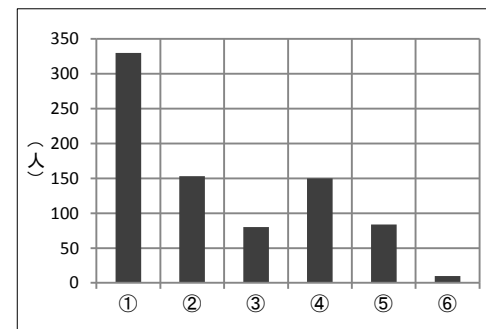


その他の記述内容

- ・ 学内（職場）からの案内（28）
- ・ 上司からの案内（5）
- ・ asagao-ML（5）
- ・ 同僚からの紹介（3）
- ・ 自身がSPOD関係者である（2）
- ・ 参加経験者からの紹介（1）
- ・ Q-Links（1）
- ・ 大学教育教育学会での事例紹介（1）
- ・ 土持法一先生からご案内を受けました。（1）
- ・ 法人の職員研修担当者（1）
- ・ 公立大学協会の知り合いから（1）
- ・ 学内教員（1）

3. SPODフォーラムに参加した動機は何ですか？（複数選択可）

	度数	割合
① 自分自身の能力開発のため	330	77.1%
② 組織の課題を解決するヒントを得るため	153	35.7%
③ 組織を超えた人脈づくりのため	80	18.7%
④ FDやSDに関する情報収集のため	150	35.0%
⑤ 上司に参加をすすめられたため	84	19.6%
⑥ その他	10	2.3%
アンケート回答者数	428	



その他の記述内容

- ・ 学内委員（関係係）による参加要請（4）
- ・ 自分が解決したいテーマがあったから（1）
- ・ 橋本メソッドに興味があるため（1）
- ・ 講習を通して新たなものの見方が学べると思ったから。（1）

SPODフォーラム2012全体アンケート集計結果

当日参加者数

SPOD加盟校から：373名

SPOD加盟校以外から：123名

合計：496名

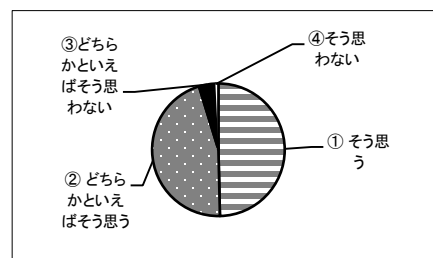
アンケート回答者数：274名（フォーラム終了後、web入力にて実施）

回答率：55.2%

1. SPODフォーラムでの研修成果について

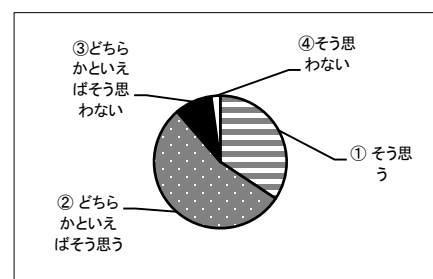
自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
① そう思う	136	49.6%
② どちらかといえばそう思う	125	45.6%
③ どちらかといえばそう思わない	11	4.0%
④ そう思わない	2	0.7%
計	274	100.0%



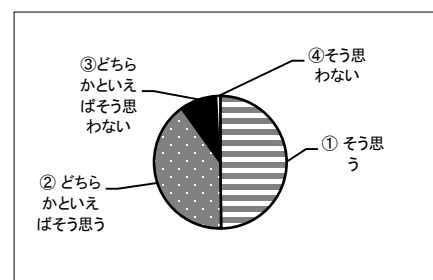
所属組織の問題解決に役立つ情報を入手することができた

	度数	割合
① そう思う	94	34.3%
② どちらかといえばそう思う	149	54.4%
③ どちらかといえばそう思わない	25	9.1%
④ そう思わない	6	2.2%
計	274	100.0%



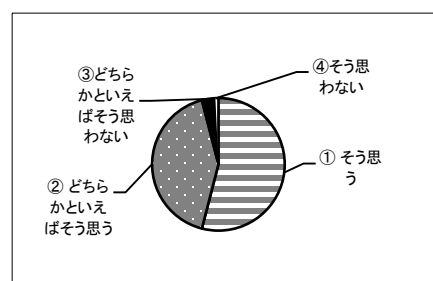
組織を超えた交流を持つことができた

	度数	割合
① そう思う	136	49.8%
② どちらかといえばそう思う	110	40.3%
③ どちらかといえばそう思わない	25	9.2%
④ そう思わない	2	0.7%
計	273	100.0%



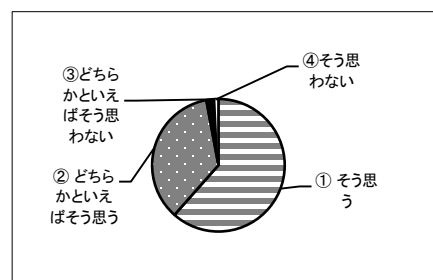
フォーラムで学んだことをすぐに職場で実践したい

	度数	割合
① そう思う	148	54.0%
② どちらかといえばそう思う	115	42.0%
③ どちらかといえばそう思わない	9	3.3%
④ そう思わない	2	0.7%
計	274	100.0%



SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった

	度数	割合
① そう思う	168	61.5%
② どちらかといえばそう思う	97	35.5%
③ どちらかといえばそう思わない	6	2.2%
④ そう思わない	2	0.7%
計	273	100.0%

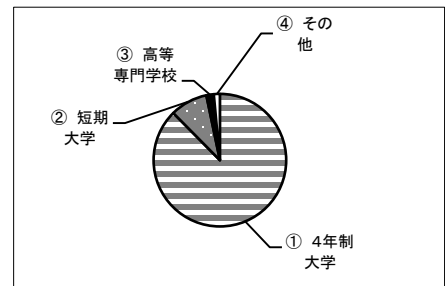


2. 感想、ご意見、ご要望等 (別紙参照)

3. 参加者ご自身について

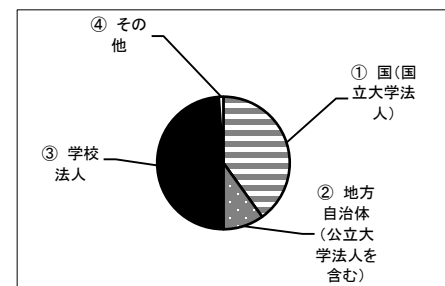
所属先

	度数	割合
① 4年制大学	240	87.6%
② 短期大学	25	9.1%
③ 高等専門学校	5	1.8%
④ その他(法人本部(1))	4	1.5%
計	274	100.0%



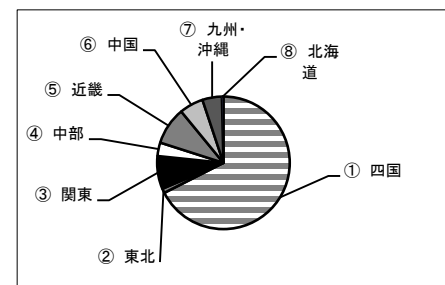
所属先の設置者

	度数	割合
① 国(国立大学法人)	109	40.1%
② 地方自治体(公立大学法人を含む)	27	9.9%
③ 学校法人	133	48.9%
④ その他(独立行政法人(1))	3	1.1%
計	272	100.0%



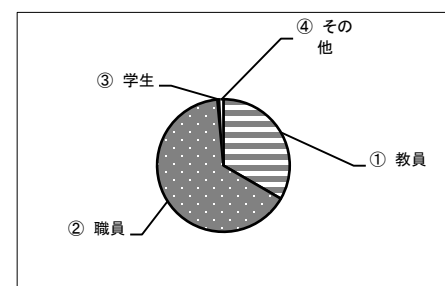
所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	185	67.5%
② 東北	3	1.1%
③ 関東	22	8.0%
④ 中部	9	3.3%
⑤ 近畿	25	9.1%
⑥ 中国	16	5.8%
⑦ 九州・沖縄	13	4.7%
⑧ 北海道	1	0.4%
計	274	100.0%



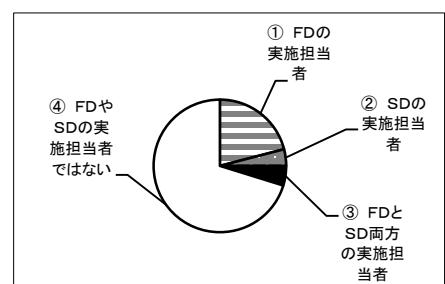
職種

	度数	割合
① 教員	91	33.3%
② 職員	178	65.2%
③ 学生	2	0.7%
④ その他()	2	0.7%
計	273	100.0%



あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか？

	度数	割合
① FDの実施担当者	57	21.0%
② SDの実施担当者	11	4.0%
③ FDとSD両方の実施担当者	13	4.8%
④ FDやSDの実施担当者ではない	191	70.2%
計	272	100.0%



SPODフォーラム自由記述欄 良かった点とりまとめ

【内容について】

- グラフィックシラバスはすぐにでも取り入れることができるスキルです。他の教員にも勧めようと思っています。
- 教育の具体的な方法論を改めてお聞かせいただき、自分の現在の教育方法を振り返るきっかけになりました。
- 中村文子先生のワークショップだけの1日参加でしたが、即実践に役立つ内容で、すでに2学期の講義内容で実践に活かすよう改善しました。
- 昨年要望として出した、学習理論に関するプログラムや、理系基礎教育に関するプログラムがあった事
- 小林直人教授の話は非常に具体的で、実際に授業で使える内容であり、参考になった。
- これまで普段は、学生によりよい教育を求めて、一人で考えてはいたものの、効率が上がらなかった。今回参加させていただいて、各講師のファシリテートの下、他大学他学部多業種の方々と、グループワークを行うことで、学生が必要とすること、自分のやるべき事の方が見えてきました。
- 教育に関わる基本的な知識を整理することができたし、新しい方法へのヒントを得ることができた。例えば、学生が主体的に学習できるように、どのような働きかけが効果的かなど。
- アクティブ・ラーニングがテーマに設定されていて、わかりやすかった。（2）
- 大人数講義の方法に関する二つの分科会に出席して、具体的な示唆を得たこと。
- 基本点の再確認ができたこと。
- アクティブ・ラーニングを体験できた。グループワークなどで、理科教員と一緒になったとき、アクティブ・ラーニングを理系の専門課程でする場合の難しさ（課題）が共有できた。
- 理解と記憶という内容でそれぞれのメカニズムを学び、これからの授業の仕方を改善するのに参考になりました。（2）
- 授業コンサルテーションやグラフィック・シラバスなど新しい知識を得ることができた。
- 具体的な授業手法や工夫を教えて頂いたこと。すぐに実践できそうなエッセンスが盛り込まれていることは、とてもありがたいです。
- FD/SD に特化した内容のプログラムの提供があること。
- FD に関わる概念や技法を体系的に教えていただいた点
- 勤務場所を離れ環境も違うところで、普段の自分を見つめ直し振り返る機会となる。何より毎年大人気の中村文子先生の研修を受講できたことが良かった。
- 「グラフィック・シラバス」についてのセッションに参加しました。普段とりたてて意識することのない講義の構造について自覚・整理することが出来て大変有意義でした。ありがとうございました。
- FD に役立つ情報を入手することができた。（5）
- 業務運営に必要とされる実践的な知識、ノウハウを身につけることができました。
- 秦先生のお話を直接聞くことができたこと、また DVD「大学職員力」という学内に広く SPOD で学んだことを周知するツールが入手できたことです。
- 科研費応募を考えており、先人の考え・取り組みを聴くことができ、大いに参考になった。

- コーチングについて学ぶことができた。
- 学生の興味・関心を引き付ける授業ってなんだろうと、日々、手さぐりで実践してきました。SPODフォーラムに参加して、理論と実践の両面においてヒントを得ました。また、参加した全ての講義において、有益な資料を頂けたので、今後活かすことができそうです。特に「ワールド・カフェ」、「小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン」のプログラムに参加した際に頂いた資料は、質量共に充実していました。
- 議論の技法等、普段軽視しがちな技術論の部分について学習できたので、実務に生かしていくことができるかと思う。
- 業務上での自分の問題点や改善したい点について学習できる講座を中心に受講して解決の糸口が見つかったと感じた点（2）
- 受講した講義内容が、本当に自分に必要な内容だったので、職場に帰ってすぐに実践することができた。リーダーシップをとるために必要な観察力・洞察力を高めるための講義を受講したが、講師の方の進め方もよかったし、グループワークも適度な人数でやりやすかった。
- ワールド・カフェに関するプログラムは、学内外で対話を行う際に取り入れやすい手法であり、学内でFD関連の意見交換を実施するにあたっては是非とも参考にしたいと思いました。
- 講師の一方的な知識の伝授でなく、同じ境遇の人達と情報共有した中でのワークであり参考になる点が多く実践に取り込むイメージが膨らみました。（3）
- どのプログラムもインプットだけでなく、アウトプットを行う機会があり、大変有意義でした。
- グループワークやディスカッション形式はとてもいい刺激になった。人数構成もちょうどよく席替えも頻繁に行っていたため、その都度適度な緊張感で新鮮な気持ちで臨めたので、とてもよい環境だったと思います。講義内容も日々の業務で想定できる場面でありながら、新しい発見につながるものが多く大変有意義でした。（5）
- SD研修の設計について習得できた。
- 今日的高等教育が直面する課題について、いくつかの切り口を集中的に学ぶことができた。さまざまな地域・規模の他大学等の教職員と交流をもつことができ、視野が広がった。
- 希望して受講した講座内容が、それぞれ期待に違わないもので、取り上げられた課題について自分なりに理解を深めたり、今後の業務に活かせる考え方や技術を身につけることができたと思います。
- 現在の業務の問題解決に役立つ講座が受講できたこと。（2）
- 「部下を生かすためのコーチング講座」に参加して、メンタリングの特性中、＜メンターはメンティーの人生を把握し、受け止める度量が必要＞とか、助言・指導・評価をブレずに行うための方策中の＜組織で最も大切なものは理念である＞、＜ポートフォリオの活用＞は大変参考になった。
- さまざまな内容の講座があり、興味を持てる内容が多くあった点。（9）
- 自分自身の研究において必要としていた知識や情報を十分に得ることができた。
- 「職場内における人材育成の仕方」のなかで、人材育成を推進するにあたり、重要なことは組織としてのビジョンが明確であること、それを構成員が理解し、共有することであるということを再認識できたことが自分にとっては大変有意義でした。
- 学生の支援について、現状に即した対応を知ることができ、自信を持つことができました。もちろん課題は山積していますが、取り組む意欲が湧きました。特に建学理念を核としたブレのない対応を教えていただいたことは、不安の払拭と同時に大きな勇気を持つことができました。

- ワールド・カフェなど経験したことのない手法を学べたこと。（３）
- 自身の卒業大学は、教育学部教育学科でしたが、時代とともに教育技法・方法論も変遷していきます。そこで講師である先生方から、教育に関する最先端の内容である研修を受けることが出来て大変良かったです。

【その他】

- 各講義の中で、受講生間の交流ができるように配慮されていた点は良いと思います。
- 他大学の教職員と知り合いになれたし、いろいろな意見をきくことができた。（７ ９）
- 徳島大学の職員の方々のマネジメントの優秀さを実感できたこと！
- 実践的ですぐに役立つ内容を実習形式で実際に体験できるどころ（９）
- FD/SD について知識としての一般論ではなく、グループワークなどを取り入れた具体的な質を高める手法を学べたことがとても良かったです。
- 自分自身のコミュニケーションの特性を知り、自身の授業の振り返りを行うことができました。また、グループワークでは参加された方々の意見を聞くことで幅広い視点で一つのテーマについて考えられたり、他分野の職種の方が親身になってアドバイスをしてくださることで、知識だけでなく物の考え方や捉え方を学ぶことができました。
- 初めての参加で SPOD の意義が少し理解できた。
- 他大学での取り組みや問題点を知ることができ、自分の大学と同じような悩みや対策を練っていることなどを具体的に話し合えて良かった。（５）
- 大学教員以外の講師の話がためになった。
- 四国の大学教職員の方々のレベルの高さを認識し、自らのレベルアップの必要性を再認識できた。
- 日頃の業務と一歩離れた場所で、自分のスキルや目的、考え方などを見直す良い機会となりました。また全国の大学職員と交流することができ、様々なお話を聞くことができました。（２）
- 教員だけではなく大学職員が講師を務められている講座もあり、講師ご自身（事務職員）の経験を踏まえてのお話しがされており、自分自身の経験をイメージしながら講義を受けることが大変良かった。
- 日常業務から離れて色々な事を考える時間を持つことができました。（４）
- 以前から本などで知っていた先生と直接お話を聞くことができた。
- このように継続的かつ組織的に大学職員の人材養成が実施されている現場を感じることができ、自エリア、自組織を対照して見ることができ、課題を明確化することができた。
- 自己啓発になった。（４）
- 四国での大学間の交流が盛んなことを知れて良かったです
- 参加者には、若手のやる気のある事務職員が多く、前向きな話を聞くことができた。
- 三日間みっちり学べたこと。
- 昨年よりもグループワークが多かった点
- プログラムの内容もさることながら、その運営手法も非常に参考になりました。
- 今、自分に必要だと思う講義が開講されていたので、タイムリーに勉強することができました。（２）
- 講師の先生の言葉で、納得できるものが多く、とても参考になった。

【感想】

- 雰囲気がいいですね。
- まず教授法などの技術的なことよりも、授業を改善しようという気になった。
- 緩やかなグループワークであったので、受講者が発言を強要されることがなく、自由な雰囲気の中で受講することができた点が良かった。講師と受講者との間、また、受講者と受講者の間にも適度の距離があり、落ち着いて受講することができた。参加者間の距離を狭めようとして、無理なパフォーマンスを強いる講習が少なくない中で、本講習は絶妙の距離を保っていた。そのため、窮屈な思いをすることがなかった。
- 自分の授業が客観的に見え、改善すべき点の多いことが分かり、今後に生かしていきたい。全国から参加している先生が多いことに驚きフォーラムの質の高さを知った。
- 充実した研修を無理なく受けることができて、とても良かったと思います。これが、四国外での研修となると負担感が重くなってくると思います。
- フォーラム（研修プログラム）に参加することで、いつも自分が授業で行っている方法を学生の身になって受講するなど、授業のスキルを実際に体験することができた。
- 日頃は学長や理事・副学長、学部長、部長クラスと話すことがほとんどなので、係長や主任クラスの職員や長の付かない先生方と話が出来て良かった。また、公立大や私立大の人と話す機会はあまりないので新鮮だった。
- 実践を交えての発表だったので、参考にしようと思った。
- 他大学の職員（特に私立大学の方）の大学職員としてのモチベーションの高さに感心してしまいました。この SPOD フォーラムは他の地域では中々実施されていない研修なので、来年の引き続き参加したいと感じました。
- 本学ではFD研修が先行しており、SD研修はなかなか受講できる体制が整っておらず、今回のフォーラムに参加させていただき大変勉強になりました。普段は当たり前の状態に対応している業務にも、今回は「気づき」があり今後の業務に生かしていけるかと思います。
- いろいろな大学の方々とお会いする機会があり、とても刺激になりました。迷っていたこと、疑問に思っていたこと、新しい発見など仕事上だけでなく、いろいろな面で使えることを学ぶことができたフォーラムだったと思います。また、ぜひとも機会があれば次回も参加したいです。スタッフの方々も講師、受講者以上に真剣に取り組んでいたのも、そのひたむきな姿勢は見ているだけで勉強になりました。
- 若い学生さんと話す機会があり、さまざまな分野に取り組まれている様子に感心した。
- 活発な活動を目の当たりにでき、刺激になりました。学んだことを実践する機会を設けたいと意欲がわきました。
- これから自分が大学職員としてどうあるべきか、どのように考え、行動するべきか方向性が見えてきた。今回勉強したことをできるだけ仕事に活かせるように努力したい。

SPODフォーラム自由記述欄 改善点とりまとめ

【開催時期について】

- 開催日程は8月でなく9月上旬がありがたいです。
- 初日を午後からにしていただけると、1泊減って参加しやすいかと思います。
- 日程的にも夏季休暇期間なので、比較的参加しやすいと思います。（13）
- スケジュールが空いていないと残念ながら参加できないため、なるべく早く日程等公表してもらえると有難い
- 金曜日に終了するようにしていただけると、研修で学ぶだけではなく四国ならではの歴史や風俗に触れる機会を得られると考えますのでご考慮いただければと思います。
- 日程について、土・日を含んでいただけると助かります。（2）
- 1度に3日間全ての研修を受講する事は困難なので、年に2回実施するなどあれば、各大学でも多くの受講者が参加できるのではないのでしょうか（夏1回、秋1回など）（2）
- 開催日程は7月ぐらいがよかったと思うが、8月にするなら、この時期しかなかっただろうと思います。11月下旬でもいいかもしれません。
- 3日間の参加は業務の兼ね合いもありなかなか厳しい状況にある。
- もう少し、涼しい時期が良いです。（2）

【会場について】

- 徳島大学はアクセスがよくて便利でとてもよかったです。（6）
- 会場の規模は、人数にほどよく合致していました。
- 会場が、ホテルなどの会議場ではなく、大学であったことがよかったと思います。
- 全体的に会場が暑すぎた（節電は理解できるが、体がついていけない／片頭痛持ちにはつらい）。
- 可能であれば、四国4県で持ち回りで実施してほしい。（5）
- 夏季休業中ではあるが、多くの仕事があるため、今回のように近県で実施されるのは本当にありがたいです。
- 会場は、四国外からの参加者を考慮し、比較的アクセスがよい場所がいいと思う。（3）
- 四国以外の場所でも開催してほしいと思いました。（2）
- 朝早くから丁寧に案内していただきました。また会場全体も学内でコンパクトにまとめられていてスムーズに移動ができました。（3）
- 今回は身近な大学での開催だったので研修に参加しやすくよかった。
- 関西圏から参加させていただいた為、徳島までの距離が長く移動が大変であった。
- 駐車場がある会場がいいです。（2）

【シンポジウムについて】

- シンポジウムが、何を意図しているのかわかり難いものでした。誰にどういう影響を与えてどうさせたいのか。意識改革を目的とする集まりだと思いますので、その辺りの筋が明確な方が良かったのではないのでしょうか。
- 2日目のシンポジウムはあまり参考にはならなかった。
- シンポジウムは、登壇者一人ひとりの時間が短く、全体的に急ぎ足の雰囲気であった。

- 2日目のシンポジウムでは、参加者全体の傾向などから判断して、質疑応答に一定の枠組を予め設けておくなど、有意義な討論・議論となるように周到に準備すべきではないか。当日の質問者3人のいずれの質問も、授業向上のための知見を深めたいと思って参加している多数の参加者の認識とはずれていたように思う。短い討論時間を有意義な議論に使えるように、司会者は準備し、コントロールしてほしい。（2）
- シンポジウムですが、もう少し質疑応答に時間があつたほうがよかった気がします。（2）
- シンポジウムが残念な内容でした。アクティブ・ラーニングについて、教員・職員が共に考える場であつたと思いますが、パネリストの教員からの発言は職員に向けての視座が欠けていました。教室の中で完結する授業手法の1つであるだけならば、共に考える必要はないと思います。また、質問者の教員も主義主張に終始しており、他のプログラムがあるようだったら、シンポジウムよりそちらに参加したかったです。
- シンポジウムは興味深くホットなテーマであつたが、内容的に難しい・取っつきにくいと感じた教職員がいたように思えた。

【プログラムの内容について】

- 新任教員対象ならば、プログラムの内容の定番化を進めることがよいと思うが、常連が多くなると、プログラムの多様化が必要になってくる。定番と多様化の両立が求められると思いますが、どうやってやるのでしょうか。ということを考えながら参加しました。
- これまで複数回受けた印象でしかないが、講義によって、役に立つものとそうでないものの差が明確にあるような気がする。研修のための研修になっているものや現場の課題から離れているものもあるのではないか。〇〇講師のように、実際にご自分が工夫され上手くいっている方の話が、説得力があり、有効であるように感じる。
- マニュアル講義ではなく、即実践のため、より具体的事例を含んだ講義内容があれば嬉しいです。
- 理系専門課程用のプログラムの充実。共通教育、文系と、理系専門課程は、専門職で活躍できる人材を育てるという違った面があります。理系の場合、アクティブ・ラーニングをするために、内容を削るという事を躊躇します。そういう、具体的な問題点に対応できるプログラムを用意していただきたいです。
- 学生の想いを聞き出す等のセッションでは、事例研究としては大変に参考となったが、そこから理論的・体系的な説明、特に一般的な授業にも適応できるような理論が聞きたかった。（2）
- 参加したワークショップでは、講師の先生方の具体事例を多く出して頂き、即実践できるということに感謝です。このように、やはり、具体事例をたくさん示していただくと、今後の参考になることも多くあると考えます。
- プログラムの内容が重なっているので、整理していただきたい。入門編と発展編などに分けるのもよいと思う。
- 「大学職員のための企画力養成講座」の職場環境・業務改善完結シート中の課題は、具体的な対応策が検討、企画できる事項に工夫していただければと思った。
- 研修プログラムによっては、講義のみで他大学で同じ業務を担当している人と同じテーマで協議する時間の設定がない場合があつた。（2）
- なぜなぜシートですが、話題の展開や扱いが少し難しかったです。研修の時間が決まっているのなら、もう少し方向性を整理したシートでもいいのかもしれないと思いました。

- 1 コマのみの受講だった。当該コマは講義形式だったが、情報内容が他の説明会で得られる内容であったため、満足度は低くなった。担当講師の考えや、参加者の考えを共有できる内容であれば満足度は高かったと思われる。
- 部下を活かすためのコーチング講座に参加させて戴きました。講師の秦先生がお話されたように一度の研修で身につくものではなく、継続的なものを期待します。

【プログラムの進め方について】

- 次々と授業が展開となるので、討論する時間が短いように思った。
- 2時間の講座で、30分延長したのがありました。時間内に収めて頂きたいです。スライドの資料について、すべて印刷する必要はないと思いますが、資料のない部分の説明が長い場合は、その部分も印刷して頂けると助かります。（2）
- 1コマの授業だと、考える時間より聞く時間が多くなり、物足りない感じがしました。
- スクリーンが見づらい席が比較的たくさんあったのは少々残念でした。また、偶然私が参加したセッションは、机がグループの配置になっているのにディスカッションの機会が少ない講義形式だったことも残念でした。静かに聴講しながらアクティブ・ラーニングを行うことが誰にとっても難しいことはよくわかっているのに、全てのセッションで本格的なアクティブ・ラーニングを体験でき、その良さを持ち帰ることができるような工夫があると非常に良いと思いました。
- グループワーク形式のプログラムが多かったが、講義形式のものもゆっくり聞いてみたかった。
- 私は4講座受講したが、一方的に話を聴く形式のものがなく、参加型の講座ばかりで、十分取り組めた。ただ、講師の説明については、上手い下手があり、講師にも訓練が必要だなと思った。
- グループワーク主体のプログラムが多く内容が濃い一方、時間が足りないことが多かったです。テーマを絞って一つの内容をじっくり扱うプログラムがあってもよいかと思いました。（3）
- 些細なことですが、終了時間が予定より相当遅れた講座がありました。時間通りに進行していただくとうれしかったと思います。（2）

【プログラム個々の運営について】

- 昨年度はテーブルが指定されていましたが、不都合がなければ復活したらいいと思います。
- 会場によっては、自由に着席したところ、職員の方ばかりで、教育上の問題が話せなかったりしたので、グルーピングの仕方に工夫が必要だと思った。
- 講師により研修内容の成果に差が出てしまうのはやむを得ないとは思いますが、この講座、と思って選んだ研修が予想していたのと違う内容であることが時々あります。どのような内容になるのか、どのような手法で行われるのかがある程度わかるとありがたいと思います（大変ですが）。

【プログラム全体の運営について】

- 多くの講座が開講され、魅力的なものが多く、受講したい講座がかぶってしまった（2）
- セッション毎のインターバルをもう少し短く設定し、その分、朝一番のセッションの開始時刻を少し遅らせるのが良いと思います。
- セミナー時間についてですが、一時間半では短いように感じました。2時間あればより深まると思います。（5）

- 時間通り終了しない、時間が不足して内容をはしょったプログラムや、昼食を取るのに慌ただしかったなど、全体的にいっぱいいっぱいな印象を受けました。もう少しゆとりを持って構成できないでしょうか。
- 事前に受講者にスライド資料や参考資料を提示するなどして(参加登録時に ID・PW を配付して web 配信)、時間外学習”をしておいてもらい当日は説明・解説は要点だけに絞ってグループワークの時間を確保するようにしてはいかがでしょうか。”

【フォーラムの運営について】

- ビラが重複して送付されたので、これをなくすことで送料を削減できるかと思います。
- 一つの内容について、じっくりグループワークができるのは確かに有意義だと思うのですが、せっかく多様な方がいらっしゃっているの、皆様の取り組みをできるだけたくさんお伺いできればと欲張ったことも考えてしまいます。ですので、参加者の皆様の様々な取り組みが一同に確認でき、気軽に意見交換ができるようなポスター発表のような時間があっても、有意義ではないかと思います。
- プログラム参加者の交流の場を昼食時などにできないか？
- 直前で受講キャンセル等が発生する可能性がありますから、Web 上で受講可能数がリアルタイムで更新されるような申し込みシステムを使うことができれば良いと思います。
- 初日に配られたプログラムを事前に送付いただきたかったこと（2）
- 研修の具体的内容をもう少しわかりやすく記載していただきたい
- 講座の対象者を今以上に明確に設定すること。
- 初日の最初に全員が一堂に会するプログラムを開催し、共通の話題を提供し参加者が知り合いになる機会を設けてみてはいかがでしょうか？
- 所々にティータイム交流会を設けてほしい
- 夏場なので会場の休憩場所は飲食の場所など（今回はお茶などあったそうですが、場所が良く分かりませんでした。

【その他】

- このアンケートメールに、参加者の「アクションプラン」を書いてもらい、それをご本人にだけ1ヶ月後や半年後に自動送付することができれば、フォーラム参加の影響を少しでも長く感じてもらえると思います。
- 初参加であり、滞在も短かったので、特に要望はありません。
- 今後もテーマ設定をすると良いと思います。
- 個人情報を載せておられましたが、アレは意図があるのでしょうか？
- 非常によかったです。
- 四国内及び SPOD 加盟校であっても、SPOD を知らない教職員がいると思われます。（私もそうでした）教職員に周知の研修であることを知らしめることができれば、もっと積極的に皆が参加されると思います。
- FD、SDに区切らせていない内容であったため、教職員ともに受講したい内容のプログラムが多かったと思います。
- テーマ別ランチョンセミナーはよかったと思います。

- すべてのコマを埋めてしまったことで、体力的に余裕がなかった
- 中身によっては、全く同じような内容に集結していくため、講義間の連携を重視していくとよりよいものになっていくと思います。
- 3日間の参加ができず、参加したいプログラムも多くあったのですが、交通の便が少なくかなわず、残念でした。
- SPOD には毎年参加している。
- 食堂が混んでいたのも、食券をあらかじめ発注していたら良かったように思います。
- 各分野に係る継続的な講師養成
- 満足感こそあれ、改善点や要望はありません。中国地区からイレギュラーな参加をさせていただきましたが、機会があるごとに職員を参加させたいと思います。
- グループワークを主体とした講義で、2人だけでグループを作るケースが何回かありましたが、グループを組む相手が非常に消極的（例えば、職務命令でしようがなく来ました。とか言っている人がいました。）だった場合に、あまり実のあるグループワークができなかったりして残念でした。ある程度しょうがないのかもしれませんが。
- （私だけかもしれませんが）受講プログラムの中で、講師の方から人種差別的ともとれるような発言があったように感じ少し残念な気持ちとなりました。今後はそのようなことが無いことを願っております。
- SPOD 関係者で講座が満席になるのが改善されたら嬉しいです。
- 少数の出席者であったワークショップも大変有意義なものであり、参加者が少なかったのが残念です。

【FD／SD】

- 中村文子先生のワークショップを2日間開催して頂きたいです。
- 発達障害のある学生への指導・支援に関する研修（7）
- 学生×職員×教員を対象にしたセッション。
- ポートフォリオに関する評価方法等の研修
- 「学生の学ぶ意欲を高められる仕掛け」, 「学生が自己の成長を実感できる講義手法」, 「学生の社交性を高めさせられる講義手法」など, 【学生の成長支援】をキーワードにしたものを受講したいです。
- 危機管理に関して, ハラスメントのことだけでなく, 学生が事故に巻き込まれたり, 問題を起こしたりしたとき, あるいは東日本大震災のような災害時の大学の対応などについて情報共有したいと思った。（2）
- 高大連携（接続）, ルーブリック作成の基本知識
- ワールドカフェやOSTの研修を希望します（2）
- 中教審の答申をわかりやすく説明してほしい。（2）
- 授業アンケートの見直し
- 授業を効果的に展開するためのヒント（学習効果が期待できる大人数授業, 授業外学習を促すための授業, 授業実践スキルの向上など）, FD・SDをすすめていく上で求められる組織的な取り組み, いろいろな切り口から見た初年次教育に関するプログラムなどでしょうか。あまり, 具体的になくて申し訳ありません。
- ファシリテーション研修, ファシリテーショングラフィックの研修を学外の方の刺激を受けながら受講してみたいです。
- 教職協働の円滑な進め方（3）
- 対話力, プレゼンテーション力（3）
- 個人情報の保護関係
- コーチング, メンタリングの実践的研修（2）
- モチベーションの向上に関するプログラム（2）
- 心身に問題を抱えている学生の対応や支援方法。
- 大学経営に関するものがあれば受けてみたいです。
- 業務における「タイムマネジメント」に関するプログラム
- 学生対応
- 認証評価受審への学内の取り組みについて
- 学校教育法や大学設置基準の解説講義
- 大学改革に関する内容は, 今までも大きなテーマとして取り上げられていますが, ますます重要であると感じます。また, 学生の進路に関する大学としての取り組みなどをテーマとしたものも欲しいと感じます。
- ディベートを研修プログラムに取り入れる方法等について
- Excel, Wordなどパソコンスキルの講習もあれば, 参加したい
- “学生のやる気を高める”ための教職員の接し方

【FD】

- FD研修ということで、教育方法についての講義が多いのですが、教育理念を考える場をもってもらったらと思います。
- ラーニングポートフォリオとルーブリック評価、管理職研修の構築法
- 教案の作成、授業用資料の作り方など、新任教員の授業組み立てに役立つ内容の充実をお願いします。
- フォーラムと平行してティーチング・ポートフォリオの開発ワークショップを行なえるかどうか、検討していただきたいです。
- 国内外最先端事情、または次世代型FD予想
- 佐藤先生のプログラムの続編をぜひ。
- 試験以外の評価方法。レポートなどは評価が明確でなく、どうすれば学生に分かりやすいか。
- 学部長向けプログラムがあり、それを全学の学部長が同じ部屋で受講するようなものがあれば素晴らしいと思う。
- FD会立案の研修
- 分野別FD
- Moodleの活用法。
- 新任職員研修（着任前の事前研修）をどう作るか？

【SD】

- 受講したい講座がかぶっていたため、断念した【職員のためのキャリアアップ講座-科研費を題材にして-】や、【若手職員のためのキャリアデザイン入門】、【部下を活かすためのコーチング講座】、【ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ】などを来年も開講して欲しい。
- キャリア教育に関することや職員の就職支援、学生相談に関する研修プログラムがあれば尚よいと思います。（2）
- 大学がどのように社会のニーズを捉えていくかなど大学がCenter of Communityとして機能していく方法など地域連携に関するテーマでの職員養成プログラムを希望します。
- 率直に言いますと、「やる気のある職員が、やる気のない上司を動かしていくための方法」といった内容の講座があればと思います。（難しいとは思いますが…）（2）
- 外部資金の受入業務を行っているため、例えば、【競争的資金に関する事務職員の意識向上と各大学の取り組み状況】について、講座があればと思った。
- SDにて管理職を対象とする研修をいれて欲しい。管理職の方は「今更研修？そんな暇はない」とか言われているが、そういった方が受講してもよい研修もあったため。（受講の主な対象者が若手・中堅職員だと管理職の方も受講しづらいのもあると思われるから）（2）
- リーダー学
- 職場内環境（部署内、対他部署等における対人関係）の改善・向上に関するプログラム
- 事務職員の研修を増やしてほしい。会計など事務処理の効率につながる講義もあればありがたい。
- 「大学職員企画力養成講座」の続編として、課題の本質を捉えたり、具体的な解決策を整理しながら検討するような思考法や会議手法などをケースを用いて体験的に学べるワークショップなどがあれば、是非参加してみたいと思います。（「判断力・決断力養成講座」がこれに近いということであれば、次回参加したいと思います。）

- 大学職員における英語力とその活用方法。
- SD プログラムの充実と民間企業から学ぶプログラムなど。

【プログラム全体への希望】

- 職員と教員が業務・授業などに関して意見交換する場があるとよいと思います。（２）
- より具体的な内容を参加者全員で共有できるようなコミュニケーション（３）
- スキルアップとなるもの。
- 今後とも、タイムリーなテーマでの開催をお願いします。
- 来年度以降も継続してフォーラムに参加したいので、入門的プログラムの内容を段階的に引き上げた講座を用意していただきたいです
- FD に関連し、能動的な授業展開について具体的に模擬授業をするような形式での講座や、SD であれば、職員が発案するプロジェクト事例などより具体的なものを聞けるような場があれば、自分自身の大学へ置き換えて色々展開するためのヒントとなるのではないかと思います。
- どのような分野の研修でも、未だ気づくことができていない視点から物事を捉えるきっかけとなるような研修を希望します。
- 毎年新しい内容の授業を取り入れてほしい。
- もう少し実務に踏み込んでもらった方が良かったように思います。（２）
- 今回受講したようなプログラムを通して、とにかく一件でも多く、学生支援や部下への指導に関する解決策や事例を知りたいです。

【その他】

- 時間が重なって参加できなかったり、四国地区限定で参加できなかったプログラムを開講してほしい
- 今回の SPOD フォーラムにも学生を理解するための講義が開講されていましたが、毎年、開講していただきたいです。
- 同じ業務を担当する職員を集めた交流会
- FD, SD の実施担当者による、実践報告会を兼ねたセッションを公開して、情報交換を行う。

【内容について】

- 受講希望が多かったプログラムは、翌年か翌々年にはまた開講してほしい
- また、必要なことを身につけることができそうなプログラムがあれば参加してみたい。
- 今回のフォーラムでは、新たなプログラムが開催されており、参加させて頂きました。大変興味深く勉強をさせて頂きました。
- 大学の実情の問題点を解決するための情報交換が重要だと思う。最終的な解決は、教員各位が実施するしかないので、そのためのアイデアがほしい。また、他教員の実践例を参考にして、各大学の実情に合わせての授業改革への足がかりになることを望む。
- SD 関係で詳しい事を教えて頂きたいと思います。
- それぞれのプログラムの内容がよく練られていることや、実践を促すような研修内容がとても印象的でした。引き続き、満足度の高いプログラムを実施していただきたいです。プログラムの内容で惹きつけられる参加者は多いと思います。（2）
- 大学の事業全般を網羅しており、今後も継続してほしい。
- 秦先生の研修は、非常に楽しく、ためになりました。
- 時間内に終了出来ない研修があり、時間配分を考えるべきである。内容が良かったように思われるため、非常に残念である。

【運営について】

- 何となく、四国の国立大学法人四つが中心になりすぎている気がしました。今後は、公立、私立大の教職員が積極的に参加できる仕組みができあがるといいなと思いました。
- 会場周辺の食事場所や駐車場等、地理に明るくない参加者が対応できるような情報提供・配慮をお願いします。（2）
- カラー刷り案内（プログラム）を郵送していただくのはとてもありがたいことですが、この情報はHPからもダウンロードできますので、運営経費節約の観点からも、廃止を検討されては如何でしょうか。
- 四国だけでなく、他地域の大学等機関へも様々なプログラムの開放しているところは素晴らしいと思います。（2）
- フォーラム以外のイベント参加はSPOD加盟校限定なののでしょうか？
- 学内での周知が上手くされていないようで、SPODの取り組みについて、今回たまたま知った。学内の話ではあるが、情報提供という観点から、問題があるように感じた。また、講座開講時、徳島大学の学務系の職員が仕事として手伝っていたようだが、ボランティアで色んな大学職員を募った方がSDにもなるように思った。
- このような自主運営組織があることを知り、励まされた思いです。
- はじめて参加しましたが、組織的な運営をされており、また受講生だった方が講師を勤められるなど、キャリア形成の、よいスパイラルも展開されているように感じました。
- 本学からは職員の参加がなく、残念に思った。職員の参加を促すようなアピールをして欲しいと思った。

【その他】

- 2つめの設問の【所属組織の問題解決に役立つか】にたいする回答は、(わからない)です。選択肢には(わからない)や(どちらともいえない)という選択肢を追加すべきです。むりやりいずれかに回答させようとするのはよくないと思います。
- SPOD 参加中に得られた知見を、その日のうちにその場でまとめるためのブース（パソコンを使える環境）の設置。適宜新しい考えやひらめき等を、自分なりにまとめる時間と場所があると助かります。
- 「参加者名簿」について、役職と、どの研修を受けるかも記載があればありがたい。私はあいうえお順より、大学の北から順の方が見やすいです。
- 研修プログラムも非常に多く、参加者としては有意義であるが、研修時間以外に他大学担当者と話し合う時間の設定がむずかしい。

【今後への期待】

- 今回 SPOD フォーラムに参加して感じたのが、このような取り組みは他の地域では無いと言われていた。今後、四国外の地域においても SPOD 九州、中国、近畿版…と徐々に広がっていけば、より良い大学になるように感じた。
- 参加者の研修実績（内容・回数）等を例えば、ポイント評価し、ポイント等により表彰などすると励みにもなり、参加促進にも繋がっていくのでは。
- 現在フォーラム以外は四国の加盟大学内で事業を展開されているが、個人会員制度を設けるなどして、いつでも参加できるようなシステムがあれば嬉しいです。

【感想】

- 実施を継続するのは大変ですが、参加するたびにあらたな発見があります。是非続けていってください。（11）
- こういう機会を作っていただけるからこそ、「大学を抜け出す良い機会」として参加することが出来ます。
- 素晴らしい体験をさせて頂いたという思いです。今後も、最新の大学教育について指導いただけますことを期待いたしております。
- オーガナイズ側も受講者側も非常に熱心で、それだけでも刺激になりました。
- 初めての参加でしたが、学ぶ点が多く、非常に良い刺激となりました。より良い授業に向けて、できることから少しずつ取り組んでいきたいと考えております。
- いつも学び直しの機会を与えていただき感謝しています。これからも魅力ある事業が継続・発展されるを期待しています。
- 充実した3日間を過ごしました。ありがとうございました。ご指導を頂いた先生方はもちろんのこと、運営をされていたスタッフの皆さんにも、いろいろと細やかなお心遣いを頂きました。（9）
- 注目すべき取り組みだと思っています。
- 準備から当日まで、お疲れ様でした。FD/SD の取組の先進的事例を勉強するために参加いたしました。期待通り大変勉強になりました。今後本学での FD/SD の研修会開催の際にぜひいろいろとご相談させていただきたいと思います。その際はよろしくお願いいたします。

- 今回初めて参加しましたが、たいへん有意義な研修になりました。大学職員が危機感をもってこれからの高等教育に携わっていく必要性を体感できました。また他大学の方たちの真剣な姿にも刺激を受けました。
- 年に一度のフォーラムで、日々の業務に埋没しそうになりそうな自分をリセットし、楽しませていただいております。是非今後も継続していただきたいと思います。
- 今回フォーラムに参加して初めて SPOD を知ったのですが、異なる学校の様々な役職の教職員が集まる場というものは非常に貴重で有意義だと感じました。こうした輪がさらに大きくなり、他の地域でも結成できればと思います。（２）
- はじめて参加しましたが、非常に熱気にあふれる前向きな会合で圧倒されつつも、自分もその中に入って夢中で取り組むことができました。主催・関係の皆様のお思いや姿勢、また、実際の説明を伺い、自分自身も学び体験したことを次に繋げ、広げ、活用しなければならないと強く思いました。本当にありがとうございました。
- とてもよく練られた事業で、また機会があれば参加させていただきたいと思いました。
- 昨年も参加させて頂きました。
- SPOD に参加させていただき、他大学の方と交流を深めることができました。情報も多く得ることができ、大変有意義な時間でした。（２）
- 今回はじめての参加でしたのでただただ学ぶ事ばかりでした。次年度以降は他の職員にも参加を呼びかけて行きたいと思います。ありがとうございました。
- 参加してみて、四国地区の教育力が上がっていくことがよくわかりました。（３）
- 徳島大学の会場がとてもよかった。
- 全国の高等教育関係者が SPOD に関わる方々のように意識が変わっていくことを願っています。自らも高等教育に関わるものとして、その一人になれるようにと思います。
- 非常に有意義な取組だと思うので、ぜひ来年も開催して欲しい。（４）
- 今回は全国各地の大学から参加者があり、フォーラムには初めて参加したので、驚きました。グループワークのテーマに沿って、各大学での取り組みや抱えている課題など、わずかながらお話を聞くことができ、大変有意義な研修となりました。また、昼食を摂りながらの意見交換会が今回入っていましたが、効果が上がるミーティングとなったのでしょうか。教務部門のテーマでも行ってほしいと思います。
- フォーラムなどでの様子を拝見していて、SD・FD への取り組み姿勢に勢いを感じ、自分自身も自己研鑽に力をいれなければと改めて考えさせられる研修でした。
- 非常に有益でした。ありがとうございます。（９）
- 四国特に愛媛大学の方々の意識の高さを学びたいと思います。
- 関係者の皆様のお取り組みに敬意を表します。職員のよりよい業務環境づくりと成長のためにも欠かせないご活動です。ぜひ地域を超えて全国に SPOD イズムを広めていただきますよう期待しています。私も一人の職員としてできることから実行していきます。

SPODフォーラム2012の参加者からの要望等について

■他大学との交流について

- ・初日の最初に全員が一堂に会するプログラムを開催し、共通の話題を提供し参加者が知り合いになる機会を設けてみてはいかがか。
- ・プログラム参加者の交流の場を昼食時などにできないか。
- ・研修プログラムも非常に多く、参加者としては有意義であるが、研修時間以外に他大学担当者と話し合う時間の設定がむずかしい。
- ・大学の実情の問題点を解決するための情報交換が重要だと思う。最終的な解決は、教員各位が実施するしかないので、そのためのアイデアがほしい。また、他教員の実践例を参考にして、各大学の実情に合わせての授業改革への足がかりになることを望む。
- ・所々にティータイム交流会を設けてほしい
- ・参加者の皆様の様々な取り組みが一同に確認でき、気軽に意見交換ができるようなポスター発表のような時間があっても有意義ではないかと思う。

対応

- ・SPODフォーラムの目的の一つでもある相互交流を実現するため、今回はランチョンセミナーで交流の場を設けたが、次回以降、ポスターセッションや休憩時の交流プログラムの検討など、交流を積極的に促すような仕掛け（掲示・案内も含めて）を検討する。

■実施会場について

- ・開催校を順次変更して欲しい。
- ・今後も他県開催を継続してほしい。
- ・今回は愛媛大学以外で初の開催ということでしたが、岐阜県から参加させていただくには徳島大学のほうがアクセスがよくて便利に感じました。
- ・市街地に近く、交通の便利なところで開催していただければ、どの県で開催していただいても結構です。
- ・関西圏から参加させていただいた為、徳島までの距離が長く移動が大変であった。
- ・今回は身近な大学での開催だったので研修に参加しやすくよかった。
- ・関西から着ましたが、徳島は意外と近く、交通が楽でした。
- ・可能であれば、四国4県で持ち回りで実施してほしい。
- ・会場は、四国の玄関口、香川県でも開催していただきたい。
- ・四国以外の場所でも開催してほしい。
- ・会場は、四国外からの参加者を考慮し、比較的アクセスがよい場所がいいと思う。
- ・今年初めて会場を徳島大学に移して開催された旨を聞いた。他の時期に様々なプログラムが色々な展開されているが、可能であればフォーラムも会場は持ち回りのようなスタイルでも良いかと考える。

対応

- ・来年度は愛媛に一度戻して開催することになるが、その後については他県開催について積極的に検討する。

■広報活動について

- ・四国内及び SPOD 加盟校であっても、SPOD を知らない教職員がいると思われる。教職員に周知の研修であることを知らしめることができれば、もっと積極的に皆が参加されると思う。
- ・いい取り組みをされていて次年度も是非参加したい。ただ、学内での周知が上手くされていないようで、SPODの取り組みについて、今回たまたま知った。学内の話ではあるが、情報提供という観点から問題があるように感じた。また、講座開講時、徳島大学の学務系の職員が仕事として手伝っていたようだが、ボランティアで色んな大学職員を募った方がSDにもなるように思った。
- ・カラー刷り案内(プログラム)を郵送していただくのはとてもありがたいことだが、この情報はHPからもダウンロードできるので、運営経費節約の観点からも廃止を検討されては如何か。
- ・本学からは職員の参加がなく残念。職員の参加を促すようなアピールをして欲しい。
- ・スケジュールが空いていないと参加できないため、なるべく早く日程等公表してほしい。

対応

- ・SPOD内加盟校県内会議等を通じた参加の案内に加え、各校での全学メールシステム等を使った周知をお願いするなど、SPOD内加盟校における周知を図る。プログラムの郵送については、事前アンケート結果においても郵送したチラシがフォーラムの周知に大きく貢献している（42%）こともあり、今後も継続する。フォーラムに関するボランティア職員の導入等については、周辺大学への案内を行うなど積極的に検討する。

■プログラム内容の事前周知について

- ・研修の具体的内容をもう少しわかりやすく記載していただきたい。
- ・初日に配られたプログラムを事前に送付いただきたかったこと。
- ・できれば、講義概要等について事前に配布していただけると助かる。
- ・講座の対象者を今以上に明確に設定すること。

対応

- ・プログラム内容については、申込みHP上にシラバスを掲載しているが、ご覧いただけていないようであるため、分かりやすくなるよう、申込みフォームの工夫を行う。

■開催時期／期間について

- ・初日を午後からにしていただけると、1泊減って参加しやすいかと思う。
- ・夏休み中は参加しやすいため、来年度も同じような時期が良いと思う。
- ・3日間の参加は業務の兼ね合いもありなかなか厳しい状況にある。
- ・今のとおり8月23日頃(お盆ではなく、8月最終週ではない時期)が参加しやすい。
- ・もう少し、涼しい時期が良い。
- ・金曜日終了にしていただけると、研修で学ぶだけではなく四国ならではの歴史や風俗に触れる機会を得られるのではないかな。
- ・日程について、土・日を含んでいただけると助かります。
- ・1度に3日間全ての研修を受講する事は困難なので、年に2回実施するなどあれば、各大学でも多くの受講者が参加できるのではないのでしょうか(夏1回,秋1回など)
- ・同じ内容で年2回開催し、できるだけ多くの教職員が受講できるようにしてほしい

対応

【開催日程】日程については、教職員が最も参加しやすい夏季休業中で実施する。具体的日程については、会場等の都合もあり、全ての要望を反映することが難しいため、早めに日程を決定し周知することで対応する。この2年間は、平日のみの開催においても参加者数等安定しているため、来年度も引き続き平日開催とする。

【開催期間】

今年度同様、年1回3日間ないし4日間での開催とする。

■プログラム構成について

- ・多くの講座が開講され、魅力的なものが多く、受講したい講座がかぶってしまった。
- ・一部、受講したい講義が重なっていたため、選択の必要があった点。
- ・プログラムの内容が重なっているので、整理していただきたい。入門編と発展編などに分けるのもよいと思う。
- ・新任教員対象ならば、プログラムの内容の定番化を進めることがよいと思うが、常連が多くなると、プログラムの多様化が必要になってくる。定番と多様化の両立が求められると思うが、どうやってやるのかということを考えながら参加した。
- ・講義形式のものもゆっくり聞いてみたかった。
- ・プログラムに関して目新しさを追求していくと、〇〇のようになると思うので、受講希望が多かったプログラムは、翌年か翌々年にはまた開講してほしい。
- ・同時刻に開催されているプログラム数が多いように感じた。

対応

- ・受講できなかった方のために、人気のプログラムについては、最低2年間は同じプログラムを開講することになっているので、来年度受講いただくよう参加者に周知する。また、プログラムの配置については、バランスを考えて行う。

【プログラムの進行・運営】

- ・2時間の講座で、30分延長したものがあつた。時間内に収めて頂きたい。
- ・時間通り終了しない、時間不足で内容をはしょったプログラムや、昼食が慌ただしかったなど、全体的にいっぱいいな印象を受けた。もう少しゆとりを持って構成できないか。
- ・1コマの授業だと、考える時間より聞く時間が多くなり、物足りない感じがした。
- ・セミナー時間について、1時間半では短いように感じた。2時間あればより深まると思う。
- ・グループワークを行う講座では90分枠では時間が足りない印象があつた。プログラム上120分枠とすることは難しいかと思うので、事前に受講者にスライド資料や参考資料を提示するなどして(参加登録時にID・PWを配付してweb配信)、“時間外学習”をしておいてもらい、当日の説明・解説は要点だけに絞ってグループワークの時間を確保するようにしてはいかか。
- ・会場によっては、自由に着席したところ、職員の方ばかりで教育上の問題が話せなかったりしたので、グルーピングの仕方に工夫が必要だと思った。
- ・グループワーク主体のプログラムが多く内容が濃い一方、時間が足りないことが多かった。テーマを絞って1つの内容をじっくり扱うプログラムがあってもよいのではないか。
- ・最後までたどり着かず残念だった。講義は大変分かりやすかったので、ぜひ時間を長く調整するかプログラムを段階に分けて設定すればと思う。
- ・グループを組む相手が非常に消極的(例えば、職務命令でしょうがなく来ました等言っている人がいた)だった場合に、あまり実のあるグループワークができなかったりして残念だった。
- ・偶然私が参加したセッションは、机がグループの配置になっているのにディスカッションの機会が少ない講義形式だったことが残念だった。
- ・セッション毎のインターバルをもう少し短く設定し、その分、朝一番のセッションの開始時刻を少し遅らせるのが良いと思う。

対応

- ・SPODフォーラムはグループワーク等を含んだ実践的なプログラムであるという特質を考え、実施時間については余裕のあるプログラム時間を検討する。また、担当講師にも余裕を持ったプログラム構成、事前課題の設定やグルーピングの工夫について検討をお願いする。なお、休憩時間の短縮については、次のプログラムまでの準備時間を考慮する必要があるため、開催校を中心に検討する。

【プログラムの質保証（講師のスキル）】

- ・講師の説明については上手い下手があり、講師にも訓練が必要だなと思った。
- ・（私だけかもしれませんが）受講プログラムの中で、講師の方から人種差別的ととれるような発言があったように感じ少し残念な気持ちとなりました。今後はそのようなことが無いことを願っております。
- ・各分野に係る継続的な講師養成

対応

- ・講師については、経験豊富な講師にお願いしているが、上記のご意見を講師に周知することにより、一層の質保証を図る。また、引き続き新たな研修講師の育成も同時に行っていく。

【プログラム内容】

- ・マニュアル講義ではなく、即実践のため、より具体事例を含んだ講義内容があれば嬉しい。
- ・これまで複数回受けた印象でしかないが、講義によって、役に立つものとそうでないものとの差が明確にあるような気がする。研修のための研修になっているものや現場の課題から離れているものもあるのではないか。〇〇講師のように、実際にご自分が工夫され上手くいっている方の話が説得力があり、有効であるように感じる。
- ・当該コマは講義形式だったが、情報内容が他の説明会で得られる内容であったため、満足度は低くなった。担当講師の考えや、参加者の考えを共有できる内容であれば満足度は高かったと思われる。
- ・事例研究としては大変に参考となったが、そこから理論的・体系的な説明、特に一般的な授業にも適応できるような理論が聞きたかった。
- ・理系専門課程用のプログラムの充実。共通教育、文型と理系専門課程は、専門職で活躍できる人材を育てるという違った面がある。理系の場合、アクティブ・ラーニングをするために内容を削るという事を躊躇する。そういう、具体的な問題点に対応できるプログラムを用意していただきたい。
- ・授業において特徴的な事例の相互交流が重要だと思う。
- ・昼食を摂りながらの意見交換会が今回入っていたが、効果が上がるミーティングとなったのだろうか。教務部門のテーマでも行ってほしい。

対応

- ・上記の要望を踏まえた留意事項等を作成し、プログラムを実施する講師の方々に周知し、可能な限り要望に沿えるような方法・内容にしていく。

■シンポジウムについて

- ・シンポジウムは、登壇者一人ひとりの時間が短く、全体的に急ぎ足の雰囲気であった。
- ・もう少し質疑応答に時間があつたほうがよかった気がする。
- ・シンポジウムが何を意図しているのかわかり難いものだった。誰にどういう影響を与えてどうさせたいのか。意識改革を目的とする集まりだと思うので、その辺りの筋が明確な方が良かったのではないか。
- ・もう少し長めに質疑応答の時間があればよかった。学生の主体的な教育を研究されている最先端の方と職員、教員との討議をもっと聞いてみたかった。
- ・アクティブ・ラーニングについて、教員・職員が共に考える場だったと思うが、パネリストの教員からの発言は職員に向けての視座が欠けていた。教室の中で完結する授業手法の1つであるだけならば、共に考える必要はないと思う。
- ・短い討論時間を有意義な議論に使えるように、司会者は準備し、コントロールしてほしい。

対応

- ・シンポジウムについては、EQトークを新たに取り入れるなど、毎年改善の努力を行っているが、引き続き内容・進行等を見直し、皆さまに満足いただけるより良いシンポジウムとなるよう検討を行う。また、教員と職員が一体となって考えることができるシンポジウムとなるよう配慮する。

■運営上の要望について

- ・夏場なので会場の休憩場所は飲食の場所など(今回はお茶などあったそうだが、場所が良く分からなかった)あったらいい。
- ・会場が暑すぎた(節電は理解できるが、体がついていけない／片頭痛持ちには辛い)。
- ・駐車場がある会場がいい。
- ・食堂が混んでいたので、食券をあらかじめ発注していたら良かったのでは。
- ・直前で受講キャンセル等が発生する可能性があるので、Web上で受講可能数がリアルタイムで更新されるような申し込みシステムを使うことができればいいと思う。
- ・「参加者名簿」について、役職とどの研修を受けるかも記載があればありがたい。私はあいいうえお順より大学の北から順の方が見やすい。
- ・会場近くの飲食店を紹介して欲しい。短い時間で効率よく動きたい。
- ・SPOD 参加中に得られた知見をその日のうちにその場でまとめるためのブース(パソコンを使える環境)の設置。適宜新しい考えやひらめき等を、自分なりにまとめる時間と場所があると助かる。
- ・会場周辺の食事場所や駐車場等、地理に明るくない参加者が対応できるような情報提供・配慮をお願いしたい。

対応

- ・次年度の運営にあたっては、いただいたご意見を可能な限り反映できるよう検討する。ただし、開催校の都合により、反映できない要望もあるので、その点についてはあらかじめ参加者に事前周知を行い、ご理解いただくようにする。

■その他

- ・何となく、四国の国立大学法人四つが中心になりすぎている気がした。今後は、公立、私立大の教職員が積極的に参加できる仕組みができあがるといいなと思った。
- ・参加者の研修実績(内容・回数)等を、例えば、ポイント評価し、ポイント等により表彰などすると励みにもなり、参加促進にも繋がっていくのでは。
- ・このアンケートメールに、参加者の「アクションプラン」を書いてもらい、それをご本人にだけ1ヶ月後や半年後に自動送付することができれば、フォーラム参加の影響を少しでも長く感じてもらえると思います。
- ・現在、フォーラム以外は四国の加盟大学内で事業を展開されているが、個人会員制度を設けるなどして、いつでも参加できるようなシステムがあれば嬉しいです。
- ・SPOD 関係者で講座が満席になるのが改善されたら嬉しい。
- ・アンケートの2つ目の設問【所属組織の問題解決に役立つか】に対する回答は、(わからない)となる。選択肢には(わからない)や(どちらともいえない)という選択肢を追加すべき。むりやりいずれかに回答させようとするのはよくないと思う。

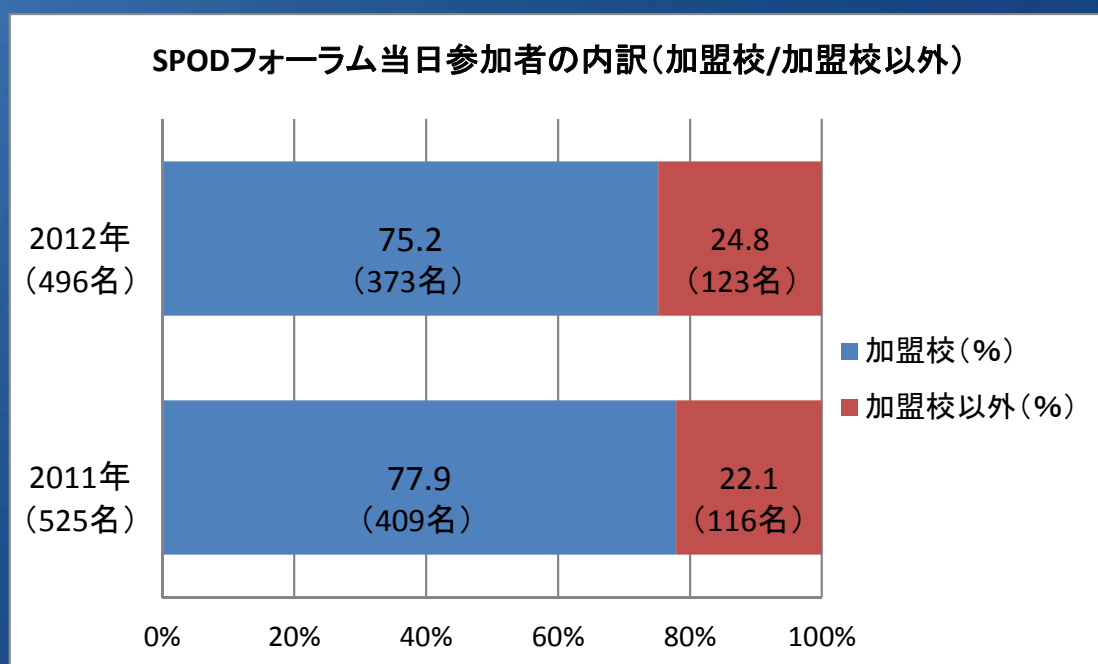
対応

- ・ご提案いただいた案について、実施可能であるものについては積極的に取り入れていく。SPODは、四国地区の大学等加盟校からの拠出金によって運営を行っており、個人会員制度の導入は考えていない。加盟校の教職員を優先としてプログラム募集を行うことにはなるが、他のプログラムについては一般に開放されているものも多くあるので、それらの告知を行い、広く参加を呼び掛けるなど工夫をする。

SPODフォーラム全体アンケート 経年比較 (2009年～2012年)

文責：山田剛史
(愛媛大学 教育企画室)

- ◆参加者数は450～500名の間で推移
- ◆加盟校以外からの参加者は全体の2割強で100名強
- ◆自主運営(参加費徴収@7000)の影響は現時点ではみられない

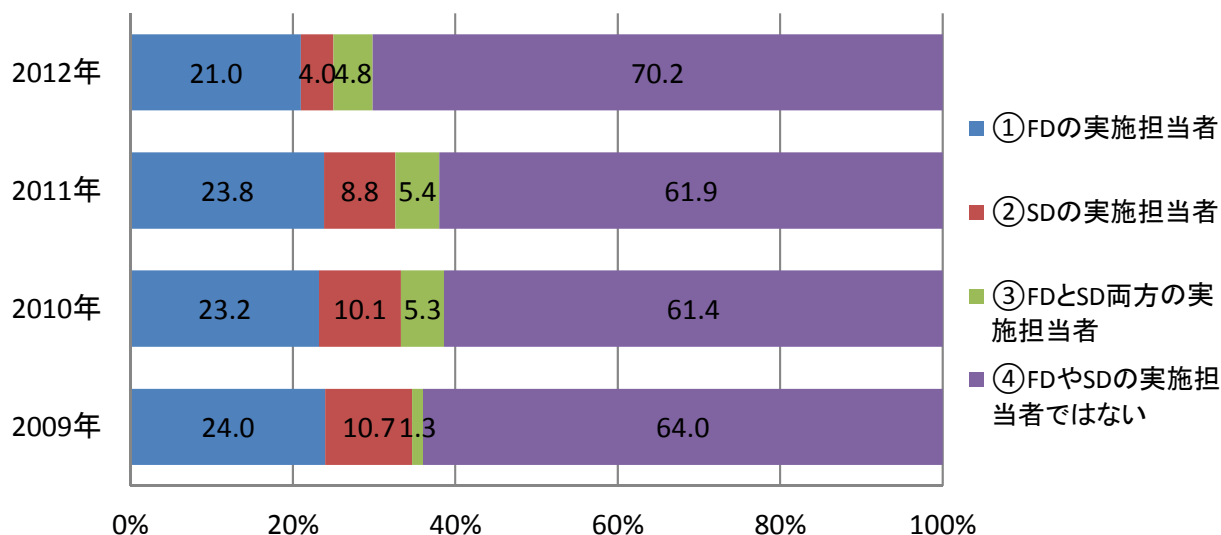


*ただし、2011年については、加盟校参加者の内、58名は遠隔講義受講者

*2010年の参加者は「469名」

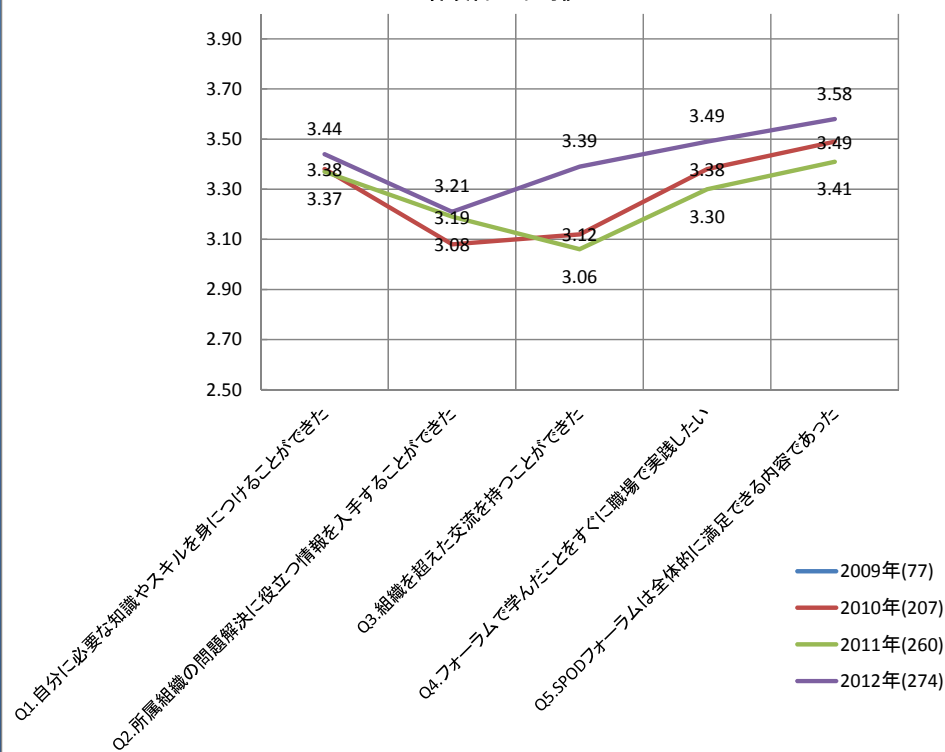
- ◆参加者の約3割はFD／SD担当者
- ◆参加者の約7割は非担当で個人レベルの情報収集・スキルアップ
- ◆玄人向けのプログラムと初心者向けのプログラムのバランスを配慮

あなたはFDまたはSDの実施担当者ですか？



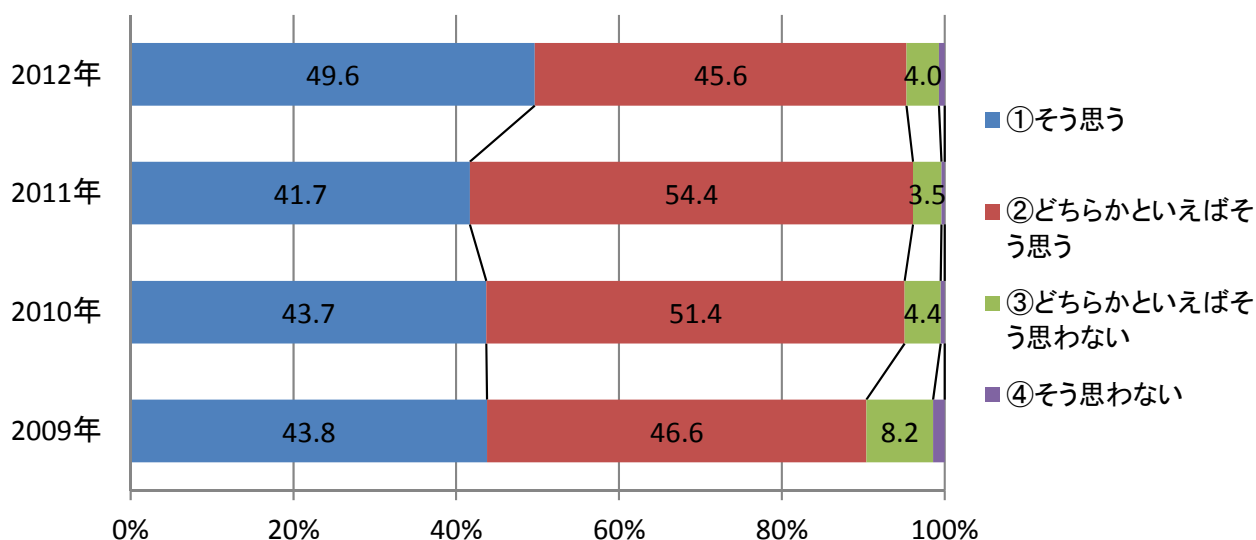
各項目の平均値

各項目の平均値



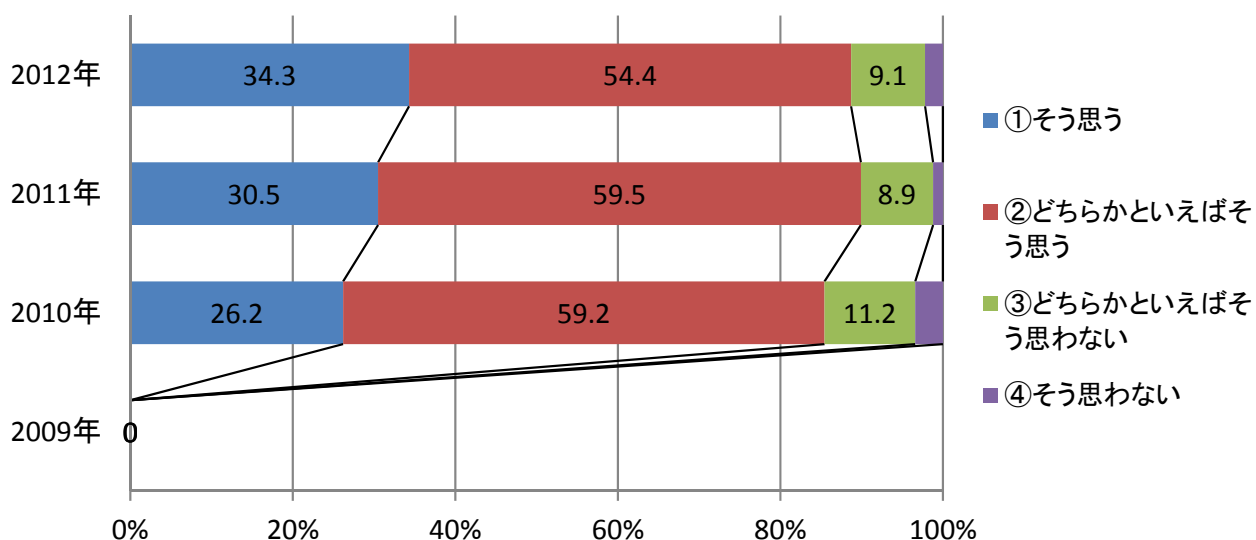
- ◆知識・スキルの身につけ度は概ね9割強
- ◆2012年は特に「そう思う」の割合が8ポイントアップ(2011年比較)
- ◆ただし、「そう思う」はずっと4割台なので、さらにブラッシュアップを

Q1. 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた



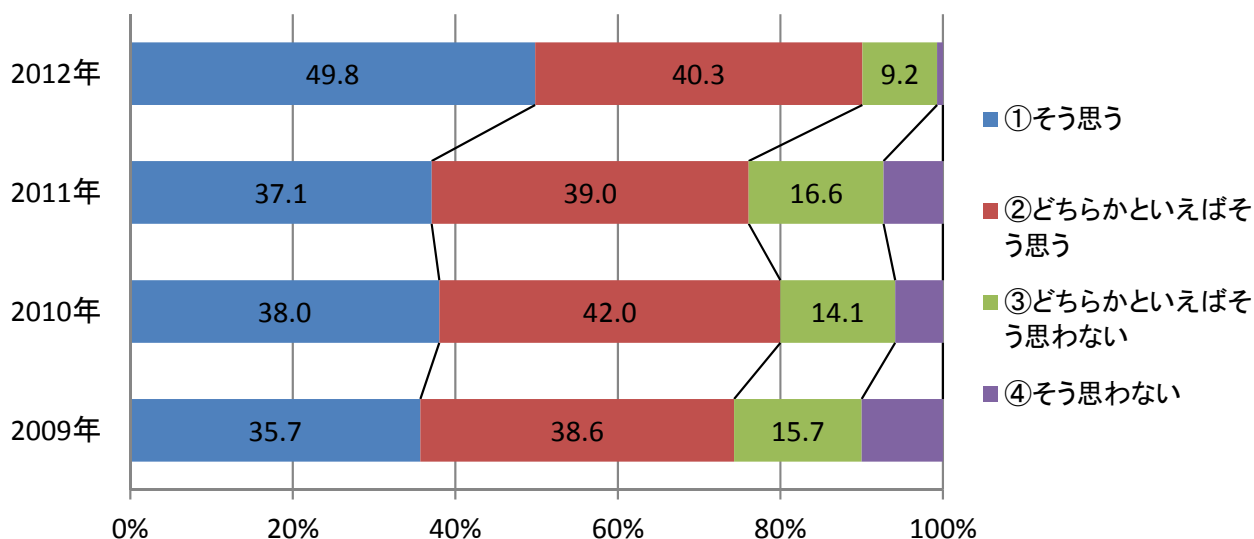
- ◆年を追うごとに「そう思う」の割合は増加(ただし、3割台)
- ◆一方、参加者が「問題解決」の対象となる「問題」が明確かは不明

Q2. 所属組織の問題解決に役立つ情報を入手することができた



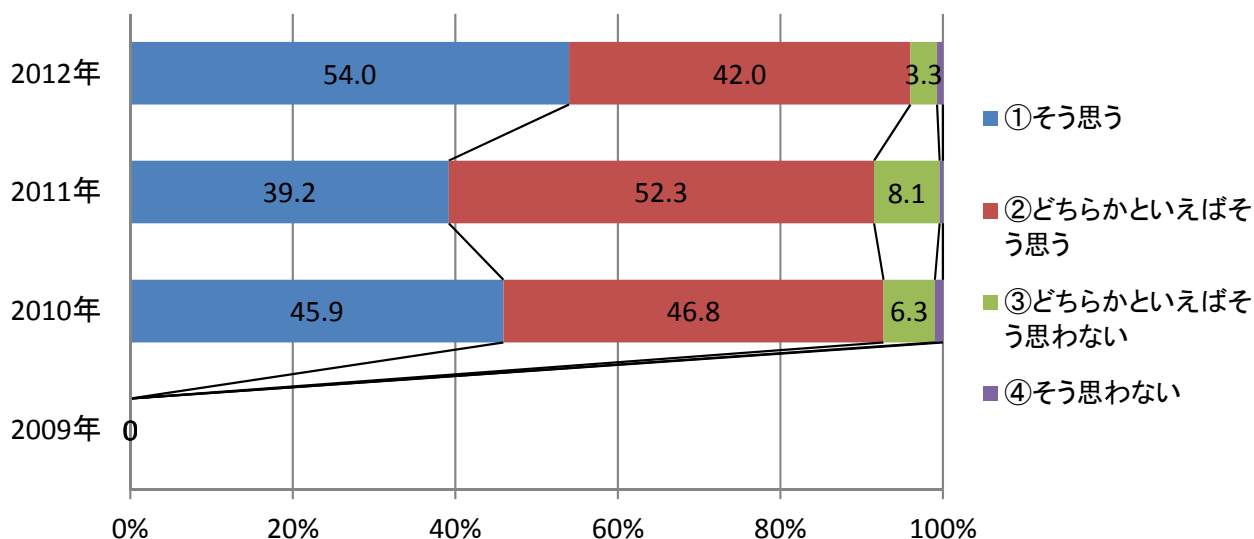
- ◆2012年, 大幅にポイントアップ(2011年より12ポイント以上)
- ◆ランチタイムを活かしたプログラム(テーマ別ランチョンセミナー)の影響が

Q3.組織を超えた交流を持つことができた



- ◆2012年は「そう思う」の割合が5割強(2011年より15ポイントアップ)
- ◆フォーラムを通じて動機付けを高めることに成功
- ◆参加者の問題意識, 動機付けが高くなってきていることも考えられる

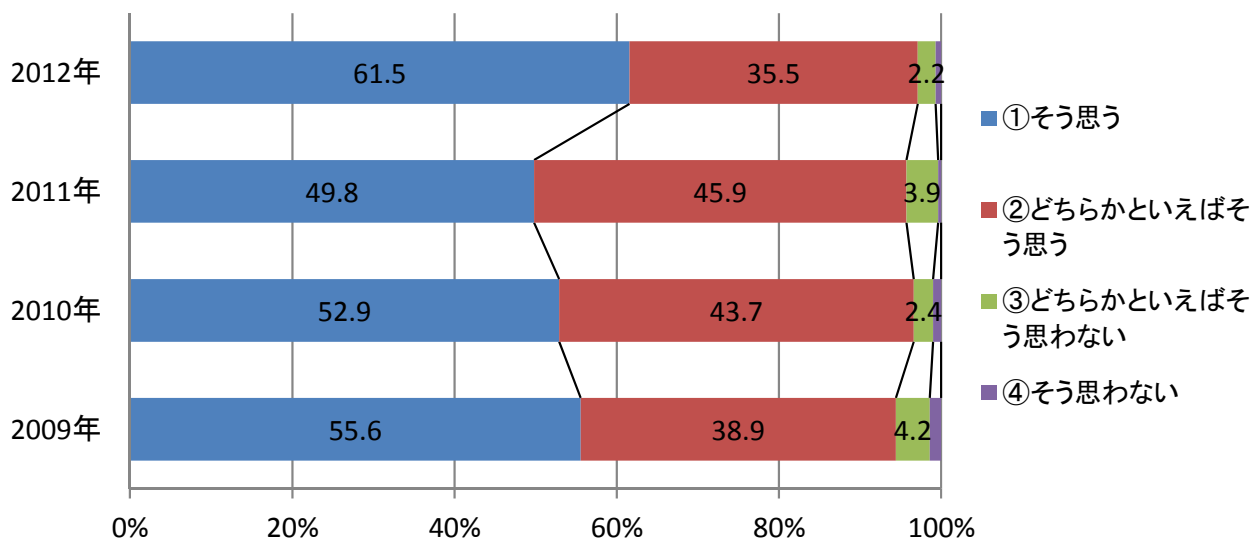
Q4.フォーラムで学んだことをすぐに職場で実践したい



- ◆2012年の「そう思う」割合は過去最高の6割強(2011年より12ポイントアップ)
- ◆一貫して高い満足度を維持・向上できている
- ◆一方、それらが何によるもので、その後どのようにつながっているかも重要



Q5.SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった



5．平成24年度活動報告

（4）S P O D共通事業

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：マンネリ化しない公開授業の秘訣

講師名：川野卓二（徳島大学）

実施日：平成24年4月27日（金） 14：00～15：00

実施会場：徳島工業短期大学

当日参加者数：19名

アンケート回答者数：17名

1. 参加者ご自身について

職種

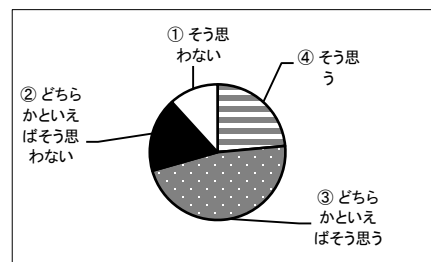
	度数	割合
① 教員	15	93.8
② 職員	1	6.3
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	16	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

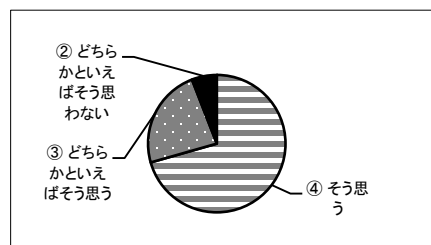
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	4	23.5
③ どちらかといえばそう思う	8	47.1
② どちらかといえばそう思わない	3	17.6
① そう思わない	2	11.8
計	17	100.0



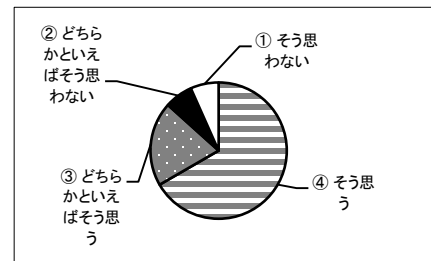
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	12	70.6
③ どちらかといえばそう思う	4	23.5
② どちらかといえばそう思わない	1	5.9
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



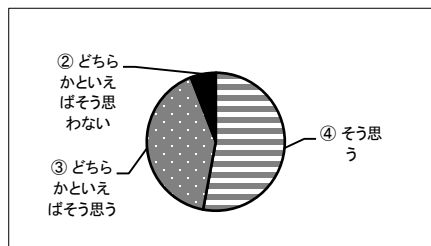
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	10	66.7
③ どちらかといえばそう思う	3	20.0
② どちらかといえばそう思わない	1	6.7
① そう思わない	1	6.7
計	15	100.0



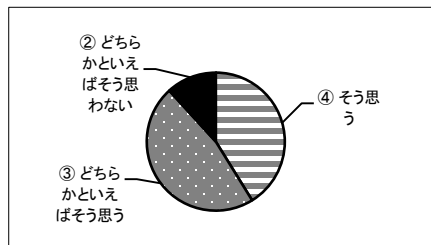
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	9	52.9
③ どちらかといえばそう思う	7	41.2
② どちらかといえばそう思わない	1	5.9
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



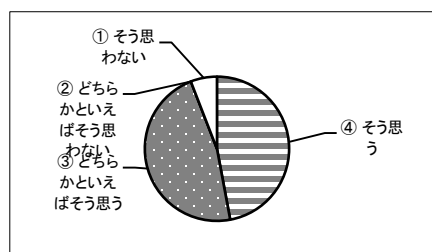
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	7	41.2
③ どちらかといえばそう思う	8	47.1
② どちらかといえばそう思わない	2	11.8
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



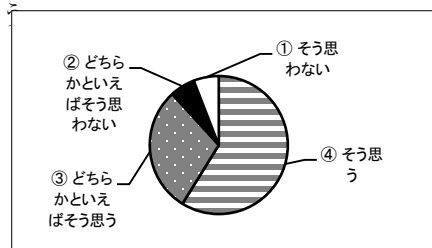
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	8	47.1
③ どちらかといえばそう思う	8	47.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	5.9
計	17	100.0



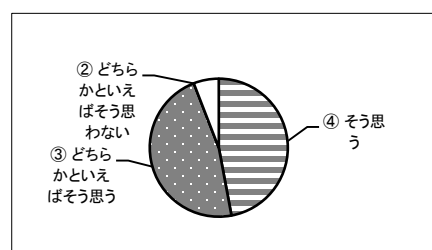
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	10	58.8
③ どちらかといえばそう思う	5	29.4
② どちらかといえばそう思わない	1	5.9
① そう思わない	1	5.9
計	17	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	8	47.1
③ どちらかといえばそう思う	8	47.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	5.9
計	17	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- パワーポイント（新型）を使用している。
- 教えと学びの違いがよくわかった。
- 相互（教員と学生）の対話の重要性がわかった。
- 前置きが少しくどい感じであった。
- 改善例の具体例が示されていて良かった。
- 自分の悪い点を自覚できた点。
- 授業参観の考え方が少し変える事ができたように思う。
- 目標の設定がまだまだ不足していると思う。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 本学の現状（授業時間など）を事前に講師に伝えておいて、実情に合わせた内容となっていると更によい。（45分の授業時間では、実施不可のものもあった。）
- いろんな事の寄せ集めでまとまりがない。もっと体系的にまとめたら！
- この科目の内容を再検討したい。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：高専生を元気にする学生指導法のコツ
 講師名：坪井泰士（阿南工業高等専門学校）
 実施日：平成24年6月12日（火）
 実施会場：新居浜工業高等専門学校

当日参加者数：37名
 アンケート回答者数：34名

1. 参加者ご自身について

職種

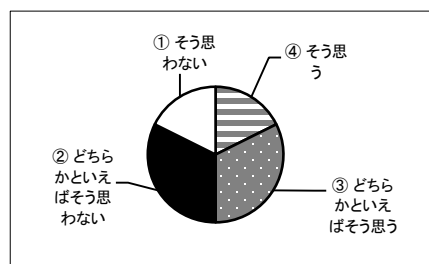
	度数	割合
① 教員	32	94.1
② 職員	2	5.9
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	34	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

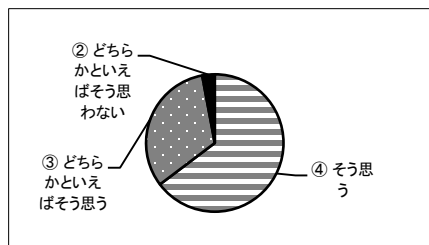
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	6	17.6
③ どちらかといえばそう思う	11	32.4
② どちらかといえばそう思わない	11	32.4
① そう思わない	6	17.6
計	34	100.0



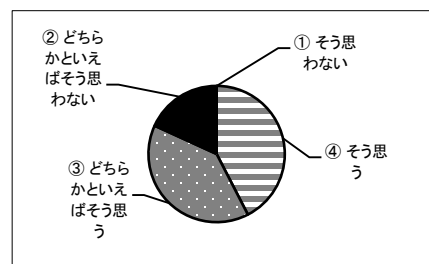
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	22	64.7
③ どちらかといえばそう思う	11	32.4
② どちらかといえばそう思わない	1	2.9
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



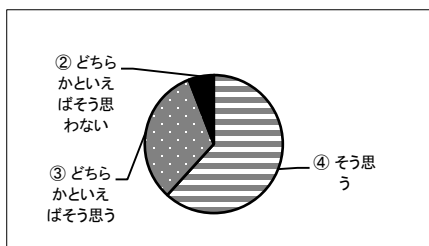
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	14	42.4
③ どちらかといえばそう思う	13	39.4
② どちらかといえばそう思わない	6	18.2
① そう思わない	0	0.0
計	33	100.0



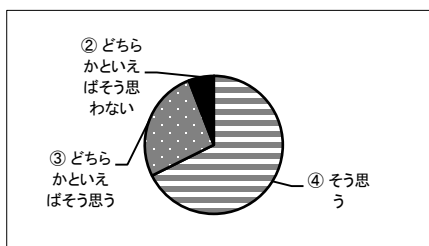
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	21	61.8
③ どちらかといえばそう思う	11	32.4
② どちらかといえばそう思わない	2	5.9
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



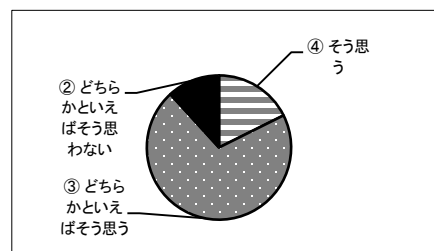
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	23	67.6
③ どちらかといえばそう思う	9	26.5
② どちらかといえばそう思わない	2	5.9
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



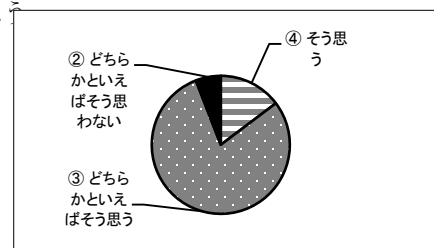
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	6	17.6
③ どちらかといえばそう思う	24	70.6
② どちらかといえばそう思わない	4	11.8
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



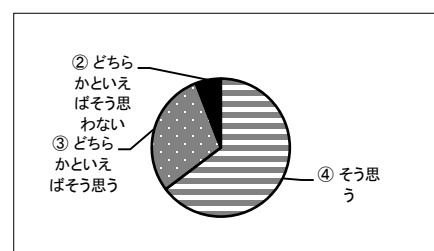
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思

	度数	割合
④ そう思う	5	14.7
③ どちらかといえばそう思う	27	79.4
② どちらかといえばそう思わない	2	5.9
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	22	64.7
③ どちらかといえばそう思う	10	29.4
② どちらかといえばそう思わない	2	5.9
① そう思わない	0	0.0
計	34	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 連携の大切さ、正面から向き合う大切さを学べた。
- 連携の大切さがわかった。
- 能力の差が大きくて、使える先生、使えない先生がいるが、それぞれの良いところを生かすことが大切だった。
- 本校や他高専の実情がわかり、話が具体的で、興味がわいた。もっと話を聞きたい。
- 様々な問題についての予防する取り込み（原文ママ。取り組み、か）が不足している現状であると再認識するためには、連携が重要であると感じました。
- とても参考になりました。ありがとうございました。
- TurningPointを知った。
- KJより、やはり、話し合いの時間はとても有効であること。
- 具体的事例（ワークブック）について考えることができた点。
- いろいろな事例に触れることができ、多く、考えさせられたこと。
- よくまとめられているし、はっきりとした口調で語られ、信念を感じた。
- 自分で何とかするのではなく、所属科・学校全体で取り組んで行くことで、よい意味で楽をすることが担任に必要な事であるとわかった。
- 本校がこれまで、取り組んできた事が、大方、間違っていなかったのだな、と確認できた。
- 知らない学生指導の手法を学ぶことができた。
- 学内（本校）の教員の意識を知ることができた。（実施されたアンケートによって）
- 他校の現状を知ることができた。
- 本校教員の意識、認識を知ることができた。
- 学生との接し方について、様々なアプローチを学べた点。
- 学生の特徴をわかりやすく、具体的に紹介していただいた点。
- 内容が具体的で指導にすぐに活かせるものであった。しかし、実際できるかどうかは別問題。坪井先生素晴らしいからという感じがしないことはない。
- 自分の考え方があまり、ズレていないことが確認できた。
- 事例に沿って、具体的な対処方法が示された。
- 学生指導の形が、見えてきたような気がする。

- リアルタイムアンケート集計グラフ表示で、傾向を認識できた。
- 講師の熱意やそれのみならず、そのために組織として取り組まなければならぬ事を明確に示していた。
- 自分または本校の実態について、反省することができた。
- 問題点を共有することができた。
- ご自身の体験をもとにいろいろな事例を出して説明されたので、すごく参考になりました。
- 具体例多く、勉強になりました。ワークブックの具体的な対応例、とても関心あります。皆さん、どこに対応されるのでしょうか？
- 仲間になれる人が増えたこと。
- 学生指導についてのヒントが得られました。
- 高専間での身近な例を交えた内容がよかった。
- 他高専の極論が聞けた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- もう少し長くてもよかった。
- 現状で素晴らしかったです。
- 話し合いの時間を設ける。
- 具体的には、どの内容も想定内の事の様に思われた。特に意外に感じる事も内が、もっと詳しい話しが聞かれた方がよい。
- 中止になったワークも体験してみたかった。
- また、講演をお願いしたい（全員参加で）。
- 嫌われた教員に対するフォロー、サポート体制の作り方をきちんと述べるべきだと思う。
- もっと長い時間話しが聞きたい。
- 双方向の情報交換がもう少し、あれば良かった。
- もう少し時間を長くする。
- 今後、個別課題のワーク研修が望まれる。
- 素晴らしかったです。
- 連携あるのみ。
- 日程の再検討。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：ティーチング・ポートフォリオ入門-教育実践のリフレクション-

講師名：佐藤浩章（愛媛大学）

実施日：平成24年6月15日（金）

実施会場：弓削商船高等専門学校

当日参加者数：15名

アンケート回答者数：13名

1. 参加者ご自身について

職種

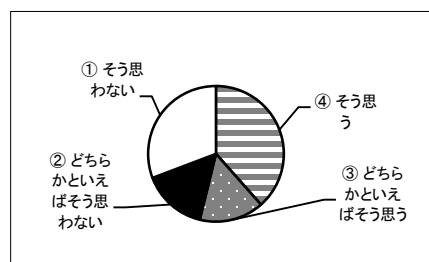
	度数	割合
① 教員	13	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	13	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

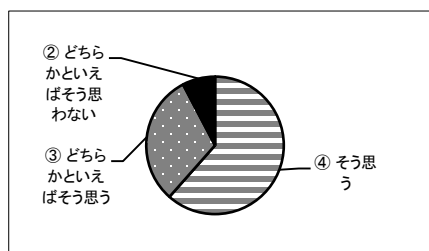
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	38.5
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	2	15.4
① そう思わない	4	30.8
計	13	100.0



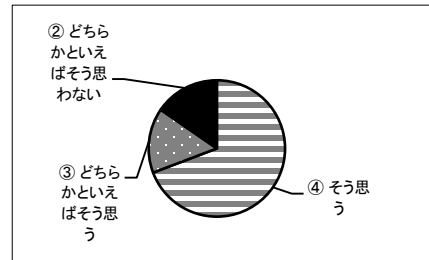
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	8	61.5
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	1	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



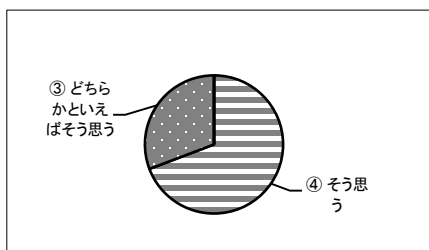
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	2	15.4
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



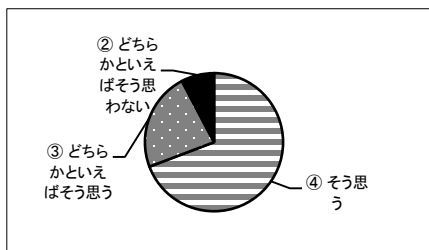
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



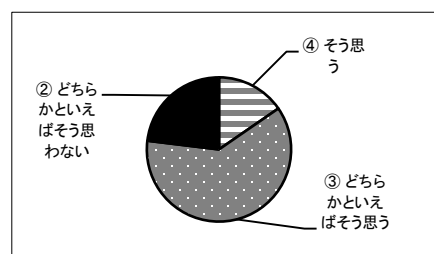
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	3	23.1
② どちらかといえばそう思わない	1	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



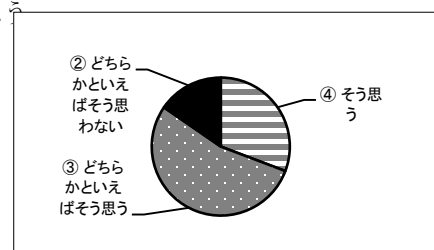
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	2	15.4
③ どちらかといえばそう思う	8	61.5
② どちらかといえばそう思わない	3	23.1
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



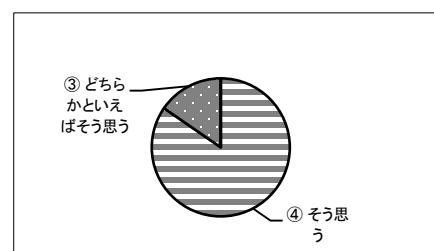
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	4	30.8
③ どちらかといえばそう思う	7	53.8
② どちらかといえばそう思わない	2	15.4
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	11	84.6
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 頭がスッキリしました。自分の授業を客観的に聞いてもらえるのがよいと思う。
- 日々の収集（エビデンスの）
- 自分の教育理念の整理につながった。
- 今後の課題が明確になった。
- ポートフォリオの意味、位置づけが漠然とわかった。
- 義務化は難しいとはいえ、効果を考えるともっと普及すべきであると改めて認識した。今後の教育内容の評価、改善のために活用していきたい。
- ペアでできたことが良かった。他の先生とも同じような交流をしたいと思えた。大変スッキリした気持ちになった。
- よい復習になったと思う。
- 他方面から自分のポリシーを観察できて、気がつかなかったことが見つかり、大変良かったです。
- ティーチング・ポートフォリオの作り方のさわりを知ることができた。
- 自ら考えていたことを少しは整理でき、広げられたと思う。
- 多くの質問があり、丁寧に答えていただいたと思います。
- TPの歴史がよく分かったこと。
- 佐藤先生を知ることができたこと。
- ミニWSがあり、TPの概要をより理解することができた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 回数をこなしてなれることが大事と思う。
- 難しいかもしれないが、年に1回ではなく、何度かできればよい。
- 実習の時間がもうちょっとあった方がよかったと思う。
- トークと作業を分けるのではなく、交互に実施していただければ、分かりやすいかもしれません。
- 研修の目的や教育の目的はここに就職する際にまとめてくれたものがあり、本日はその再認識に留まった。新しく、あるいは集約された理念が導かれなかったもので、それが得られるとありがたい。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：効果的なグループワークの技法

講師名：俣野 秀典（高知大学）

実施日：平成24年6月15日（金）

実施会場：徳島大学

当日参加者数：22名

アンケート回答者数：16名

1. 参加者ご自身について

職種

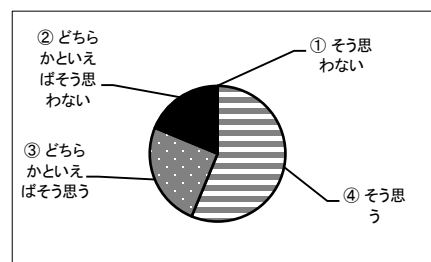
	度数	割合
① 教員	11	68.8
② 職員	0	0.0
③ 学生	5	31.3
④ その他（ ）	0	0.0
計	16	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

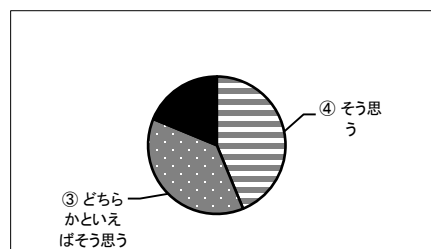
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	9	56.3
③ どちらかといえばそう思う	4	25.0
② どちらかといえばそう思わない	3	18.8
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



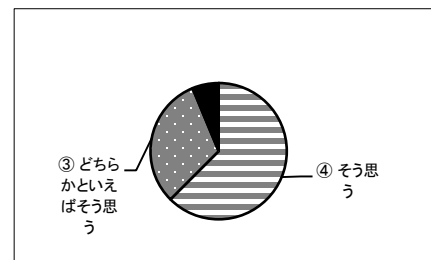
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	7	43.8
③ どちらかといえばそう思う	6	37.5
② どちらかといえばそう思わない	3	18.8
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



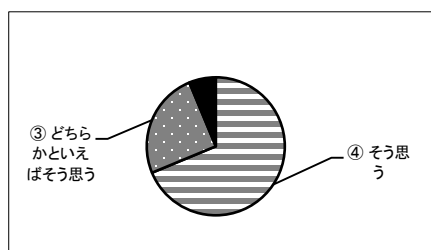
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	10	62.5
③ どちらかといえばそう思う	5	31.3
② どちらかといえばそう思わない	1	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



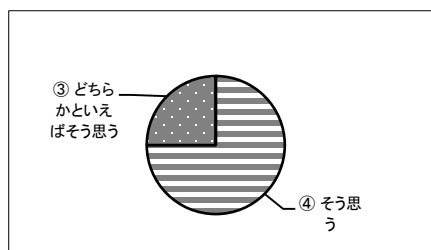
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	11	68.8
③ どちらかといえばそう思う	4	25.0
② どちらかといえばそう思わない	1	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



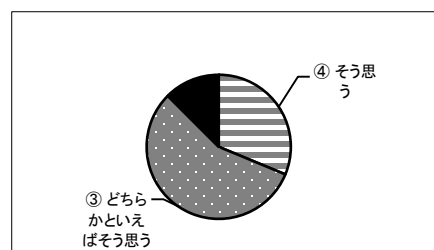
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	12	75.0
③ どちらかといえばそう思う	4	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



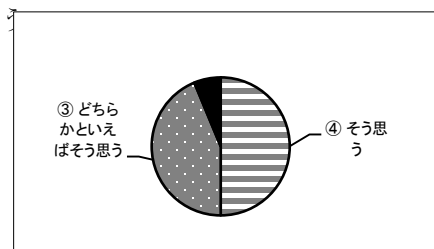
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	5	31.3
③ どちらかといえばそう思う	9	56.3
② どちらかといえばそう思わない	2	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



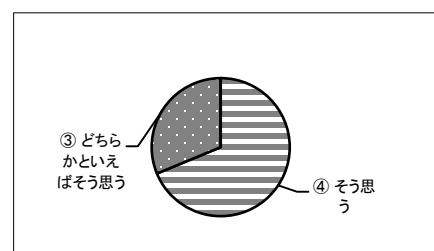
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	8	50.0
③ どちらかといえばそう思う	7	43.8
② どちらかといえばそう思わない	1	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	11	68.8
③ どちらかといえばそう思う	5	31.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ☐ グループ学習の様々な事例を学ぶことができた
- ☐ 講義とワークの両方があって効果的だった。
- ☐ 多くのヒントが得られた
- ☐ すでに授業で実践している内容が多かったが、その意義を再確認し、全体を理解できた。
- ☐ 話し方の技法
- ☐ チームビルディング手法
- ☐ グループ学習の基本
- ☐ グループ編成の方法
- ☐ グループ学習と共同学習の違い
- ☐ 習熟度別学習には効果がないこと
- ☐ ジグソー技法について知った意義は大きかった。自分の授業にどう取り入れることが可能か考えていきたい。
- ☐ グループワークについて学び、それを生かす方法を考えた。（自分たちの活動の中で）
- ☐ 教員の考えを知ることができた
- ☐ 教育の仕方について明確だった
- ☐ チームメンバーと協力して、助け合いながらやっていくことの重要性を感じた。
- ☐ 教職員の方々の熱意、やる気を感じられたのでよかった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- ☐ 休憩をはさむ
- ☐ 人数をもっと集めて、いろいろな先生、生徒に知ってもらうべき。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：T-002 効果的なグループワークの技法

講師名：俣野秀典（高知大学）

実施日：平成24年6月15日（金）

実施会場：【遠隔】徳島文理大学（徳島キャンパス、香川キャンパス）

当日参加者数：25名

アンケート回答者数：22名

1. 参加者ご自身について

職種

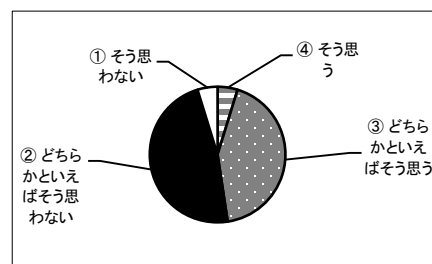
	度数	割合
① 教員	19	86.4
② 職員	3	13.6
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	22	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

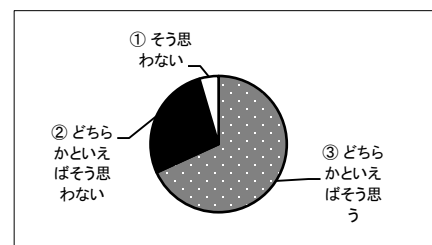
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	1	4.8
③ どちらかといえばそう思う	9	42.9
② どちらかといえばそう思わない	10	47.6
① そう思わない	1	4.8
計	21	100.0



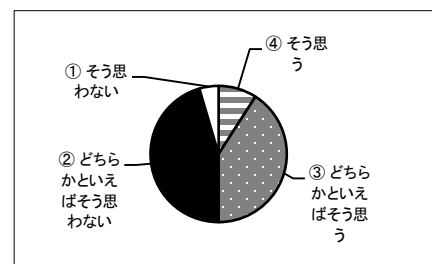
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	0	0.0
③ どちらかといえばそう思う	15	68.2
② どちらかといえばそう思わない	6	27.3
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



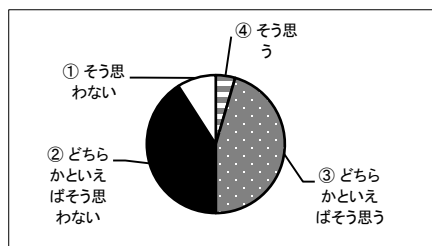
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	2	9.1
③ どちらかといえばそう思う	9	40.9
② どちらかといえばそう思わない	10	45.5
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



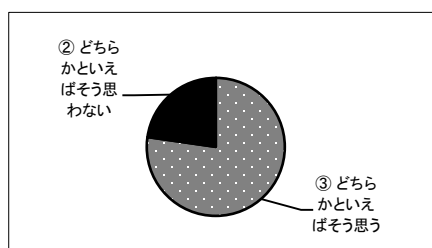
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	1	4.5
③ どちらかといえばそう思う	10	45.5
② どちらかといえばそう思わない	9	40.9
① そう思わない	2	9.1
計	22	100.0



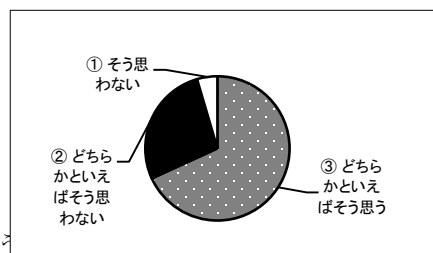
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	0	0.0
③ どちらかといえばそう思う	17	77.3
② どちらかといえばそう思わない	5	22.7
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



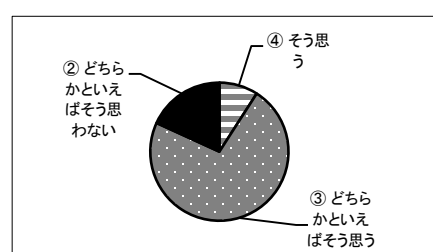
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	0	0.0
③ どちらかといえばそう思う	15	68.2
② どちらかといえばそう思わない	6	27.3
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



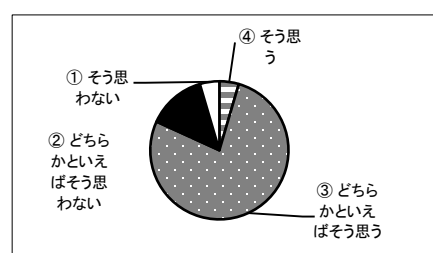
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	2	9.1
③ どちらかといえばそう思う	16	72.7
② どちらかといえばそう思わない	4	18.2
① そう思わない	0	0.0
計	22	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	1	4.5
③ どちらかといえばそう思う	17	77.3
② どちらかといえばそう思わない	3	13.6
① そう思わない	1	4.5
計	22	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 実際にグループワークを体験する点が良かったと思います。
- グループ学習の具体的技法を知ることができ大変良かったです。理論的に学ぶ機会が少なかったもので、今回の研修では初めて知ることが多く、刺激を受けました。活用できることから、授業に取り入れていきたいと思います。
- 授業で是非とも取り入れたいと思います。
- 具体的なワークが紹介されていた。
- SGRの必要条件についてよく理解できた。
- 班編製のポイントについて。
- 学生の会話を引き出す技法、その点をあまり考えたことがなかったので、「技法」についても考えてみてよいと思った。その他、グループワークの技法に関しては、参考になるものもあった。
- グループ学習の重要性は知っていたが、その方法が理解できていなかったが、知ることができた。
- グループの作り方と個人の技能を引き出すまでの流れが分かった。
- グループ学習が効かを示す事があることは知っていたが、具体的に授業で生かす手法が分らず、そのような取り組みはしていませんでした。簡単な方法からでも、少しずつ、取り入れてみたいと思いました。
- グループ学習の技法を学べた。
- グループワークを取り入れる動機にたった。
- Gチーム学習が本学の学生に適用できるかどうか疑問だと思った。
- 私の知識、経験レベルが低い状態で参加したので、研修の目的等が曖昧で合ったので、折角よい内容にも関わらず、よく理解できず、申し訳ありませんでした。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 参加者が少ないのが残念でした。研修会の案内をもっとしていただけたらと思います。
- 基本的な考え方やグループワークのテクニックだけでなく、実際の授業場面でこう使ったら、こうなった、といった成功例/失敗例をもっと紹介していただけると、もっと興味深くなると思います。
- なかなか実際の技術に役立たせるのは難しいと、いつも感じる。良い先生の授業を見学するのがよいように思う。
- サテライト会場でもSGRを実施するのであれば、事前に机の配置等をメイン会場と同じにしておく。
- 理系・文系など教育内容の実際が大きく異なるのに、画一的な研修はなかなかイメージできず、自己の講義等に取り入れる事は難しい。ある程度、分けて具体的な例にて、説明をしたいだけければと思う。
- 配られた資料のどこを見ればよいかを詳しく指示していただければ、聞きやすかったかと思います。ありがとうございました。
- もう少しフォーカスを絞ってもよい気がした。
- 到達目標がよく分らない。具体的な例を述べてほしかった。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：大学職員のための企画力養成講座

講師名：秦 敬治（愛媛大学）

実施日：平成24年7月13日（金）

実施会場：鳴門教育大学

当日参加者数：25名（教員：0名，職員25名）

アンケート回答者数：24名

1. 参加者ご自身について

職種

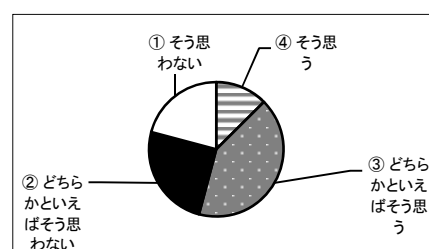
	度数	割合
① 教員	0	0.0
② 職員	24	100.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	24	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

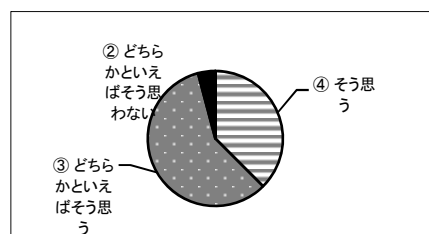
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	3	12.5
③ どちらかといえばそう思う	10	41.7
② どちらかといえばそう思わない	6	25.0
① そう思わない	5	20.8
計	24	100.0



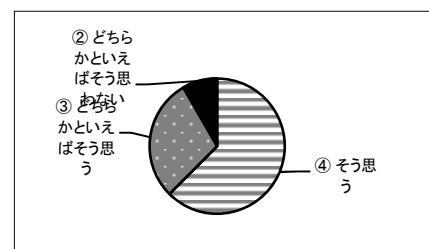
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	9	37.5
③ どちらかといえばそう思う	14	58.3
② どちらかといえばそう思わない	1	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



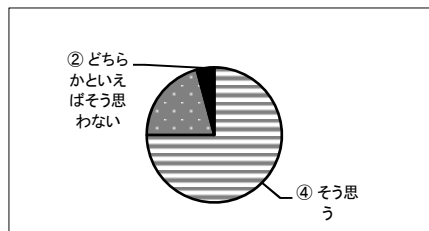
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	15	62.5
③ どちらかといえばそう思う	7	29.2
② どちらかといえばそう思わない	2	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



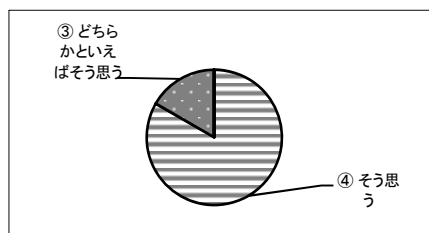
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	18	75.0
③ どちらかといえばそう思う	5	20.8
② どちらかといえばそう思わない	1	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



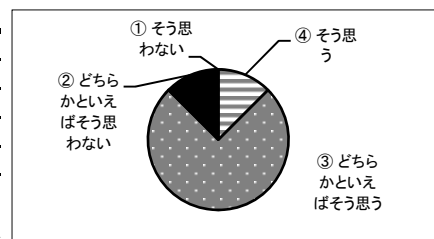
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	20	83.3
③ どちらかといえばそう思う	4	16.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



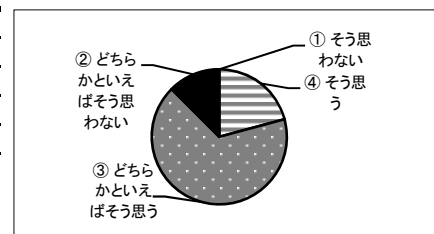
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	3	12.5
③ どちらかといえばそう思う	18	75.0
② どちらかといえばそう思わない	3	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



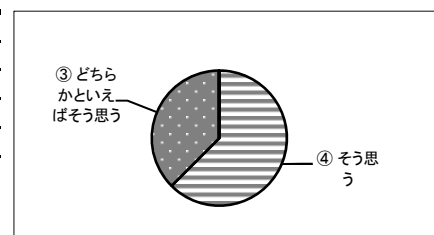
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	5	20.8
③ どちらかといえばそう思う	16	66.7
② どちらかといえばそう思わない	3	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	15	62.5
③ どちらかといえばそう思う	9	37.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 学外の職員も同じような疑問、不満があることが知れたこと。短時間での意見の集約等勉強になった。
- 他の人の意見を聞けてとても参考になった。あまり話したこともない人と楽しく会話できた。初めは、ゆううつだったが、最後は楽しかった。
- 他大学の方の意見等、新しいアイデアを聞くことができた。
- 日頃感じることを文字にすることが大事なことがわかった。
- 他大学の状況を知ることができた。自分の意見を言える場だった。
- 短い時間でできるだけのことを・・・という発想がよかったと思う。
- 他大学の方と話をすることで、様々な事項について知ることが出来た。
- 短時間で結果につながる事が重要だと思った。
- 短い時間で意見を出し、まとめる力が、身についたと思う。また、テンポの良い研修だったので、グダグダすることなくテキパキ楽しく受講できた。
- 今後活用できる内容だった。
- 他大学参加、他部署との交流により違った面や、意見が交換出来たこと。
- 問題点を共有することができた。話し合うことで安心した所もあった。
- 自身のモチベーションがあげれた。
- まわりに意見を求めているのだという安心感。意見を聞く勇気をもらいました。短時間で課題にとりくむという集中力。
- 普段、自分からはあまり疑問点を言ったり、企画をしたりすることがほとんどないのですが、もっと自分の意見を出すことの大切さが分かったのが良かったです。
- 短時間で話題を仕上げるために「人の意見を取り入れること」「上手にコミュニケーションをとること」の大切さをあらためて感じ取れたこと。
- 考え方が活性化された。
- 他大学の方と固くなり過ぎずお話することができた点がとても良かったです。公立大と私立大、違うところは多々あると思いますが、思うところは一緒の部分もあると知ることが出来たのは大きかったです。
- 短い時間で初めての方と協力して作業が行えた。大きかったです。
- 業務上の問題点を具体的に考える機会になった。
- 日頃の業務外の方と話をすることで、いろいろと参考になった。課題のみつけ方、解決への道など意見交換が楽しかった。
- 課題に対する異なる視点からのアプローチ

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 短時間の研修でなくフル研修を行ってほしい。
- もっと長い時間がよい（3サイクルできたらよかった）
- やや時間が短か過ぎると思いました。
- もっと時間をかけて取り組めるとうれしい。
- 継続して行うことでレベル向上につながると思います。
- 実施時期の検討。
- 職場に反映していかなければならない。
- 継続して受講できるよう企画していただけるとうれしく思います。
- お世話になりました。
- 時間を増やして継続した方がよいと思う。
- しんらつなことをもっとたくさん言ってほしいです。
- 半日は少し短い感じがしました。
- もう少し作業時間が取ればよかった。
- 他のグループの発表もきいてみたかった。
- 企画を実践するための環境づくり

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：大学職員のための企画力養成講座

講師名：秦 敬治（愛媛大学）

実施日：平成24年7月23日（金） 13：00～17：00

実施会場：高知大学総合研究棟

当日参加者数：22名

アンケート回答者数：20名

1. 参加者ご自身について

職種

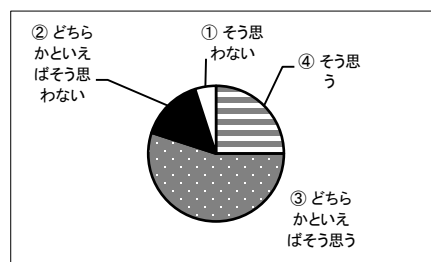
	度数	割合
① 教員	0	0.0
② 職員	20	100.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	20	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

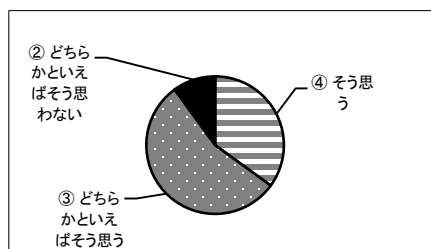
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	25.0
③ どちらかといえばそう思う	11	55.0
② どちらかといえばそう思わない	3	15.0
① そう思わない	1	5.0
計	20	100.0



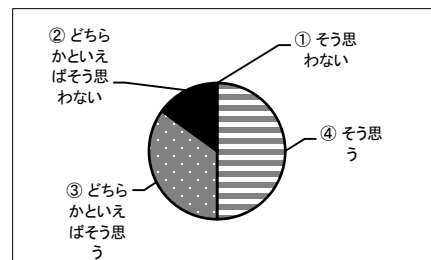
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	7	35.0
③ どちらかといえばそう思う	11	55.0
② どちらかといえばそう思わない	2	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



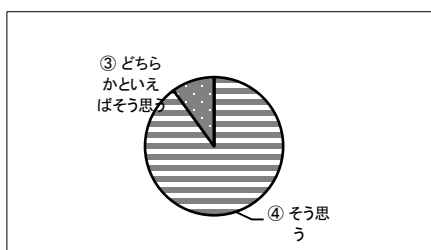
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	10	50.0
③ どちらかといえばそう思う	7	35.0
② どちらかといえばそう思わない	3	15.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



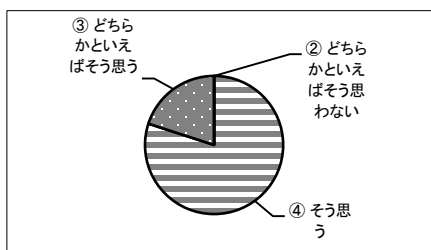
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	18	90.0
③ どちらかといえばそう思う	2	10.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



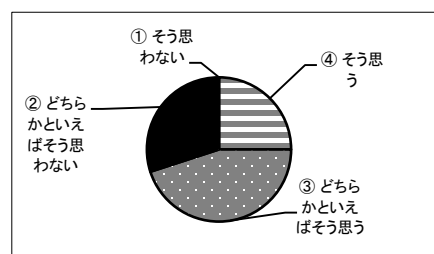
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	16	80.0
③ どちらかといえばそう思う	4	20.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



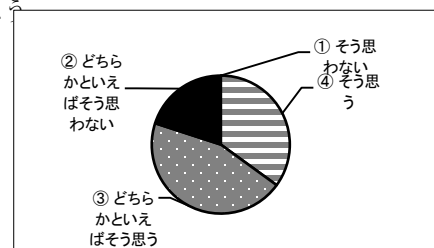
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	5	25.0
③ どちらかといえばそう思う	9	45.0
② どちらかといえばそう思わない	6	30.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



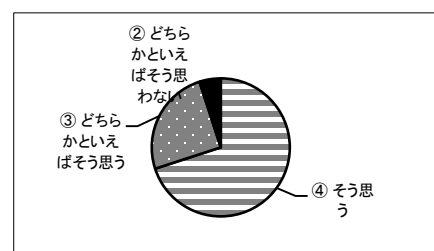
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	7	35.0
③ どちらかといえばそう思う	9	45.0
② どちらかといえばそう思わない	4	20.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	14	70.0
③ どちらかといえばそう思う	5	25.0
② どちらかといえばそう思わない	1	5.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- すぐに業務に生かせそうな気がします。
- 意見のまとめ方を学ぶ事ができました。また、時間配分の難しさなど勉強になりました。
- もう一度自分の職場での態度等を見直すきっかけとなった。
- 企画力が具体的にイメージしづらくて抵抗感がありましたが、この研修で少しつかめたように思います。苦手意識がうすくなりました。
- 同世代の人達と業務について考えることができたので共感できることや参考になることがあった。
- チームメイトと気さくに話すことができた。バタバタとしたが、ポスターを協力して仕上げる事ができた。4時間があつと言う間で充実していた。
- 実際にプレゼンをしたのが良い経験になったと思います。
- 少し非現実的な意見でも自由に議論できて良かった。
- 職員のあり方について改めて考える機会となった。
- 方法としても普段使わないもので、参考になったと思う。
- 普段の業務について、見つめ直すことができた。
- 少人数(2~3人)によるプレゼンで、絶対に分担して一度はしゃべる点、また、コメントも絶対ということで、プレゼンする時も聞く時も一生懸命、話して聞けたと思う。頭を使った4時間でした。
- 制限時間を設けることでより思考することができた。積極的なコミュニケーションがはかられた。
- 企画、作成手順を再確認できた。
- 普段では体験できない手法を習得できた。
- 他の部署の方と交流することができて良かった。
- KJ法を最後までする時間があつたので良かった。DVDの悪い例が上手いと思いました。
- 普段思っていることを改善・導入にまで昇華させるのは大変だったが、久しぶりにじっくりと考える時間があつて良かったと思う。
- 業務改善の方法一つとっても、多くの意見が出され、その意見をさらに煮つめていけばいいと知らされた。
- 問題解決する方法を学べた。他大学の人と知り合うことができた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- お互いに関わりのない、知らない職員同士でチームビルディングを行ったほうが色々と意見が出しやすいと思います。
- 同世代の教員FDと合同で行う。
- たくさんの人が積極的に出席できればよい。
- 17時には終了するプログラムを希望します。
- KJ法でグループワークをやっていく上での注意点を伝えて欲しかった。
- 自分の意見だけの人がいたのできつかった。チームメイトの意見も聞いて欲しかった。
- 突っ込まれる付箋が、腑に落ちないものがあつたので、もやもやする。(反論の機会がないので)
- プレゼンのポスターを書くスペースが少ない。
- もっと時間があれば楽しかったと思います。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：Y-013 学生の自立を促す学生支援の実践とコツ

講師名：立川明（高知大学）

実施日：平成24年7月25日（水）

実施会場：高知工科大学

当日参加者数：22名

アンケート回答者数：21名

1. 参加者ご自身について

職種

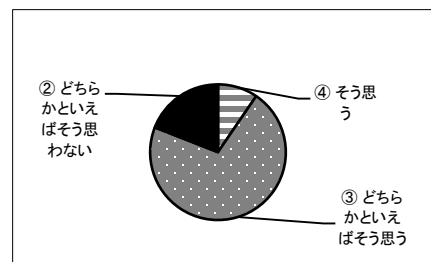
	度数	割合
① 教員	5	23.8
② 職員	10	47.6
③ 学生	6	28.6
④ その他（ ）	0	0.0
計	21	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

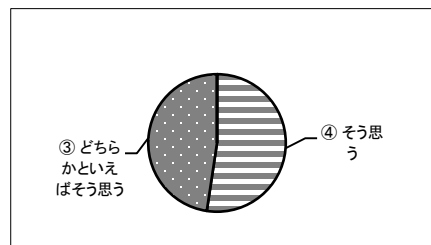
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	2	9.5
③ どちらかといえばそう思う	15	71.4
② どちらかといえばそう思わない	4	19.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



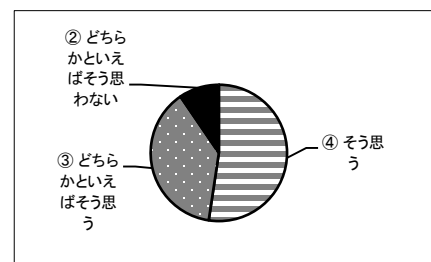
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	11	52.4
③ どちらかといえばそう思う	10	47.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



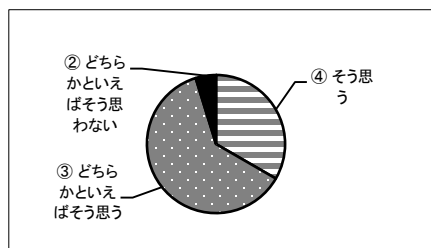
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	11	52.4
③ どちらかといえばそう思う	8	38.1
② どちらかといえばそう思わない	2	9.5
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



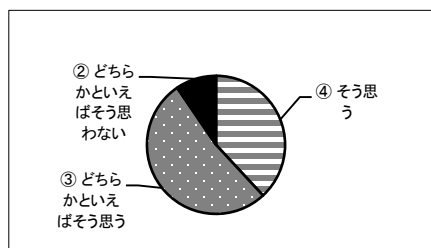
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	7	33.3
③ どちらかといえばそう思う	13	61.9
② どちらかといえばそう思わない	1	4.8
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



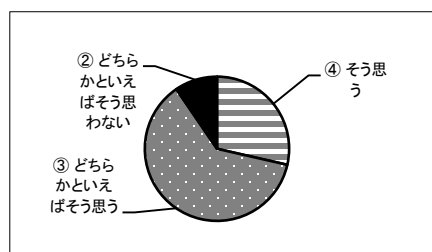
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	8	38.1
③ どちらかといえばそう思う	11	52.4
② どちらかといえばそう思わない	2	9.5
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



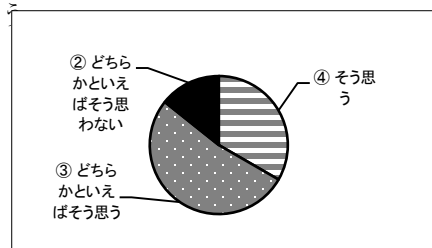
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	6	28.6
③ どちらかといえばそう思う	13	61.9
② どちらかといえばそう思わない	2	9.5
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



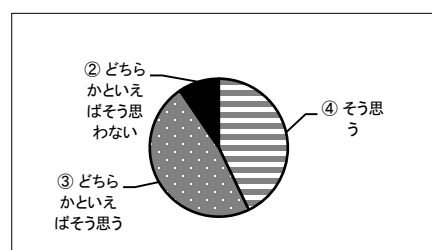
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	7	33.3
③ どちらかといえばそう思う	11	52.4
② どちらかといえばそう思わない	3	14.3
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	9	42.9
③ どちらかといえばそう思う	10	47.6
② どちらかといえばそう思わない	2	9.5
① そう思わない	0	0.0
計	21	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 学生自立への支援について、考える契機となりました。ありがとうございました。
- 学生のgroup編成の仕方
- 学生の自律
- workをやる度に何故それをやるのかの説明があった点。
- 具体的なwork内容
- コラボ考房の実例として、アグリーズの活動・紹介が大変よかった。
- 他校の取り組みを知ったこと。
- 学生発表がgood!!
- 他大学の取り組みを聞ける機会を持てた点がよかったと思います。
- 実際に、グループワークの方法を行うことで、イメージを持つことができた点が、よかったと思います。ジグソーは初めて取り組んだグループワークの方法だったので、勉強になりました。
- 自ら考えさせる内容がよかった。
- 高知大学学生が堂々と発表していたので感心した。
- 130～400の時間でコンパクトにまとまっていたと思う。
- GWをする際におさえるべき点とその手法をグループワークを通して、実際に体験できた事。
- 実際に学生の発表を聞くことができてよかった。内容が本学にはない取り組みをされていたので、今後の参考になると思います。学生（他大学の）と話しができたのもよい。
- 実例を聞いたことがよかった。
- 学生の自立を促すためのいろいろな要素を学ぶことができた点。高知大学の学生の自主的な取り組みについて、話しが聞けた点。
- 学生の自立を促すために、実例的は高知大学の意見を聞けてよかった。また、S, O, Sや道場のシステムなど、今後、工科大学でも使えそうな取り組みを知ることができ、ためになった。
- 自立型学生支援のポイントを知れたこと。
- いろんな人と出会うことができた。本当に楽しかったです。
- 他大学（高知大学、愛媛大学）の活動を知り、自分たちの団体の改善とモチベーションの向上につながった。

- 教職員の方とのグループワーク。他大学の実際の活動。
- 教職員の方々が学生支援について、どう考えていらっしゃるのか、また、そのためにどのようなことをしようとしていらっしゃるのか、など、普段は聞けない話をグループ内でできたこと。また、同じ課題に取り組むことで、理解を深められたこと。
- プレストから始まり、「自律した学生」について考えるきっかけになりました。自律の定義によって、サポートが変わると思います。
- 学生支援のあり方として、受ける側から、する側の目線で考えることができた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 時間的にもう少し余裕を持って（考える時間として）いただけるとよいと思います。
- 学生・教職員合同のmerit, dwmerit
- 90分×2=180分の時間をかけるとよかったと思う。
- 2.5Hでは少ない。4H程度必要か。
- 時間が少ないので、最初からグループ分けすれば、その時間は有効に使えたかも知れません。
- 「自大学で取り組み案を作成できる。」案を作成して実行した後に、その効果・結果をどう測定するのか、改善につなげる方策を考えるきっかけになるような内容を加えていただければと思います。
- 時間が短いため、ひとつひとつの作業が薄い感じ。もう少し時間に余裕があつて、深く学べるタイプのものにしたら、もっとよくなるのでは。
- 話の内容、事例発表はよかったので、もう少し時間をとって詳しくできたらよかったと思う。
- 予定していた内容が時間内に追わなかったので、もう少し時間を長くするか、内容を削る等の工夫が必要だと思う。
- 高知大学以外の大学での取り組みをもっとたくさん聞ける機会があればと思う。半日では難しいと思うが、各大学の取り組みと学生による事例発表ができれば、今後の業務にかなり活かせるのではないかと感じた。
- グループワークを導入すると、まとめまでしっかりと終わらせないと、尻切れトンボになってしまう。特に今日は、座学寄りだったし、もう少し、内容のフォローをしてもよかったのでは。
- 自立とは何かが明確になっていないので、今ひとつ分らない所があった。言葉の定義、明確化すべき所があったと思う。
- 2日間に分けるなど、時間がもう少しほしかった。
- もっと学生を増やす。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：高専生を元気にする学生指導法のコツ

講師名：坪井泰士（阿南工業高等専門学校）

実施日：平成24年8月2日（木）

実施会場：香川高等専門学校

当日参加者数：17名

アンケート回答者数：17名

1. 参加者ご自身について

職種

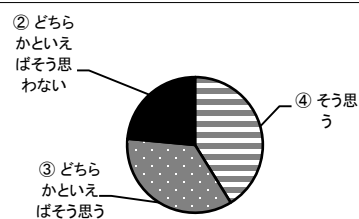
	度数	割合
① 教員	17	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	17	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

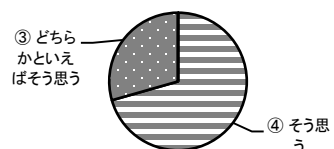
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	7	41.2
③ どちらかといえばそう思う	6	35.3
② どちらかといえばそう思わない	4	23.5
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



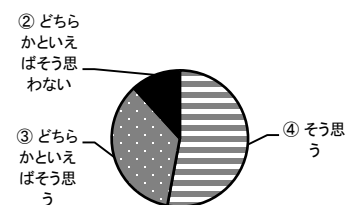
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	12	70.6
③ どちらかといえばそう思う	5	29.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



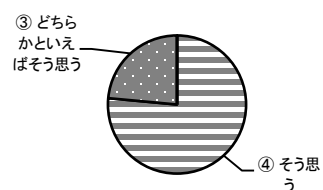
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	9	52.9
③ どちらかといえばそう思う	6	35.3
② どちらかといえばそう思わない	2	11.8
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



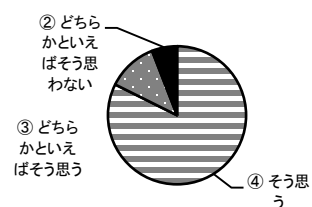
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	13	76.5
③ どちらかといえばそう思う	4	23.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



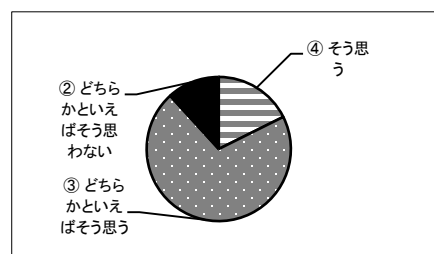
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	14	82.4
③ どちらかといえばそう思う	2	11.8
② どちらかといえばそう思わない	1	5.9
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



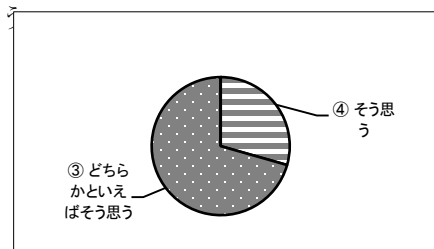
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	3	17.6
③ どちらかといえばそう思う	12	70.6
② どちらかといえばそう思わない	2	11.8
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



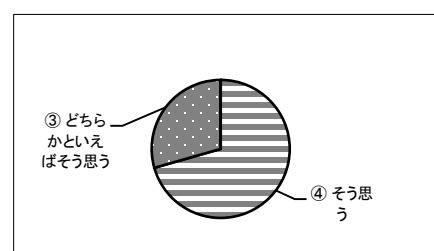
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	5	29.4
③ どちらかといえばそう思う	12	70.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	12	70.6
③ どちらかといえばそう思う	5	29.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	17	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 講師の先生の高専のことがよくわかった。
- 日頃考えておかないといけない大事な指導観点を改めて意識させていただきました。これからも、教員間の連携も含めて、学生が元気になるためにいろいろと考えて行きたいと思います。
- よくまとまって分かりやすい内容でした。
- 具体的な方策が聞けてよかったです。
- アンケート結果がリアルタイムでるのは分かりやすかった。
- 事例紹介など、具体性があったこと。
- 学生指導、講義のノウハウがちりばめられていたこと。
- 他校の指導の事例の紹介があったこと。
- 教員のコミュニケーション、情報共有の重要性を認識できた。
- 具体的な事例が示されて分かりやすかった。
- 学生一人一人のティーチング・ポートフォリオを実践しようと思いました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- もう少し、時間が長くてよいと思います（1h休み1hなど）。
- やや時間不足かもしれない。
- 時間をもう少し長くしてほしい。
- もっと大勢に受けてもらいたい。
- コミュニケーション、情報共有のノウハウを整理して説明する。
- とてもよかったです。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：スタッフ・ポートフォリオ入門-職員と大学が共に輝くために-

講師名：阿部光伸，秋谷恵子，上甲功治（愛媛大学）

実施日：平成24年8月10日（金）

実施会場：松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

当日参加者数：30名

アンケート回答者数：28名

1. 参加者ご自身について

職種

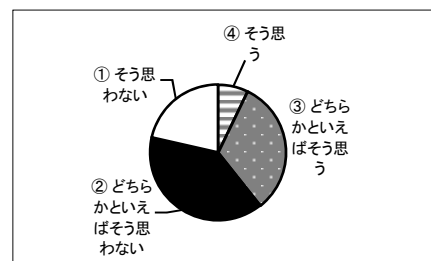
	度数	割合
① 教員	0	0.0
② 職員	28	100.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	28	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

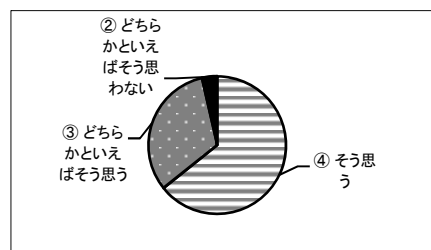
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	2	7.1
③ どちらかといえばそう思う	9	32.1
② どちらかといえばそう思わない	11	39.3
① そう思わない	6	21.4
計	28	100.0



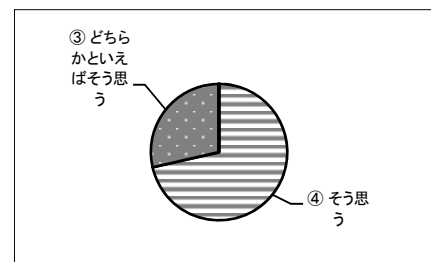
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	18	64.3
③ どちらかといえばそう思う	9	32.1
② どちらかといえばそう思わない	1	3.6
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



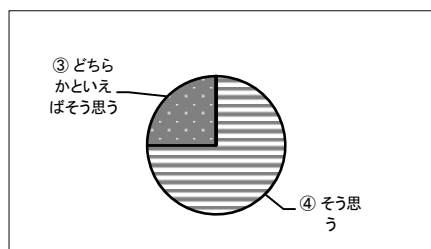
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	20	71.4
③ どちらかといえばそう思う	8	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



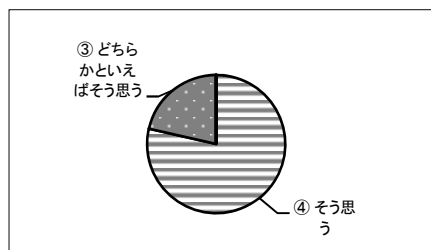
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	21	75.0
③ どちらかといえばそう思う	7	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



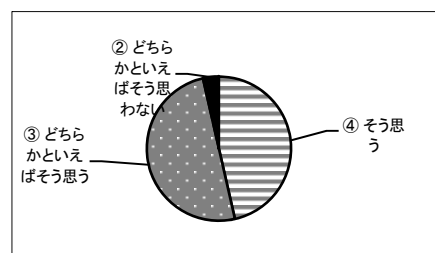
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	22	78.6
③ どちらかといえばそう思う	6	21.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



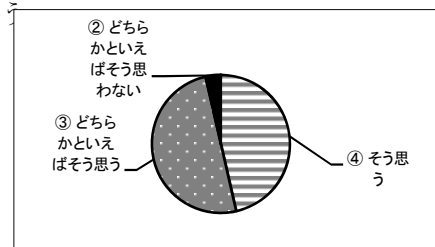
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	13	46.4
③ どちらかといえばそう思う	14	50.0
② どちらかといえばそう思わない	1	3.6
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



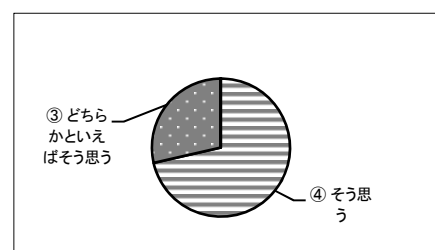
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	13	46.4
③ どちらかといえばそう思う	14	50.0
② どちらかといえばそう思わない	1	3.6
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	20	71.4
③ どちらかといえばそう思う	8	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	28	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 今回の研修は、とても楽しく取り組みました。内容的に同世代の職と分けてもらってはなしやすかったです。
- 最終目標を考えたことがなかったが、今回の研修で“自分が行きたい、子どもを入学させたい大学づくり”だとわかった点
- 正直、この研修を受講するまで、ポートフォリオって何??と思いながら受講した。しかし研修が終わった今、とても満足している。たくさんのお話できて（ワークできて）よかった。
- 自分自身、まだまだ未熟なのでこれからの改善点を見つめるいい研修になりました。これからもたくさんの学生にかかわっていくので、自分なりにがんばりたいと思います。
- SD研修は非常に重要なものだと思う。前向きになれる研修でした。
- いい研修でした。人事マネジメントの勉強だけでなく、正直に「自分」と向き合うことができたことをとても感謝しています。今の私、また、今の東雲にピッタリの研修でした。
- 自らを改めて見直すことができた点。
- 自分の将来像をえがけた。
- 自分を見つめなおす事が出来ました。大変よい研修だったと思います。
- 話し合いによって和気あいあい行われた。
- ポートフォリオを作成してみようと思いました。
- 本学に採用されたときの気持ちや意欲を思い出すことができました。ありがとうございました。
- 自分の将来のことについて考えることができる。
- 自分発見。
- ペアを組んだ人の知らない部分を発見。自分の見たいところも見えた。
- 阿部先生の話し。
- 気づきが多かったので、大変良かったです。説明も分かりやすかったです。
- 自分自身の考えを確認できました。
- 講師陣の資質・姿勢。ありがとうございました。
- 自分のこれからの課題、やるべきことが具体的に見えてきた。将来を見据えたビジョンをえがくことが大切だと感じた。

- とても分かりやすく研修が進められたのでよかった。
- なぜ、大学職員になったか、当時の気持ちを振り返ることが出来て良かった。
- 記入の時間や話す時間が決められていたので、集中して研修に取り組む事ができて良かった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 各自、飲みものを準備してくるよう案内があればよかった。休憩時間が短いので。
- もう少し時間があるとよりよいものになると思います。
- 考える時間がもう少しほしい。
- もうちょっと時間が必要だと思いました。
- 2人のペアリングを想定していなかった。4人くらいのグループでやるのも面白いのではないか。
- 今までにない充実した研修会になりました。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の自立を促す学生支援の実践とコツ

講師名：佐藤慶太（香川大学）

実施日：平成24年8月21日（火）

実施会場：香川県立保健医療大学

当日参加者数：34名（教員：34名，うち2名香川大学）

アンケート回答者数：26名

1. 参加者ご自身について

職種

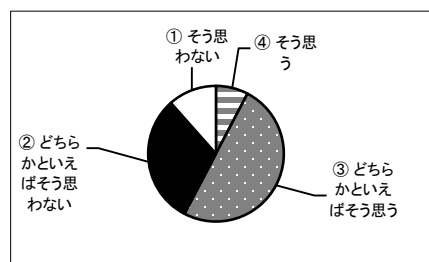
	度数	割合
① 教員	26	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	26	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

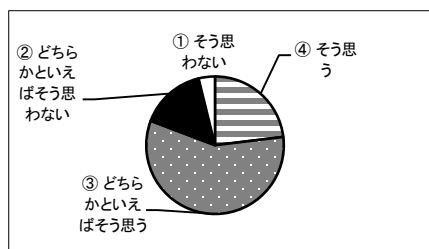
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	2	7.7
③ どちらかといえばそう思う	13	50.0
② どちらかといえばそう思わない	8	30.8
① そう思わない	3	11.5
計	26	100.0



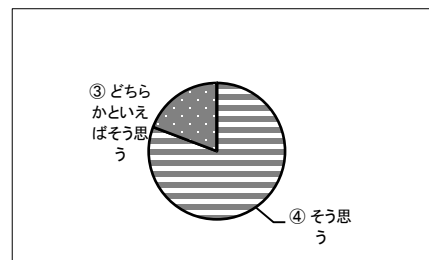
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	6	23.1
③ どちらかといえばそう思う	15	57.7
② どちらかといえばそう思わない	4	15.4
① そう思わない	1	3.8
計	26	100.0



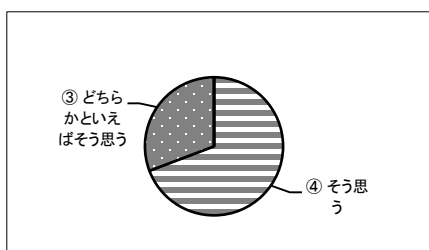
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	21	80.8
③ どちらかといえばそう思う	5	19.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



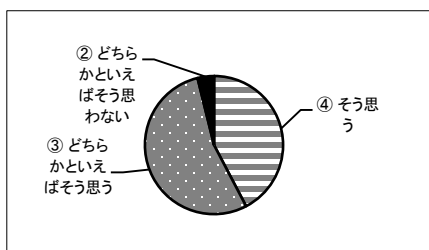
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	18	69.2
③ どちらかといえばそう思う	8	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



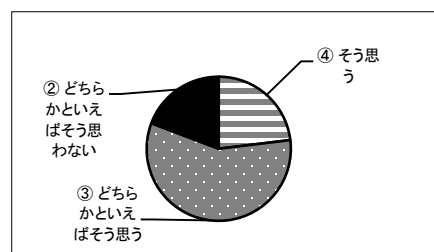
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	11	42.3
③ どちらかといえばそう思う	14	53.8
② どちらかといえばそう思わない	1	3.8
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



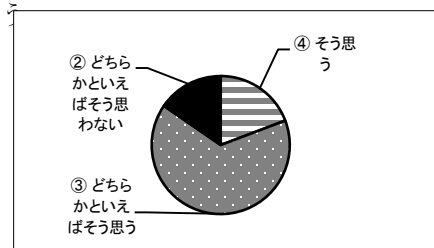
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	6	23.1
③ どちらかといえばそう思う	15	57.7
② どちらかといえばそう思わない	5	19.2
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



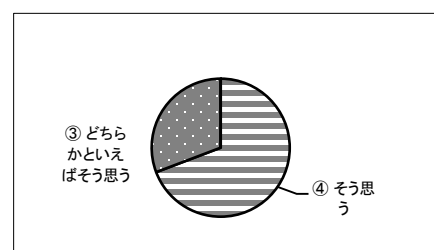
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	5	19.2
③ どちらかといえばそう思う	17	65.4
② どちらかといえばそう思わない	4	15.4
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	18	69.2
③ どちらかといえばそう思う	8	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	26	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- グループワークで話し合えたこと。
- グループワークがあることより、講義内容について具体的に考えることができた。
- 授業だけでなく、広く学生支援を学べる機会となりました。
- 学生の自治組織は必要だと実感できました。
- 様々な先生と議論できた点。
- グループワークで様々な、アイデアが出たこと。
- SGDが良かったと思う。
- 学生支援の様々な取り組みを聞いた上で、本学で行える、本学で必要な支援を他の先生と協議しながら考えることができたのが良かった。
- 他の人の意見が聞けて、大学全体のことを考える機会となった（グループワーク）
- 単科大学と総合大学の違い、単科大学の限界？も感じる。
- 演習
- とてもいい案が聞けた。実現するといい。
- 教員と学生のコミュニケーション、学生間のコミュニケーションを取る、具体的な取り組みが必要であると感じた。
- 実際にグループワークで素案を作成できたのでより具体的に考えられた。
- グループワークの過程で、様々な情報を交換することができた。コミュニケーションの場になることができた。
- 短時間で、ここまで案を作成できるように持って行ったことはすごいことだ。
- グループワークで具体的に話しができて良かった。どれも実現可能な気がした。
- 日頃、感じている問題意識を話し合うことができて良かった。具体的に現実的なものになってほしい。
- 学生支援について、真面目に考える場になった。
- 本学においても導入できそうなものがあった。
- 学生の自立という点を再認識できたことは、自分の中で、一歩進めた感があります。
- 課題を共有できた。
- 学生支援とは！を考える機会となりました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 今回の内容であれば、学生も参加を促すと、自発的に活動をしたいという動機づけになると思います。
- 講演時間＜グループディスカッション
- 様々なアイデアを教員は持ちながらも、今まで、消極的だったことを考えると、学生の自立を促す前に、教員の自立を促すシステム作りも必要だと思った。
- SGDの時間配分が短すぎたので、そこを改善してほしい。
- 学生のための心理・教育的支援
- ティーチング・ポートフォリオ
- 授業づくり（運営？）、授業の方法→視聴覚教材の有効活用、学生の理解を確かめながら進める授業、自ら学習を啓発するにはなど。
- 無理の内容、長続きする方法をお願いします。
- グループワークの時間がもう少しほしいです。
- 研修の内容をもう少し、具体的に事前に提示してほしいです。
- 時間をもっと長くとればいいですね。
- 公開講座を別の日に設定してほしい。
- 今日の結果を学内委員会に反映してほしい。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の自立を促す学生支援の実践とコツ

講師名：佐藤慶太（香川大学）

実施日：平成24年9月12日（水）

実施会場：高松大学

当日参加者数：66名（教員：43名，職員23名）

アンケート回答者数：57名

1. 参加者ご自身について

職種

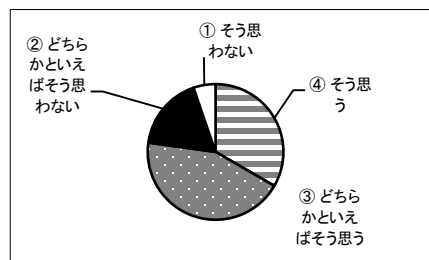
	度数	割合
① 教員	38	66.7
② 職員	19	33.3
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	57	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

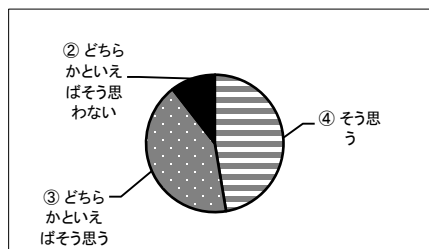
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	19	33.3
③ どちらかといえばそう思う	25	43.9
② どちらかといえばそう思わない	10	17.5
① そう思わない	3	5.3
計	57	100.0



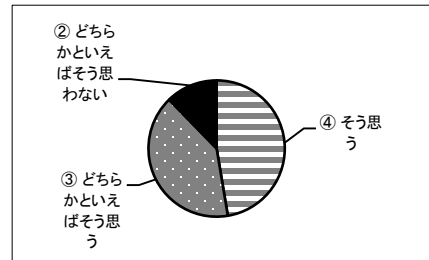
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	27	47.4
③ どちらかといえばそう思う	24	42.1
② どちらかといえばそう思わない	6	10.5
① そう思わない	0	0.0
計	57	100.0



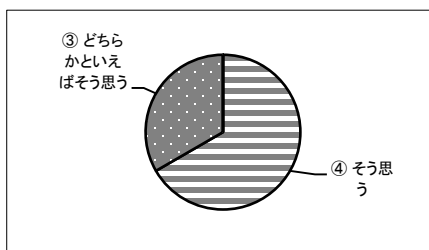
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	27	47.4
③ どちらかといえばそう思う	23	40.4
② どちらかといえばそう思わない	7	12.3
① そう思わない	0	0.0
計	57	100.0



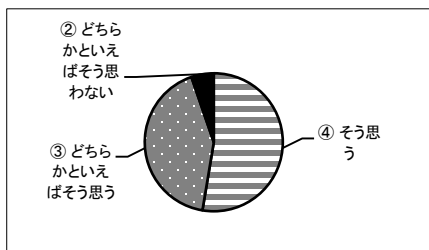
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	38	66.7
③ どちらかといえばそう思う	19	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	57	100.0



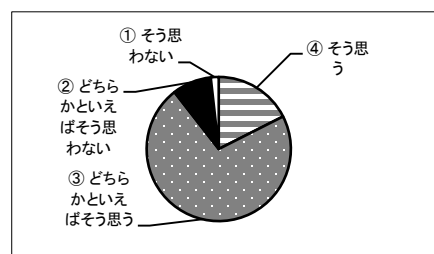
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	30	52.6
③ どちらかといえばそう思う	24	42.1
② どちらかといえばそう思わない	3	5.3
① そう思わない	0	0.0
計	57	100.0



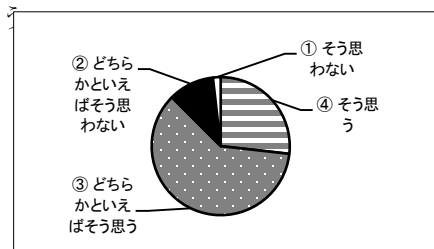
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	10	17.5
③ どちらかといえばそう思う	41	71.9
② どちらかといえばそう思わない	5	8.8
① そう思わない	1	1.8
計	57	100.0



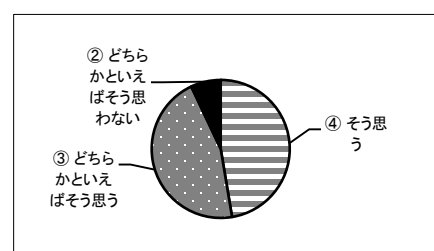
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	15	26.8
③ どちらかといえばそう思う	34	60.7
② どちらかといえばそう思わない	6	10.7
① そう思わない	1	1.8
計	56	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	27	47.4
③ どちらかといえばそう思う	26	45.6
② どちらかといえばそう思わない	4	7.0
① そう思わない	0	0.0
計	57	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 1 学生支援の現状がつかめ、再認識することができた。
- 2 佐藤先生の研修の進め方が大変明快で、参考になりました。
- 3 他大学の具体的な取り組みとしての「授業評価の利用」は、本学でも参考にすべきであると思います。
- 4 グループワークでは、二つの課題に的を絞り、短時間で本学における実施案のたたき台を作成することができたのですから、この実施案は、学科自らの授業で有効活用し、学生支援、学習支援に結びつけたいものです。
- 5 FDとSDの合同での研修会は、本学における問題を共有し、解決に向けて意見統一を図る場として今後も続けることが望ましいと思います。
- 6 他の学科、学科の教員、または事務の方々との意見交換ができた。
- 7 他大学の取り組みが明確に提示されていた。
- 8 学生支援の事例をたくさん聞くことができて、現状を知ることができたので良かった。
- 9 (自分)ができることも考えることができた。
- 10 一つの課題を達成するために、グループで話し合えたこと。
- 11 講師の先生のお話の中から見ても、本学に肯定的な自己評価をする面があることが嬉しい。
- 12 国立大学の学生支援のことが少しわかった。
- 13 たくさんの事例を紹介していただき、とても参考になった。
- 14 大学のそれぞれの部署、役割を認識、現状を知るよい機会となった。
- 15 グループワークが良かった。
- 16 グループワークで、他の先生方の考え方がよく分った。
- 17 学生支援というものが、ある程度理解できた。
- 18 他学科、事務の方と議論できた。
- 19 具体的な学生支援の取り組み案を作成できた。
- 20 他大学の活動事例を知ることができ、今後に生かせる。
- 21 通常は、関わりのない部署や、他学科の先生方と意見を交換させることができた。
- 22 学内の情報について、共有することができた。

- 23 他学科の先生方のお話を聞くことができた。
- 24 最後のグループワークで本学における学生の自立への具体的な方策を、他学部、他学科の先生方のアイデアをいただきながら、考えることができたが非常に良かった。
- 25 他大学の事例や、グループワークにより、多くの案を知る機会となった。
- 26 他大学の事例 「できれば、私学も」ではなく、本学の場合は、「むしろ、私学を」
- 27 Peer Supportの今日的必要性が確認できたこと。
- 28 自分の考えを整理できた。
- 29 学生支援案の作成にまで、取り組めており、実践に寄り近づけた内容であった。（これまでは、研修内容を実践に活かすことができていない面も見られたため、今回は今まで以上に実践的内容だった。）
- 30 先生方、職員の意識向上。
- 31 他大学の事例を多く知ることができた。本学に該当するかは別として、様々な、サポート体制を作る可能性があることがわかった。
- 32 教職員がどのような問題意識を持っているかが、分かった。また、問題意識を共有することができた。
- 33 各大学の取組現状理解することができた。
- 34 学校制度がある意味で制度疲労、機能不全の段階にきているのではないかという疑念を持ちながら困難な課題に取り組んでいる当事者としての使命感を再確認できたこと。
- 35 ワークショップで話し合いができたこと、また、他のグループの意見を多く聞くことができたこと
- 36 実際に考えさせるグループワークが良かった。
- 37 他学科の様子がよく分かったこと。
- 38 具体的な実践事例を多く紹介していただいたので、内容が理解しやすかった。
- 39 グループ学習により、短時間に身近な事例を多くまとめられ、どれも活用できる内容であった。
- 40 これまでの研修に比して、提案的な前向きの議論があった。
- 41 率直に前向きの意見・発言が多かったこと。
- 42 短時間でしたが、ワークショップの成果がシートにまとめられたこと。
- 43 事務スタッフとの交流ができたこと（発言があれば、尚いい）
- 44 他大学の先生のご講演ということで、客観生のある内容と受け止めることができ、大変よかった。特に、佐藤先生のお話は無駄がなく、ブレることなく、しかも丁寧に進めていただき、大変聞きやすかった。グループワークも先生方のおかげで、大変充実していた。
- 45 SD・FD合同研修が初めてだったので、グループワークは緊張した。教職員が一体となって、課題に取り組むことで、問題を共有し、各々の立場から意見交換ができたと思う。
- 46 先生と合同の研修でいろいろな意見が聞けてよかった。
- 47 他大学の事例が聞けたこと。ピアサポーターを取り入れている大学が多かったこと。
- 48 教員と職員が同じテーマで話し合うことがなかったので、とても良かった。「学園の対話」が生まれた。
- 49 自学の現状を話し合うことができて、今後活かせるのではないかな。
- 50 教員の意見、考え方を多く知ることができた。それぞれが学生に対する悩みを持っており、何とか改善したいという気持ちが伝わった。
- 51 教員との意見交換ができて、有意義であった。
- 52 先生方とテーマに基づいて話しをすることができ、いろいろな考えや意見を聞くことができて良かった。
- 53 自立を促す他大学の取り組み事例を知ることができ、また先生方と研修という場で、話し合いをすることができ新鮮でよかった。
- 54 「学生の自立を促す」「学習意欲のない学生への対応」について、他大学の取り組みを知り、また本学の先生方と意見交換することができたことで、今後の支援に大いに役立つ実り多き学びとなりました。
- 55 子ども発達学科の学生さんが発表した内容は良かったと思います。他学科でも参考にしたいという感じがしました。
- 56 具体例を出していたことから参考になると思われるものがあり、よかったと思います。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 1 後半の作業の手順がよく分らなかった。そのための各グループでの結果がバラバラで焦点化されていなかった。
- 2 事前学習があってもよかったと思う。
- 3 今回の話し合いでできた案が動き出すことを期待します。
- 4 自分ができることから始めます。
- 5 本学と同じような大学の情報があれば、よいのではないだろうか。
- 6 このような（事務職と教員職の合同），研修をお願いしたい。
- 7 前もって，課題をもう少し明確に提示しておけば，更に効果的だったのではないか。
- 8 全体的に時間が短かく感じた。講演ももう少し，時間を確保していれば，より詳しく他大学の取り組みについて聞けたのではないかと残念に思う。また，グループワークも思った以上に時間がかかり，うまくまとめることができなかった。
- 9 グループワークのテーマをより限定する，あるいはグループワークの時間をもう少し長くし，更なる，ディスカッションの時間が取れるとよいと思いました。研修ありがとうございました。
- 10 研修時のグループワークをもっと実質化すること。
- 11 今回の場合であれば，「学習意欲の低い学生」をどうするのか，「自主学生」を更に伸ばすにはどうするのか，のどちらかに焦点を絞るべきだった。テーマの設定についてももう少し，吟味する方がよい。
- 12 今回のように実践に活かせる（すぐに実践に反映できる）内容がよいと思う。
- 13 学生を活性化する手法の説明はできませんでした。
- 14 時間配分
- 15 意欲のない学生をサークル等に参加させて，具体的方策の検討。
- 16 学科・大学として何ができるのか，一教員（職員）として何ができるか，二つの視点から考えを深めていく必要がある。
- 17 時間が延長になったが内容が良かったのでよいが，ワークショップの時間に工夫があるといい。
- 18 時間がもう30分あるとよかった。
- 19 国立大学の事例だけでなく，本学レベルの大学の事例を挙げてほしい。事例は多い方がよい。
- 20 今回のように，本学の状況を良く知っていただいた講師においていただくのがよいと思います。それには，講師と大学との遣り取りが必要で，時間がかかりますが。
- 21 授業，学生指導について，6ヶ年計画のような継続的で，系統的取り組みを希望します。
- 22 FD，SDの合同は，有益であることは理解できるが，胃に穴が開きそうなくらい重荷である。今回のように先生方が主体的にやってくださり，お手伝い程度であればよいのだが。
- 23 グループワークの時間が不足気味だったので，事前に課題がわかっていたら，心構えが多少できるのではと思った。
- 24 案を煮詰めるには，もう少し時間が必要。
- 25 学生参加型にする。
- 26 今回発表されたアイデア等を取り入れていけるような，学内の体制作りを希望する。是非実施していきたい。
- 27 教職員が共に取り組むことで，共通意識が持てて良かった。
- 28 全員参加型にして全員で共通認識を持った方がよいと思う。
- 29 内容と時間配分があっていない。
- 30 講師の先生がPPTの説明でのみ見せてくださったページも印刷資料がいただければ，ありがたかったです。
- 31 折角の議論も発表のために，浅め，小さめにせざるを得なかったことは，大変残念でした。
- 32 グループワークで発表されたもので，改善につながると思われるものは，実行してほしい。いつも，この部分が満足できない。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：授業アンケートを見直しませんか？-アンケートの効果的実施と活用方法-

講師名：塩崎俊彦（高知大学）

実施日：平成24年9月12日（水）

実施会場：高知県立大学・高知短期大学

当日参加者数：17名

アンケート回答者数：16名

1. 参加者ご自身について

職種

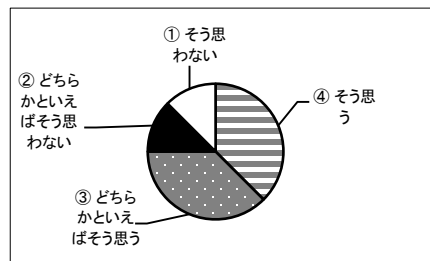
	度数	割合
① 教員	16	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	16	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

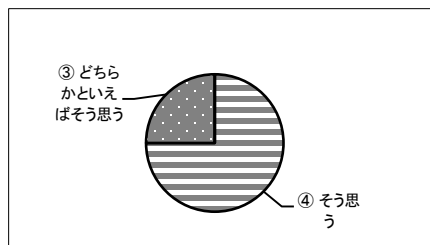
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	6	37.5
③ どちらかといえばそう思う	6	37.5
② どちらかといえばそう思わない	2	12.5
① そう思わない	2	12.5
計	16	100.0



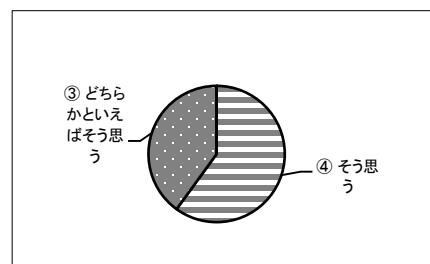
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	12	75.0
③ どちらかといえばそう思う	4	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



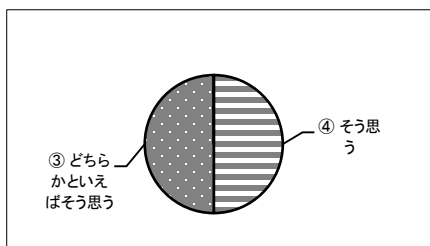
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	9	60.0
③ どちらかといえばそう思う	6	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



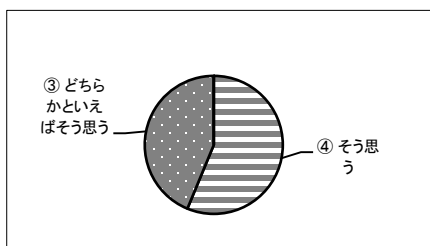
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	8	50.0
③ どちらかといえばそう思う	8	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



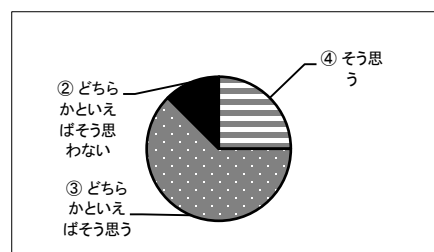
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	9	56.3
③ どちらかといえばそう思う	7	43.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



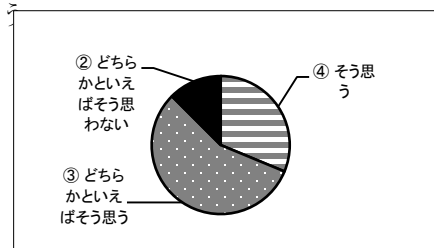
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	4	25.0
③ どちらかといえばそう思う	10	62.5
② どちらかといえばそう思わない	2	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



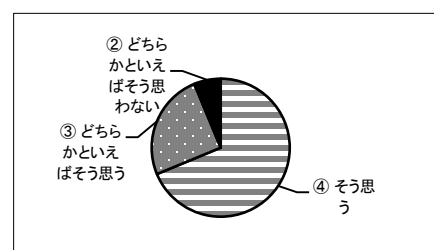
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	5	31.3
③ どちらかといえばそう思う	9	56.3
② どちらかといえばそう思わない	2	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	11	68.8
③ どちらかといえばそう思う	4	25.0
② どちらかといえばそう思わない	1	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 1 授業改善アンケートの活用を学ぶことによって、自分の授業内容、方法、評価について見直すことができた。改善すべきことをどのように発見していくか、今後取り組みたい。
- 2 シラバスの書き方の改善ができそうな気がしたこと、
- 3 来年のシラバスの改善につながると思った。
- 4 授業の開始時に行うべきことがわかった。ありがとうございます。
- 5 シラバスの書き方について理解が深まった。
- 6 授業評価（改善）アンケートの目的を正しく知ることができた。
- 7 本学のシラバスの中にある「授業の概要」で、「授業の目的」と「達成目標」を分けて書くことができた。
- 8 一言でいうと、「わかりやすかった」です。
- 9 高知大学での事例を知ることができた。
- 10 自分のシラバスの達成目標のわかりにくさが再認識される。
- 11 「授業改善」アンケートの（名称に込められた）意義がわかった。
- 12 高知大のアクションプランのやり方、事例の話し→参考にできそう。シラバスの書き方の改善。
- 13 出席者それぞれの様子や、状況をすばやく察知して、わかりやすく説明して下さったことだと思います。大学教員に成りたての自分でも安心して、課題に取り組んで、基礎的な知識が足りないなりに、今後の業務に活用できる“表現するコツ”を身につけることができました。ありがとうございました。
- 14 授業を客観的に評価する様々な方法があると知れた。今後よりよい授業にするために、参考にしていこうと思う。今後、学生とコミュニケーションをとりつつ授業していければと思う。
- 15 授業の中身の工夫に関心が向かっていたが、目標の設定の仕方について、久しぶりに考えることができた。ありがとうございました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
- 1 もう少し時間を短くした方がよいかもしれません。
 - 2 もう少し短時間にして、回数を多く。
 - 3 研修内容ではないのですが、全学として取り組む必要のあることなので、もっと多くの教員に参加してほしいと思いました。シラバスがきちんと書けている。アンケートを活かしていると思っている先生こそ、聞くべきです、と思った。
 - 4 このような研修編出席を義務化して、たくさんの教員を啓発する。同じ時間帯に別の会議を入れないでほしい。
 - 5 パワーポイントのプリントもくださるとよかった。
 - 6 最初に前半で、・・・の内容をして、後半で、・・・をします、と示してくれるとよかった。
 - 7 パワーポイントの内容を配布してほしい（学生と同じようなことを言いますが）。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：マンネリ化しない公開授業の秘訣－公開授業の効果的实施方法－

講師名：川野卓二（徳島大学）

実施日：平成24年9月14日（金）

実施会場：徳島文理（短期）大学 徳島キャンパス・香川キャンパス（遠隔）

当日参加者数：41名（徳島キャンパス：教員18名・職員5名，香川キャンパス：教員14名・職員4

アンケート回答者数：31名（徳島キャンパス：17名，香川キャンパス：14名）

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合	その他の記述内容
① 大学	27	87.1	
② 短期大学	4	12.9	
③ 高等専門学校	0	0.0	
④ その他（ ）	0	0.0	
計	31	100.0	

(2) 所属先の設置者

	度数	割合	その他の記述内容
① 国（国立大学法人）	0	0.0	
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	0	0.0	
③ 学校法人	31	100.0	
④ その他（ ）	0	0.0	
計	31	100.0	

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	31	100.0
② 北海道	0	0.0
③ 東北	0	0.0
④ 関東	0	0.0
⑤ 中部	0	0.0
⑥ 近畿	0	0.0
⑦ 中国	0	0.0
⑧ 九州・沖縄	0	0.0
計	31	100.0

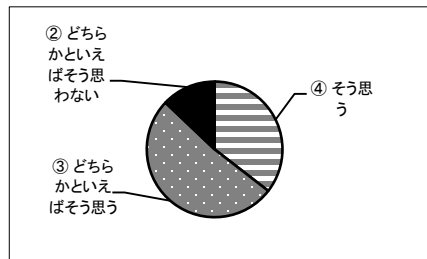
(4) 職種

	度数	割合	その他の記述内容
① 教員	27	90.0	
② 職員	3	10.0	
③ 学生	0	0.0	
④ その他（ ）	0	0.0	
計	30	100.0	

2. この研修について

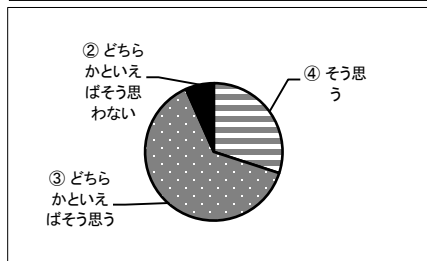
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	11	35.5
③ どちらかといえばそう思う	16	51.6
② どちらかといえばそう思わない	4	12.9
① そう思わない	0	0.0
計	31	100.0



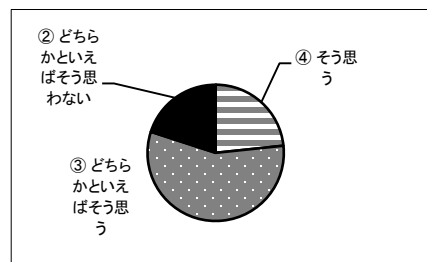
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	9	30.0
③ どちらかといえばそう思う	19	63.3
② どちらかといえばそう思わない	2	6.7
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



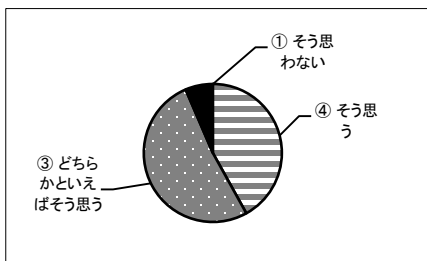
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	7	23.3
③ どちらかといえばそう思う	17	56.7
② どちらかといえばそう思わない	6	20.0
① そう思わない	0	0.0
計	30	100.0



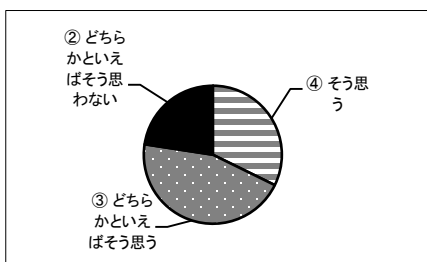
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	13	41.9
③ どちらかといえばそう思う	16	51.6
② どちらかといえばそう思わない	2	6.5
① そう思わない	0	0.0
計	31	100.0



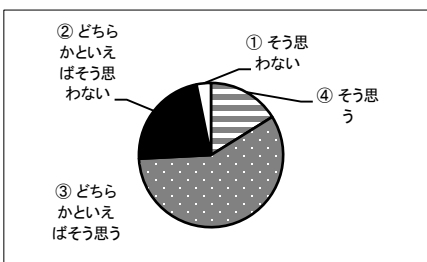
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	10	32.3
③ どちらかといえばそう思う	14	45.2
② どちらかといえばそう思わない	7	22.6
① そう思わない	0	0.0
計	31	100.0



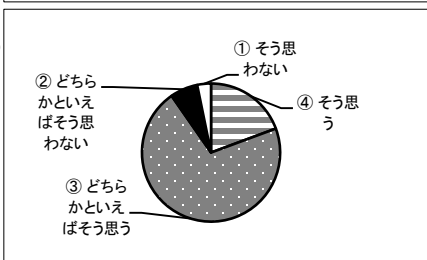
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	5	16.1
③ どちらかといえばそう思う	18	58.1
② どちらかといえばそう思わない	7	22.6
① そう思わない	1	3.2
計	31	100.0



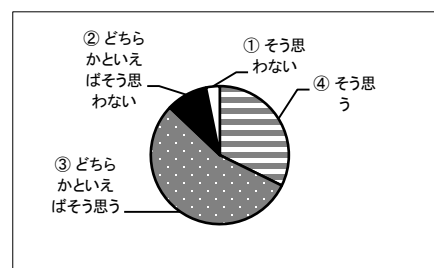
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	6	19.4
③ どちらかといえばそう思う	22	71.0
② どちらかといえばそう思わない	2	6.5
① そう思わない	1	3.2
計	31	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	10	32.3
③ どちらかといえばそう思う	17	54.8
② どちらかといえばそう思わない	3	9.7
① そう思わない	1	3.2
計	31	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 1 学生主体の授業に向けて、少しずつ取り入れていきたいことが考えられた。後期の出発に当たってよかった。
- 2 いろんな視点があることが参考。
- 3 チェックリスト等具体例が示されていた点。
- 4 具体的なマンネリ防止の方法が分かった。
- 5 今後の授業に参考になることがいくつかあった。
- 6 授業参観のポイント
- 7 自分が公開授業を行うときに参考になった。
- 8 できていないことが多いことが、あらためてわかった。
- 9 質問に対する答えが非常に良かった。
- 10 学生中心、学習中心の内容がよくわかりました。
- 11 テーマと講義内容があまりマッチングしていないところがある。
- 12 先人の引用等で、論理的な説明があり、主旨は理解できたが、具体的な例に基づいた説明をもう少ししてほしい。
- 13 今後の授業の方法について、いくつかヒントとなる点が合った。分析的思考を育てようとの考え方には共感。
- 14 授業参観チェックリストは活用できそうである。
- 15 わかりやすい授業の要素を知ることができた。
- 16 具体的で実践的な方法論が提示されていたので、自らの授業についての改善点がイメージしやすかった。
- 17 授業参観のためのガイドライン、チェックリストなど具体的に明示されている点。今後参考になった。
- 18 授業の実施に関して重要なポイントについて整理することができた。
- 19 授業参観チェックリスト。授業参観のためのガイドライン。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 1 授業の風景を少しずつでも動画で見せてもらいたい。
- 2 講義の途中で整理しながら、というideaが参考になった。
- 3 良い授業の例をビデオなどで見せてほしい。
- 4 学生の理解度を確認する方法。テスト、質問、アンケート
- 5 言い回しが多く、論点がわかりにくい所が見られた。
- 6 パワーポイントの表記にもう少し工夫が必要。
- 7 今回の内容はあまりに当たり前の項目が羅列されているだけであった。スライドにも工夫が見られない。
- 8 プレゼンテーション（映像）及び配布資料が、整理されていないように思い、やや物足りない。
- 9 講演内容で用いられる英語・専門用語の解説を加えてほしい。
(例「ラポール」「エスノグラフィー」など)
- 10 講演時間の厳守（開始～終了時刻）をお願いします。
- 11 質疑応答では、pointを絞ってまとめて、分かりやすく話してほしい。
- 12 全体として、一般的な話しが中心で、具体的な内容が少なかった。例えば、分野によって「分かりやすい授業」を行うためのポイントは、少しずつ異なるのではないかと。例示がほしい。
- 13 参加者を増やす。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の自立を促す学生支援の実践とコツ
 講師名：塩崎俊彦教授（高知大学）
 実施日：平成24年9月18日（火）
 実施会場：高知学園短期大学

当日参加者数：42名
 アンケート回答者数：42名

1. 参加者ご自身について

職種

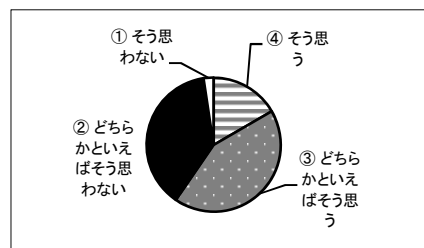
	度数	割合
① 教員	33	78.6
② 職員	9	21.4
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	42	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

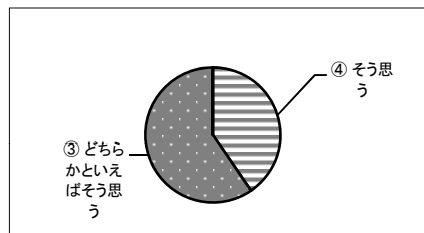
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	7	16.7
③ どちらかといえばそう思う	18	42.9
② どちらかといえばそう思わない	16	38.1
① そう思わない	1	2.4
計	42	100.0



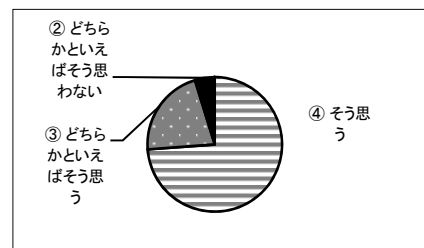
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	17	40.5
③ どちらかといえばそう思う	25	59.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



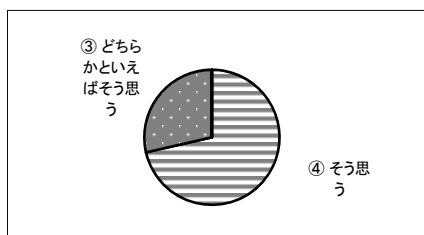
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	31	73.8
③ どちらかといえばそう思う	9	21.4
② どちらかといえばそう思わない	2	4.8
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



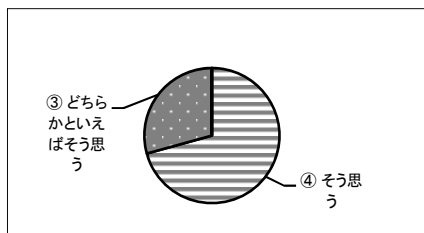
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	30	71.4
③ どちらかといえばそう思う	12	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



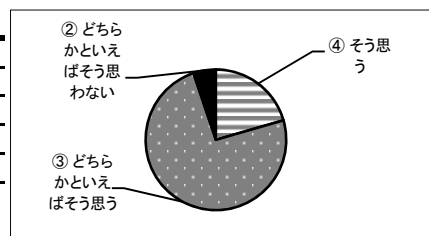
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	29	70.7
③ どちらかといえばそう思う	12	29.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



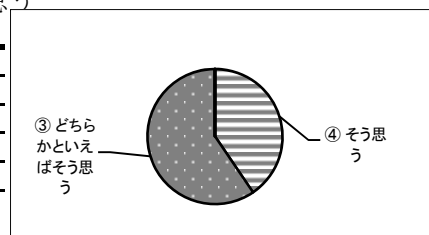
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	8	20.5
③ どちらかといえばそう思う	29	74.4
② どちらかといえばそう思わない	2	5.1
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



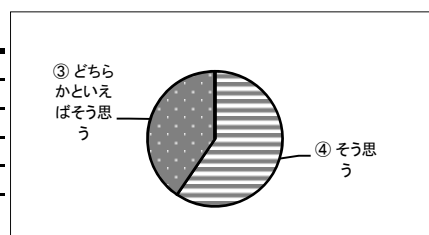
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	17	40.5
③ どちらかといえばそう思う	25	59.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	25	59.5
③ どちらかといえばそう思う	17	40.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 「短大」における学生支援というものが、かなり特徴的であること。
自分がどのようにふるまっているのかをよく理解することができた。
- 問題点が明確になったこと
- 学生支援の二つのスタンスを知ることができた。
- 現在取り組んでいるグループワークに対して示唆が得られる内容であった。
- 自分自身の傾向も把握でき、今後に生かせる内容でした。ご指導ありがとうございました。
- 漠然としていた学生支援が自分の中で整理できました。支援のための自分の特徴を知ることができ、今後の課題も分かりました。これからの学生支援に生かしていきたいと思います。
- 学生支援についての考え方に二つの考え方が理解できた。
- 学生の社会力（自律的な学生）の引きだし方について学べた。
- 学生支援に対する認識について深めることができた。
- 支援という言葉の意味のとらえ方について、正しく認識ができたと思う。
- 学生への関わり方について、再度、自分の立場で考えられたこと。ファシリテーターのタイプについて知れたこと。学生の成長について、改めて知れたこと。
- ファシリテーターのタイプとして、自分が取りがちな傾向を客観的に知ることができたので、意識して学生の特徴をとらえながら効果的な関わりができるようにしていきたいと思う。
- 学生支援の方法について、リーダー育成がそこからのボトムアップか…いろいろな方法があることが分かってよかった。
- 自分のファシリテーター・スタイルを知ることができて、これからの学生とのかかわりに生かしていくことができると思います。
- 問題を解くことにより、自己分析ができてよかった。
- 学生を自律させることがすべての学生支援につながるという点を今日の話で初めて知り、大いに納得できた。「社会の中の大学」ということを再認識することができた。
- ファシリテーターのタイプが認識できました。このテーマでディスカッションすることがなかったので、同僚の考えや思いを共有することができて参考になりました。
- 他学科、専攻の先生の話が聞けて、親近感が持て、傾聴することは良い事だなと実感しました。
- ファシリテーターにこれまで大変関心があったので、測定尺度があることを知り、大変参考になった。教員のできるファシリテーション、学生にできるファシリテーションについてさらに詳しく知りたいと思いました。
- 愛媛大、高知大の取り組みを知ることができたのは良かったと思います。本学も組織的に活動できると思います。
- 学生支援の考え方が参考になりました。特に「自分で判断して行動できる学生を育てる」という支援と、「リーダーを育て、二層、三層を指導する」が参考になりました。
- 学生の支援はいろいろな支援があるが、学生支援に対する教員の効果的な関わりとはどのようなことか、理解できました。「学生の想いを引き出す」「学生の成長がみられる」のが学生支援のあり方であることがわかり学ま生し支援の考え方が大変勉強になりました。
- 学生支援で、学生自身に気が付いてもらうプロセスの大切さを学べました。
- 安心して演習に取り組むことができたこと。

- 支援とは決してサービスではない。社会と学生、大学・短大を近づけることであることを理解しました。教職員がこの視点で支援活動に取り組む、少し見直し、振り返りをする 것도大切であると思います。
- 個別対応だけでは、やはり限界があると思う。大学として、事例で紹介されたような仕組みを考えないといけないと感じた。事務方にも協力を仰ぎたいと思った。
- 自分の理想とするファシリテーター像が少しみえたように思います。ありがとうございました。
- 自分のファシリテーター・タイプを知ることができた点。学生支援の本質が理解できた点。
- 何か問題が起こった場合でも（学生同士等）、その問題を学生自身がどう解決したらよいか、そのプロセスを考えることの重要性に気づくことができた。
- 学生への対応を軽んじず、先のことまで考えて、言葉を選んで指導していきたいと思いました。
- 大変勉強になりました。
- プロセスへの視点に気付きました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 他学校で取り組んでいる内容をもう少し具体的に聞きたいと思いました。
- はじめのグループワークの課題の提示の仕方を少し分かりやすくしてほしい。
- 資料があれば、手元にあった方が良かったです。
- 更に継続していただきたいです。
- 時間的にも内容的にも良い研修だと思います。ありがとうございました。
- 研修も含め、辛抱できる時間をまた取れるといいな、と思います。
- 他の教員とテーマを決めてディスカッションしたいと思います。
- 参加者がもっと意見を言い合える場もほしい。
- 短期大学での事例があれば知りたいです。
- 講義をお聞きする前にファシリテーター・チェックをやった方がより本来の自分のタイプを知ることができたのではないかと思います。聴講の後ではバイアスが入ったように思いますので。
- グループのメンバーが教員と事務職員で構成されている。このグループの構成を活かし、共に学生を支援する話し合いができれば、良い講演会になったと思います。
（内容のポイントのワーク）

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：教育の質保証とは何か―スタンダード設定からアセスメントまで―

講師名：山田剛史（愛媛大学）

実施日：平成24年9月18日（火）

実施会場：環太平洋大学短期大学部

当日参加者数：19名（教員15名，職員4名）

アンケート回答者数：14名

1. 参加者ご自身について

職種

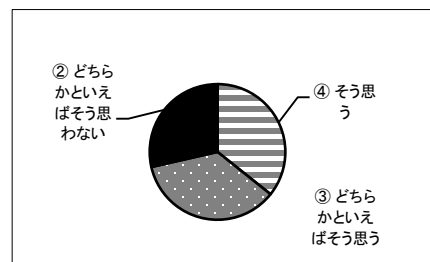
	度数	割合
① 教員	10	71.4
② 職員	4	28.6
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	14	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

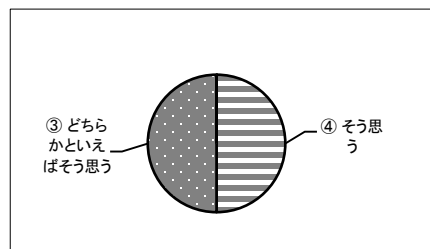
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	35.7
③ どちらかといえばそう思う	5	35.7
② どちらかといえばそう思わない	4	28.6
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



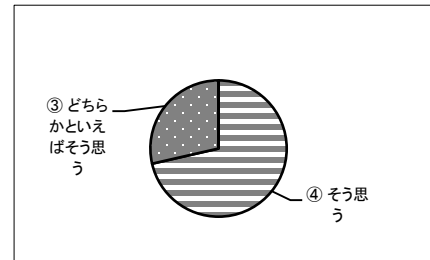
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	7	50.0
③ どちらかといえばそう思う	7	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



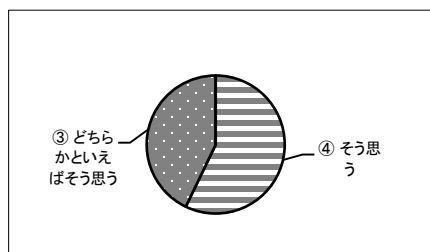
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	10	71.4
③ どちらかといえばそう思う	4	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



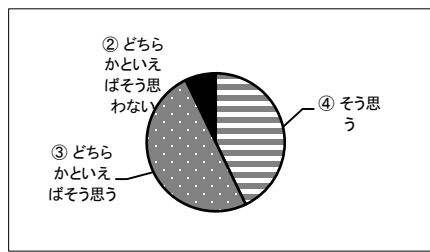
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	8	57.1
③ どちらかといえばそう思う	6	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



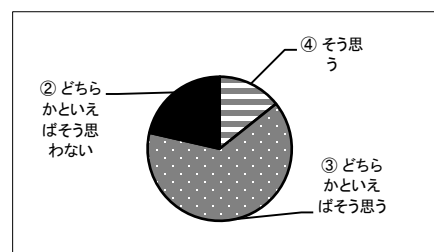
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	6	42.9
③ どちらかといえばそう思う	7	50.0
② どちらかといえばそう思わない	1	7.1
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



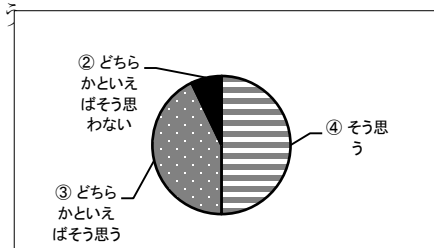
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	2	14.3
③ どちらかといえばそう思う	9	64.3
② どちらかといえばそう思わない	3	21.4
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



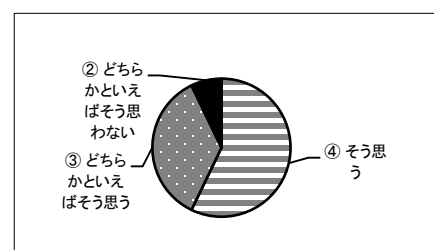
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	7	50.0
③ どちらかといえばそう思う	6	42.9
② どちらかといえばそう思わない	1	7.1
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	8	57.1
③ どちらかといえばそう思う	5	35.7
② どちらかといえばそう思わない	1	7.1
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 1 自分の講義や演習について振り返るよい機会となりました。
- 2 参加型なので別の意味、コミュニケーションがとれました。
- 3 自分の中でまともしていなかったものが、グループワークをすることでまとまったと思います。
- 4 専任だけでなく、非常勤の先生にも参加していただいたことは、共通の認識で学生指導にあたれると思う。
- 5 授業をしていない職員でも日常生活の中で指導できる場面があることに気づくことができました。
- 6 グループワークにおける具体的なヒントを得ることができた。
- 7 成績評価をテストだけでなく、日常の取り組み等を入れて行うことの大切さをあらためて確認できたこと。
- 8 シラバスの書き方
- 9 DPとLOの関係
- 10 気づきがあった。自分が何を大切に思っていて、目標に近づくためにはどのような方法があるか。
- 11 大学情報公表について文部科学省のプランが理解できて良かった。特に新大学評価システムが理解でき、取り組みポイントの参考となった。
- 12 学修成果を核とした教育の構築ステップが理解でき、次年度のシラバス作成の参考となった。
- 13 学生を引きつける授業のテクニックが、山田先生の講義から参考となった。
- 14 ワークショップにて「学生に身につけてほしい力と育成方法」を職員として、あらためて確認できました。今度からは、学生に対して、育成できることから実践していこうと思いました。
- 15 認証評価の公開は取り組んでいる最中でしたが、必要性なども含めて、理解できた。
- 16 現代における大学教育における質保証とは何か？ 論理的に理解できたことは良かった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
- 1 FDなのかSDなのかは、大学内でしっかり分けるべき。それによって内容もずいぶん変わってくるはず。近々SDも開催すべき。
 - 2 まとめの時間をもう少し取っていただけると、さらに良かったと思います。
 - 3 時間設定でしょうか。内容が盛りだくさんで、消化不良のところもあったかもしれません。
 - 4 グループはもっとバラバラに色々な人と組めるようにした方が良かったかもしれません。
 - 5 資料を早めにいただいていると、もっとよく理解できたと思う。ありがとうございました。
 - 6 非常勤講師の先生も熱心に聞いていただいた。次回以降も是非参加していただけるように呼びかけたい。
 - 7 来年度、再来年度と研修が今年度の内容を受けた上で、積み重なっていく様、同じ講師の先生に3年スパンあたりで、お願いできるとありがたいと思います。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：授業アンケートを見直しませんか？－アンケートの効果的实施と活用方法－

講師名：塩崎俊彦（高知大学）

実施日：平成24年9月19日（水）

実施会場：四国大学・四国大学短期大学部

当日参加者数：91名（教員76名，職員15名）

アンケート回答者数：63名

1. 参加者ご自身について

職種

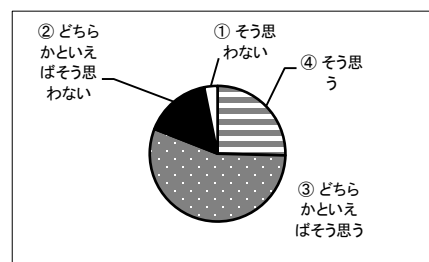
	度数	割合
① 教員	57	91.9
② 職員	5	8.1
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	62	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

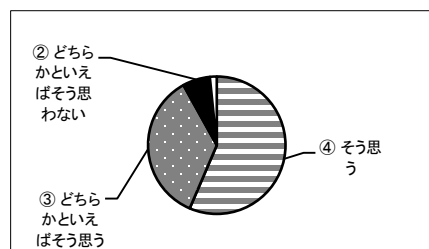
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	16	25.4
③ どちらかといえばそう思う	35	55.6
② どちらかといえばそう思わない	10	15.9
① そう思わない	2	3.2
計	63	100.0



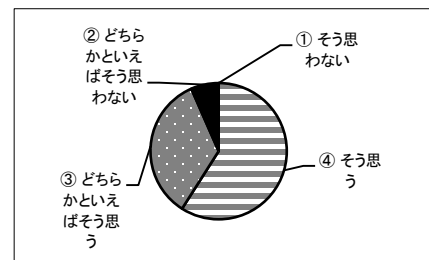
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	35	56.5
③ どちらかといえばそう思う	22	35.5
② どちらかといえばそう思わない	4	6.5
① そう思わない	1	1.6
計	62	100.0



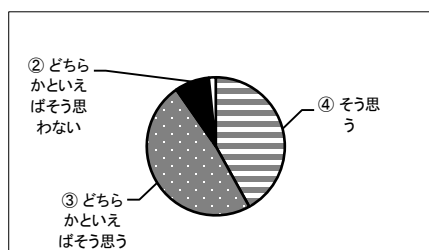
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	36	59.0
③ どちらかといえばそう思う	21	34.4
② どちらかといえばそう思わない	4	6.6
① そう思わない	0	0.0
計	61	100.0



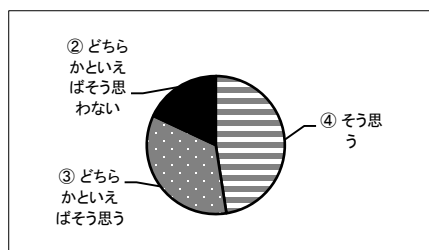
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	26	41.9
③ どちらかといえばそう思う	30	48.4
② どちらかといえばそう思わない	5	8.1
① そう思わない	1	1.6
計	62	100.0



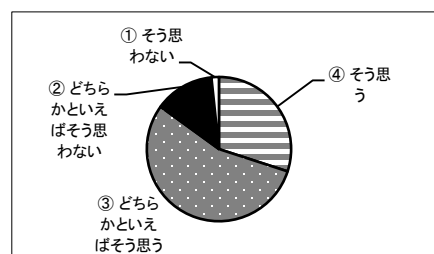
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	29	47.5
③ どちらかといえばそう思う	21	34.4
② どちらかといえばそう思わない	11	18.0
① そう思わない	0	0.0
計	61	100.0



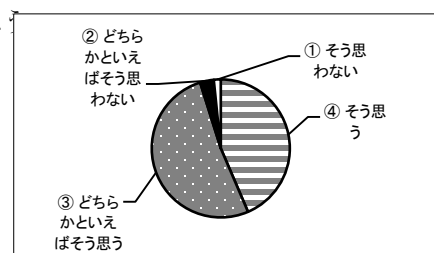
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	18	30.0
③ どちらかといえばそう思う	33	55.0
② どちらかといえばそう思わない	8	13.3
① そう思わない	1	1.7
計	60	100.0



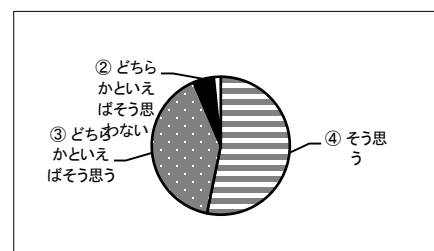
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思

	度数	割合
④ そう思う	27	43.5
③ どちらかといえばそう思う	32	51.6
② どちらかといえばそう思わない	2	3.2
① そう思わない	1	1.6
計	62	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	33	53.2
③ どちらかといえばそう思う	25	40.3
② どちらかといえばそう思わない	3	4.8
① そう思わない	1	1.6
計	62	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 1 エキサイティングな進め方で、大変興味を持ちました。
- 2 アクションプランを是非取り上げたいと思います。
- 3 授業評価の仕方について、効果的な方法は何かを考えることができた。
- 4 シラバスと授業評価との関連ができ、今後に役立った。
- 5 アンケート結果を当該学生にどう返していくか、という点が学べた。
- 6 到達目標の書き方
- 7 理論と実践内容（自分のシラバス作成改善に活用できる内容だった）、両方が入っていたので。
- 8 到達目標の記載方法について。
- 9 一括評価には疑問を持っている。自分としては、毎回行っている（一言シート）の方が、学生の質問、評価の声が多く出ている。
- 10 アンケートのあらたな利用の方法に気づけた。
- 11 目標の考え方が、具体的に理解することができた。目標を明確に定めることが大切で、学生のモチベーションに関わることが理解できた。
- 12 事例の紹介がわかりやすかった。
- 13 授業改善に向けて、具体的に何をすればよいか、明確になった。
- 14 教員の意識改革に役立てること。
- 15 授業評価の必要性、目的が明確に理解できた。
- 16 学習成果の達成目標の考え方がよくわかった。
- 17 授業改善の必要性を感じた。
- 18 「評価」でなく「改善」とされたことで、目からウロコが落ちる思いであった。
- 19 中間アンケートをした後、授業改善を行い、その効果検証をするという方法を後期の授業の一つで行おうと思いました。とってもいいな、と思いました。
- 20 原稿の授業評価の改善につながる内容であった。自分自身のシラバス（作成）を見直すよい機会となった。
- 21 具体的に例を示されて、改善すべき点を明確に教えてくださった点が大変良かったです。
- 22 他大学の授業アンケートのシステムがよくわかった。
- 23 改善する視点が見えました。

- 24 後期から中間アンケートを実施し、アクションプランを提示し、進めてみます。
 - 25 現在の授業評価の改善点について考えることができた。途中評価及びアクションプランの具体例を見せていただき、参考になった。
 - 26 授業評価の質問項目やwebで一度にという点での課題が明らかになった（疑問に思っていたので）。
 - 27 最もよかったのは、シラバス、到達目標についての書き方と評価についてです。到達目標がかなり多くなったりするので、どうしたものかと思っていましたが、それはそうでもよいのではないかと考えたこと。ただ、「基礎的理解をする」のような文言は、学生にとってわかりにくいので、もう少し具体的に書く必要があること。評価（到達目標）を試験やレポートで行っていましたが、限界もあります。学生自らに尋ねることもしてみたいと思います。
 - 28 学生に質問したり、質問させる場の設定を授業中に入れ込むこと、のヒントが浮かんだこと。
 - 29 学びの意欲の向上の評価が、質問が学生から出る頻度の向上でできそうだと、思った。
 - 30 シラバスについて見直すポイントが分かった。
 - 31 達成目標は、具体的な説明でよくわかった。
 - 32 授業評価→授業改善、学びの質の見直し、といった本来の視点を再認識できた。
 - 33 具体的な達成目標を示すことの重要性を理解した。
 - 34 シラバス作成から評価の一連について考えていたところだったので、先生のお話は大変、自身の参考になった。
 - 35 大学が教員、職員が一体的に取り組まないと、授業評価は実のあるものにならないと言われた事は、本当にその通りと思う。
 - 36 具体例が少しわかった。
 - 37 客観的に評価できないものを求めていることに気づいた。
 - 38 具体が知れたことで、理解しやすかった。
 - 39 自分の授業に置き換えて想像しながら（その点自分で出来るところから始められそうな気がした）研修が受けられた。
 - 40 シラバスの到達目標の書き方が参考になった。
 - 41 到達目標の書き方の参考になった。
 - 42 授業評価のあり方、方法のヒントを得ることができた。
 - 43 到達目標の表現の仕方が、理解できた。
4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
- 1 先生のお話のスピードがとても速いので、メモを取りにくいです。資料をもう少し、詳細なものにしていただくと、メモを取る必要がなくなり、先生のお話を聞くことに集中できます。
 - 2 テクニカルなことも重要ですが、字が小さければ見えないし、メモを取らせる時間を与えないと、学生は重要な事項を学ぶチャンスを逃すことになります。
 - 3 研修後、このことについて、学部ごと、学科ごとで話し合う機会があればよい。
 - 4 時間配分
 - 5 看護学部での授業は「実学」なので、それに役立つ研究を希望する。
 - 6 年間の指導計画（シラバス）よりも、毎時の学習指導案の作成も重要であるし、授業は他人の目にふれて、改善されると思う。授業公開にもっと沢山の教員が参加すべきであると考えます。
 - 7 今日のようにポイントについての授業改善につながる研修を望みます。
 - 8 学習の到達目標：具体的に達成可能なのは理解できるのですが、1科目の中で、何をどこまでというのは、まだまだ難しいです。ありがとうございました。
 - 9 組織的に取り組むことができるよう、リーダーシップを取ってもらいたい。教職員協働で、スピーディに改善にむけて取り組んでほしい。
 - 10 パワーポイントの内容をプリントしてほしい。
 - 11 とばして速いので、十分に理解できなかった。
 - 12 1時間半→2時間とする。
 - 13 GWを入れる。
 - 14 もっと時間があって、先生の予定した内容が全て受講できたらよかった。
 - 15 パワーポイントの情報が多すぎて、消化できなかった。
 - 16 自分のシラバス、自分の授業評価結果を持参できればよかった。あらためて見直したい。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：グループ学習を効果的に進めるための基本的な考え方とその方法

講師名：香川順子（徳島大学）

実施日：平成24年9月21日（金）

実施会場：今治明德短期大学

当日参加者数：17名（教員14名_今治明德12名，東雲女子大学1名，東雲女子短期大学1名
職員_3名_今治明德短期大学）

アンケート回答者数：15名

1. 参加者ご自身について

職種

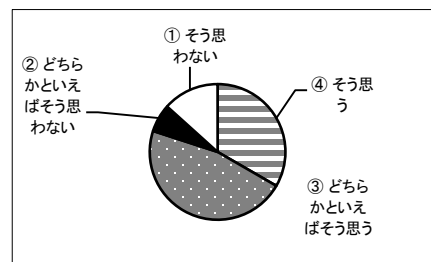
	度数	割合
① 教員	14	93.3
② 職員	1	6.7
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	15	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

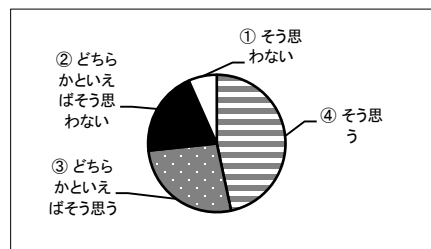
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	33.3
③ どちらかといえばそう思う	7	46.7
② どちらかといえばそう思わない	1	6.7
① そう思わない	2	13.3
計	15	100.0



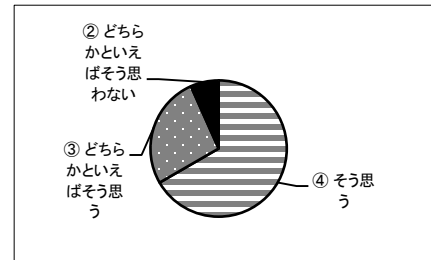
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	7	46.7
③ どちらかといえばそう思う	4	26.7
② どちらかといえばそう思わない	3	20.0
① そう思わない	1	6.7
計	15	100.0



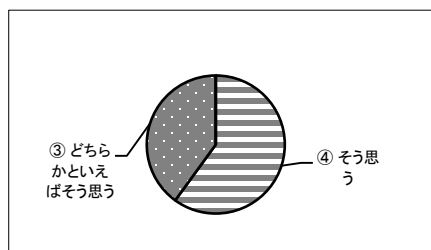
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	10	66.7
③ どちらかといえばそう思う	4	26.7
② どちらかといえばそう思わない	1	6.7
① そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



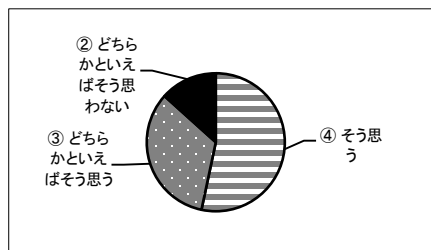
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	9	60.0
③ どちらかといえばそう思う	6	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



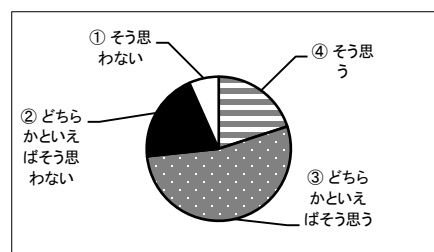
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	8	53.3
③ どちらかといえばそう思う	5	33.3
② どちらかといえばそう思わない	2	13.3
① そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



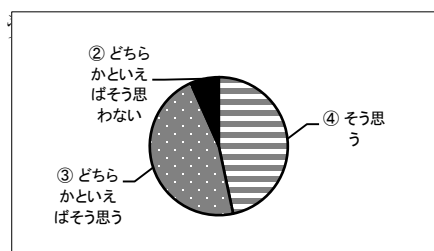
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	3	20.0
③ どちらかといえばそう思う	8	53.3
② どちらかといえばそう思わない	3	20.0
① そう思わない	1	6.7
計	15	100.0



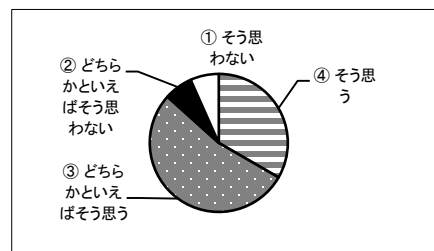
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	7	46.7
③ どちらかといえばそう思う	7	46.7
② どちらかといえばそう思わない	1	6.7
① そう思わない	0	0.0
計	15	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	5	33.3
③ どちらかといえばそう思う	8	53.3
② どちらかといえばそう思わない	1	6.7
① そう思わない	1	6.7
計	15	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 途中で退室して申し訳ありません。最後まで、受講できるとよかったです。
- 少人数で最初からグループワークが行われていたので、主体的に取り組むことができた。
- 自分自身を省みる機会がある。
- 自分を振り返ることができた。
- 自分の普段の授業を思いおこしながら、聴講させていただきました。結果を焦らず、学生から自発的に導くような先生の進行を学びました。
- 自分の授業でグループワークを振り返るよい機会となりました。
- 具体的な資料内容
- これまで行っていたグループ学習の反省点が見えてきた。学生のモチベーションを持続させる方法を見つけていきたい。
- グループ活動の技術を少し理解できたと思う。自分の授業を省みることができました。ありがとうございました。
- 情報を得ることができてよかったです。
- 協同学習の基本要素の理論化を取り入れたいと思いました。
- 資料をたくさんいただいて、ありがとうございました。
- 自分の学習経験の振り返りをして、現在の自己がこれまでの教育の影響を強く受けていることが、再認識されて、参考になりました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 教室環境（パワーポイントが見えにくい），暗くなる空間づくり・・・カーテンとか。
- 時間的にも少し短いですがもっと授業に参加できたらよかったですと思います。
香川先生，どうもありがとうございました。笑顔いっぱいの授業，楽しかったです。
- グループ学習を改善できた具体的な事例を紹介していただけたらよかったです。
- 実際にグループ活動をする時間があつたらよかったですと思う。
- 少し資料と内容が多すぎて，消化しきれないところがあつたように思います。
今日はありがとうございました。
- 講師はベテラン教員が望ましい。若い教員（経験の少ない）が適すと紹介もどきの研修より，失敗例から学ぶ事例などを紹介してほしい。

S P O D研修プログラム2012アンケート集計結果

セミナー名：I-020 学生の自立を促す学生支援の実践とコツ

講師名：吉田博（徳島大学）

実施日：平成24年9月21日（金）

実施会場：愛大ミューズ

事前申込者数：15名

当日参加者数：15名

アンケート回答者数：14名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	度数	割合
① 大学	13	92.9
② 短期大学	1	7.1
③ 高等専門学校	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	14	100.0

その他の記述内容

(2) 所属先の設置者

	度数	割合
① 国（国立大学法人）	4	28.6
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	1	7.1
③ 学校法人	9	64.3
④ その他（ ）	0	0.0
計	14	100.0

その他の記述内容

(3) 所属先の所在地

	度数	割合
① 四国	14	100.0
② 北海道	0	0.0
③ 東北	0	0.0
④ 関東	0	0.0
⑤ 中部	0	0.0
⑥ 近畿	0	0.0
⑦ 中国	0	0.0
⑧ 九州・沖縄	0	0.0
計	14	100.0

(4) 職種

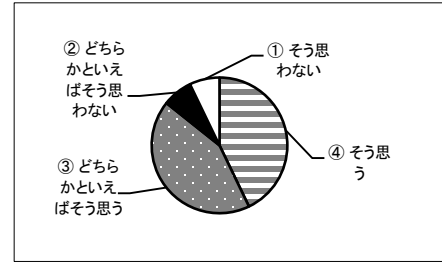
	度数	割合
① 教員	6	42.9
② 職員	6	42.9
③ 学生	2	14.3
④ その他（ ）	0	0.0
計	14	100.0

その他の記述内容

2. このセミナーについて

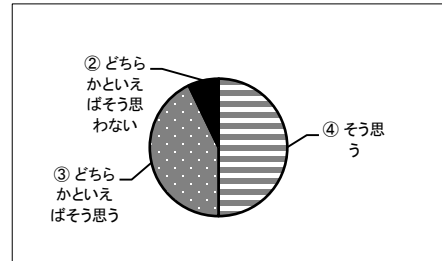
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	6	42.9
③ どちらかといえばそう思う	6	42.9
② どちらかといえばそう思わない	1	7.1
① そう思わない	1	7.1
計	14	100.0



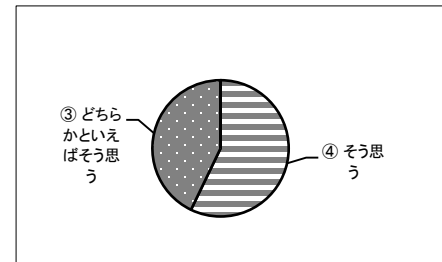
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	7	50.0
③ どちらかといえばそう思う	6	42.9
② どちらかといえばそう思わない	1	7.1
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



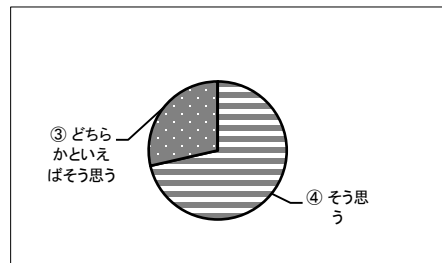
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	8	57.1
③ どちらかといえばそう思う	6	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



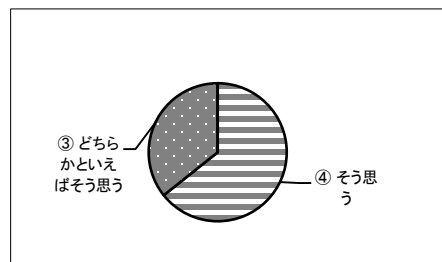
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	10	71.4
③ どちらかといえばそう思う	4	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



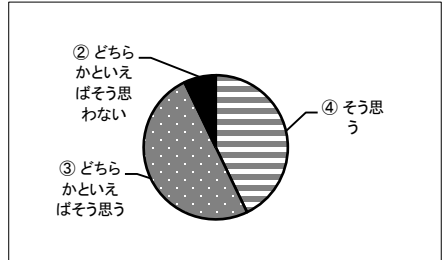
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	9	64.3
③ どちらかといえばそう思う	5	35.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



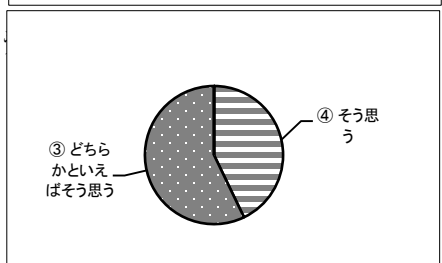
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	6	42.9
③ どちらかといえばそう思う	7	50.0
② どちらかといえばそう思わない	1	7.1
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



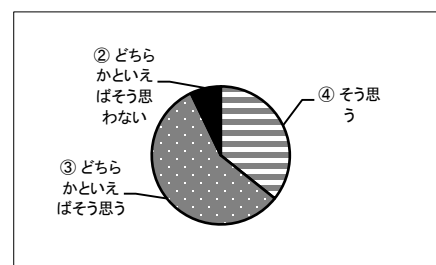
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思

	度数	割合
④ そう思う	6	42.9
③ どちらかといえばそう思う	8	57.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	5	35.7
③ どちらかといえばそう思う	8	57.1
② どちらかといえばそう思わない	1	7.1
① そう思わない	0	0.0
計	14	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ピアサポートについて知ることができた。
- 学生の意見を聞くことができ、刺激的であった。
- 具体的なヒントが得られた。
- 潜在的課題を認識できたこと。
- 現状をよく振り返ることができた。
- 自分の大学の活動内容について、改善すべき点を考えることができました。
- 学生支援の実施形態によるメリット、デメリットについて、何となく感じていたが、表で整理されていたため、理解デメリットを想定した上で、メリットを最大限に引き出すには、教職員の細やかな支援が必要であることを再認識ありがとうございました。
- 学生に関わる仕事をしているので、他の意見を聞いてよかった。
- 同じ大学間の職員でも所属が違えば、考え方なども違うので、その点について情報収集ができた。
- 学生スタッフに生の声を聞く時間があり、とても参考になりました。
- 実際の学生の話が聞いてよかった。早速イベント実施に役立てたいと思う。
- 各大学の事例に触れられた。ワークショップ中の発言も参考になった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 具体的な事例を少し詳しく説明していただければ、イメージしやすかったのではと思う。
- 同じ学校同士で席に着くのはどうかと思います。ワークを充実させるためにもばらばらにするべきだと思う。SDの主旨として・・・。
- ディスカッションの時間があるとよい。
- 学生にも学生支援のコツを見つめる機会を、教職員と共に作るセミナーも必要だと感じた。
- 今日、学生の参加者が少なかったのもっと学生の参加者が増えると、学生目線の意見もたくさん聞けると思う。
- ワークの時間は集中が途切れない長さだったので、かえってよかったように思います。
- 学生の意見を聞いてみたい。
- ワークショップがもう少し時間があればよいと思う。できれば、仕上げるまでできるとよかった。
- もう少し、学生と話す時間があればよかったな。
- もう少し長い時間、話し合いができるとよかった。学生も交えて話し合いたい。
- 運営形態の主導性の違いがわかりにくい。学生主導というのが、学生から立ち上がったものなのか、否か、それはないように思いますが・・・。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：高専生を元気にする学生指導法のコツ
 講師名：坪井泰士（阿南工業高等専門学校）
 実施日：平成24年9月24日（月）
 実施会場：高知工業高等専門学校

当日参加者数：19名
 アンケート回答者数：16名

1. 参加者ご自身について 職種

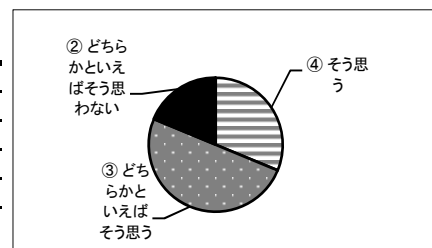
	度数	割合
① 教員	15	93.8
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	1	6.3
計	16	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

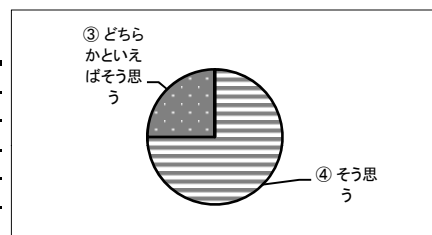
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	31.3
③ どちらかといえばそう思う	8	50.0
② どちらかといえばそう思わない	3	18.8
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



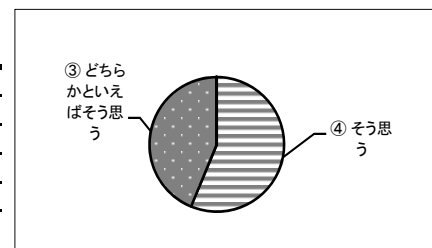
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	12	75.0
③ どちらかといえばそう思う	4	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



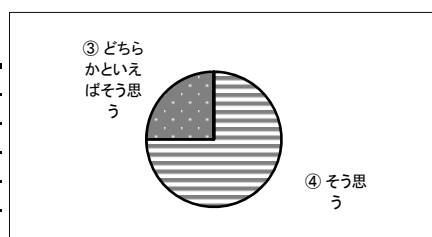
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	9	56.3
③ どちらかといえばそう思う	7	43.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



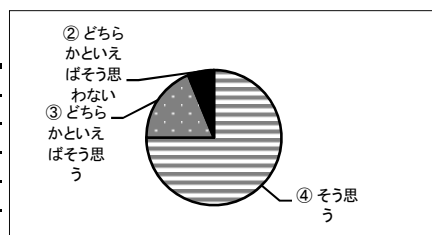
(4) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	度数	割合
④ そう思う	12	75.0
③ どちらかといえばそう思う	4	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



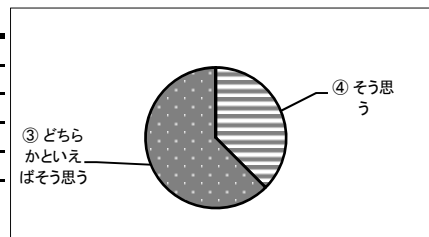
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	12	75.0
③ どちらかといえばそう思う	3	18.8
② どちらかといえばそう思わない	1	6.3
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



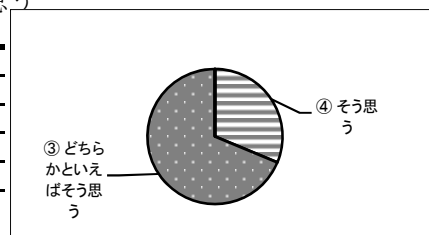
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	6	37.5
③ どちらかといえばそう思う	10	62.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



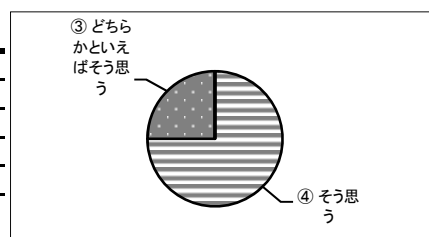
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	5	31.3
③ どちらかといえばそう思う	11	68.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	12	75.0
③ どちらかといえばそう思う	4	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	16	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 教員間の連携がとても大切であることが改めて理解できました。
- 現況に沿った内容だったので、大変参考になりました。
- 教員間の学生情報の共有・連携の大切さが再認識できたこと。
その手立てのきっかけをいくつか知ることができ、参考になった。
教員仲間を増やす（同じ考え方の教員）ことの重要性。
- 学生指導を行うために必要な事項であると思う。
高知高専でも取り入れていかなければと思う。
- 学生のサポートのためには、教員間の連携が非常に重要であることを再認識できた。
- グループワークが非常に良かった。
- 学生指導の記録をしっかりと取って役に立てたいと思いました。
- 具体例があり分かり易かったです。
- 非常に参考になりました。
高知の改善にもつなげていきたいです。
- 自らの体験に根差した具体的な取組をお話していただき、自分ならどうするか、
どうできるかを考えるきっかけとなった。
- ふだん学生指導で悩んでいる内容について、いろいろと助言いただけた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 3時間のコースでもよいのではと感じました。
- もっとワークができる時間があれば、全員参加できればと思いました。
- プレゼンがもっと多いとより相互理解が進むかもしれない。
- もう少しワークの時間があっても良かったと思います。
- もっと多くの教員が参加するべきだと思う。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：学生の自立を促す学生支援のコツ
 講師名：葛城浩一（香川大学）
 実施日：平成24年11月17日（土）
 実施会場：香川短期大学5階講義室

当日参加者数：49名（他大学1名含む）
 アンケート回答者数：41名

1. 参加者ご自身について 職種

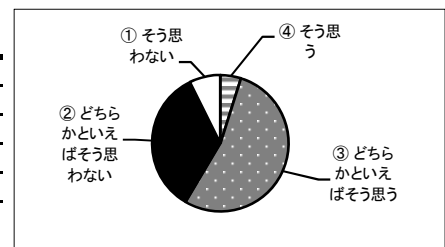
	度数	割合
① 教員	32	78.0
② 職員	9	22.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	41	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

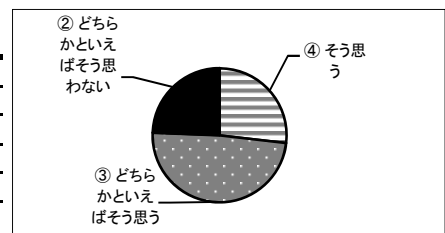
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	2	4.9
③ どちらかといえばそう思う	22	53.7
② どちらかといえばそう思わない	14	34.1
① そう思わない	3	7.3
計	41	100.0



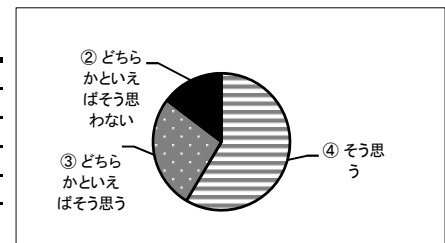
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	11	26.8
③ どちらかといえばそう思う	20	48.8
② どちらかといえばそう思わない	10	24.4
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



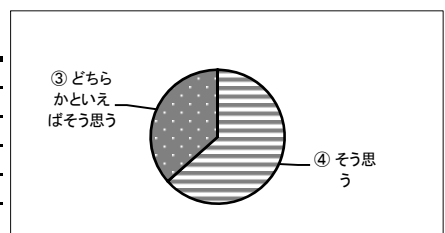
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	24	58.5
③ どちらかといえばそう思う	11	26.8
② どちらかといえばそう思わない	6	14.6
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



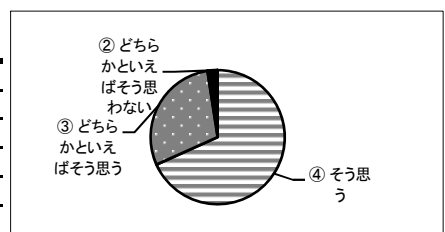
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	26	63.4
③ どちらかといえばそう思う	15	36.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



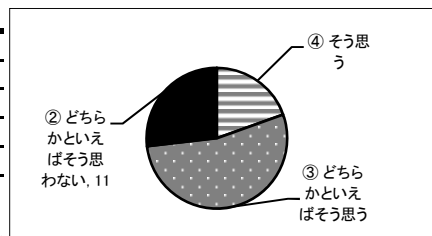
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	28	68.3
③ どちらかといえばそう思う	12	29.3
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



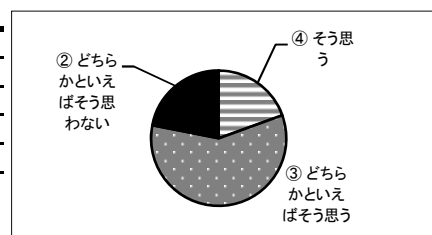
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	8	19.5
③ どちらかといえばそう思う	22	53.7
② どちらかといえばそう思わない	11	26.8
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



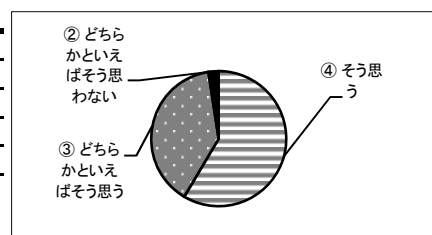
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	8	19.5
③ どちらかといえばそう思う	24	58.5
② どちらかといえばそう思わない	9	22.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	24	58.5
③ どちらかといえばそう思う	16	39.0
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 様々な取り組みの可能性を知ることができ、参考になりました。
- 普段あまり関わることのない教職員とコミュニケーションがとれた。学生生活を振り返る機会が持てた。
- 他の教員と交流が持てた。
- 他の教員の意見を聞くことができた。葛城先生のお話はとてもわかりやすく、これからの学生支援を考えていくたくさんのヒントをいただくことができました。
- 他学科の取り組みの実例が聞けた。
- 他学科の現状を知ることができた。
- 教員や職員の交流、情報交換の場になった。学生支援の意識がまとまると感じた。
- 学生支援案（本学を対象とした具体案）を数件聞くことができたこと。
- 視聴覚機器の使い方。
- 他学科のことについて知ることができた。
- 各学科の教員の先生から、それぞれの課題等の情報が聞けた。他のグループの発表が参考になった。
- 他の方々との情報交換ができ、日ごろ思っていることを知ることができました。
- 普段話す機会のない先生と話すことができたこと。同じ議題で話すことができたことが良かった。
- 充実した研修内容で時間の経過が早く感じられました。学生主体による活動も積極的に取り入れていかなければならないという意識付けになりました。
- 全学的に取り組める学生支援を考える機会になりました。学科ごとに抱える問題もあるが、学生間のつながりを深めることが楽しい学生生活につながるように思いました。
- 学生間でのコミュニケーション（特に友人間でない）を図れる場所、また学生に様々な考えをもたせるようにすることが重要だと感じた。
- 全体的にこういう研修を行うことで、学校がこういうことに取り組むべきであるという意識付けができた。実施へのハードルが低くなったと思う。
- ピアサポートの重要性を学べただけでなく、プレゼンの方法やワークショップの進め方等、運営部分で参考になる部分を多く感じることができました。
- グループ内で話し合い意見を出し合うことで、新たな課題の発見や交流が持てて良かったように思う。
- いろんな考え方・やり方があるということが分かった。
- 学生のモチベーションアップにここまで取り組む必要があるのだろうか。高校教育のフォローのような感じがするが…昔気質で申し訳ないが、学生の主体性が失われた結果が現状か！
- グループワーク

- 通常の業務では耳にすることのない意見が多く聞けて良かったと思います。
教員と職員が同じ目線をもって何かに取り組む第一歩になったのではないかと思います。
- 教員が直面している一部分を垣間見ることができたと思います。
- 事務職員と教員との学生支援の差をうめるのが難しいと思った。
うちの短大は、全学生ではなく、自分の学科だけよければいいというのが、
話をされていてよくわかった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 学長・理事長も入って学生支援の現況を知る必要がある→実施するには、トップが知らなくてはいけない情報もあると考えるため。
- ピアサポートの中にイベント型、団体型とありましたが、時間的な振り分け方であったように思います。
- もっと時間をとってもいいと思いました。
- 楽しい研修をありがとうございました。
- 大学によって学生の質が異なり、それにどのように対応する方法があるかを提示して欲しい。
- このような計画の実施に権限を持っている立場の人が参加するべきである。
- 土曜日に行うのも新鮮で楽しいですね。
- まず、事務職員は事務職員全員で話す時間を持つべきだ。
- 今後も引き続き、本学の課題を分析し、改善策に向けて取り組んでいけるような学内での研修、委員会等を開催していけるような体制づくりが必要だと感じました。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：グループ学習を効果的に進めるための基本的な考え方とその方法

講師名：香川順子（徳島大学）

実施日：平成24年11月20日（火）

実施会場：香川大学

当日参加者数：8名（香川大学7名，愛媛大学1名）

アンケート回答者数：8名

1. 参加者ご自身について

職種

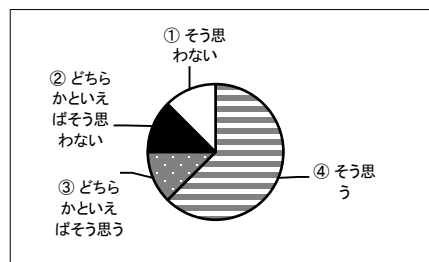
	度数	割合
① 教員	7	87.5
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	1	12.5
計	8	100.0

その他の記述内容
無記入

2. この研修について

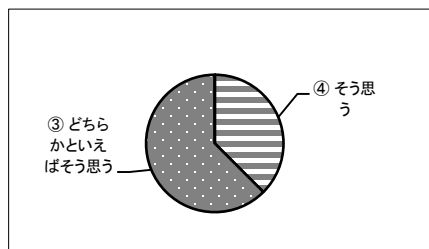
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	62.5
③ どちらかといえばそう思う	1	12.5
② どちらかといえばそう思わない	1	12.5
① そう思わない	1	12.5
計	8	100.0



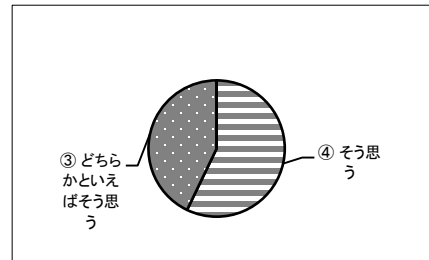
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	3	37.5
③ どちらかといえばそう思う	5	62.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	8	100.0



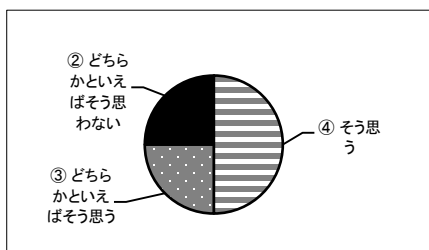
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	4	57.1
③ どちらかといえばそう思う	3	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	7	100.0



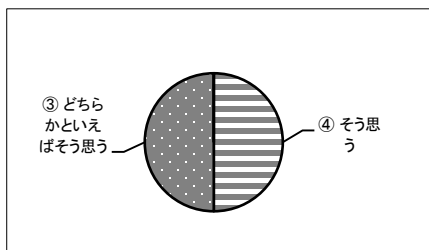
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	4	50.0
③ どちらかといえばそう思う	2	25.0
② どちらかといえばそう思わない	2	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	8	100.0



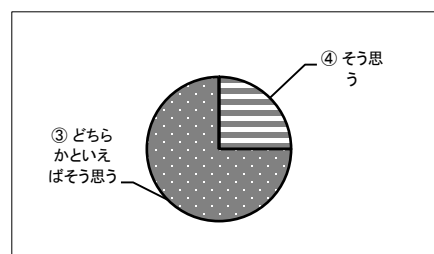
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	4	50.0
③ どちらかといえばそう思う	4	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	8	100.0



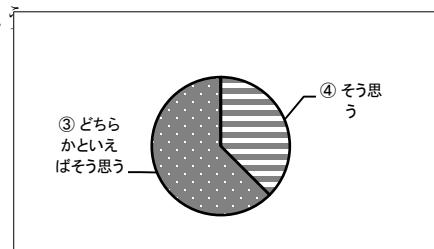
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	2	25.0
③ どちらかといえばそう思う	6	75.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	8	100.0



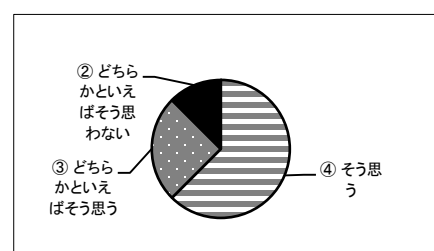
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	3	37.5
③ どちらかといえばそう思う	5	62.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	8	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	5	62.5
③ どちらかといえばそう思う	2	25.0
② どちらかといえばそう思わない	1	12.5
① そう思わない	0	0.0
計	8	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- グループ学習を実施するためのイメージを持つことができた。
- GWの技法をある程度、知ることができた。
- グループ学習に大切なことがよくわかった。
- 具体的に体験できて良かった。
- 自己満足に陥っていた授業方法に対して「やっぱりこれで完璧ではないんだ、もっと改善する方法もある」と思った。
- 協同学習の手法への理解が深まった。（但し、自分で実践できるという自信はまだない）
- 明日から使えるような技法が5つくらい手に入りました。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 質問の時間の余裕を組み込んでほしい。
- もっと多くの人数、できたら異なった分野でのGWを実施する。
- もう少しまとまった時間（3時間くらい）が必要だと思う。
- 駆け足のFDだった。もっと時間にゆとりがあればよい。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：教育の質保証とIR（インスティテューショナル・リサーチ）

講師名：山田剛史（愛媛大学）

実施日：平成24年11月27日（火）

実施会場：阿南工業高等専門学校

当日参加者数：47名（教員，全員阿南工業高等専門学校）

アンケート回答者数：43名

1. 参加者ご自身について

職種

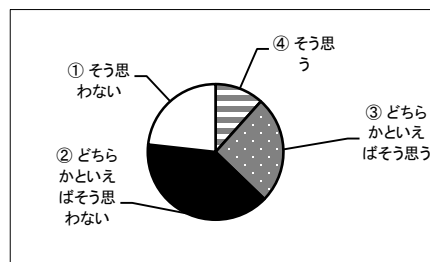
	度数	割合
① 教員	43	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	43	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

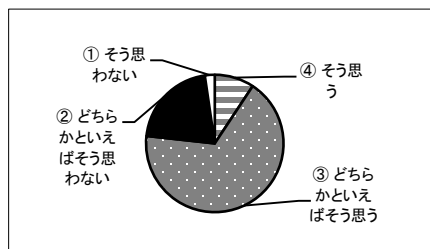
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	11.6
③ どちらかといえばそう思う	11	25.6
② どちらかといえばそう思わない	17	39.5
① そう思わない	10	23.3
計	43	100.0



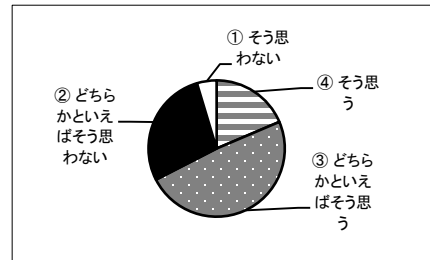
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	4	9.3
③ どちらかといえばそう思う	29	67.4
② どちらかといえばそう思わない	9	20.9
① そう思わない	1	2.3
計	43	100.0



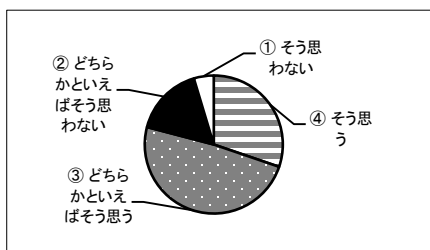
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	8	18.6
③ どちらかといえばそう思う	21	48.8
② どちらかといえばそう思わない	12	27.9
① そう思わない	2	4.7
計	43	100.0



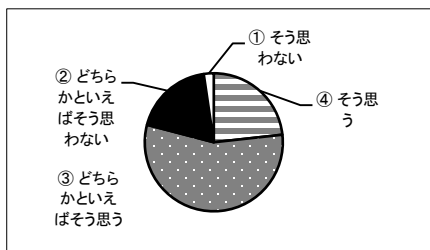
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	13	30.2
③ どちらかといえばそう思う	21	48.8
② どちらかといえばそう思わない	7	16.3
① そう思わない	2	4.7
計	43	100.0



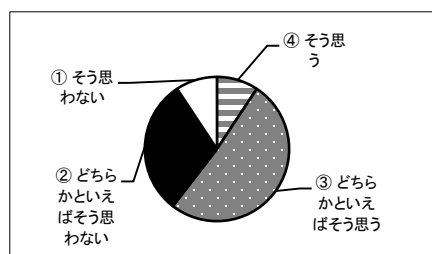
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	10	23.3
③ どちらかといえばそう思う	24	55.8
② どちらかといえばそう思わない	8	18.6
① そう思わない	1	2.3
計	43	100.0



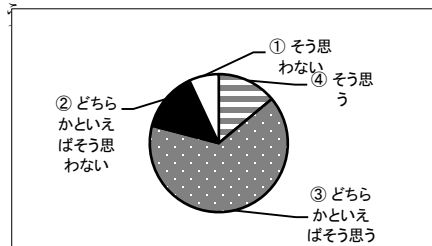
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	4	9.3
③ どちらかといえばそう思う	22	51.2
② どちらかといえばそう思わない	13	30.2
① そう思わない	4	9.3
計	43	100.0



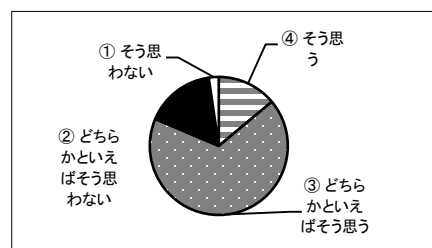
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思

	度数	割合
④ そう思う	6	14.0
③ どちらかといえばそう思う	28	65.1
② どちらかといえばそう思わない	6	14.0
① そう思わない	3	7.0
計	43	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	6	14.0
③ どちらかといえばそう思う	29	67.4
② どちらかといえばそう思わない	7	16.3
① そう思わない	1	2.3
計	43	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 自分の学科の学生の姿を垣間見ることができました。
- 学生の深いところがわかりました。
- 学生の満足度を通して他の教員と取り組むべき事柄を考えることができたこと。
IRを知ることができたこと。
- アンケート結果から気づいた部分が結構あった。
- 学生の調査データが公開されたこと。
- 「IR」の語を初めて知ることができた。恥ずかしながら、阿南高専が
IRに関するプログラムをしているという認識が不足していました。
- 所属学科の学生の状況を把握できてよかった。教育目標を達成させることの難しさを知ること
できた。
- 本校のアンケート調査は興味深い結果であった。
- 学生の意識などがわかってよかった。
- アンケートに対する学生の回答を見ることができた。
- 学生の状況が把握できたこと。
- 学生のアンケート結果が役立った。
- 学生に関する多くのデータを知ることができた。
- 学生の考えていることが少しでもわかってよかった。もっと結果を知り
たいと思いました。IRは面白いですね。ありがとうございました。
- IRについて何となく理解できた。学生の調査結果から今後の改善点を検討することができる。
- 宿題や課題を多く出した方がよいことがわかった。
- 教員としての自覚を与えてくれた。
- 今、学科のHP立ち上げ、新学科新コース設置、コアカリキュラムなどに関係しているが、
育成すべき人材像など、適合性を検討しなければならないと感じた。
能動的学修について5年生の科目の一部にディスカッションを入れてみようと感じた。
(自学自習で調査をしたことに関するディスカッションをシラバスに入れる)。
このような動機付けとなった。
- IRの社会的な状況についてはよくわかりました。
- 具体的なデータを基に、検討することができた。

- IRについての理解は深まった。質保証の具体策について話し合う事が必要と感じた。
本校アンケート結果から何をするかが、重要であり、その意識改革を全面に出して研修した方がよかった。
- 学生のデータを分析する手法が人によって違う点に気づいた。
- 何となく頭で考えていたことを実行しやすくなった。
- 定期試験範囲の10日前掲示義務化を進める。
- IRという存在を知ること。阿南高専の現状を知れたこと。
- 最先端の知識を知り、自分の業務へのヒントを知ることができた。
- IRが明確になった。
- 学生の実体がわかった。
- 時間（2：30）が丁度よかったです。
- 清水先生の発表の調査は、日頃何となく意識していることが、具体的な数字で示されていてよかった。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 参考資料ですが、字が小さくて見えないものが多々あります。また、
カラー表記を期待するところも多くありました。
- アンケート結果の分析は続けてほしい。
- 詳細なデータの開示がほしい。成績との関連など。
- 実のあるワークを実施すること。
- 開催時期を試験期間以外に設定してほしい。
- 試験期間中を外してほしい。
- 内容を少しでもよいので、予め教えてほしい。
- 何がポイントなのか、自分の中で処理できなかった。
- DP, TP等が多様されていて理解できない。
- 配付資料やパワーポイントの文字が小さすぎて見えない。
- この場で、データ検索できるシステムがあった方が、
幅広く分析できると思います。
- 最後にグループの発表をしたらよいと思う。
- テスト期間中は学生指導、質問対応、追試など色々な仕事があるが、期間中毎日のように
研修、会議などが組まれる。教育上もう少し、各組織が連携して、開催目的を決めてほしい。
- スクリーン（PP）の文字が、ほとんど読み取れず、手元の資料を読むだけになり、講演内容の
理解があまりできなかった。抽象的な話しが多く、具体的な内容について講演していただいた
方が、よかった。現場として、どう動くかの教授が必要であり、本校としてもどう取り組むかを
話しあう場とすべき。
- 内容が総論的で具体的にどうするか見えなかったように感じます。PPTの文字が小さすぎて
読みにくいです。白黒印刷するのであれば、色使いを意識してほしいです。
- 研修の目的と到達目標が明確でなかった。
- 事前にもう少し内容をお教えいただければと思います。
- データの蓄積が大切である。
- 講師の先生がワークショップ中に各席を回られるとよかった気がします。

平成24年度 FD 研修会 SPOD 《2012 新規講座》 講師

[大学がさらに活気づく！ 学生の自立を促す学生支援の実践とコツ]

I. 開催日時 平成 24 年 12 月 21 日 (金) 13:00～15:00

II. 参加者人数 (34) 人 うち外部教員、学生等 (6) 人

III. アンケート回収数 (20) 部

IV. アンケート結果

●研修会の内容について

1. とてもよかった (8)
2. よかった (11)
3. どちらとも言えない (0)
4. つまらなかった (0)
5. その他 (1)

●研修会企画への感想・意見

(1) とてもよかった人の意見

- ・とても引き込まれる楽しい研修でした。
- ・とても面白かったし、具体的な話が出来て良かったです。
- ・大変参考になり、参加して良かった。
- ・講師の先生以外、N先生、学生Kさん、韓国の留学生のお話が聞けて良かった。
- ・いろいろなヒントを得た。
- ・話がとても分かり易くて、勉強になりました。
- ・自分の大学のことが具体的に話し合えてとても良かった。
- ・「うちは無理」と言っではいけないと思った。
- ・以前から関心のあったテーマで楽しく聞かせていただきました。
- ・学生支援という視点の支援されている学生も同行している中で研修を聞いたので、具体的に分かって良かったと思います。

(2) よかった人の意見

- ・具体例に添った話で説得力がありました。
- ・凄いい取り組みを実現させていらっしゃると思いました。
- ・とても参考になりました。2
- ・出来そうなこと、一つずつでも出来ていけばいいと思います。
- ・これからどのようにしようかたくさんのヒントを得た。
- ・3年生の実習前に行っている4年制との交流会のように、年に一度くらいは上下の学年で交流できる場をつくり、学習、生活支援ができるとよいと思いました。
- ・当大学の特性（医療系の単科大学、学生数の少なさ、立地、・・・）による難しい部分はやはり感じたが、自治会役員などをきっかけに少しずつでも学生の気風をかえていけるところもあるかと思いました。

- ・朝食摂取、続けたいと思います。
- ・テーマからイメージしていた内容と違っていたので、この内容なら特別講演で学生が多く入った方が学生のためになったのではないかと思います。
- ・参考にするべき点、学ぶ点が多い研修会でした。
- ・他の大学はこんな取り組みをしているのは全く知らなかった。世界はそこまですすんでいるのかとおどろきでした。
- ・最後の討議内容を実現できれば良いと思うが、そのための方略なども、いっしょに考えてほしかったです。

(3) その他の意見

- ・テーマは興味ある内容なのですが、今回の話は、なかなか納得に難しさを感じました。
- ・本学（医療系）で利用すること、学生利用は教員にとって利用素材であったとしてもその学生にとっては本当に自立支援になるのか、という部分で難しいと思った
- ・学生の間は達成感もあり、有意義だと思いますが、卒業したらどうなるのだろうと思いました。

● 研修会の時間・会場・広告・運営等について

(良いという意見)

- ・良かったです。
- ・時間は適切だった。3
- ・机の並びは4人というのが良かった。一人一人ひととおりの意見を述べられた。
今後、グループワークをする時に人数を検討していこうと思う。
- ・グループワークに適した教室だった。

(その他の意見)

- ・もう少し時間があれば（半日や宿泊研修など）も良い。
- ・質問の時間がもっとあっても良かった。
- ・Kさんの話もっともっと聞きたかったです。
- ・特にありません。

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名：大人数講義法を魅力的にするテクニック
 講師名：葛城浩一（香川大学）
 実施日：平成25年2月15日（金）
 実施会場：聖カタリナ大学、聖カタリナ短期大学部

当日参加者数：25名
 アンケート回答者数：24名

1. 参加者ご自身について 職種

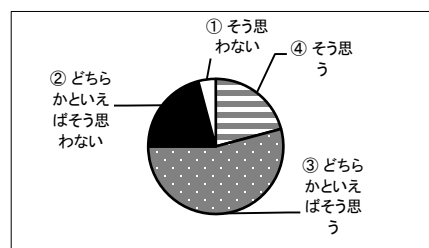
	度数	割合
① 教員	24	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	24	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

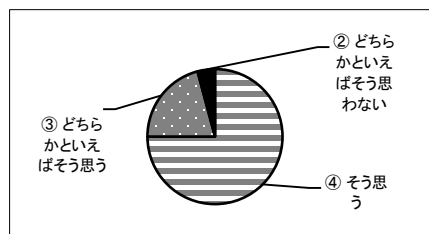
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	20.8
③ どちらかといえばそう思う	13	54.2
② どちらかといえばそう思わない	5	20.8
① そう思わない	1	4.2
計	24	100.0



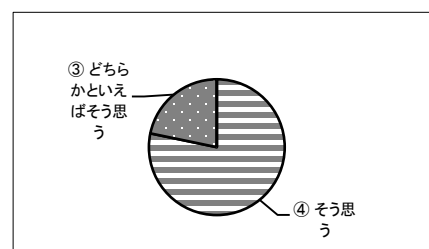
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	18	75.0
③ どちらかといえばそう思う	5	20.8
② どちらかといえばそう思わない	1	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



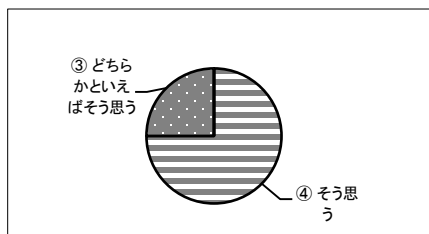
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	18	78.3
③ どちらかといえばそう思う	5	21.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	23	100.0



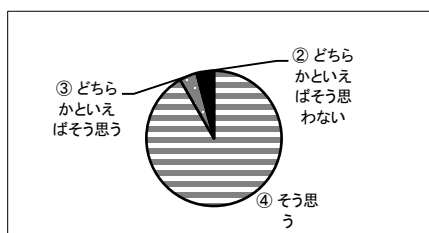
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	18	75.0
③ どちらかといえばそう思う	6	25.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



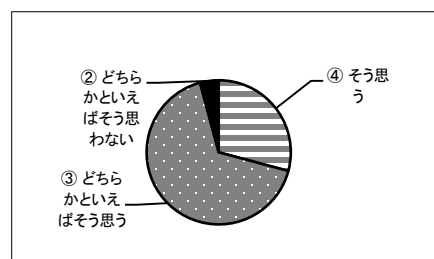
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	22	91.7
③ どちらかといえばそう思う	1	4.2
② どちらかといえばそう思わない	1	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



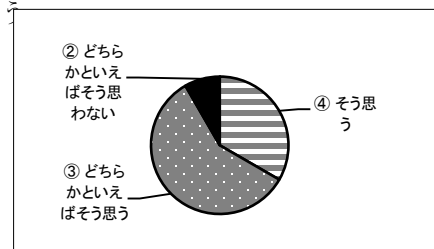
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	7	29.2
③ どちらかといえばそう思う	16	66.7
② どちらかといえばそう思わない	1	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



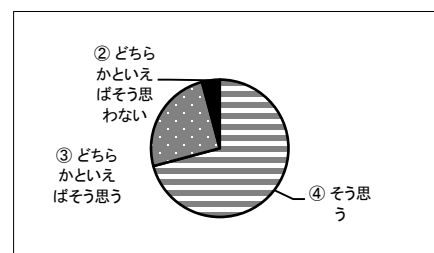
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	8	33.3
③ どちらかといえばそう思う	14	58.3
② どちらかといえばそう思わない	2	8.3
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	17	70.8
③ どちらかといえばそう思う	6	25.0
② どちらかといえばそう思わない	1	4.2
① そう思わない	0	0.0
計	24	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- Tips1, Tips30, 参考にりました。ありがとうございました。
- 具体的で利用可能なものを、実践をまじえてわかりやすく紹介していただいた点が良かったです。
- 具体的な提案が多く参考になった。
- 実際にTipsを持ち帰れるというところがありがたいと思います。
- 使えるようなティップスを知ることができた。
- 具体的にすぐ使用できるTipsを用意して頂いたので、便利でした。
- 実際に体験しながら学べたこと
- どこに力点を置くべきかがより明確になった。
- 大人数講義を充実させることに苦慮しているが、本日の研修で参考に出来ることがあった。
構成をしっかり考えることの必要性を意識できた。
- グループワークも気負うことなく参画することができた。
Tips30の中にはすでに活用しているものもあるが、新しいアイデアがいただけた。
- 自己紹介は「昨日の出来事を紹介するとよい」と聞いたことがあったが、まさしくそうだった。
好意をもってとり組むことができて、よかった。
- 研修の組み立て方が勉強になりました。
- 具体的な提案が多く参考になったツールを知ることが出来た。
- 具体的に実践できるTipsが多かったので、活用していきたい。
- 新しい知識を得た。
- たくさんのテクニックを紹介していただけてよかった。
- 「クローズド・クエスチョン」を使うことなどから、「質問カード」を使うなど、アイデアが多く出てきた点。
- 「クリッカー」を使うなど、コミュニケーションの向上を計ることが学べたこと。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- スライド提示でアニメーションを使用するのも良いのでは？

平成24年度 SPOD内講師派遣事業についてのアンケート 集計結果

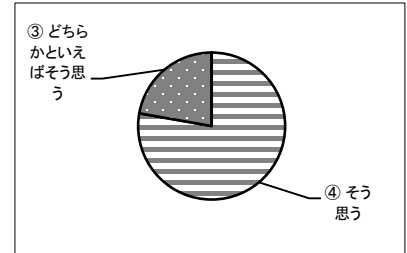
SPOD内講師派遣事業実施校：24校

アンケート回答数：24校

回答者内訳：FD担当 18名，SD担当 5名，事務担当 4名

1. SPOD内講師派遣事業を来年も継続したらいいと思いますか。

	回答数	割合
④ そう思う	21	77.8
③ どちらかといえばそう思う	6	22.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	27	100.0



2. SPOD内講師派遣事業により、学内でどのような成果や変化がありましたか。

○FDプログラム

- ・各教員の教育力向上意識が高まった。
- ・授業改善（学生のレベル等を配慮）に対する努力が教員にみられるようになった。
- ・個々の学生に目配りができつつあるように思われる。
- ・学内外の教員との情報交換など交流ができた。
- ・SPOD講師派遣事業を実施してから日にちが経っていないので、学内での変化はまだ見られません。しかし、参加した教員へのアンケート結果を見るとおおむね評価が高いため、それぞれの教員が講習の場で学んだことを授業改善に役立てるものと期待しています。
- ・自身の授業にグループワークを取り入れる教員が増えたのではないだろうか。少なくとも私はそのうちの1人です。また、参加できなかった方からも本セミナーの配付資料を求める声が挙がっておりました。
- ・平成24年度の研修には教職員、学外参加者を合わせて17名の参加がありました。本学は教職員数が少ない小規模な大学ですので、参加割合は多い方であると思われます。ただ、毎年参加する人とまったく参加しない人がはっきりとしており、FDに対する意識の差が大きいのが悩みです。
- ・1週間後にFD&SD委員会を開催して、6月に行う公開授業について、マンネリ化しないための視点のたたき台として案を出すことができた。講師の考えを参考にしながら、本学の考え方をまとめることができた。
- ・小規模校なので、専門分野を同じくする教員がほとんどいないことから、授業の質の向上は、どうしても本人の自覚と努力にかかっています。SPODの講師派遣事業のおかげで学外講師による研修が実施でき、自覚をもって授業改善に取り組んでいる教員にとっては、外からの新しい情報を得ることが出来るので好評です。実際に研修で学んだ評価法や学習法を取り入れている教員もいます。また、あまり自覚のなかった教員も、参加することで自覚を促す良い刺激になっています。今後は全員参加を目指して実施方法の工夫をしていきたいと考えています。
- ・SPOD講師派遣事業をあらためて、全学的な研修として位置付けて実施したことにより、各学部からの参加があり、全学的な取組みとなった。また、参加者においては受講したことにより自分に必要な知識やスキルを身に付けることができたとともに、今後の事業への取り組み方の改善に繋がった。
- ・分かり易い授業の要素を知ることができ、授業の方法についてヒントを得ることに繋がった。
- ・授業参観のためのガイドラインやチェックリストなどが本学での取り組みの参考となった。

- ・各学部にはFD委員会はあったが、SPODや他の研修を全学的に受講することにより、全学FD委員会が設立された。
- ・自らの授業についての改善点が明確になり、多いに参考となった。
- ・さまざまなプログラムとその内容に興味を持つ教職員が増えました。
- ・参加した19名の教員が5名程度の小グループに分かれ準備いただいたワークに取り組むことで、研修の内容をより具体的に理解し、自らの指導法に取り入れることができるようになった。
- ・他大学における様々な活動事例を実際に拝聴することにより、具体的な取組の必要性の認識などの参考となった。その結果、学内においても研修内容をヒントとした取組の必要性、また、それらを牽引することへの共通理解が生まれた。
- ・SPOD講師派遣事業を活用して、本校では初めて内部質保証に係わる教員研修会を開催することができた。内部質保証に関するトピックに初めて触れた教員も少なくはなく、質保証について考えるきっかけとなった。また、昨年度の反省を踏まえて事前に打ち合わせをさせていただき、本校の学生調査アンケートを材料としたワークも取り入れることによりデータの解釈やその活用方法を考えるきっかけにもなり、学生データの集積の重要性が周知できた。
- ・平成23年度までに、ティーチングポートフォリオWS（以下、TPWS）に参加した教員は3名であり、本校において、TPについての関心は非常に浅い状態であった。平成24年度には、学内におけるTPの浸透を高めるために、本テーマを選定し、さらに本校でのTPWSの開催を行った。本校会場におけるWSでは、5名がメンティーとして参加し、1名が初めてメンターとしてWSに参加した。追加として現在までに、1名がTPWSへの参加、さらに1名がアカデミックポートフォリオを作成し、3月にはさらに1名がTPWSに参加予定である。このように24年度は、9名がTPWSに参加しており、1学科については半数の教員がWSに参加したことになる。派遣事業をきっかけに、学内においてTPの必要性や業務改善、自身の振り返りなど、FD活動の一環として取り組む雰囲気が浸透しつつある。
- ・報告者自身は、講義していただいた中のグループワークの手法を実際に授業展開してみた。学生には大変好評であった。1つのテーマをもとに、普段コミュニケーションがとれない学生同士が繋がる機会になったことと、物事について深く考えることを見つめなおす絶好の機会となった。日常的にタイトな業務環境ではあるが、「忙しさを理由に授業の質を落とさない」という意気込みを改めて喚起できたかと思う。
- ・平成24年度は、高専対象のプログラムであったため、本校教員には大変好評であった。また、ティーチングポートフォリオに関心を持つ教員も見受けられ、個人レベルでの変化はあったと思う。しかし、もともと教員間の研修として位置づけられた教員会、教職員向けの講演会、高専機構の研修等、研修の機会が多いため、SPOD講師派遣事業による変化かどうかは特定できない。

○SDプログラム

- ・本学は、平成23年度は入職後3年未満の職員、平成24年度は入職後4～10年未満と若手・中堅の係員を対象に2年続けてSD「大学職員のための企画力養成講座」を実施した。終了後の参加者アンケート結果では、限られた時間の中での企画のまとめ方、プレゼンの仕方、またKJ手法の学習などの受講成果の意見が寄せられた。なおKJ手法やグループワークを初めて経験する者もいることから、原則40歳未満の職員はこの講座は受講するよう次年度も対象者を広げて実施を考えている。
- ・様々な情報をあらためて共有できたことで、職員同士の距離が近くなった。
- ・自分自身の振り返りができ、今後の業務、自分の将来について考えるよい機会となった。
- ・各個人の意識は高まったと思う。
- ・過去の仕事を振りかえる機会であった。

- ・研修会を参考に自分のポートフォリオを作成することができた。
- ・平成24年度より、SD委員会が設置され、SD推進事業の推進に取り組めた。
- ・他大学の職員の研修参加で、意見交換等の交流により、活発に課題に取り組めた。

○FD・SDプログラム

- ・平成24年度は「学生の自立を促す学生支援の実践とコツ」をテーマに開催していただいた。学生支援は、教職員全体に共通する課題であり、さまざまな悩みや課題が率直に出されることで教職員が知恵を出し合いながら、解決に向けた意識の向上につながったと思われる。特に、学生の「やりたいけど、どうしてよいかわからない」ことに対して教職員がどのように関わっていくのかについて、他大学の事例を紹介していただいたことは、本学のスケジュールと照らし合わせて検討する大きなきっかけを提供していただいた。教職員の「見守り」は学生に安心感を与えることも重要であることを確認できたことも有意義であった。教職員も、やる必要性を感じながら具体策に行き詰まっていたことから、たいへん意義のある研修会であったと思われる。これまでの取り組みに共通することとして、多くの教職員の中で、授業や学生支援が何となくマンネリ化していた場合や、改善したいと思ってもどのように改善を進めればよいかわからない場合が見られた。また、研修会があるといっても、なかなか参加できなかつたり、参加してみたいと思いつつもそのままになっていた場合もあった。しかし、この講師派遣事業によって、これまでの自分自身の授業を振り返り、改善する糸口をつかむきっかけを提供していただく効果があったと思われる。参加にあまり積極的でない教職員も、学内であれば同僚と参加し、それによって意識改革につながったケースもあった。それによって、他の教員がどのように授業を工夫しているのかという点に関心を持ち始め、実際にその話題がコミュニケーションの中に組み込まれていくケースも見られるようになった。専門分野によって授業形態は異なるものの、改善を図る視点は共通点が多い。したがって、自分の授業をさらに工夫してみようという動機づけにたいへん効果があったと思われる。
- ・具体的な取り組みや変化には至ってはいません。しかしながら、FD委員会では、学生の自立を促すことの大切さや講師の講演力等が話題になり、また、来年度講師派遣の希望事業の選考にも熱が入りました。
- ・本学のFDの企画、実施、運用についての基本的な体制が整い、FD講演会（SPODより講師派遣）への参加も多く、授業改善への意欲が高められと考えられる。
- ・本年の講演「学生の自立を促す学生支援の実践とコツ」では、学生支援の様々な取り組み事例からヒントを得て、日頃感じている問題意識をグループワークで話し合い、具体的な学生支援の素案作成につながったと思われた。一部の素案は、関係する本学委員会で取組の可能性を検討している。
- ・講師の先生の話がわかりやすく、役に立ったという声が多く、こういう研修会に今後も参加し、学内のFD活動をやっていこうという教職員の意欲が高まった。
- ・本学の限られた条件の中で、工夫できる部分がある、という意識を教職員が共有できたこと。しかしながら、それを実現に持っていくまでの様々な課題もある、とそれぞれ気付いたこと。

3. SPOD内講師派遣事業への要望があれば、具体的にお書き下さい。

- ・とてもいい企画ですので、今後も継続していただきたいと思います。講座のタイトルについても毎年工夫がされていると感じます。
- ・今後も継続して行ければと思います。また、講師の養成も行えればと思います。
- ・平成25年度は、新規の研修プログラムもあり、ぜひ聞きたいという声が多くありました。今後も現場の要望を踏まえた新しい研修を実施して頂けると有り難いです。
- ・学生の「主体的な学び」を強化するために、どのように授業改善を図ればよいか。SPOD講師の方々から、組織的な取り組みの具体的な実践例を提供していただき、大学教育の質保証につなげたい。
- ・多様な企画があり、毎回助かっています。
- ・これからも、具体的かつ実践的な研修をよろしくお願いいたします。
- ・SPOD講師派遣事業が始まったため、提示されているプログラム以外の講師を依頼しにくくなった。
- ・新しいトピックを毎年開設して欲しい。
- ・様々なプランが用意されており、現状の学校の取組に対応できることがうれしい。今後も派遣事業を続けてください。
- ・できるならば、今年度と同じ講師に来年度もお願いしたい。
- ・愛媛大学の先生が講師で来てくださるような研修も今後やらせていただきたいと思います。
- ・新しい内容が来年度は増えていて、テーマを一つに絞ることが難しく感じました。有料なら、2つ以上の派遣も可能と聞いていますので、その方向も考慮したいと思っています。
- ・FD／SDに関する情報は、第三者評価とも関連する内容になっていると思われませんが、派遣講師の先生方は高等教育に求められる最新の傾向に関する情報をお持ちだと思います。FD担当者として私も情報収集に心がけてはいますが、専門家として研修の始め、または単に資料提供としてでも構いませんので、世界の流れあるいは日本の流れについてお話いただけると有難いです。
- ・毎年お世話になっており、感謝している。講師派遣のやりくりは大変であると思われるが、ぜひ継続していただきたい。また、平成25年度も多くの新規メニューが追加されている。これもたいへんな準備があったと思われるが、可能な範囲で最新の情報に基づいたプログラムの開発を期待している。
- ・本学のような医療系大学でも関心のあるメニューがあり、感謝しております。
- ・本学のFD講演会（SPODより講師派遣）は、全学的なFD活動を進めるにあたり大変有効に機能している。本学ではSPODとの連携が不可欠であり、SPODの支援は継続していただきたい。
- ・講師により、研修内容・ボリュームと研修時間とのバランスに無理があり、目標まで到達できないケースが見られた。内容を広げすぎず、焦点を絞り、行うことが必要ではないかと感じている。また、講師の技術レベルにもばらつきが見られるため、標準化を検討していただきたい。
- ・今回初めてのSPOD講師派遣事業への参加であり、準備等に不安もあったが、予定どおり実施できた。
- ・今後も、機会があれば大学職員としてのスキル向上、キャリアデザインを図るような事業に参加していきたい。
- ・高専バージョンのプログラムをさらに増やして欲しい。高専用のプログラムならば興味を持つ方が多いので、講師派遣をお願いしたい。しかし、大学向きの内容で高専の状況とかけ離れているものについては、参加者が少なくなり講師の方に申し訳ないので辞退したいと考えている。
- ・本校では男女共同参画推進の取り組みが始まったところであり、今後SD、FDの一貫として意識啓発の研修を取り入れていくこととしています。高専単独ではこうした研修を実施することが難しく、SPODの講師派遣事業として実施できれば有効に活用したいと考えています。

4. SPOD全体への要望があれば、具体的にお書き下さい。

- ・次年度のフォーラムは愛媛大学で、その後持ち回り開催のようですが、なるべく早い段階で開催大学を案内していただきたいと思います。（フォーラム参加予算額の把握の為）
- ・フォーラムが愛媛で開催されることは本学にとっては参加しやすくてとてもありがたいのですが、四国全体を視野に入れば各県持ち回りで愛媛では4年に1回開催というのもやむを得ないかと思います。ただ、もしそうなればフォーラムに変わるような何かの事業が気楽に受講できる形で2年に1回くらい愛媛で行われると嬉しいです。
- ・年々進化しており、これからも継続して発展して行ってほしいです。
- ・日常は授業や校務に追われ、つい目の前の仕事を優先してしまいます。我々にとって最も重要な教育活動をFD・SDによって活性化する大切さを、他校の実例を知ること、折に触れて再認識しています。今後も様々な情報提供をお願いしたいと思います。
- ・大学によっておかれている状況は異なるので、標準化の動きがあまりに加速することのないようにしてもらいたい。
- ・遠隔配信プログラムを増やして欲しい。また、アーカイブをオンデマンドで視聴できるとさらに利便性が上がり、参加者（聴衆）が増えると思います。
- ・2009年度から毎年SPOD研修・フォーラムに参加している状況から、年々、受講するプログラムの幅が狭まってきている。可能であれば、新しいプログラムの導入を検討して頂きたい。
- ・事務系の管理部門の研修があればいいと思う。
- ・フォーラムを愛媛大学で開催して欲しい。
- ・遠隔配信システムを使った研修を、これからもどんどん増やしていただけると、自分が興味を持った研修を気軽に受けられるので、非常に助かります。
- ・大きなテーマから、具体的な詳細なテーマまで網羅しており、他地域のFD／SD研修にはないきめ細やかさが大変役立っています。今のところ特に要望はありません。
- ・各大学において、関心はあっても参加できない教職員が多く存在すると思われる。それだけに講師派遣事業はたいへん貴重な研修の機会である。ぜひこの取り組みを継続していただきたい。宜しくお願いします。
- ・本学でも、若干名ですが来年度にはプロパーの事務職員ができます。小規模校にとっては、その研修育成は単独では経費的にもマンパワー的にも難しいこともあり、SDについても更に活用をさせてもらいたいと考えております。
- ・新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」は、若手教員の授業実践のために必要な能力開発に有効であり、継続していただきたい。
- ・学部、学科の専門性（例えば、医療系）に応じた内容のプログラムを企画していただくと、さらに具体的な教育改善・向上につながると考える。例えば、学生のコミュニケーション能力を高めるための教授法等のプログラム
- ・SPOD講師派遣事業自体は大変有意義なものだと思われるが、受講者および事務的負担をもう少し軽減していただけるとありがたい。
- ・研修の実施時期が、繁忙期と重なり、参加しにくい場合もあり、開催時期・時間帯の検討を要する。
- ・研修参加における、旅費の確保について、検討が必要である。（短時間の研修に、愛媛大学までの旅費がかかる。）
- ・小規模な組織にあっては単独でSD、FDを実施するのが困難な場合が多く、現在愛媛大学で実施される研修や講演会をSPODの実施事業として案内いただき、本校教職員が参加することは非常にありがたく、活用させていただいております。（24年度の例では、衛生管理者免許試験受験準備講習会など）今後もできるだけ多くの研修会、講演会がSPOD事業として実施いただきますよう、よろしくお願いします。
- ・今後も多くの研修・講習等の実施をお願いします。

SPOD 調査・研究プロジェクト

FD 専門部会 (2012 年 12 月 7 日)

山田 剛史

【これまでの経緯 (概略)】

○2011 年 11 月 SPOD 調査・研究プロジェクト設置について協議・承認 (資料 1)

○2012 年 7 月 31 日 調査・研究PJとして、3つの活動の推進について協議・承認 (資料 2)

1. SPOD を受講したことのある教員を対象に、受講後の変化を問う調査
→方法: Web 調査
2. 管理職者を対象に、比較的積極的に SPOD にコミットしている中小規模の大学を絞り込み、そこでの教員の意識や組織レベルでの影響等を問う調査
→方法: 半構造化インタビュー、適宜質問紙を開発・使用
3. 学生を対象に、四国地区の学生実態把握のための調査
→方法: 質問紙調査
→備考: 中長期的に四国地区の学生実態を把握し、フィードバックし、FD の課題把握や IR への活用などの可能性を探ることを目的

○2012 年 7 月 31 日 上記 3 つの活動について、各コア校で意見集約の依頼メールを送付 (加えて、以下の通り今後のスケジュールの通知)

STEP1. 上記 3 つの調査計画を具体化していくために、各自「調査項目案」の検討ならびに「調査対象校」の選定を行い、各校窓口となる教員 (吉田先生@徳島大学、葛城先生@香川大学、俣野先生@高知大学) が情報を集約し、全体統括の山田まで連絡。

STEP2. 情報を整理し、調査の枠組み (仮) が出来たところからこちらから再度連絡。

STEP3. 具体的な実施行程を検討し、ある程度の担当者割り当ての下、実査に入る。

STEP4. データを集約し、入力作業 (←これが結構問題。外注可能?)

STEP5. データを共有し、分析、アウトプット

○2012 年 11 月 18 日 再度メールでの依頼 (主担当校の依頼) (以下 3 つの WG 名で統一)

<WG1>連携効果検証ワーキング (主: 徳島大学, サブ: 愛媛大学)

<WG2>組織変容検証ワーキング (主: 高知大学, サブ: 愛媛大学)

<WG3>学生調査・IR ワーキング (主: 香川大学, サブ: 愛媛大学)

○2012 年 12 月 7 日 FD 専門部会にて各コア校での検討状況の報告+意見交換

特に、上記 STEP1 を始め、調査の枠組み (実施体制や実施運営方法、結果の利活用等) について意見交換

以上

「調査・研究プロジェクト」設置の提案

2011 年 11 月

愛媛大学 教育企画室

1. 問題と目的

愛媛大学を基幹校とした「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（以下、SPOD）」は、2008 年度より文部科学省の戦略 GP の支援を受け、3 ヶ年の事業を終えた。2011 年度からは自立的な運営体制の下で事業を継続している。この間、愛媛大学、徳島大学、香川大学、高知大学の 4 校が各県のコア校として、教職員の能力開発プログラムを開発・実施し、大学の教育力向上を図ってきた。これら様々な取組の効果を検証するとともに、そうした取組の効果の一環として SPOD 加盟校における組織変容を捉えることによって、今後の SPOD の質保証・向上が可能になると思われる。これが目的の 1 つである。さらにこうした検証活動を含め、SPOD 内で継続的な調査・研究の推進を行っていくことも重要であると考え。そこで、第 2 の目的として SPOD における「調査・研究プロジェクト」の設置を提案する。

2. 実施体制

SPOD 事業においては、FD と SD の 2 本柱で人材育成を行ってきた。SPOD ネットワークコア運営協議会においても FD・SD それぞれの専門部会を置いて審議・検討を行ってきた。今回の効果検証プロジェクトや今後の調査・研究プロジェクトには、愛媛大学の教育企画室関係教職員に加え、SPOD 加盟校の教職員も自由に参加することが可能となる。

3. 「SPOD 効果検証・組織変容プロジェクト」の実施方法

検証の具体的な方法（レベル・目的・対象・方法）は以下の通りである（下表／仮案）。一般教職員から SPOD でプログラムを受講した教職員、SPOD のプログラム推進者（実施者や運営に携わるメンバー等）や当該組織で FD/SD を推進する教職員、さらには教員・職員組織の管理者ならびに機関の長を対象とする。実際には、FD/SD の現状（課題や問題点）や SPOD に対する認知度や実施による効果、組織変容（何らかの組織の新設や改組の実態やそのプロセス）といった点について、アンケートやインタビュー調査によってデータを収集する。なお、アンケートやインタビューを行う上で、SPOD の効果検証のみならず、FD/SD の効果や組織変容（組織状態の診断）を捉える指標（ルーブリック等）の開発も行う。

レベル	ミクロ	ミドル	マクロ
目的	(1)SPOD によって提供したセミナーやプログラムの効果検証 (2)SPOD における教職員のニーズ測定	SPOD による組織変容（教員の意識や授業、カリキュラム等）の効果測定	SPOD による組織変容（大学・学部・学科の組織風土や組織改組等）の効果測定
対象（教員）	(1)プログラム受講者 (2)一般教員	a.プログラム推進者 b.学部・学科の FD 担当者	管理者（学長・学部長・学科長）
対象（職員）	(1)プログラム受講者 (2)一般職員	a.プログラム推進者 b.人事課等の SD 担当者 c.教育・学生関係職員	管理者（学長・総務や教育・学生関係の管理者）
方法	(1)既に実施・蓄積している受講後のアンケート結果 (2)既に実施したニーズアンケート＋ α	a.アンケート（新規） b.インタビュー（新規） c.関連するエビデンス	a.アンケート（新規） b.インタビュー（新規） c.関連するエビデンス

また、各機関の組織内における FD/SD の実施状況や成果等に関わるエビデンスがあれば適宜収集する。さらに、特に FD の効果を問う場合に学習者の視点は重要である。学生の学習の質向上等が図れているようなケース（エビデンス）があれば併せて収集する。ただし、ここは SPOD の効果として説明するには影響力が弱いと考えられるため、参考程度に止める。

4. 期待される効果

多くの高等教育機関で FD や SD の取組は進められてきているが、そうした取組の効果や組織に及ぼす影響など多面的に捉える指標や方法の開発はほとんど進んでいない。SPOD の中で開発された体系的かつ膨大なプログラムとネットワークの利点を活かして、きちんとした効果検証の方法（≡評価モデル）を構築することで、ネットワークそのものの継続的な向上（PDCA サイクル）と実践研究としての価値の創造が図られると考える。

また、今回の「調査・研究プロジェクト」は、これまでの取組（過去）の検証ということだけではなく、今現在あるいは今後加盟校において必要な課題や検討したい事項などを取り上げ、調査・研究していくということを志向している。

5. 備考

なお、本事業はメインフィールドを SPOD 内に置いているが、適宜、愛媛大学教育企画室が展開している「教職員能力開発拠点」事業とも連携しながら進めていく。

以上

5. 平成24年度各加盟校の活動報告 (5) SPOD運営

- ① 「ネットワークコア運営協議会」資料
- ② 「各県内加盟校会議」資料

①ネットワークコア運営協議会

平成24年度第1回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成24年4月24日（火）10:00～11:00
- 2 場 所 各コア校（遠隔会議システム利用）
- 3 出席者 徳島大学 日置教授，川野教授，宮田准教授，香川准教授，吉田助教，
坂東教育支援課長，槌谷教育支援課総務・企画係長
香川大学 佐藤講師，野口修学支援グループチーフ，岡本給与福利グループリーダー，
篠原給与福利グループチーフ，高嶋学務グループサブリーダー
高知大学 塩崎教授，立川准教授，俣野講師，池本人事課長，田所人事課課長補佐，
中澤人事課労務管理係事務補佐員，有澤学務課総合教育センター事務係長，
笹岡学務課総合教育センター事務係員
愛媛大学 秦教授，佐藤准教授，山田准教授，仲道助教，大竹助教，阿部特任助教，
米澤教育学生支援部長，吉田人事課長，神教育企画課長，秋谷人事課副課長，
上甲人事課人材育成チームリーダー，神谷人事課員，川井人事課員，
長野教育企画課教育企画チームリーダー，山内教育企画課員，岸岡教育企画課員，
渡部教育企画課員，戸田教育企画課員

4 議 題

議事に先立ち，平成24年度第1回開催に当たりSPODネットワークコア運営協議会構成員の自己紹介を行った。

（1） ネットワークコア運営協議会の構成員等について

議長から資料1-1及び参考資料1に基づき，平成24年度のネットワークコア運営協議会の構成員について説明があり，了承された。

引き続き，議長から資料1-2～3及び参考資料2～3に基づき，FD／SD専門部会の構成員について説明があり，了承された。

（2） SPODフォーラム2012について

議長から資料2-1に基づき，SPODフォーラム2012の実施要項（案）について説明があった。なお，SPOD事務局の長野より，共催として愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室を追加することについて提案があり，了承された。

徳島大学宮田委員から資料2-2に基づき，SPODフォーラム2012の日程（案）について説明があり，意見交換を行った。コア校からは，SD向けのプログラムの追加や，各講義タイトルの変更，シンポジウムのテーマやパネリスト等について意見があり，今後SPOD事務局と検討していくこととなった。

（3） SPODが拠点に提供するプログラムについて

- 議長から資料３－１～２及び参考資料４に基づき、教職員能力開発拠点からＳＰＯＤに対して研修プログラムの利用依頼があったことについて説明があり、了承された。
- (４) 平成２３年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会について
議長から資料４－１～６に基づき、平成２４年３月２９日に開催されたネットワーク総会について報告があった。
次に、ＳＰＯＤ事務局の長野から資料４－４に基づき、共同事業契約書の修正内容について説明があった。なお、今年度の共同事業契約書に関しては、既に契約の手続きに入っているため、速やかな締結に向けて協力してもらうよう依頼があった。
- (５) 平成２３年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」ＦＤ／ＳＤ分科会について
議長から資料５－１～２に基づき、平成２４年３月２９日に開催されたＦＤ分科会について説明があった。続いて、愛媛大学秦委員から資料５－３に基づき、ＳＤ分科会について説明があった。
- (６) 平成２３年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査結果について
議長から資料６及び参考資料５に基づき、平成２４年３月２９日に開催された、監事による会計監査の実施結果について報告があった。嘉門監事から、活動報告書の頁数が多く、経費の削減を図るため、掲載内容を見直し、内容の一部をホームページに掲載してはどうかとの指摘があり、指摘事項については今後ＳＰＯＤ事務局において検討していくとの説明があり、了承された。
- (７) 平成２４年度事業計画等について
議長から資料７－１～２に基づき、平成２４年度のＳＰＯＤ事業に関して、平成２４年３月２９日に開催されたネットワーク総会において承認されたため、当該事業計画に基づき運営するとの説明があった。
- (８) 平成２４年度講師養成研修の開催について
愛媛大学吉田委員から資料８に基づき、平成２４年５月１８日に開催する「講師養成研修」の概要について説明があった。
- (９) 平成２４年度次世代リーダー養成研修（第１回）の開催について
愛媛大学吉田委員から資料９に基づき、平成２４年６月２１日～２３日に開催する「次世代リーダー養成研修」の概要について説明があった。
- (１０) 平成２４年度大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅢ）の開催について
愛媛大学吉田委員から資料１０に基づき、平成２４年６月７日～８日に開催する「大学人、社会人としての基礎力養成研修（レベルⅢ）」の概要について説明があった。

(1 1) 研修プログラムガイド 2 0 1 2 について

議長から資料 1 1 に基づき、研修プログラムガイド 2 0 1 2 に掲載する S P O D 提供のプログラムについて説明があった。

(1 2) その他

議長から、次回の第 2 回ネットワークコア運営協議会は、5 月に遠隔で開催するとの説明があった。

平成24年度第2回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成24年5月22日（火） 10:30～11:15
- 2 場 所 各コア校（遠隔会議システム利用）
- 3 出席者 徳島大学 日置教授，川野教授，宮田准教授，香川准教授，吉田助教，
坂東教育支援課長，槌谷教育支援課総務・企画係長，
奈良教育支援課総務・企画係員，越久教育支援課総務・企画係事務補佐員
香川大学 佐藤講師，野口修学支援グループチーフ，岡本給与福利グループリーダー，
篠原給与福利グループチーフ，高嶋学務グループサブリーダー
高知大学 塩崎教授，立川准教授，俣野講師，中澤人事課労務管理係事務補佐員，
有澤学務課総合教育センター事務係長，笹岡学務課総合教育センター事務係員
愛媛大学 秦教授（議長代理），仲道助教，米澤教育学生支援部長，吉田人事課長，
神教育企画課長，秋谷人事課副課長，上甲人事課人材育成チームリーダー，
川井人事課員，山内教育企画課員，岸岡教育企画課員，渡部教育企画課員，
戸田教育企画課員

4 議 題

（1） SPOD事業評価について

議長から資料1-1～2及び参考資料1～2に基づき，平成23年度のSPOD事業における事業評価委員会委員からの主なコメントについて説明があり，コア校から今後のSPOD事業の課題や改善点について意見をもらった。

なお，事業評価委員会からのコメントに対する検討課題及びその対応案については，次のネットワークコア運営協議会において審議するため，意見があれば次回までにSPOD事務局に提出するよう依頼があった。

（2） SPODフォーラムについて

徳島大学宮田委員から資料2及び参考資料3に基づき，フォーラム2012のプログラム案について，前回のネットワークコア運営協議会からの変更点について説明があった。

なお，議長より，既に依頼済みである各プログラムのシラバスについて，作成にあたっては申込者が内容をイメージできる内容となるよう，再度依頼があった。

引き続き，議長から来年度のフォーラムの開催場所について，今年度開催の徳島大学を除くコア校で開催したい旨の説明があり，各校において開催の可能性について検討するよう依頼があった。このことについて，香川大学高嶋委員から，当初の共同事業契約の際に，フォーラムは愛媛大学で開催し，それに協力するというを条件としていたため，香川大学での開催の検討は難しいとの意見があった。引き続き，高知大学塩崎委員から，愛媛大学以外のコア校で開催した翌年は愛媛大学で開催するというサイクルで行うということも選択肢に入れた上で，高知大学での開催を検討するとの意見があった。

なお、議長より、各校における検討状況については、次回のネットワークコア運営協議会において報告してもらう予定であるとの説明があった。

(3) 他フォーラム派遣者からの意見について

SPOD事務局の神から資料3及び参考資料4に基づき、昨年度末に他機関が主催するフォーラム等に派遣した加盟校の教職員からの意見をもとに作成した対応案について説明があり、今後のSPODフォーラム事業に活かすこととなった。

なお、議長から、資料3の改善・検討要望事項の3～5番の対応策については、今年度のSPODフォーラムの主催校である徳島大学において対応してもらうよう依頼があった。

(4) 学務系職員養成プログラム研修（レベルⅡ）の開催について

SPOD事務局の山内から資料4に基づき、平成24年7月12日～13日に開催する「学務系職員養成プログラム研修（レベルⅡ）」の概要について説明があった。

(5) その他

議長から、次回の第3回ネットワークコア運営協議会は、6月に愛媛大学においてFD／SD専門部会と同日開催することで調整中との説明があった。

平成24年度第3回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成24年6月11日（月）10:00～11:30
- 2 場 所 各コア校（遠隔会議システム利用）
- 3 出席者 徳島大学 日置教授，川野教授，宮田准教授，香川准教授，吉田助教，
奈良教育支援課総務・企画係，槌谷教育支援課総務・企画係長，
越久教育支援課総務・企画係事務補佐員
香川大学 葛城准教授，野口修学支援グループチーフ，岡本給与福利グループリーダー，
篠原給与福利グループチーフ
高知大学 塩崎教授，有友人事課労務管理係長，中澤人事課労務管理係事務補佐員，
笹岡学務課総合教育センター事務係員
愛媛大学 佐藤准教授，山田准教授，仲道助教，大竹助教，神教育企画課長，
秋谷人事課副課長，上甲人事課人材育成チームリーダー，
青野人事課人材育成チームリーダー，神谷人事課員，川井人事課員，
長野教育企画課教育企画チームリーダー，山内教育企画課員，
岸岡教育企画課員，渡部教育企画課員，戸田教育企画課員

4 議 題

（1）SPOD事業評価について

議長から資料1及び参考資料1～2に基づき，事業評価委員の指摘事項に対する対応策案について説明があった。

なお，徳島大学宮田委員から，事業評価委員から指摘があった「SPOD News」を発行してはどうかとの発言があり，SPOD事務局で検討することとなった。

（2）SPODフォーラムについて

徳島大学宮田委員から資料2-1に基づき，SPODフォーラムのプログラム（案）の変更内容について説明があり，了承された。

次に，SPOD事務局の長野から資料2-2に基づき，SPODフォーラムのチラシを確認していただき，修正が必要な場合は，6月15日（金）までに連絡願いたい旨の説明があった。チラシは，6月22日（金）に納品予定で，後日，加盟校に発送する旨の説明があった。

次に，徳島大学宮田委員から資料2-3～4に基づき，シンポジウムの日程等について説明があった。

次に，議長から資料2-5に基づき，昨年度と同様，会場内に展示スペースを設置し，SPOD加盟校の取組の成果物などの展示や資料の配布，SPOD紹介のDVDを放映するスペースを設けて欲しい旨の提案があり，了承された。

次に，議長から資料2-6～7に基づき，参加者が当日記載する個別プログラム用のアンケート，フォーラム終了後に参加者にメールを送信して行うアンケートについての説明があり，了承された。

なお、高知大学塩崎委員から、フォーラムの参加回数に関する質問項目を設けたら良いのではないかという提案があり、SPOD事務局で検討することとなった。

次に、議長から、来年度のフォーラムの開催について、高知大学、香川大学の検討状況について報告を求めた。高知大学塩崎委員からは、来年度、「教員免許状更新講習」及び「社会教育主事講習」の2つの講習を8月に開催すること、更に、両講習の実施事務の担当は、SPODの担当でもあることから、来年度の開催は難しい旨の報告があった。香川大学葛城委員からは、教育担当理事と検討した結果、マンパワーに問題があり、来年度の開催は難しい旨の報告があった。これらの報告を踏まえ、議長から来年度は愛媛大学で開催する旨の説明があった。

(3) SPOD研修講師一覧について

議長から資料3及び参考資料3に基づき、SPODホームページの研修講師一覧に、愛媛大学の仲道助教、阿部特任助教を新たに登録することについて説明があり、了承された。

なお、新たに研修講師として登録する、又は登録済みの講師で記載内容に変更がある場合は、速やかにSPOD事務局まで連絡いただきたい旨の説明があった。

(4) 授業デザインワークショップの開催について

議長から資料4に基づき、7月7日(土)～8日(日)に久万高原ふるさと村、9月5日(水)～6日(木)に国立大洲青少年交流の家で開催する授業デザインワークショップの概要について説明があった。

なお、議長から、SPODではコア校間で新任教員研修の標準化を図るため、各コア校で実施する新任教員研修について本運営協議会に報告していただき、各コア校から加盟校に積極的に参加を呼びかけて欲しい旨の発言があった。

(5) 次世代リーダー養成研修の開催について

愛媛大学秋谷委員から資料5に基づき、7月19日(木)～21日(土)に徳島大学、四国大学で開催する次世代リーダー養成研修(第2回)の概要について説明があった。

(6) その他

- ① 議長から資料6に基づき、5月21日(月)に開催された中央教育審議会大学分科会大学教育部会(第15回)に議長が招へいされ、「日本のFDに関する3つの提言～愛媛大学と四国地区大学教職員能力開発ネットワークを事例に～」について発表した旨の報告があった。
- ② SPOD事務局の長野から、毎月、本運営協議会の開催日程の調整を行っているが、調整が困難なときもあることから、9月以降は、定例開催日を決めて開催したい旨の説明があり、今後調整を行うので、協力願いたい旨の発言があった。
- ③ 議長から次回運営協議会は、愛媛大学において開催するFD/SD専門部会と同じ日に開催する予定で調整している旨の発言があった。

平成24年度第4回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成24年7月31日（火） 15：45～17：15
- 2 場 所 愛媛大学城北キャンパス 法文学部本館2階 中会議室
- 3 出席者 徳島大学 吉田助教，坂東教育支援課長
香川大学 葛城准教授，岡本給与・福利グループリーダー，篠原給与・福利グループチーフ
高知大学 塩崎教授，立川准教授，俣野講師，有澤学務課総合教育センター事務係長，
中澤人事課労務管理係事務補佐員，
愛媛大学 秦教授，佐藤准教授，山田准教授，大竹助教，阿部特任助教，
米澤教育学生支援部長，吉田人事課長，神教育企画課長，
秋谷人事課副課長，神谷人事課員，川井人事課員，
長野教育企画課教育企画チームリーダー，山内教育企画課員，岸岡教育企画課員，
渡部教育企画課員，戸田教育企画課員

4 議 題

- (1) SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの名称付与について
愛媛大学秦委員から資料1-1～2に基づき，同日開催された第1回ネットワークコア運営協議会SD専門部会において，愛媛大学阿部特任助教が名称付与基準を満たしていると認められた旨の説明があり，了承された。

(2) SPODフォーラムについて

SPOD事務局の長野から資料2-1～2及び参考資料1に基づき，SPODフォーラム2012の現在の申込み状況及び二次募集の実施について報告があった。また，申込みのない加盟校については，各コア校からも呼びかけていただくよう依頼があった。

引き続き，SPOD事務局の長野から，加盟校外からの研修料収入に関して，当初予算額を超えた収入額の取扱いについては，昨年度同様に，フォーラム経費に充当する旨の説明があり，了承された。

次に，徳島大学吉田委員から，現在の準備状況について説明があった。

次に，議長から来年度以降のSPODフォーラムの開催について，平成25年度は愛媛大学で開催することとし，平成26年度以降の開催場所については，他県での開催を視野に，引き続きネットワークコア運営協議会において検討していきたい旨の説明があった。なお，議長から，開催場所をコア校に限定せず，県単位で受け入れ大学を検討する旨の提案があり，了承された。

(3) 平成25年度における負担金の算定方法について

SPOD事務局の長野から資料3-1～2に基づき，来年度の事業経費に係る各加盟校の負担金の算定方法について説明があった。今年度と同様に学校基本調査における教職員数に基づき算定することとし，本年5月1日現在の教職員数を調査する旨の説明があり，了承された。

なお、各加盟校の負担金額については、次回のネットワークコア運営協議会において平成24年度事業計画と併せて審議する予定である旨の説明があった。

(4) 各コア校で実施する新任教員研修について

議長から資料4-1に基づき、9月5日(水)～6日(木)に国立大洲青少年交流の家で開催する、第19回授業デザインワークショップの概要について説明があった。

次に、徳島大学吉田委員から資料4-2に基づき、8月31日(金)～9月1日(土)に徳島大学で開催する、教育力開発基礎プログラムの概要について説明があった。

次に、香川大学葛城委員から資料4-3に基づき、9月20日(木)～21日(金)に四国電力株式会社総合研修所で開催する、第3回よりよい授業のためのFDワークショップの概要について説明があった。

次に、高知大学塩崎委員から資料4-4に基づき、9月3日(月)～4日(火)に高知大学で開催する、新任教員FDワークショップ「学生の学びを支援する授業の準備」の概要について説明があった。

(5) ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(西四国)の実施について

愛媛大学秦委員から資料5-1～2に基づき、9月25日(火)～26日(水)に愛媛大学で開催する、ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(西四国)の概要について説明があった。

次に、議長から、まだ定員に余裕があるため、引き続き各コア校から加盟校に参加を呼びかけていただくよう依頼があった。

(6) 愛媛大学夏季FD・SDスキルアップ講座の実施について

議長から資料6及び参考資料2に基づき、8月末から9月中旬にかけて愛媛大学で開催する、夏季FD・SDスキルアップ講座の概要について説明があった。

(7) 高知大学秋季FDセミナーの実施について

高知大学塩崎委員から資料7及び参考資料3に基づき、9月に高知大学で開催する、秋季FDセミナーの概要について説明があった。

(8) 教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップの実施について

愛媛大学大竹委員から資料8に基づき、9月22日(土)～23日(日)に愛媛大学で開催する、教える仕事に就きたい大学院生のためのワークショップの概要について説明があった。

(9) 平成 2 4 年度大学人, 社会人としての基礎力養成プログラム研修 (レベルⅡ) の実施について

愛媛大学吉田委員から資料 9 に基づき, 9 月 1 3 日 (木) ～ 1 4 日 (金) に愛媛大学で開催する, 大学人, 社会人としての基礎力養成プログラム研修 (レベルⅡ) の概要について説明があった。

(1 0) その他

- ①議長から資料 1 0 - 1 に基づき, 8 月 1 日 (水) に愛媛大学で開催する, 公開シンポジウム「学習意欲を高める授業とカリキュラムデザイン」の概要について説明があった。
- ②S P O D 事務局の長野から資料 1 0 - 2 に基づき, 今後のネットワークコア運営協議会の開催スケジュール (案) について提案があり, 遠隔会議の会場の確保を確認した上で正式に決定することです承された。
- ③議長から次回の第 5 回ネットワークコア運営協議会は, 1 0 月 2 日 (火) に遠隔で開催する旨の説明があった。

平成24年度第5回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成24年10月2日（火）13:00～14:40
- 2 場 所 各コア校（遠隔会議システム利用）
- 3 出席者 徳島大学 日置教授，川野教授，宮田准教授，香川准教授，吉田助教，
坂東教育支援課長，原田教育支援課総務・企画係長，
奈良教育支援課総務・企画係員，越久教育支援課総務・企画係員
香川大学 葛城准教授，岡本給与福利グループリーダー，篠原給与福利グループチーフ，
高嶋学務グループサブリーダー
高知大学 塩崎教授，立川准教授，俣野講師，有友人事課労務管理係長，
中澤人事課労務管理係員，有澤学務課総合教育センター事務係長，
笹岡学務課総合教育センター事務係員
愛媛大学 佐藤准教授，山田准教授，大竹助教，阿部特任助教，米澤教育学生支援部長，
吉田人事課長，神教育企画課長，秋谷人事課副課長，
上甲人事課人材育成チームリーダー，川井人事課員，神谷人事課員，
長野教育企画課教育企画チームリーダー，山内教育企画課員，岸岡教育企画課員，
渡部教育企画課員，戸田教育企画課員

4 議 題

（1）SPODフォーラム2012の総括について

SPOD事務局の長野から資料1-1に基づき，フォーラムの参加者数及びSPOD加盟校以外の参加者からの研修料収入について報告があった。

次に，議長から資料1-2～4に基づき，フォーラム全体アンケートの集計結果，及び各プログラムの個別アンケートの結果について説明があった。

次に，愛媛大学山田委員から資料1-5に基づき，これまで実施したフォーラム全体アンケートを経年比較した分析結果について説明があった。

議長から資料1-6に基づき，参加者からの要望等に対する対応案について説明があり，コア校から意見をいただいた。なお，各コア校からの意見についてはとりまとめの上，来年度のSPODフォーラムに活かす旨の説明があった。

（2）平成25年度SPOD事業計画について

資料2-1及び参考資料1に基づき，来年度のSPOD事業計画（案）について，今年度からの変更点を含め議長からFD事業の概要の説明があった。引き続き，愛媛大学吉田委員からSD事業について概要の説明があった。

次に，議長から資料2-2に基づき，来年度のSPODフォーラムについて，開催日程及び全体テーマ等の説明があった。

（3）平成24年度SPOD事業経費の執行について

SPOD事務局の長野から資料3-1～2に基づき，平成24年度事業経費の9月末時点の執行状況について報告があった。なお，来年度の事業経費については，次回のネットワークコア運営協議会において審議する旨の説明があった。

(4) 平成24年度事業の実施状況（中間報告）について

議長から資料4-1～2に基づき、平成24年度の各種事業の実施状況について報告があった。続いて、各コア校よりプログラムの実施状況について報告があった。

引き続き、議長から資料4-3に基づき、SPOD加盟校内講師派遣プログラムの実施状況について報告があった。なお、各コア校で新たに追加できるプログラム及び講師については、次回協議会までに検討いただきたい旨の依頼があった。

(5) SPODネットワークコア運営協議会FD/SD専門部会について

議長から資料5-1に基づき、第4回ネットワークコア運営協議会後に開催されたFD専門部会の概要について説明があった。次に、愛媛大学吉田委員から資料5-2に基づき、SD専門部会の概要について説明があった。

(6) 平成24年度大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修の開催について

愛媛大学吉田委員から資料6-1に基づき、10月17日（水）～19日（金）に愛媛大学で開催する大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）の概要について説明があった。引き続き、愛媛大学吉田委員から資料6-2に基づき、11月19日（月）～20日（火）に愛媛大学で開催する第2回大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）の概要について説明があった。なお、レベルⅡは、9月13日（木）～14日（金）に1度開催しているが、参加希望が多数で受講が受け付けられなかったため、2回目を開催する旨の説明があった。

(7) 平成24年度次世代リーダー養成研修（第3回）の開催について

愛媛大学吉田委員から資料7に基づき、11月15日（木）～16日（金）に高松テルサで開催する次世代リーダー養成研修（第3回）の概要について説明があった。

(8) その他

- ①議長から資料8-1に基づき、11月3日（土）～6日（火）に東北地区で開催する「FD・SDセミナーin東北」の概要について説明があった。
- ②愛媛大学阿部委員から資料8-2に基づき、大学間連携共同教育推進事業の概要について説明があった。なお、議長から、本事業はSPODとも連携するため、各コア校に協力していただきたい旨の依頼があった。
- ③愛媛大学吉田委員から資料8-3に基づき、ワシントン大学から人事部長のデニス・ローリン氏を招いて、11月12日（月）に愛媛大学主催でSDセミナーを開催する旨の説明があった。なお、11月14日（水）には愛媛大学以外のコア校でのSDセミナー開催を考えているため、各コア校で受け入れ可能か検討いただき、連絡いただくよう依頼があった。
- ④議長から次回の第6回ネットワークコア運営協議会は、11月13日（火）に遠隔で開催する旨の説明があった。

平成24年度第6回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成24年11月13日（火）13:00～14:30
- 2 場 所 各コア校（遠隔会議システム利用）
- 3 出席者 徳島大学 宮田准教授，香川准教授，吉田助教，坂東教育支援課長，
原田教育支援課総務・企画係長，奈良教育支援課総務・企画係員，
越久教育支援課総務・企画係員
香川大学 佐藤講師，野口修学支援グループチーフ，高嶋学務グループサブリダー
高知大学 塩崎教授，立川准教授，中山人事課長，有友人事課労務管理係長，
田所人事課課長補佐，中澤人事課労務管理係員，
有澤学務課総合教育センター事務係長，笹岡学務課総合教育センター事務係員
愛媛大学 秦教授，佐藤准教授，山田准教授，仲道助教，大竹助教，阿部特任助教，
米澤教育学生支援部長，吉田人事課長，秋谷人事課副課長，
上甲人事課人材育成チームリーダー，川井人事課員，神谷人事課員，
長野教育企画課教育企画チームリーダー，山内教育企画課員，
岸岡教育企画課員，渡部教育企画課員，戸田教育企画課員

4 議 題

議事に先立ち，11月1日付けで人事異動があったため，高知大学 中山人事課長から挨拶があった。

（1）平成25年度SPOD事業計画について

議長から資料1-1～2に基づき，来年度のSPOD事業計画（案）について，前回からの変更点について説明があり，了承された。

（2）平成25年度SPOD事業経費について

SPOD事務局の長野から資料2及び参考資料1に基づき，来年度のSPOD事業経費（案）について，今年度からの変更点を含めて説明があった。なお，各コア校において，来年度の事業経費について意見がある場合には，次回のネットワークコア運営協議会までにSPOD事務局に連絡いただくよう依頼があった。また，事業経費（案）は次回のネットワークコア運営協議会において確定し，各加盟校に確認を行う旨の説明があった。

（3）SPOD内講師派遣について

議長から資料3-1～2及び参考資料2に基づき，来年度のSPOD内講師派遣について，新規プログラムの追加及びその概要に関する説明があった。また，各プログラムについて，各コア校において担当可能なプログラムがないか確認の上，11月30日（金）までにSPOD事務局に連絡いただくよう依頼があった。

（4）研修プログラムガイド2013について

愛媛大学大竹委員から資料4-1～4に基づき，来年度の「研修プログラムガイド2013」の作成について説明があり，了承された。

(5) ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップの実施について

愛媛大学秦委員から資料5に基づき、12月21日(金)～23日(日)に愛媛大学で開催するティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(高専対象)の概要について説明があった。

(6) アカデミック・ポートフォリオ開発ワークショップの実施について

愛媛大学秦委員から資料6に基づき、議題5で説明したティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップと同日開催するアカデミック・ポートフォリオ開発ワークショップの概要について説明があった。

(7) SDセミナーの開催について

愛媛大学秦委員から、資料7-1～2及び参考資料3に基づき、11月12日(月)にアメリカのワシントン大学からデニス・ローリン氏を招いて愛媛大学で開催したSDセミナーについて説明があった。また、11月14日(水)に、香川大学でも同様のセミナーを開催するため、参加依頼があった。

(8) 平成24年度大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修について

愛媛大学吉田委員から資料8-1～2に基づき、6月7日(木)～8日(金)に開催した「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅢ)」及び、9月13日(木)～14日(金)に開催した「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)」のアンケート集計結果について説明があった。

(9) 大学教育カンファレンス in 徳島の開催について

徳島大学宮田委員から資料9に基づき、12月26日(水)に徳島大学で開催する大学教育カンファレンス in 徳島の概要について説明があった。

(10) その他

議長から次回の第7回ネットワークコア運営協議会の開催について、12月7日(金)に高知大学において、FD/SD専門部会と同日開催する旨の説明があった。

平成24年度第7回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成24年12月7日（金） 16：15～17：20
- 2 場 所 高知大学朝倉キャンパス 総合教育棟2階会議室1
- 3 出席者 徳島大学 宮田准教授，吉田助教，坂東教育支援課長
香川大学 佐藤講師，野口修学支援グループチーフ，岡本給与・福利グループリーダー
高知大学 塩崎教授，立川准教授，俣野講師，田所人事課課長補佐，
有友人事課労務管理係長，中澤人事課労務管理係員，
有澤学務課総合教育センター事務係長，笹岡学務課総合教育センター事務係員
愛媛大学 秦教授，佐藤准教授，仲道助教，米澤教育学生支援部長，
神教育企画課長，上甲人事課人材育成チームリーダー，川井人事課員，
神谷人事課員，長野教育企画課教育企画チームリーダー，山内教育企画課員，
渡部教育企画課員

4 議 題

（1）平成25年度SPOD事業について

議長から資料1-1に基づき，来年度のSPOD事業計画（案）について，前回からの変更点の説明があった。

続いて，愛媛大学秦委員から「次世代リーダー養成研修」の名称については，本日開催された第2回ネットワークコア運営協議会SD専門部会において，4期生募集より，「次世代リーダー養成ゼミナール（通称：次世代リーダー養成ゼミ）」に変更することとなった旨の報告があった。また，調査研究プロジェクト事業については，⑤の連携効果検証ワーキンググループ（SD部門）の名称を，連携効果・組織変容検証ワーキンググループ（SD部門）に変更することについて提案があり，了承された。

次に，SPOD事務局の長野から資料1-2及び参考資料1に基づき，来年度のSPOD事業経費（案）について，前回からの変更点の説明があり，了承された。なお，事業経費（案）については，後日各加盟校に意見照会する旨の説明があった。

（2）平成25年度SPOD内講師派遣について

議長から資料2-1～2に基づき，来年度のSPOD内講師派遣について，前回からの変更点の説明があった。なお，一部プログラムについては，プログラム名を再検討するよう要望があったため，改めて検討することとなった。各加盟校への希望調査については，プログラム名決定後，資料2-1～2のプログラム一覧及び概要を送付して行う旨の説明があった。

引き続き議長から資料2-3に基づき，SPODホームページの研修講師一覧に掲載する講師について，香川大学の岩中准教授を追加する旨の説明があり，了承された。なお，研修講師一覧の新規追加及び内容の修正がある場合には，SPOD事務局に連絡いただくよう依頼があった。

（3）SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定について

愛媛大学秦委員から資料3-1～2及び参考資料2に基づき，本日開催された第2回ネットワークコア運営協議会SD専門部会において，愛媛大学教育学生支援部の岸岡教育企画課員が名称付与基準を満たしていると認められたため，SPOD-SDCとして認定することとなった旨の説明があり，了承された。

(4) SPODホームページの改修について

SPOD事務局の長野から資料4に基づき、SPODホームページの改修案について説明があり、了承された。なお、追加したい項目がある場合には、12月21日（金）までに事務局まで連絡いただくよう依頼があった。

(5) 平成24年度SPOD活動報告書について

SPOD事務局の長野から資料5-1～2及び参考資料3に基づき、今年度のSPOD活動報告書について、前年度の会計監査における監事からの指摘を踏まえ、冊子版とHP掲載版を作成する旨の説明があった。なお、冊子版に追加掲載したい事項がある場合には、12月21日（金）までに事務局まで連絡いただくよう依頼があった。

(6) 平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及びFD／SD分科会の開催について

議長から資料6に基づき、平成25年3月下旬開催予定のSPODネットワーク総会及びFD／SD分科会について説明があった。また、総会にあわせて、「トップリーダーセミナー」を開催する予定である旨の説明があり、了承された。なお、開催日程については、各加盟校との日程調整の上で決定する旨の説明があった。

(7) 平成24年度SPOD事業評価委員会の開催について

議長から資料7及び参考資料4～5に基づき、平成25年3月開催予定のSPOD事業評価委員会について説明があった。なお、開催日程については、事業評価委員及び各コア校のSPOD関係者との調整の上で決定する旨の説明があった。

なお、企画・実施統括者は、来年度から同委員会から外れる方向で検討し、今年度中に事業評価委員会要項を改正することとなった。

(8) 各コア校で実施する新任教員研修について

各コア校のFD担当者から資料8-1～4及び参考資料6～9に基づき、各コア校で今年度開催した新任教員研修のアンケート集計結果について報告があった。

(9) 次世代リーダー養成研修について

愛媛大学秦委員から資料9に基づき、平成25年1月24日（木）～26日（土）に高知大学及び高知工科大学で開催される「次世代リーダー養成研修（第4回）」の概要について説明があった。

(10) 平成24年度大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修について

愛媛大学上甲委員から資料10に基づき、10月17日（水）～19日（金）に開催した「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅠ）」のアンケート集計結果について説明があった。

(11) その他

議長から次回の第8回ネットワークコア運営協議会の開催については、平成25年1月29日（火）に遠隔で開催する旨の説明があった。

平成24年度第8回SPODネットワークコア運営協議会議事概要

- 1 日 時 平成25年1月29日（火）13:00～14:30
- 2 場 所 各コア校（遠隔会議システム利用）
- 3 出席者 徳島大学 香川准教授，宮田准教授，吉田助教，坂東教育支援課長，
原田教育支援課総務・企画係長，奈良教育支援課総務・企画係員，
越久教育支援課総務・企画係員
香川大学 葛城准教授，佐藤講師，野口修学支援グループチーフ，
岡本給与・福利グループリーダー，篠原給与・福利グループチーフ，
高嶋学務グループサブリーダー
高知大学 塩崎教授，立川准教授，俣野講師，中山人事課長，
田所人事課課長補佐，川崎人事課課長補佐，
有友人事課労務管理係長，中澤人事課労務管理係員，
有澤学務課総合教育センター事務係長，石川学務課総合教育センター事務係員
愛媛大学 佐藤准教授，山田准教授，仲道助教，大竹助教，阿部特任助教，
米澤教育学生支援部長，吉田人事課長，神教育企画課長，
上甲人事課人材育成チームリーダー，川井人事課員，神谷人事課員，
長野教育企画課教育企画チームリーダー，山内教育企画課員，
岸岡教育企画課員，秋山教育企画課員，渡部教育企画課員，
戸田教育企画課員

4 議 題

（1）「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」規約等の改正について

議長から資料1-1～2に基づき，事業評価委員会の構成員について，ネットワーク規約及び事業評価委員会要項の改正（案）が提案され，3月29日（金）開催のネットワーク総会に付議することとなった。

また，事業評価委員の任期が今年度末で満了となるため，次期評価委員候補者については，今回のネットワークコア運営協議会において提案する旨の補足があった。

（2）平成23年度事業評価委員会委員からの指摘事項に対する対応状況について

議長から資料2に基づき，昨年度の事業評価委員からの指摘事項に対する対応状況について説明があった。

（3）SPODネットワークコア運営協議会FD／SD専門部会について

議長から資料3-1及び参考資料1に基づき，平成24年第2回ネットワークコア運営協議会FD専門部会の概要について説明があった。

また，愛媛大学吉田委員から資料3-2及び参考資料2に基づき，平成24年第2回SD専門部会の概要について説明があった。

（4）平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会等の開催について

議長から資料4-1～2に基づき，ネットワーク総会等の日程及び同日開催予定の大学マネジメントセミナーの概要について説明があり，了承された。

引き続き，議長から資料4-3及び参考資料3に基づき，昨年度と同様に，各加盟校に対し，今年度のFD／SD活動の取組について，2月末を提出期限とし，取組報告を提出いただくよう依頼することとなった。

なお，本取組報告については，ネットワーク総会及びFD／SD分科会において資料とし

て配付するほか、今年度の活動報告書に掲載予定である旨の説明があった。

(5) 平成24年度SPOD事業評価委員会の開催について

議長から資料5に基づき、3月5日(火)開催の事業評価委員会について説明があり、各コア校からFD/SD担当者各1名に可能な限り出席いただくよう依頼があった。

(6) ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップの開催について

徳島大学宮田委員から資料6-1～2に基づき「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」の概要について説明があった。

(7) 平成24年度講師養成研修の開催について

愛媛大学吉田委員から資料7に基づき「講師養成研修」の概要について説明があった。

(8) 平成24年度大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修の実施結果について

愛媛大学吉田委員から資料8に基づき「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)」の報告があった。

(9) その他

- ① 愛媛大学吉田委員から資料9-1に基づき、愛媛大学でスタッフポートフォリオを全職員に導入することとなった旨の報告があった。
- ② 議長から資料9-2に基づき、2月28日(木)に愛媛大学にて開催される「愛媛大学英語教育改革セミナー」の概要について説明があり、各コア校の特に英語教育に関わっている教職員を中心に周知いただくよう依頼があった。
- ③ 議長から資料9-3に基づき、「愛媛大学教育系外部資金申請書作成支援セミナー」の概要について説明があり、各コア校の教職員に周知いただくよう依頼があった。
- ④ 愛媛大学山内委員から資料9-4に基づき、「愛媛大学教育改革シンポジウム」の概要について説明があり、各コア校の教職員に周知いただくよう依頼があった。
- ⑤ 議長から第9回ネットワークコア運営協議会は、FD/SD専門部会とあわせて3月4日(月)に愛媛大学において開催する旨の説明があった。

②各県内加盟校会議

平成24年度第1回T-SPOD会議 議事概要

日 時： 平成24年5月10日(木) 10:30～12:00

場 所： 徳島大学大学開放実践センター3階 授業研究インテリジェントラボ

出席者： 鳴門教育大学 東社会連携課長

徳島文理大学・短期大学部 新見教育・研究支援ユニットグループ長，准教授

四国大学・短期大学部 石田学部運営支援課長 久我FD事務担当

阿南工業高等専門学校 松本准教授，吉本総務課課長補佐

徳島大学 日置教授，宮田准教授，吉田助教，坂東教育支援課長，榎谷教育支援課総務・企画係長，奈良FDマネージャー，越久事務補佐員

会議に先立ち，出席者の自己紹介が行われた。

報告

1. 平成24年度第1回ネットワークコア運営協議会について

(1) SPODフォーラム2012について

徳島大学宮田准教授より資料1-1に基づき，平成24年度SPODフォーラム2012実施要項(案)について報告があった。

(2) SPODが拠点に提供するプログラムについて

徳島大学宮田准教授より資料2-1～2-3に基づきSPODが拠点に提供するプログラムについて報告があった。

(3) 平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会について

徳島大学宮田准教授より資料3-1～3-6に基づき，平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会について報告があった。

(4) 平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」FD/SD分科会について

徳島大学宮田准教授より資料4-1及び4-2に基づき，平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」FD分科会について報告があった。続いて，徳島大学坂東教育支援課長より資料4-3に基づき，平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」SD分科会について報告があった。

- (5) 平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査結果について
徳島大学宮田准教授より資料5-1及び5-2に基づき、平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査結果について報告があった。
- (6) 平成24年度事業計画等について
徳島大学宮田准教授及び坂東教育支援課長より資料6-1及び6-2に基づき、平成24年度事業計画等について報告があった。
- (7) 平成24年度次世代リーダー養成研修(第1回)の開催について
徳島大学坂東教育支援課長より資料7に基づき、平成24年度次世代リーダー養成研修(第1回)の開催について報告があった。
- (8) 平成24年度大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅢ)の開催について
徳島大学坂東教育支援課長より資料8に基づき、平成24年度大学人、社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅢ)の開催について報告があった。
- (9) 研修プログラムガイド2012について
徳島大学宮田准教授より資料9に基づき、研修プログラムガイド2012について報告があった。

2. 平成24年度徳島大学全学FD推進プログラムについて

- (1) FDファシリテーター養成研修について(6月9日～6月10日開催)
徳島大学吉田助教より資料10-1に基づき、FDファシリテーター養成研修について説明があった。希望者があれば参加可能である旨、補足説明があった。
- (2) 平成24年度「教育力開発基礎プログラム」について(8月31日～9月1日開催予定)
徳島大学吉田助教より資料10-2に基づき、平成24年度「教育力開発基礎プログラム」実施要項(案)について説明があった。随時SPODホームページ等に掲載しお知らせする旨、補足説明があった。
- (3) FD・SDセミナーについて(5月18日開催)
徳島大学吉田助教より資料10-3に基づき、第1回FD・SDセミナーの内容について説明があった。また、遠隔での配信予定である旨補足説明があった。今後の案内方法についてはSPODホームページに掲載するほか、T-SPOD内にメー

ル配信することとした。

3. SPODフォーラム2012の開催について（8月22日～8月24日開催予定）
徳島大学宮田准教授より資料11に基づき，SPODフォーラム2012プログラム（案）について説明があった。また，徳島県での開催につき各加盟校に積極的に参加していただきたい旨依頼があった。

以上

平成24年度第2回T-SPOD会議 議事概要

日 時：平成24年9月27日（木） 10：30～11：50

場 所：徳島大学大学開放実践センター3階 授業研究インテリジェントラボ

出席者：鳴門教育大学

東社会連携課長

徳島文理大学・短期大学

藤本事務担当

四国大学・短期大学部

平野事務担当

久我FD事務担当（代理出席）

阿南工業高等専門学校

松本准教授

徳島大学

日置センター長，川野教授，宮田准教授，吉田助教，坂東教育支援課長，原田教育支援課総務・企画係長，奈良FDマネージャー，越久事務補佐員

報告

1. 平成24年度第2回SPODネットワークコア運営協議会について（報告）

（1）他フォーラム派遣者からの意見について

徳島大学宮田准教授より資料1-1及び資料1-2に基づき，他フォーラム派遣者からの意見について報告があった。

2. 平成24年度第3回SPODネットワークコア運営協議会について（報告）

（1）SPOD事業評価について

徳島大学宮田准教授より資料2-1～資料2-3に基づき，平成23年度SPOD事業評価について報告があった。

（2）SPOD研修講師一覧について

徳島大学宮田准教授より資料2-4に基づき，SPOD研修講師に愛媛大学の仲道助教と阿部特任助教が新たに加わった旨報告があった。

（3）その他

徳島大学宮田准教授より，参考資料1に基づき，中央教育審議会大学分科会大学教育部会（第15回）において，愛媛大学佐藤准教授が当該会議に招聘され，「日本のFDに関する3つの提言～愛媛大学と四国地区大学教職員能力開発ネットワークを事例に～」について発表した旨報告

告があった。

3. 平成24年度第4回SPODネットワークコア運営協議会について（報告）

（1）SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーターの認定について
徳島大学吉田助教より、資料3に基づき、SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（SPOD-SDC）の名称付与基準について説明があった。また、現在、この基準に基づき、愛媛大学の3名がSPOD-SDCとして認定されているが、新たに愛媛大学の阿部特任助教がSPOD-SDCとして認定された旨補足説明があった。

4. 平成24年度SPODネットワークコア運営協議会FD専門部会（第1回）について（報告）

徳島大学吉田助教より、資料4に基づき、SPODの効果検証を行うためのSPOD調査・研究プロジェクトについて説明及び報告があった。また、今後、各加盟校への調査・インタビュー等を行う予定があり、調査への協力依頼があった。

5. 平成24年度SPODネットワークコア運営協議会SD専門部会（第1回）について（報告）

徳島大学坂東教育支援課長より、資料5に基づき、平成24年度のSPOD-SDプログラムの実施予定について報告があった。

6. SPODフォーラムについて

徳島大学宮田准教授より、資料6に基づき、SPODフォーラム2012について説明があった。

また、徳島大学日置センター長より各加盟校へフォーラム参加の謝辞が述べられた。

7. 平成24年度徳島大学全学FD推進プログラム等について

（1）平成24年度教育力開発基礎プログラムについて

徳島大学吉田助教より、資料7-1に基づき、平成24年度教育力開発基礎プログラムについて報告があった。今年度の参加が11名（徳島大学8名・阿南高専3名）であった旨、補足説明があった。

（2）平成24年度FD／SDセミナー開催（11月30日開催）について

徳島大学吉田助教より、平成24年度FD／SDセミナーを11月30日に開催する旨案内があった。「ラーニングコモンズ」をテーマとし、講演形式で行う予定であり、各加盟校への参加を依頼した。

（3）「大学教育カンファレンスin徳島」開催（12月26日開催）について

徳島大学吉田助教より、資料7-2に基づき、「大学教育カンファレンスin徳島」の開催

について案内があり「大学教育カンファレンスin徳島」内での研究発表者の募集依頼があった。

また、資料7-3に基づき、各加盟校へ、同カンファレンス内「ラウンドテーブル」での話題提供の依頼を行った。今年度のテーマが「学生支援の取組」である為、特に学内で学生支援に関わっている教職員への周知を依頼した。

(4) ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ（東四国）開催について（案内）

徳島大学吉田助教より、ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ（東四国）開催について、来年3月末に徳島大学で開催する旨、案内があった。

以上

平成24年度第3回T-SPOD会議 議事概要

日 時：平成25年2月21日（木） 10:00～11:30

場 所：徳島大学大学開放実践センター3階 授業研究インテリジェントラボ

出席者：鳴門教育大学

東社会連携課長

徳島文理大学

新見教育・研究支援ユニット副部長

四国大学

浦川教育・学生支援部学部運営支援課主査

久我教育・学生支援部学部運営支援課FD担当

平野総務・企画部総務課係長

阿南工業高等専門学校

松本准教授

徳島工業短期大学

近藤理事長

徳島大学

日置大学開放実践センター長，宮田准教授，香川准教授，吉田助教，坂東教育支援課長，原田教育支援課総務・企画係長，奈良FDマネージャー，越久事務補佐員

報告

1. 平成24年度第5回SPODネットワークコア運営協議会について（報告）

（1）SPODフォーラム2012の総括について

徳島大学宮田准教授より資料1-1～資料1-6に基づき，SPODフォーラム総括について報告があった。

2. 平成24年度第6回SPODネットワークコア運営協議会について（報告）

徳島大学宮田准教授より，資料2に基づき，SPODフォーラム2013の開催は平成25年8月20日（火）～8月23日（金）の予定である旨，説明があった。

3. 平成24年度第7回SPODネットワークコア運営協議会について（報告）

（1）平成25年度SPOD事業について

徳島大学宮田准教授より，資料3-1に基づき，平成25年度SPOD事業計画について説明があった。続いて資料3-2及び参考資料2に基づき，平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費について，前年度実績を参考に説明があった。

4. 平成24年度第8回SPODネットワークコア運営協議会について（報告）

（1）四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約等の改正について

徳島大学宮田准教授より，資料４－１及び４－２に基づき，四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事業評価委員会要項の改正について説明があった。

（2）平成23年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項に対する対応状況について

徳島大学宮田准教授より資料４－３に基づき，平成23年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項に対する24年度の対応状況について，報告があった。

（3）SPODネットワークコア運営協議会FD/SD専門部会について

徳島大学宮田准教授より，資料４－４に基づき，平成24年度SPODネットワークコア運営協議会FD専門部会（第2回）について報告があった。

続いて，徳島大学坂東教育支援課長より，資料４－５に基づき，平成24年度SPODネットワークコア運営協議会SD専門部会（第2回）について，「次世代リーダー養成プログラム」を「次世代リーダー養成ゼミナール」と名称を変更し，平成25年度研修プログラムにおいて，次世代リーダー養成ゼミナールを徳島地区で開催する旨，説明があった。

（4）平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会等の開催について

徳島大学宮田准教授より，資料４－６及び資料４－７及びに基づき，平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会，FD/SD分科会及び大学マネジメントセミナーを平成25年3月29日（金）に愛媛大学で開催する旨，説明があり，各加盟校への参加依頼を行った。

併せて，資料４－８及び参考資料２に基づき，平成24年度FD/SD活動の取組報告書について，各加盟校へ提出の依頼があった。

（5）平成24年度SPOD事業評価委員会の開催について

徳島大学宮田准教授より，資料４－９に基づき，平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）事業評価委員会について，平成25年3月5日（火）に実施予定である旨，説明があった。また，次年度は，一部委員が交代する旨，説明があった。

5. 大学カンファレンスin徳島の報告について

徳島大学吉田助教より，資料５に基づき，平成24年度全学FD「大学教育カンファレンスin徳島」の開催状況について，報告があり，各加盟校への参加の謝辞があった。

6. ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップの参加者募集について

徳島大学香川准教授より、資料6に基づき、平成25年3月7（木）～3月9日（土）の3日間、徳島大学においてティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップが開催される旨説明があり、各加盟校からの参加を依頼した。

7. 今後のT-SPOD会議の開催について

徳島大学日置大学開放実践センター長より、平成25年度T-SPOD会議の開催時期は、5月・10月・2月頃に開催する旨提案があり、了承された。また、遠隔会議についても検討していくこととした。

以上

平成24年度第1回愛媛県内SPOD加盟校会議議事概要

- 1 日 時 平成24年7月11日（水）14：30～16：30
- 2 場 所 愛媛大学城北キャンパス共通教育講義棟2階23教室
- 3 出席者 愛媛県立医療技術大学升野教授，芝経営企画グループ主幹，
聖カタリナ大学矢野教務課長，松山大学安田教授，大野人事課長，高橋教務課長，
松山短期大学松本教授，石丸事務長，松山東雲女子大学南方経理課長，中島教務課長，
今治明德短期大学綿貫経理課長，環太平洋大学短期大学部山口事務局長，
新居浜工業高等専門学校泉総務課長，弓削商船高等専門学校田房教授，松田総務課長，
愛媛大学小林教授，秦教授，佐藤准教授，山田准教授，仲道助教，大竹助教，
阿部特任助教，秋谷人事課副課長，上甲人事課人材育成チームリーダー，
青野人事課人材育成チームリーダー，神谷人事課員，川井人事課員，神教育企画課長，
長野教育企画課教育企画チームリーダー，山内教育企画課員，岸岡教育企画課員，
渡部教育企画課員，戸田教育企画課員

4 議 題

（1）平成24年度SPOD事業について

愛媛大学佐藤准教授から資料1-1～3及び参考資料1に基づき，平成24年度事業計画について説明があった。

引き続き，愛媛大学教育企画課教育企画チームリーダーの長野から参考資料2～4に基づき，事業経費，及び共同事業契約書の締結状況について説明があった。

（2）SPOD事業評価について

愛媛大学佐藤准教授から資料2-1～2及び参考資料5に基づき，平成23年度事業における事業評価委員会委員からの指摘事項に対する対応策案について説明があった。

（3）SPODフォーラム2012について

愛媛大学佐藤准教授から資料3-1～2に基づき，SPODフォーラム2012の概要について説明があった。

引き続き，愛媛大学佐藤准教授から資料3-3～4に基づき，シンポジウムの概要について説明があった。

愛媛大学教育企画課教育企画チームリーダーの長野から資料3-5に基づき，フォーラムの申し込み状況について説明があり，各加盟校に参加を呼びかけていただくよう依頼があった。

引き続き，愛媛大学教育企画課教育企画チームリーダーの長野から資料3-6に基づき，昨年度と同様に展示スペースを設ける旨の説明があり，各加盟校から成果物等の提供に協力いただくよう依頼があった。

(4) 新任教員向け研修の実施について

愛媛大学佐藤准教授から資料4-1～4に基づき、各コア校主催で実施する新任教員向け研修について、SPODネットワークコア校間で研修内容の標準化が図られたことにより、どの研修においても同じ内容のものを受講することができるようになった旨の説明があり、積極的に参加いただくよう依頼があった。

(5) 学務系職員養成プログラム研修（レベルⅡ）の開催について

愛媛大学教育企画課教育企画チームリーダーの長野から資料5に基づき、7月12日（木）～13日（金）に開催する学務系職員養成プログラム研修（レベルⅡ）の概要について説明があった。

(6) 次世代リーダー養成研修の開催について

愛媛大学秦教授から資料6に基づき、7月19日（木）～21日（土）に徳島大学、四国大学で開催する次世代リーダー養成研修（第2回）の概要について説明があった。

(7) 加盟校からのSPOD事業に関する要望について

愛媛大学佐藤准教授から、加盟校ごとに分かれて愛媛大学スタッフによる個別相談を行う旨の説明があり、今年度のFD/SDの取組状況及び今抱えている課題、SPOD事業に関する要望などについて、意見交換が行われた。

(8) その他

愛媛大学佐藤准教授から、次回の愛媛県内SPOD加盟校会議については、来年1月下旬頃開催する予定である旨の説明があった。

平成24年度第2回愛媛県内SPOD加盟校会議議事概要

- 1 日 時 平成25年2月14日（木）13:00～15:30
- 2 場 所 愛媛大学愛大ミューズ2階M24番教室
- 3 出席者 愛媛県立医療技術大学 升野教授，芝経営企画グループ主幹，
聖カタリナ大学 玉井教授，三好教授，長戸入試課長，矢野教務課長，
松山大学 山田教授，大野人事課長，高橋教務課長，
松山短期大学 松本教授，
松山東雲女子大学 佐伯教務部長，南方経理課長，中島教務課長，
今治明德短期大学 原教授，綿貫経理課長，
環太平洋大学短期大学部 山口事務局長，
新居浜工業高等専門学校 泉総務課長，則包人事係長，
弓削商船高等専門学校 田房教授，松田総務課長，
愛媛大学 小林教授，佐藤准教授，山田准教授，大竹助教，阿部特任助教，
米澤教育学生支援部長，吉田人事課長，神教育企画課長，秋谷人事課副課長，
上甲人事課人材育成チームリーダー，川井人事課員，神谷人事課員，
長野教育企画課教育企画チームリーダー，山内教育企画課員，岸岡教育企画課員，
秋山教育企画課員，渡部教育企画課員，戸田教育企画課員

4 議 題

（1）平成24年度SPOD事業の実施状況について

愛媛大学佐藤准教授から資料1-1～3に基づき，平成24年度のSPOD事業の実施状況について説明があった。

（2）平成25年度SPOD事業計画について

愛媛大学佐藤准教授から資料2-1に基づき，来年度のFD事業の概要及び変更点について説明があった。続いて，愛媛大学吉田人事課長からSD事業の概要及び変更点について説明があった。

次に，愛媛大学長野教育企画課教育企画チームリーダーから資料2-2に基づき，事業計画をもとに必要経費を算出し，今年度と同様の算出方法により負担額を算定した旨の説明があった。

（3）SPODフォーラム2012の総括について

愛媛大学長野教育企画課教育企画チームリーダーから資料3-1に基づき，フォーラムの参加者数及びSPOD加盟校以外の参加者からの研修料収入について報告があった。

続いて，愛媛大学佐藤准教授から資料3-2～4に基づき，フォーラム全体アンケートの集計結果，及び各プログラムの個別アンケートの結果について説明があった。

また，愛媛大学山田准教授から資料3-5に基づき，これまで実施したフォーラム全体アンケートを経年比較した分析結果について説明があった。

次に，愛媛大学佐藤准教授から資料3-6に基づき，参加者からの要望等への対応について説明があった。

- (4) 平成23年度事業評価委員会委員からの指摘事項に対する対応状況について
愛媛大学佐藤准教授から資料4に基づき、現在の対応状況について説明があった。
- (5) SPODネットワークコア運営協議会FD／SD専門部会での検討事項について
愛媛大学佐藤准教授から資料5-1～2に基づき、平成24年度に開催した2回のFD専門部会の概要について説明があった。
次に、愛媛大学吉田人事課長から、資料5-3～4に基づき、平成24年度に開催した2回のSD専門部会の概要について説明があった。
- (6) 平成24年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会について
愛媛大学佐藤准教授から資料6-1に基づき、ネットワーク総会等について説明があった。
引き続き、佐藤准教授から資料6-2に基づき、同日開催の大学マネジメントセミナーの概要について説明があった。
- (7) その他
愛媛大学吉田人事課長から資料7-1に基づき、愛媛大学でスタッフポートフォリオを全職員に導入することとなった旨の報告があった。
次に、愛媛大学佐藤准教授から資料7-2に基づき、2月28日(木)に愛媛大学にて開催される「愛媛大学英語教育改革セミナー」の概要について説明があり、各加盟校の特に英語教育に関わっている教職員を中心に周知いただくよう依頼があった。
引き続き、愛媛大学佐藤准教授から資料7-3に基づき、3月15日(金)に愛媛大学で開催の「愛媛大学教育系外部資金申請書作成支援セミナー」の概要について説明があり、各校の教職員に周知いただくよう依頼があった。
次に、愛媛大学小林教授から資料7-4～5に基づき、3月15日(金)に愛媛大学で開催の「愛媛大学教育改革シンポジウム」について説明があり、各加盟校の教職員に周知いただくよう依頼があった。
- (8) 平成24年度第1回愛媛県内SPOD加盟校会議情報交換における加盟校からのご意見に対する回答について
愛媛大学佐藤准教授から資料8に基づき、第1回愛媛県内SPOD加盟校会議の情報交換で加盟校からあがった意見に対する回答について説明があった。
- (9) 加盟校からのSPOD事業に関する要望について
加盟校ごとに分かれて愛媛大学スタッフによる個別相談を実施し、意見交換を行った。